

## 幼児教育科

教育基礎論 [1A1025]	1～2
社会福祉 [1A1027]	3～4
保育の心理学 I [1A1029]	5～6
子どもの保健 I [1A1031]	7～8
保育内容総論 [1A1033]	9～11
保育内容(言葉) [1A1036]	12～14
保育内容(表現) [1A1039]	15～17
音楽 I [1A1042]	18～20
図画工作 I [1A1045]	21～23
体育 I [1A1048]	24～26
器楽 [1A1051]	27～30
幼稚園教育実習 I [1A1070]	31
保育実習指導 I [1A1084]	32
保育実習 I [1A1085]	33
保育者論 [1A2012]	34～35
児童家庭福祉 [1A2014]	36～37
保育原理 [1A2016]	38
教育心理学 [1A2017]	39～40
子どもの保健 II [1A2019]	41～42
教育課程論 [1A2021]	43～44
保育内容(健康) [1A2023]	45～47
乳児保育 [1A2026]	48～50
音楽 II [1A2029]	51～53
図画工作 II [1A2032]	54～56
体育 II [1A2035]	57～59
総合演習 [1A2038]	60
社会的養護 [1A3005]	61～62
教育方法論 [1A3007]	63～64
保育内容(人間関係) [1A3009]	65～67
保育内容(環境) [1A3012]	68～70
障がい児保育 [1A3015]	71～73
保育内容(音楽表現 I) [1A3018]	74～75
保育内容(身体表現 I) [1A3020]	76～77
保育内容(創作表現 I) [1A3022]	78～79
保育内容(言語表現 I) [1A3024]	80～81
臨床相談 [1A3026]	82～84
乳児保育 [1A3029]	85～87
音楽 III [1A3032]	88～89
特別研究 I [1A3034]	90～98

## 幼児教育科

器楽 [1A3050] .....	99
幼稚園教育実習Ⅱ [1A3070] .....	100
保育実習指導Ⅱ [1A3080] .....	101
保育実習指導Ⅲ [1A3081] .....	102
[1A3082] .....	103～104
相談援助 [1A4002] .....	105～107
保育原理Ⅱ [1A4005] .....	108
保育の心理学Ⅱ [1A4006] .....	109～111
子どもの保健Ⅲ [1A4009] .....	112～114
子どもの食と栄養 [1A4012] .....	115～117
家庭支援論 [1A4015] .....	118～119
保育内容(音楽表現Ⅱ) [1A4017] .....	120
保育内容(身体表現Ⅱ) [1A4018] .....	121
保育内容(創作表現Ⅱ) [1A4019] .....	122
保育内容(言語表現Ⅱ) [1A4020] .....	123
社会的養護内容 [1A4021] .....	124～126
保育カンファレンス [1A4024] .....	127～129
乳児保育Ⅱ [1A4027] .....	130
生活 [1A4028] .....	131
音楽Ⅳ [1A4029] .....	132
保育・教職実践演習(幼稚園) [1A4030] .....	133
特別研究Ⅱ [1A4031] .....	134～142

## 総合生活デザイン学科

住生活論 [1F1013]	143
医療事務 I [1F1014]	144
秘書実務 [1F1015]	145～146
プレゼンテーション [1F1017]	147～148
ビジネス英語 [1F1019]	149
ひろしまの観光資源 [1F1020]	150
ファッション造形実習 I [1F1021]	151
ブライダル I [1F1022]	152
食生活実習 I [1F1023]	153～154
空間表現技法 [1F1025]	155
インテリアデザイン実習 [1F1026]	156
総合生活デザイン [1F2010]	157
総合生活デザイン演習 I [1F2011]	158
生活達人チャレンジプログラム I [1F2012]	159
衣生活論 [1F2013]	160
簿記入門 [1F2014]	161
保育学 [1F2015]	162
医療事務 II [1F2016]	163
医療事務 III [1F2017]	164
ビジネス実務基礎 [1F2018]	165～166
社会行動と心理 [1F2020]	167
社会調査 [1F2021]	168
観光総論 [1F2022]	169
観光実務 [1F2023]	170
ファッションデザイン [1F2024]	171
ファッション造形実習 II [1F2025]	172
ブライダル演習 I [1F2026]	173
ウェディングフラワー [1F2027]	174
フードデザイン [1F2028]	175
食生活実習 II [1F2029]	176
栄養学 [1F2030]	177
CAD演習 [1F2031]	178
インテリアデザイン I [1F2032]	179
インテリアコーディネート [1F2033]	180
総合生活デザイン演習 II [1F3002]	181～189
食生活論 [1F3011]	190
カラーコーディネート [1F3012]	191
福祉入門 [1F3013]	192
秘書学入門 [1F3014]	193～194

総合生活デザイン学科

生活創造実践演習 [1F3016]	195～200
フードビジネストレンド [1F3022]	201
栄養学 [1F3023]	202
製菓実習 [1F3024]	203
ファッション造形実習Ⅱ [1F3025]	204
ファッションビジネストレンド [1F3026]	205
ブライダルⅡ [1F3027]	206
ブライダル演習Ⅱ [1F3028]	207
室内環境 [1F3029]	208
住・インテリア設計製図Ⅰ [1F3030]	209
インテリアデザインⅡ [1F3031]	210
インテリアビジネストレンド [1F3032]	211
マルチメディア入門 [1F3033]	212
データベース演習 [1F3034]	213
プログラミング演習 [1F3035]	214
情報ビジネストレンド [1F3036]	215
生化学 [1F3037]	216
解剖生理学実習 [1F3038]	217
食品衛生学 [1F3039]	218
ライフステージ栄養学実習 [1F3040]	219
臨床栄養学総論 [1F3041]	220
栄養指導各論実習Ⅱ [1F3042]	221
栄養指導各論実習Ⅲ [1F3043]	222
調理学実習Ⅲ [1F3044]	223
給食管理実習 [1F3045]	224
生活達人チャレンジプログラムⅡ [1F3046]	225
保育学実習 [1F3047]	226
解剖生理学 [1F3048]	227
調理学実習Ⅳ [1F3049]	228
給食管理臨地実習 [1F3050]	229
総合生活デザイン演習Ⅲ [1F4001]	230～238
生活経済学 [1F4010]	239
人間関係論(含家族関係) [1F4011]	240
生活経営学 [1F4012]	241
ビジネス実務演習 [1F4013]	242
フランス料理実習 [1F4014]	243
ファッションクラフト [1F4015]	244
住・インテリア設計製図Ⅱ [1F4016]	245
ガーデンデザイン [1F4017]	246

## 総合生活デザイン学科

CG入門 [1F4018] .....	247
公衆衛生学 [1F4019] .....	248
運動生理学 [1F4020] .....	249
食品衛生学実験 [1F4021] .....	250
栄養・生化学実験 [1F4022] .....	251
栄養学各論 [1F4023] .....	252
臨床栄養学実習 [1F4024] .....	253
栄養生化学 [1F4025] .....	254
公衆栄養学 [1F4026] .....	255

## 美術科

絵画・マンガ [1L1010]	256～258
デザイン・映像 [1L1013]	259～261
工芸 [1L1016]	262～264
基礎造形演習 I [1L1019]	265
立体 [1L1020]	266
美術史 I [1L1021]	267～268
美術基礎論 [1L1023]	269
色彩学 [1L1024]	270
CG演習 I [1L1025]	271～272
基礎造形演習 II [1L2006]	273
美術史 II [1L2007]	274～275
デザイン・造形論 I [1L2009]	276
作品研究 [1L2010]	277
CG演習 II [1L2011]	278～279
映像CG演習 [1L2013]	280
造形表現 [1L2014]	281～285
造形演習 I [1L2019]	286～290
美術史 III [1L3002]	291
デザイン・造形論 II [1L3003]	292
マンガ・アニメーション論 [1L3004]	293
DTP演習 [1L3005]	294
デジタルメディア演習 [1L3006]	295
造形演習 II [1L3007]	296～302
日本画 I [1L3014]	303
洋画 I [1L3015]	304
絵画表現 I [1L3016]	305～306
マンガ・キャラクター I [1L3018]	307
映像・アニメーション I [1L3019]	308
グラフィックデザイン I [1L3020]	309
ビジュアル表現 I [1L3021]	310～312
染織 I [1L3024]	313
陶芸 I [1L3025]	314
工芸表現 I [1L3026]	315～316
美術史演習 [1L3028]	317
マンガ持込み演習 [1L3029]	318
テキスタイルコンピュータ [1L3030]	319
WEBデザイン演習 [1L3031]	320
美術史 IV [1L4001]	321
特別制作 [1L4002]	322～328

## 美術科

日本画Ⅱ [1L4009]	329
洋画Ⅱ [1L4010]	330
絵画表現Ⅱ [1L4011]	331～332
マンガ・キャラクターⅡ [1L4013]	333
映像・アニメーションⅡ [1L4014]	334
グラフィックデザインⅡ [1L4015]	335
ビジュアル表現Ⅱ [1L4016]	336～338
染織Ⅱ [1L4019]	339
陶芸Ⅱ [1L4020]	340
工芸表現Ⅱ [1L4021]	341～342

## 専攻科美術専攻

現代美術演習 [1W1001]	343
展示研究 I [1W1002]	344
展示研究 II [1W1003]	345
専攻制作A I [1W1004]	346
専攻制作B I [1W1005]	347
専攻制作C I [1W1006]	348
表現研究 I [1W1007]	349
造形研究 I [1W1008]	350
造形研究 II [1W1009]	351
特別演習ゼミ I [1W1010]	352
実地研修A [1W1013]	353
実地研修B [1W1014]	354
美術特論 [1W2001]	355
美術英語研究 [1W2002]	356
展示研究 III [1W2003]	357
専攻制作A II [1W2004]	358
専攻制作B II [1W2005]	359
専攻制作C II [1W2006]	360
表現研究 II [1W2007]	361
造形研究 III [1W2008]	362
特別演習ゼミ II [1W2009]	363



## 教職資格関連科目

教職入門 [1F1027]	364
教育基礎論 [1F2034]	365
家庭科教育法 [1F2035]	366
教育心理学 [1F3051]	367
教育課程総論(特別活動を含む) [1F3052]	368
道徳教育の理論と方法 [1F3053]	369
教育の方法と技術 [1F3054]	370
教育相談(カウンセリングを含む。) [1F3055]	371
教育実習指導 [1F3056]	372
教育実習 I [1F3057]	373
教育実習 II [1F3058]	374
栄養教育実習(事前事後指導を含む。) [1F3059]	375
教育の制度と経営 [1F4028]	376
生徒・進路指導論 [1F4029]	377
生徒指導論 [1F4030]	378
教職実践演習(中学校) [1F4031]	379
教職実践演習(栄養教諭) [1F4032]	380
美術科教育法 [1L2024]	381

時間割番号	1A1025	科目名	教育基礎論	単位数	2
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A1-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力				
概要	「なぜ、子どもの姿が見えにくいのか」「なぜ、学校が普及したのか」「なぜ、さまざまな教育の場があるのか」。本科目は、そうした教育にかかわる疑問を持ち、自らのこととして考える姿勢を身につけることを目的として、教育に関する思想、歴史、制度的・経営的事項について概説します。現代の教育がどのように成立し、変容したのか、さらに学校教育やそれにかかわる社会の現状と課題と模索されていることについて考察します。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達度指標の「保育の本質と目的について理解する」及び「子どもの最善の利益を尊重する」に関連しています。教育とは何かを思想、歴史、制度、社会、経営の視点から考えることを目指します。幼・保必修科目です。				
到達目標	【知識・理解】教育に関する諸理論、歴史、制度を理解し、基本的知識を得る。 【思考・判断・表現】教育の本質と目的は何かを考えることができる。 【態度・志向性】教育に関心を持ち、積極的に授業に参加し、自らの課題として取り組む。				
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題への取り組み(20%)により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト：楠本恭之他編『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年、2160円。 ※参考図書：小澤周三編『教育学キーワード第3版』有斐閣、2010年。				
授業計画	第1回：人間について思考する様式① 分けずに考える 第2回：人間について思考する様式② 教育とは何か 前回の授業を踏まえて、自らが学んできたことについて振り返ってまとめます。それをもとにグループ・ディスカッションを行い、結果をプレゼンテーションします。 第3回：人間形成の根源と価値 依存性と可塑性 第4回：臨床的な理解の方法 発達概念 第5回：教育の思想と歴史① 18世紀以前の教育思想 第6回：教育の思想と歴史② 19世紀の教育思想 第7回：教育の思想と歴史③ 現代の教育思想 第8回：教育の思想と歴史④ 日本の学校制度の成立と展開 第9回：現代日本の学校制度① 日本国憲法と学校教育 ※5-8回授業に関する課題 第10回：現代日本の学校制度② カリキュラム・小学校就学前後の比較 第11回：現代日本の教育制度③ 臨床的な教育の実践 第12回：現代日本の学校制度④ 教師のキャリア形成 第13回：現代日本の学校制度⑤ 教育行政・経営・生涯学習 第14回：現代日本の教育の課題① 学校教育の問題構成 ※9-13回授業に関する課題 第15回：現代日本の教育の課題② 人間と社会と教育 これまでの授業を踏まえて、社会の中に生きる(しかできない)人間として、他者とのように関わるべきなのか考えてまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業前に、テキストとして指定した図書の該当箇所を読み、意見や疑問を書き出しておきましょう。また、毎回の授業後に、学んだこと・考えたことをノートにまとめましょう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項) 担当形態：単独				

時間割番号	1A1026	科目名	教育基礎論	単位数	2
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A1-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力				
概要	「なぜ、子どもの姿が見えにくいのか」「なぜ、学校が普及したのか」「なぜ、さまざまな教育の場があるのか」。本科目は、そうした教育にかかわる疑問を持ち、自らのこととして考える姿勢を身につけることを目的として、教育に関する思想、歴史、制度的・経営的事項について概説します。現代の教育がどのように成立し、変容したのか、さらに学校教育やそれにかかわる社会の現状と課題と模索されていることについて考察します。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達度指標の「保育の本質と目的について理解する」及び「子どもの最善の利益を尊重する」に関連しています。教育とは何かを思想、歴史、制度、社会、経営の視点から考えることを目指します。幼・保必修科目です。				
到達目標	【知識・理解】教育に関する諸理論、歴史、制度を理解し、基本的知識を得る。 【思考・判断・表現】教育の本質と目的は何かを考えることができる。 【態度・志向性】教育に関心を持ち、積極的に授業に参加し、自らの課題として取り組む。				
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題への取り組み(20%)により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト：楠本恭之他編『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年、2160円。 ※参考図書：小澤周三編『教育学キーワード第3版』有斐閣、2010年。				
授業計画	第1回：人間について思考する様式① 分けずに考える 第2回：人間について思考する様式② 教育とは何か 前回の授業を踏まえて、自らが学んできたことについて振り返ってまとめます。それをもとにグループ・ディスカッションを行い、結果をプレゼンテーションします。 第3回：人間形成の根源と価値 依存性と可塑性 第4回：臨床的な理解の方法 発達概念 第5回：教育の思想と歴史① 18世紀以前の教育思想 第6回：教育の思想と歴史② 19世紀の教育思想 第7回：教育の思想と歴史③ 現代の教育思想 第8回：教育の思想と歴史④ 日本の学校制度の成立と展開 第9回：現代日本の学校制度① 日本国憲法と学校教育 ※5-8回授業に関する課題 第10回：現代日本の学校制度② カリキュラム・小学校就学前後の比較 第11回：現代日本の教育制度③ 臨床的な教育の実践 第12回：現代日本の学校制度④ 教師のキャリア形成 第13回：現代日本の学校制度⑤ 教育行政・経営・生涯学習 第14回：現代日本の教育の課題① 学校教育の問題構成 ※9-13回授業に関する課題 第15回：現代日本の教育の課題② 人間と社会と教育 これまでの授業を踏まえて、社会の中に生きる(しかできない)人間として、他者とのように関わるべきなのか考えてまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業前に、テキストとして指定した図書の該当箇所を読み、意見や疑問を書き出しておきましょう。また、毎回の授業後に、学んだこと・考えたことをノートにまとめましょう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項) 担当形態：単独				

時間割番号	1A1027	科目名	社会福祉			単位数	2
担当者	内本 充統						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A1-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	社会福祉の理念や制度について学んでいきます。 特に保育士の業務に関連する事項を中心に、具体的な制度や実施体系及び利用方法等について学び、子どもの最善の利益について考えていきます。 また、現代社会における社会福祉の動向と課題についても学んでいきます。
教育目標との関連	専門科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達指標「保育の本質と目的について理解する」「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。
到達目標	【知識・理解】「社会福祉」の理念、仕組み、法律等について理解する。 【技能】社会福祉制度及びその利用方法について理解する。 【思考・判断・表現】福祉的援助を必要とする状況を理解し、適切な相談援助を行う力を身につける。 【態度・志向性】「社会福祉」全般に対する関心を持ち、特に子どもの最善の利益を追求する態度を身につける。
評価方法	授業への参加状況(30%) 授業における課題の達成状況(20%) レポート課題の達成状況(50%) 以上の観点から総合的に評価します。
備 考	この授業は「社会福祉」全般について基礎から学んでいきます。後期の「児童家庭福祉」につながる授業で、保育士業務に関係の深い児童に関する福祉へと学びを深めていきます。
テキスト・教材・経費等	「新・社会福祉とは何か」中央法規 1,620円

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉</li> <li>2. 社会福祉の歴史(イギリス)</li> <li>3. 社会福祉の歴史(日本)</li> <li>4. 福祉国家</li> <li>5. 社会福祉の仕組み</li> <li>6. 社会福祉の財政</li> <li>7. 社会福祉による援助方法</li> <li>8. 貧困・低所得者の現代的課題</li> <li>9. 低所得者福祉と生活保護</li> <li>10. 児童と家庭を取り巻く状況</li> <li>11. 児童家庭福祉</li> <li>12. 高齢者を取り巻く状況</li> <li>13. 高齢者福祉と介護保険制度</li> <li>14. 障害者を取り巻く状況</li> <li>15. 障害者福祉制度</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	日ごろから社会福祉に関連する新聞記事などに関心を持ち、なぜ話題になっているか、何が問題か、どうあるべきか、自分のこととして考えるようにしてください。 特に保育や幼児教育に関連する記事は切り抜いて集めておきましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育士資格 保育の本質・目的の理解に関する科目

時間割番号	1A1028	科目名	社会福祉	単位数	2
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A1-2030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	社会福祉の理念や制度について学んでいきます。 特に保育士の業務に関連する事項を中心に、具体的な制度や実施体系及び利用方法等について学び、子どもの最善の利益について考えていきます。 また、現代社会における社会福祉の動向と課題についても学んでいきます。				
教育目標との関連	専門科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達指標「保育の本質と目的について理解する」「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】「社会福祉」の理念、仕組み、法律等について理解する。 【技能】社会福祉制度及びその利用方法について理解する。 【思考・判断・表現】福祉的援助を必要とする状況を理解し、適切な相談援助を行う力を身につける。 【態度・志向性】「社会福祉」全般に対する関心を持ち、特に子どもの最善の利益を追求する態度を身につける。				
評価方法	授業への参加状況(30%) 授業における課題の達成状況(20%) レポート課題の達成状況(50%) 以上の観点から総合的に評価します。				
備考	この授業は「社会福祉」全般について基礎から学んでいきます。後期の「児童家庭福祉」につながる授業で、保育士業務に関係の深い児童に関する福祉へと学びを深めていきます。				
テキスト・教材・経費等	「新・社会福祉とは何か」中央法規 1,620円				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉</li> <li>2. 社会福祉の歴史(イギリス)</li> <li>3. 社会福祉の歴史(日本)</li> <li>4. 福祉国家</li> <li>5. 社会福祉の仕組み</li> <li>6. 社会福祉の財政</li> <li>7. 社会福祉による援助方法</li> <li>8. 貧困・低所得者の現代的課題</li> <li>9. 低所得者福祉と生活保護</li> <li>10. 児童と家庭を取り巻く状況</li> <li>11. 児童家庭福祉</li> <li>12. 高齢者を取り巻く状況</li> <li>13. 高齢者福祉と介護保険制度</li> <li>14. 障害者を取り巻く状況</li> <li>15. 障害者福祉制度</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	日ごろから社会福祉に関連する新聞記事などに関心を持ち、なぜ話題になっているか、何が問題か、どうあるべきか、自分のこととして考えるようにしてください。 特に保育や幼児教育に関連する記事は切り抜いて集めておきましょう。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保育士資格 保育の本質・目的の理解に関する科目				

時間割番号	1A1029	科目名	保育の心理学 I		単位数	2
担当者	鈴木 隆男					
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義	
ナンバリング	1A2-2020					
コア・アクティブ・ラーニング科目群						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード						
概要	人間の生涯を、保育の実践の基礎となる、「発達」という観点で理解することを目指します。そのために発達に関する主要な理論的立場を紹介した上で、特に子どもの発達を援助するために必要な基礎的知識、基礎的概念を解説します。それらを通して、子どもが環境との相互的にかかわり、特に人とのかかわりを通して発達していくこと、発達初期の様々な経験が重要であることを解説します。					
教育目標との関連	教育や保育の基礎となる、「保育の対象の理解」に関する専門科目です。学習到達度指標「知識・理解」の中の「子どもを知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の発達のありようと、それにかかわる保育者としての自己理解を深めてほしいと思っています。					
到達目標	【知識・理解】 ①発達に関するいくつかの理論の概要を理解し、記憶してください。 ②発達に関する基礎的な概念を理解し、記憶してください。 ③子どもの発達について基礎的な知識を身につけてください。 ④発達初期の様々な経験の重要性について理解し、記憶してください。					
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験 50% レポート 20% 授業への参加状況 30%					
備考						
テキスト・教材・経費等	平山諭・鈴木隆男(編著)ライフサイクルからみた発達の基礎(ミネルヴァ書房, 2400円+税) 保育所保育指針					
授業計画	1: 見えない心をどう理解するか - 行動とは - 2: 発達とは何か: 子どもの発達を理解することの意義 3: 子どもの発達をとりまく環境 4: ライフサイクルからみた人間の発達: 生涯発達と発達の援助 5: 感情の発達と自我 6: 身体的機能と運動機能の発達 7: 知覚, 認知の発達 8: ことばの発達と社会性 9: 基本的信頼感の獲得と他者とのかかわり - エリクソンの理論を手掛かりとして 10: 社会的相互作用 11: 発達のプロセス1 胎児期・新生児期の発達 12: 発達のプロセス2 乳幼児期の発達 13: 発達のプロセス3 学童期・青年期の発達 14: 発達のプロセス4 成人期・老年期の発達 15: 全体のまとめ: 保育と発達					
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー, 授業内容の振り返りシート, 2回の中間テスト, 授業内容との関連での自己省察					
準備学習(予習・復習)	授業ごとにテキストの該当部分を予習してください。さらに学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ノートや配布資料を整理し、テキストなどで確認する習慣をつけてください。					
免許・資格	保育士					
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学 I					

時間割番号	1A1030	科目名	保育の心理学 I			単位数	2
担当者	鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A2-2020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	人間の生涯を、保育の実践の基礎となる、「発達」という観点で理解することを目指します。そのために発達に関する主要な理論的立場を紹介した上で、特に子どもの発達を援助するために必要な基礎的知識、基礎的概念を解説します。それらを通して、子どもが環境との相互的にかかわり、特に人とのかかわりを通して発達していくこと、発達初期の様々な経験が重要であることを解説します。
教育目標との関連	教育や保育の基礎となる、「保育の対象の理解」に関する専門科目です。学習到達度指標「知識・理解」の中の「子どもを知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の発達のありようと、それにかかわる保育者としての自己理解を深めてほしいと思っています。
到達目標	【知識・理解】 ①発達に関するいくつかの理論の概要を理解し、記憶してください。 ②発達に関する基礎的な概念を理解し、記憶してください。 ③子どもの発達について基礎的な知識を身につけてください。 ④発達初期の様々な経験の重要性について理解し、記憶してください。
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験 50% レポート 20% 授業への参加状況 30%
備 考	
テキスト・教材・経費等	平山諭・鈴木隆男(編著)ライフサイクルからみた発達の基礎(ミネルヴァ書房, 2400円+税) 保育所保育指針

授業計画	1: 見えない心をどう理解するか - 行動とは - 2: 発達とは何か: 子どもの発達を理解することの意義 3: 子どもの発達をとりまく環境 4: ライフサイクルからみた人間の発達: 生涯発達と発達の援助 5: 感情の発達と自我 6: 身体的機能と運動機能の発達 7: 知覚, 認知の発達 8: ことばの発達と社会性 9: 基本的信頼感の獲得と他者とのかかわり - エリクソンの理論を手掛かりとして 10: 社会的相互作用 11: 発達のプロセス1 胎児期・新生児期の発達 12: 発達のプロセス2 乳幼児期の発達 13: 発達のプロセス3 学童期・青年期の発達 14: 発達のプロセス4 成人期・老年期の発達 15: 全体のまとめ: 保育と発達
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー, 授業内容の振り返りシート, 2回の中間テスト, 授業内容との関連での自己省察
準備学習(予習・復習)	授業ごとにテキストの該当部分を予習してください。さらに学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ノートや配布資料を整理し、テキストなどで確認する習慣をつけてください。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学 I

時間割番号	1A1031	科目名	子どもの保健 I			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A2-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	保育所保育指針第5章/健康支援/健康状態の把握/発達状態の把握/健康増進

概要	低年齢児の増加、家庭養育を補う必要性が保育所に求められる現在、「乳幼児の健康の保持増進」という小児保健の理念はさらに重要になっています。授業では、保育所保育指針第5章「健康及び安全」の内容の、「健康支援」および「発育発達状況の把握」「健康増進」および「食育の増進」について、乳幼児の発達に即して学びます。
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の対象の理解」と関連しており、この授業では特に乳幼児の心身について理解することを目標としています。
到達目標	【態度・志向性】子どもの保健にかかわる問題に関心を持ち、情報を収集する。 【知識・理解】保育保健にかかわる子どもの心身の発達を理解する。 【技能】わからない言葉やはじめて出会う用語について、テキストやインターネットで調べる。
評価方法	【態度・志向性】子どもの保健に関する時事問題の資料収集、まとめ具合から評価(40%) 【知識・理解】子どもの心身の発達理解について定期試験で評価(40%) 【技能】保育保健にかかわる用語の把握度合を定期試験で評価(20%)
備考	テキストと保育所保育指針を必ず持参する。
テキスト・教材・経費等	「保育所保育指針解説書」フレーベル館 厚生労働省編 定価190円 「子どもの保健演習ノート」改定第3版 診断と治療社 定価2000 税別

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの生理機能の発達 第3回 子どもの運動機能の発達 第4回 子どもの精神機能の発達 第5回 子どもの健康状態の把握方法 第6回 第5回までのまとめ 第7回 計測値からわかる子どもの健康状態 第8回 子どもの体と大人の体の違い 第9回 子どもがよくかかる病気① 第10回 子どもがよくかかる病気② 第11回 感染症予防と予防接種 第12回 登園基準と与薬 第13回 子どもの免疫-食物アレルギーとアナフィラキシーショック 第14回 子どもの免疫-アトピー性皮膚炎とアレルギーマーチ 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	ワークシートによる問題解決型学習
準備学習(予習・復習)	第2回から第14回 保育所保育指針解説書第5章の関連箇所を熟読します。言葉の意味など、授業を進めるにあたり必要な基礎知識は、ワークシートによる予習課題をします。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目



時間割番号	1A1032	科目名	子どもの保健 I	単位数	2
担当者	七木田 方美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A2-2030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		保育所保育指針第5章/健康支援/健康状態の把握/発達状態の把握/健康増進			
概要	低年齢児の増加、家庭養育を補う必要性が保育所に求められる現在、「乳幼児の健康の保持増進」という小児保健の理念はさらに重要になっています。授業では、乳幼児期の発育発達について理解します。また、日々更新される医学的な科学的知見に則った乳幼児期のケアについて学び続けるための基本的姿勢を培います。				
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の対象の理解」と関連しており、この授業では特に乳幼児の心身について理解することを目標としています。資格必修科目です。				
到達目標	【態度・志向性】子どもの保健にかかわる問題に関心を持ち、情報を収集する。 【知識・理解】保育保健にかかわる子どもの心身の発達を理解する。 【技能】わからない言葉やはじめて出会う用語について、テキストやインターネットで調べる。				
評価方法	【態度・志向性】子どもの保健に関する時事問題の資料収集、まとめ具合から評価(40%) 【知識・理解】子どもの心身の発達理解について定期試験で評価(40%) 【技能】保育保健にかかわる用語の把握度合を定期試験で評価(20%)				
備考	テキストと保育所保育指針を必ず持参する。				
テキスト・教材・経費等	「保育所保育指針解説書」フレーベル館 厚生労働省編 定価190円 「子どもの保健演習ノート」改訂第3版 診断と治療社 定価2000円				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの生理機能の発達 第3回 子どもの運動機能の発達 第4回 子どもの精神機能の発達 第5回 子どもの健康状態の把握方法 第6回 第5回までのまとめ 第7回 計測値からわかる子どもの健康状態 第8回 子どもの体と大人の体の違い 第9回 子どもがよくかかる病気① 第10回 子どもがよくかかる病気② 第11回 感染症予防と予防接種 第12回 登園基準と与薬 第13回 子どもの免疫-食物アレルギーとアナフィラキシーショック 第14回 子どもの免疫-アトピー性皮膚炎とアレルギーマーチ 第15回 まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ワークシートによる課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	第2回から第14回 保育所保育指針解説書第5章の関連箇所を熟読します。言葉の意味など、授業を進めるにあたり必要な基礎知識は、ワークシートによる予習課題をします。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目				

時間割番号	1A1033	科目名	保育内容総論			単位数	1
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	保育内容を総論的にとらえ、子どもの成長発達と保育、子どもを取り巻く社会・保育所の役割、子育て支援などを総合的に学びます。乳幼児期の発達過程と保育の内容が、生活や遊びの中で展開されている内容と援助方法を学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「保育の本質と目的について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳幼児期の発達過程と生活、保育所保育の内容・方法を理解する。 2. 「保育所保育指針」の意義や内容、及び保育の特質を理解する。
評価方法	期末テスト(60%)小テスト(10%)ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	保育内容総論(北大路書房)(1700円+税) 「保育所保育指針」(フレーベル館)(190円+税)

授業計画	1: 保育と社会的変化 2: 保育の視点と保育者の専門性 3: 子どもの発達と生活(1) 4: 子どもの発達と生活(2) 5: 保育の変遷 6: 保育所保育指針の意義と内容 7: 保育の特質と保育者 8: 0歳児の保育内容 9: 1, 2歳児の保育内容 10: 3, 4歳児の保育内容 11: 5, 6歳児の保育内容 12: 保育計画と保育内容 13: 子どもの活動と保育内容 14: 保育の全体構造と保育内容 15: 保育の課題と保育内容
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントカード、調査・実習
準備学習(予習・復習)	・保育内容総論(テキスト)、保育所保育指針の指定ページを事前に読み、保育の意義を理解しましょう。 ・復習は、授業のキーワードとなるところは、テキストでも確認しましょう。 ・乳幼児期の発達と保育内容、保育者と保育所の役割などを、資料やワークで理解を深めましょう。 ・資料は、習得内容や課題等を書き入れ、実践必携ファイルを作成し分析しましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保: 保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A1034	科目名	保育内容総論			単位数	1
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	保育内容を総合的にとらえ、子どもの成長発達と保育、子どもを取り巻く社会・保育所の役割、子育て支援などを総合的に学びます。乳幼児期の発達過程と保育の内容が、生活や遊びの中で展開されている内容と援助方法を学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「保育の本質と目的について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳幼児期の発達過程と生活、保育所保育の内容・方法を理解する。 2. 「保育所保育指針」の意義や内容、及び保育の特質を理解する。
評価方法	期末試験(60%)小テスト(10%)ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	保育内容総論(北大路書房)(1700円+税) 「保育所保育指針」(フレーベル館)(190円+税)

授業計画	1: 保育と社会的変化 2: 保育の視点と保育者の専門性 3: 子どもの発達と生活(1) 4: 子どもの発達と生活(2) 5: 保育の変遷 6: 保育所保育指針の意義と内容 7: 保育の特質と保育者 8: 0歳児の保育内容 9: 1, 2歳児の保育内容 10: 3, 4歳児の保育内容 11: 5, 6歳児の保育内容 12: 保育計画と保育内容 13: 子どもの活動と保育内容 14: 保育の全体構造と保育内容 15: 保育の課題と保育内容
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントカード、調査・実習
準備学習(予習・復習)	・保育内容総論(テキスト)、保育所保育指針の指定ページを事前に読み、保育の意義を理解しましょう。 ・復習は、授業のキーワードとなるところは、テキストでも確認しましょう。 乳幼児期の発達と保育内容、保育者と保育所の役割などを、資料やワークで理解を深めましょう。 資料は、習得内容や課題等を書き入れ、実践必携ファイルを作成し分析しましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保: 保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A1035	科目名	保育内容総論			単位数	1
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	育内容を総論的にとらえ、子どもの成長発達と保育、子どもを取り巻く社会・保育所の役割、子育て支援などを総合的に学びます。乳幼児期の発達過程と保育の内容が、生活や遊びの中で展開されている内容と援助方法を学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「保育の本質と目的について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳幼児期の発達過程と生活、保育所保育の内容・方法を理解する。 2. 「保育所保育指針」の意義や内容、及び保育の特質を理解する。
評価方法	期末試験(60%)小テスト(10%)ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	保育内容総論(北大路書房)(1700円+税) 「保育所保育指針」(フレーベル館)8190円+税)

授業計画	1: 保育と社会的変化 2: 保育の視点と保育者の専門性 3: 子どもの発達と生活(1) 4: 子どもの発達と生活(2) 5: 保育の変遷 6: 保育所保育指針の意義と内容 7: 保育の特質と保育者 8: 0歳児の保育内容 9: 1, 2歳児の保育内容 10: 3, 4歳児の保育内容 11: 5, 6歳児の保育内容 12: 保育計画と保育内容 13: 子どもの活動と保育内容 14: 保育の全体構造と保育内容 15: 保育の課題と保育内容
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントカード、調査・実習
準備学習(予習・復習)	・保育内容総論(テキスト)、保育所保育指針の指定ページを事前に読み、保育の意義を理解しましょう。 ・復習は、授業のキーワードとなるところは、テキストでも確認しましょう。 ・乳幼児期の発達と保育内容、保育者と保育所の役割などを、資料やワークで理解を深めましょう。 ・資料は、習得内容や課題等を書き入れ、実践必携ファイルを作成し分析しましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保: 保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A1036	科目名	保育内容(言葉)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹、鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3040						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	この授業では、乳幼児が言葉を習得し、その機能を活用していく過程を知って、その発達を援助・指導していく方法を研究し、言葉を育てる環境のあり方についても考えたいと思います。 言葉を育てる児童文化について学び、教材の工夫についての研究も試みたい。言葉の育ちに関わる諸問題や教師自身の言葉の問題についても考えてみたいと思います。						
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達目標の「子どもの心身の健康や発達について理解する」並びに「子どもの最善の利益を尊重する」に関連します。						
到達目標	【知識・理解】子どもの言葉の発達過程について理解する。 【技能】子どもの言葉の育ちを支える児童文化材を活用した表現力を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの言葉の育ちに関わる保育者の援助・指導方法について考えることができる。 【態度・志向性】子どもの言葉の育ちに関心を持ち、積極的に授業や課題に取り組む。						
評価方法	講義内容についての小レポートの内容(50%)、みんなの前で絵本を1冊読む(10%)、言葉あそびの教材作成の評価(20%)、参加状況と受講態度(20%)を総合して評価						
備考							
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリントを配布します。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園要領及び解説書						
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業への取り組みと授業計画) 第2回 子ども言葉と育ち 第3回 言葉の獲得Ⅰ コミュニケーションのはじまり 第4回 言葉の獲得Ⅱ ことばの発達 第5回 言葉の獲得Ⅲ 大人とのかかわり 第6回 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと 第7回 言葉の育ちと人のかかわり 第8回 領域『言葉』のねらい 第9回 領域『言葉』の内容 第10回 言葉を育てる文化Ⅰ ことばあそび 第11回 言葉を育てる文化Ⅱ おはなし・絵本 第12回 想像や言葉のリズムを楽しむ文化 第13回 ことばあそびの作成Ⅰ 「かるた」の作成 第14回 ことばあそびの作成Ⅱ 作成した「かるた」の発表と評価 第15回 言葉の育ちに関わる諸問題						
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、課題への取り組み						
準備学習(予習・復習)	絵本を読むことは、簡単なようで実際はとても難しいものです。声を十分に出して何度も練習を重ねる必要があることを忘れてはならないで欲しいと思います。日頃からいろんな絵本に親しむことが求められるのです。						
免許・資格	幼二種免・保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						

時間割番号	1A1037	科目名	保育内容(言葉)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹、鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3040						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	この授業では、乳幼児が言葉を習得し、その機能を活用していく過程を知って、その発達を援助・指導していく方法を研究し、言葉を育てる環境のあり方についても考えたいと思います。 言葉を育てる児童文化について学び、教材の工夫についての研究も試みたい。言葉の育ちに関わる諸問題や教師自身の言葉の問題についても考えてみたいと思います。						
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達目標の「子どもの心身の健康や発達について理解する」並びに「子どもの最善の利益を尊重する」に関連します。						
到達目標	【知識・理解】子どもの言葉の発達過程について理解する。 【技能】子どもの言葉の育ちを支える児童文化材を活用した表現力を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの言葉の育ちに関わる保育者の援助・指導方法について考えることができる。 【態度・志向性】子どもの言葉の育ちに関心を持ち、積極的に授業や課題に取り組む。						
評価方法	講義内容についての小レポートの内容(50%)、みんなの前で絵本を1冊読む(10%)、言葉あそびの教材作成の評価(20%)、参加状況と受講態度(20%)を総合して評価						
備考							
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリントを配布します。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園要領及び解説書						
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業への取り組みと授業計画) 第2回 子ども言葉と育ち 第3回 言葉の獲得Ⅰ コミュニケーションのはじまり 第4回 言葉の獲得Ⅱ ことばの発達 第5回 言葉の獲得Ⅲ 大人とのかかわり 第6回 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと 第7回 言葉の育ちと人のかかわり 第8回 領域「言葉」のねらい 第9回 領域「言葉」の内容 第10回 言葉を育てる文化Ⅰ ことばあそび 第11回 言葉を育てる文化Ⅱ おはなし・絵本 第12回 想像や言葉のリズムを楽しむ文化 第13回 ことばあそびの作成Ⅰ 「かるた」の作成 第14回 ことばあそびの作成Ⅱ 作成した「かるた」の発表と評価 第15回 言葉の育ちに関わる諸問題						
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、課題への取り組み						
準備学習(予習・復習)	絵本を読むことは、簡単なようで実際はとても難しいものです。声を十分に出して何度も練習を重ねる必要があることを忘れてはならないで欲しいと思います。日頃からいろんな絵本に親しむことが求められるのです。						
免許・資格	幼二種免・保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						

時間割番号	1A1038	科目名	保育内容(言葉)	単位数	1
担当者	菊野 秀樹、鈴木 隆男				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3040				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	この授業では、乳幼児が言葉を習得し、その機能を活用していく過程を知って、その発達を援助・指導していく方法を研究し、言葉を育てる環境のあり方についても考えたいと思います。 言葉を育てる児童文化について学び、教材の工夫についての研究も試みたい。言葉の育ちに関わる諸問題や教師自身の言葉の問題についても考えてみたいと思います。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達目標の「子どもの心身の健康や発達について理解する」並びに「子どもの最善の利益を尊重する」に関連します。				
到達目標	【知識・理解】子どもの言葉の発達過程について理解する。 【技能】子どもの言葉の育ちを支える児童文化材を活用した表現力を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの言葉の育ちに関わる保育者の援助・指導方法について考えることができる。 【態度・志向性】子どもの言葉の育ちに関心を持ち、積極的に授業や課題に取り組む。				
評価方法	講義内容についての小レポートの内容(50%)、みんなの前で絵本を1冊読む(10%)、言葉あそびの教材作成の評価(20%)、参加状況と受講態度(20%)を総合して評価				
備考					
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリントを配布します。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園要領及び解説書				
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業への取り組みと授業計画) 第2回 子ども言葉と育ち 第3回 言葉の獲得Ⅰ コミュニケーションのはじまり 第4回 言葉の獲得Ⅱ ことばの発達 第5回 言葉の獲得Ⅲ 大人とのかかわり 第6回 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと 第7回 言葉の育ちと人のかかわり 第8回 領域『言葉』のねらい 第9回 領域『言葉』の内容 第10回 言葉を育てる文化Ⅰ ことばあそび 第11回 言葉を育てる文化Ⅱ おはなし・絵本 第12回 想像や言葉のリズムを楽しむ文化 第13回 ことばあそびの作成Ⅰ 「かるた」の作成 第14回 ことばあそびの作成Ⅱ 作成した「かるた」の発表と評価 第15回 言葉の育ちに関わる諸問題				
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、課題への取り組み				
準備学習(予習・復習)	絵本を読むことは、簡単なようで実際はとても難しいものです。声を十分に出して何度も練習を重ねる必要があることを忘れてはならないで欲しいと思います。日頃からいろんな絵本に親しむことが求められるのです。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習				

時間割番号	1A1039	科目名	保育内容(表現)	単位数	1
担当者	馬杉 知佐				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3050				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	領域「表現」は、表現という人間的な営みの面から子どもたちの育ちを考えようとするものです。そこで、「表現」の内容である様々な表現活動を探るとともに、子どもの豊かな感性や表現力、創造性の育ちにつながる保育者の役割と援助について学習します。				
教育目標との関連	専門科目「教育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「表現の目的と内容について理解し」「人間としての育ちに目と向け、保育を構想できる」と関連しています。豊かな感性、表現力を持った保育者となるよう願っています。				
到達目標	【知識・理解】「表現」の目的と内容について理解する。 【技能】身体や楽器を使って表現できる技能を身につける。 【思考・判断・表現】人間としての育ちに目を向け、保育を構想することができる。 【態度・志向性】子どもの憧れを形成するモデルになれるよう、授業に取り組むこと。				
評価方法	【知識・理解】レポート(20%) 【技能】実技試験(30%) 【思考・判断・表現】学習ノート(授業の内容・課題等をまとめる)(20%) 【態度・志向性】授業へ参加状況(30%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	「みんなで楽しく1、2、3」(オブラ・パブリケーション)1,800円 子どものうた200(チャイルド社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館) ▽参考書:適宜、指示します。				
授業計画	第1回 領域「表現」について 第2回 子どもの発達と表現 第3回 表現をめぐる保育者の役割 第4回 表現とは(1)リズムを使って 第5回 表現とは(2)メロディを使って 第6回 身体の動きと音を中心にした表現(1)サウンドスケープ 第7回 身体の動きと音を中心にした表現(2)ポディーパーカッション 第8回 音楽を中心にした表現(1)音楽の始まりと終わり 第9回 音楽を中心にした表現(2)ニュアンス 第10回 いろいろな素材を使っの表現(1)紙と遊ぶ 第11回 いろいろな素材を使っの表現(2)自然と遊ぶ 第12回 こっこ・劇遊びを中心にした表現(1)動物になってみよう 第13回 こっこ・劇遊びを中心にした表現(2)物語の登場人物になろう 第14回 創造的表現活動 第15回 省察とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア・ワーク、グループ学習、プレゼンテーション、自己省察				
準備学習(予習・復習)	【1～3回】幼稚園教育要領解説を良く読み、日常生活における子どもの表現的環境に興味・関心を持ってください。 【4～9回】「みんなで楽しく」「子どものうた200」からの課題があるので、日頃から歌を覚え、手遊び歌の練習をして下さい。 【12～14回】授業の課題をとおして、自分なりの表現ができるよう取り組んでください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程および指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習				



時間割番号	1A1040	科目名	保育内容(表現)	単位数	1
担当者	馬杉 知佐				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3050				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	領域「表現」は、表現という人間的な営みの面から子どもたちの育ちを考えようとするものです。そこで、「表現」の内容である様々な表現活動を探るとともに、子どもの豊かな感性や表現力、創造性の育ちにつながる保育者の役割と援助について学習します。				
教育目標との関連	専門科目「教育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「表現の目的と内容について理解し」「人間としての育ちに目と向け、保育を構想できる」と関連しています。豊かな感性、表現力を持った保育者となるよう願っています。				
到達目標	【知識・理解】「表現」の目的と内容について理解する。 【技能】身体や楽器を使って表現できる技能を身につける。 【思考・判断・表現】人間としての育ちに目を向け、保育を構想することができる。 【態度・志向性】子どもの憧れを形成するモデルになれるよう、授業に取り組むこと。				
評価方法	【知識・理解】レポート(20%) 【技能】実技試験(30%) 【思考・判断・表現】学習ノート(授業の内容・課題等をまとめる)(20%) 【態度・志向性】授業へ参加状況(30%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	「みんなで楽しく1、2、3」(オブラ・パブリケーション)1,800円 子どものうた200(チャイルド社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館) ▽参考書:適宜、指示します。				
授業計画	第1回 領域「表現」について 第2回 子どもの発達と表現 第3回 表現をめぐる保育者の役割 第4回 表現とは(1)リズムを使って 第5回 表現とは(2)メロディを使って 第6回 身体の動きと音を中心にした表現(1)サウンドスケープ 第7回 身体の動きと音を中心にした表現(2)ポディーパーカッション 第8回 音楽を中心にした表現(1)音楽の始まりと終わり 第9回 音楽を中心にした表現(2)ニュアンス 第10回 いろいろな素材を使っの表現(1)紙と遊ぶ 第11回 いろいろな素材を使っの表現(2)自然と遊ぶ 第12回 こっこ・劇遊びを中心にした表現(1)動物になってみよう 第13回 こっこ・劇遊びを中心にした表現(2)物語の登場人物になろう 第14回 創造的表現活動 第15回 省察とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア・ワーク、グループ学習、プレゼンテーション、自己省察				
準備学習(予習・復習)	【1～3回】幼稚園教育要領解説を良く読み、日常生活における子どもの表現的環境に興味・関心を持ってください。 【4～9回】「みんなで楽しく」「子どものうた200」からの課題があるので、日頃から歌を覚え、手遊び歌の練習をして下さい。 【12～14回】授業の課題をとおして、自分なりの表現ができるよう取り組んでください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程および指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習				

時間割番号	1A1041	科目名	保育内容(表現)	単位数	1
担当者	馬杉 知佐				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3050				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	領域「表現」は、表現という人間的な営みの面から子どもたちの育ちを考えようとするものです。そこで、「表現」の内容である様々な表現活動を探るとともに、子どもの豊かな感性や表現力、創造性の育ちにつながる保育者の役割と援助について学習します。				
教育目標との関連	専門科目「教育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「表現の目的と内容について理解し」「人間としての育ちに目と向け、保育を構想できる」と関連しています。豊かな感性、表現力を持った保育者となるよう願っています。				
到達目標	【知識・理解】「表現」の目的と内容について理解する。 【技能】身体や楽器を使って表現できる技能を身につける。 【思考・判断・表現】人間としての育ちに目を向け、保育を構想することができる。 【態度・志向性】子どもの憧れを形成するモデルになれるよう、授業に取り組むこと。				
評価方法	【知識・理解】レポート(20%) 【技能】実技試験(30%) 【思考・判断・表現】学習ノート(授業の内容・課題等をまとめる)(20%) 【態度・志向性】授業へ参加状況(30%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	「みんなで楽しく1、2、3」(オブラ・パブリケーション)1,800円 子どものうた200(チャイルド社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館) ▽参考書:適宜、指示します。				
授業計画	第1回 領域「表現」について 第2回 子どもの発達と表現 第3回 表現をめぐる保育者の役割 第4回 表現とは(1)リズムを使って 第5回 表現とは(2)メロディを使って 第6回 身体の動きと音を中心にした表現(1)サウンドスケープ 第7回 身体の動きと音を中心にした表現(2)ポディーパーカッション 第8回 音楽を中心にした表現(1)音楽の始まりと終わり 第9回 音楽を中心にした表現(2)ニュアンス 第10回 いろいろな素材を使っの表現(1)紙と遊ぶ 第11回 いろいろな素材を使っの表現(2)自然と遊ぶ 第12回 こっこ・劇遊びを中心にした表現(1)動物になってみよう 第13回 こっこ・劇遊びを中心にした表現(2)物語の登場人物になろう 第14回 創造的表現活動 第15回 省察とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ア・ワーク、グループ学習、プレゼンテーション、自己省察				
準備学習(予習・復習)	【1～3回】幼稚園教育要領解説を良く読み、日常生活における子どもの表現的環境に興味・関心を持ってください。 【4～9回】「みんなで楽しく」子どものうた200からの課題があるので、日頃から歌を覚え、手遊び歌の練習をして下さい。 【12～14回】授業の課題をとおして、自分なりの表現ができるよう取り組んでください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程および指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習				

時間割番号	1A1042	科目名	音楽 I	単位数	1
担当者	野上 俊之、乗松 恵美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受容力、創造・表現力				
概要	幼児期に感受性、想像力、表現力、協調性などを育む上で、音楽の果たす役割は非常に大きなものがあります。そして「うたう」ことは、音楽表現の原点であるといわれています。ここでは、保育者として必要な音楽的基礎技能の習得をめざし、歌唱の体得及び音楽の構成要素(リズム・旋律・音の重なり・形式など)を探究していきます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	自然な歌唱法の習得 楽典的事項を知識としてではなく、聴くことによって認識できる				
評価方法	授業への参加姿勢(30%) 課題消化状況(40%) 実技発表、レポート(30%) を総合的に評価します。ただし、歌唱と理論それぞれ一定基準に達することが前提です。				
備考	二人の担当者がリレー形式で行います。				
テキスト・教材・経費等	小林美実編 こどものうた200 チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布します。				
授業計画	第1回:オリエンテーション(授業計画の詳細、音楽適性検査)(野上) 第2回:歌唱編(身体の構造・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第3回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム①・視唱練習(実技))(乗松) 第4回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム②・歌唱練習(実技))(乗松) 第5回:歌唱編(発声のための身体づくり①・視唱練習(実技))(乗松) 第6回:歌唱編(発声のための身体づくり②・歌唱練習(実技))(乗松) 第7回:歌唱編(日本語の発音・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第8回:歌唱編(まとめ)(乗松) 第9回:理論編(音楽以前の音)(野上) 第10回:理論編(リズムの背景:拍、アクセント、拍子)(野上) 第11回:理論編(リズムの背景:テンポ、組み合わせ)(野上) 第12回:理論編(音階とメロディーライン)(野上) 第13回:理論編(音の重なり)(野上) 第14回:理論編(和声付け)(野上) 第15回:理論編(まとめ)(野上)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、個別対応				
準備学習(予習・復習)	実技は毎回、課題曲の中から演奏、発表の形で進めていきますので、十分な練習をして授業に臨んでください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A1043	科目名	音楽 I			単位数	1
担当者	野上 俊之、乗松 恵美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受信力、創造・表現力

概要	幼児期に感受性、想像力、表現力、協調性などを育む上で、音楽の果たす役割は非常に大きなものがあります。そして「うたう」ことは、音楽表現の原点であるといわれています。ここでは、保育者として必要な音楽的基礎技能の習得をめざし、歌唱の体得及び音楽の構成要素(リズム・旋律・音の重なり・形式など)を探究していきます。
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。
到達目標	自然な歌唱法の習得 楽典的事項を知識としてではなく、聴くことによって認識できる
評価方法	授業への参加姿勢(30%) 課題消化状況(40%) 実技発表、レポート(30%) を総合的に評価します。ただし、歌唱と理論それぞれ一定基準に達することが前提です。
備考	二人の担当者がリレー形式で行います。
テキスト・教材・経費等	小林美実編 こどものうた200 チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布します。

授業計画	第1回:オリエンテーション(授業計画の詳細、音楽適性検査)(野上) 第2回:歌唱編(身体の構造・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第3回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム①・視唱練習(実技))(乗松) 第4回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム②・歌唱練習(実技))(乗松) 第5回:歌唱編(発声のための身体づくり①・視唱練習(実技))(乗松) 第6回:歌唱編(発声のための身体づくり②・歌唱練習(実技))(乗松) 第7回:歌唱編(日本語の発音・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第8回:歌唱編(まとめ)(乗松) 第9回:理論編(音楽以前の音)(野上) 第10回:理論編(リズムの背景:拍、アクセント、拍子)(野上) 第11回:理論編(リズムの背景:テンポ、組み合わせ)(野上) 第12回:理論編(音階とメロディーライン)(野上) 第13回:理論編(音の重なり)(野上) 第14回:理論編(和声付け)(野上) 第15回:理論編(まとめ)(野上)
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、個別対応
準備学習(予習・復習)	実技は毎回、課題曲の中から演奏、発表の形で進めていきますので、十分な練習をして授業に臨んでください。

免許・資格	幼二種免・保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A1044	科目名	音楽 I	単位数	1
担当者	野上 俊之、乗松 恵美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受容力、創造・表現力				
概要	幼児期に感受性、想像力、表現力、協調性などを育む上で、音楽の果たす役割は非常に大きなものがあります。そして「うたう」ことは、音楽表現の原点であるといわれています。ここでは、保育者として必要な音楽的基礎技能の習得をめざし、歌唱の体得及び音楽の構成要素(リズム・旋律・音の重なり・形式など)を探究していきます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	自然な歌唱法の習得 楽典的事項を知識としてではなく、聴くことによって認識できる				
評価方法	授業への参加姿勢(30%) 課題消化状況(40%) 実技発表、レポート(30%) を総合的に評価します。ただし、歌唱と理論それぞれ一定基準に達することが前提です。				
備考	二人の担当者がリレー形式で行います。				
テキスト・教材・経費等	小林美実編 こどものうた200 チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布します。				
授業計画	第1回:オリエンテーション(授業計画の詳細、音楽適性検査)(野上) 第2回:歌唱編(身体の構造・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第3回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム①・視唱練習(実技))(乗松) 第4回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム②・歌唱練習(実技))(乗松) 第5回:歌唱編(発声のための身体づくり①・視唱練習(実技))(乗松) 第6回:歌唱編(発声のための身体づくり②・歌唱練習(実技))(乗松) 第7回:歌唱編(日本語の発音・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第8回:歌唱編(まとめ)(乗松) 第9回:理論編(音楽以前の音)(野上) 第10回:理論編(リズムの背景:拍、アクセント、拍子)(野上) 第11回:理論編(リズムの背景:テンポ、組み合わせ)(野上) 第12回:理論編(音階とメロディーライン)(野上) 第13回:理論編(音の重なり)(野上) 第14回:理論編(和声付け)(野上) 第15回:理論編(まとめ)(野上)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、個別対応				
準備学習(予習・復習)	実技は毎回、課題曲の中から演奏、発表の形で進めていきますので、十分な練習をして授業に臨んでください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A1045	科目名	図画工作 I			単位数	1
担当者	久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	自分の感性で生きる喜びをつくり出せる方法の一つに、造形表現活動があります。豊かな発想と、創造的な技能を働かせ、ものをつくり出す楽しさと、自己を表現する充実感や心地よさを味わいましょう。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。
到達目標	○造形的な創造活動の基礎的能力を身につける。○自分の思いを自分なりに表現し、豊かな感性と創造性を育む。○幼児の造形的表現活動を理解し、援助できるようにする。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度
備考	
テキスト・教材・経費等	スケッチブック(8つ切り)、ポスターカラー12色セット

授業計画	第1回 幼児の造形表現活動について 第2回 描画(クレパスを使って) 第3回 描画(色鉛筆を使って) 第4回 色面構成 第5回 観察して描く 第6回 さまざまな技法(フロッターージュ、コラーージュ) 第7回 さまざまな技法(スクラッチ) 第8回 さまざまな技法(スタンピング) 第9回 さまざまな技法(ステンシル) 第10回 さまざまな技法(糸引き絵、デカルコマニー、ドリップング、マーブリング、にじみ絵) 第11回 絵本～お気に入りのページ模写～ 第12回 折り紙 第13回 粘土(個人制作) 第14回 粘土(共同制作) 第15回 自画像
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	図工室は子どもたちの大好きな場所。いろいろな素材や道具に触れ、そこから多くの空想や想像を広げていきます。ものの見方・考え方はひとつではありません。固定化した意味や価値観から離れ、違うまなざしで世界を見ると、アートが生まれるのです。世界でひとつだけのものを、自分の力だけでつくること。言葉では言い表せない自分の中の何かを、いろいろな出会いや発見を通してカタチとしてあらわすこと。皆さんには是非、夢中になって図工室でのひとときを楽しんでほしいと思います。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 図画工作 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A1046	科目名	図画工作 I			単位数	1
担当者	久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2040						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	自分の感性で生きる喜びをつくり出せる方法の一つに、造形表現活動があります。豊かな発想と、創造的な技能を働かせ、ものをつくり出す楽しさと、自己を表現する充実感や心地よさを味わいましょう。						
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。						
到達目標	○造形的な創造活動の基礎的能力を身につける。○自分の思いを自分なりに表現し、豊かな感性と創造性を育む。○幼児の造形的表現活動を理解し、援助できるようにする。						
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度						
備考							
テキスト・教材・経費等	スケッチブック(8つ切り)、ポスターカラー12色セット						
授業計画	第1回 幼児の造形表現活動について 第2回 描画(クレパスを使って) 第3回 描画(色鉛筆を使って) 第4回 色面構成 第5回 観察して描く 第6回 さまざまな技法(フロッターージュ、コラーージュ) 第7回 さまざまな技法(スクラッチ) 第8回 さまざまな技法(スタンピング) 第9回 さまざまな技法(ステンシル) 第10回 さまざまな技法(糸引き絵、デカルコマニー、ドリッピング、マーブリング、にじみ絵) 第11回 絵本～お気に入りのページ模写～ 第12回 折り紙 第13回 粘土(個人制作) 第14回 粘土(共同制作) 第15回 自画像						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、コメントペーパー						
準備学習(予習・復習)	図工室は子どもたちの大好きな場所。いろいろな素材や道具に触れ、そこから多くの空想や想像を広げていきます。ものの見方・考え方はひとつではありません。固定化した意味や価値観から離れ、違うまなざしで世界を見ると、アートが生まれるのです。世界でひとつだけのものを、自分の力でつくること。言葉では言い表せない自分の中の何かを、いろいろな出会いや発見を通してカタチとしてあらわすこと。皆さんには是非、夢中になって図工室でのひとときを楽しんでほしいと思います。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 図画工作 保:保育の表現技術 保育表現技術						

時間割番号	1A1047	科目名	図画工作 I			単位数	1
担当者	久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	自分の感性で生きる喜びをつくり出せる方法の一つに、造形表現活動があります。豊かな発想と、創造的な技能を働かせ、ものをつくり出す楽しさと、自己を表現する充実感や心地よさを味わいましょう。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。
到達目標	○造形的な創造活動の基礎的能力を身につける。○自分の思いを自分なりに表現し、豊かな感性と創造性を育む。○幼児の造形的表現活動を理解し、援助できるようにする。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度
備考	
テキスト・教材・経費等	スケッチブック(8つ切り)、ポスターカラー12色セット

授業計画	第1回 幼児の造形表現活動について 第2回 描画(クレパスを使って) 第3回 描画(色鉛筆を使って) 第4回 色面構成 第5回 観察して描く 第6回 さまざまな技法(フロッターージュ、コラーージュ) 第7回 さまざまな技法(スクラッチ) 第8回 さまざまな技法(スタンピング) 第9回 さまざまな技法(ステンシル) 第10回 さまざまな技法(糸引き絵、デカルコマニー、ドリッピング、マーブリング、にじみ絵) 第11回 絵本～お気に入りのページ模写～ 第12回 折り紙 第13回 粘土(個人制作) 第14回 粘土(共同制作) 第15回 自画像
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	図工室は子どもたちの大好きな場所。いろいろな素材や道具に触れ、そこから多くの空想や想像を広げていきます。ものの見方・考え方はひとつではありません。固定化した意味や価値観から離れ、違うまなざしで世界を見ると、アートが生まれるのです。世界でひとつだけのものを、自分の力でつくること。言葉では言い表せない自分の中の何かを、いろいろな出会いや発見を通してカタチとしてあらわすこと。皆さんには是非、夢中になって図工室でのひとときを楽しんでほしいと思います。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 図画工作 保:保育の表現技術 保育表現技術



時間割番号	1A1048	科目名	体育 I	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2060				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	子どもの発達と運動機能についての知識を深め、運動発達を促す運動遊びについて学習します。特に、運動機能の基礎となる調整力を養うための多様な運動遊びの技能を自分自身が体験することにより習得し、子どもにとっての運動遊びの重要性を理解した上でのよりよい援助のあり方について考えます。				
教育目標との関連	専門教育科目における「保育の表現技術」の領域に位置付けられる科目です。学習到達度指標における「子どもの心身の健康や発達について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力してともに育ち合おうとする」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの発達と運動機能、各種運動遊びの特性やねらいについて理解する。 【技能】基礎的な運動遊びの技能を習得する。 【思考・判断・表現】子どもの意欲を引き出す運動遊びの工夫ができる。 【態度・志向性】自分自身の身体に関心を持ち、他者と協力して積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種運動遊びの特性やねらいについてのまとめ課題(20%) 【技能】各種運動遊びに関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】グループワーク課題(20%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)				
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリント等を配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの発達と運動機能について) 第2回 身体を使った運動遊び①(調整力についての解説と身体各部位の運動) 第3回 身体を使った運動遊び②(いろいろな移動運動) 第4回 身体を使った運動遊び③(いろいろなからだ遊び等) 第5回 身体を使った運動遊び④(ジャンプやステップのからだ遊び等) 第6回 鬼遊び①(いろいろな鬼遊び) 第7回 鬼遊び②(子どもの発達に合わせた鬼遊びの工夫) 第8回 鬼遊び③(鬼遊びの実践) 第9回 ボールを使った運動遊び①(いろいろなボールを使った運動遊び) 第10回 ボールを使った運動遊び②(子どもの発達に合わせたボール遊び) 第11回 ボールを使った運動遊び③(ボールを使った集団遊びの実践) 第12回 調整力を高める遊びを考える①(からだ遊びやボールを使った運動遊びの工夫) 第13回 調整力を高める遊びを考える②(運動遊びの発表と振り返り) 第14回 子どもの運動能力測定の方法と実施 第15回 まとめ(子どもの運動機能とさまざまな運動遊びの関連)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習				
準備学習(予習・復習)	【7・11回】授業で実施した各種運動遊びの特性やねらいをまとめてください。 【8・13回】テーマに沿った運動遊びをグループで協力して立案・実践してください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 体育 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A1049	科目名	体育 I			単位数	1
担当者	高德 希						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2060						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	子どもの発達と運動機能についての知識を深め、運動発達を促す運動遊びについて学習します。特に、運動機能の基礎となる調整力を養うための多様な運動遊びの技能を自分自身が体験することにより習得し、子どもにとっての運動遊びの重要性を理解した上でのよりよい援助のあり方について考えます。
教育目標との関連	専門教育科目における「保育の表現技術」の領域に位置付けられる科目です。学習到達度指標における「子どもの心身の健康や発達について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力してともに育ち合おうとする」と関連しています。
到達目標	【知識・理解】子どもの発達と運動機能、各種運動遊びの特性やねらいについて理解する。 【技能】基礎的な運動遊びの技能を習得する。 【思考・判断・表現】子どもの意欲を引き出す運動遊びの工夫ができる。 【態度・志向性】自分自身の身体に関心を持ち、他者と協力して積極的に課題に取り組むことができる。
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種運動遊びの特性やねらいについてのまとめ課題(20%) 【技能】各種運動遊びに関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】グループワーク課題(20%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリント等を配布します。

授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの発達と運動機能について) 第2回 身体を使った運動遊び①(調整力についての解説と身体各部位の運動) 第3回 身体を使った運動遊び②(いろいろな移動運動) 第4回 身体を使った運動遊び③(いろいろなからだ遊び等) 第5回 身体を使った運動遊び④(ジャンプやステップのからだ遊び等) 第6回 鬼遊び①(いろいろな鬼遊び) 第7回 鬼遊び②(子どもの発達に合わせた鬼遊びの工夫) 第8回 鬼遊び③(鬼遊びの実践) 第9回 ボールを使った運動遊び①(いろいろなボールを使った運動遊び) 第10回 ボールを使った運動遊び②(子どもの発達に合わせたボール遊び) 第11回 ボールを使った運動遊び③(ボールを使った集団遊びの実践) 第12回 調整力を高める遊びを考える①(からだ遊びやボールを使った運動遊びの工夫) 第13回 調整力を高める遊びを考える②(運動遊びの発表と振り返り) 第14回 子どもの運動能力測定の方法と実施 第15回 まとめ(子どもの運動機能とさまざまな運動遊びの関連)
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習
準備学習(予習・復習)	【7・11回】授業で実施した各種運動遊びの特性やねらいをまとめてください。 【8・13回】テーマに沿った運動遊びをグループで協力して立案・実践してください。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 体育 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A1050	科目名	体育 I			単位数	1
担当者	高德 希						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2060						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	子どもの発達と運動機能についての知識を深め、運動発達を促す運動遊びについて学習します。特に、運動機能の基礎となる調整力を養うための多様な運動遊びの技能を自分自身が体験することにより習得し、子どもにとっての運動遊びの重要性を理解した上でのよりよい援助のあり方について考えます。
教育目標との関連	専門教育科目における「保育の表現技術」の領域に位置付けられる科目です。学習到達度指標における「子どもの心身の健康や発達について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力してともに育ち合おうとする」と関連しています。
到達目標	【知識・理解】子どもの発達と運動機能、各種運動遊びの特性やねらいについて理解する。 【技能】基礎的な運動遊びの技能を習得する。 【思考・判断・表現】子どもの意欲を引き出す運動遊びの工夫ができる。 【態度・志向性】自分自身の身体に関心を持ち、他者と協力して積極的に課題に取り組むことができる。
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種運動遊びの特性やねらいについてのまとめ課題(20%) 【技能】各種運動遊びに関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】グループワーク課題(20%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリント等を配布します。

授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの発達と運動機能について) 第2回 身体を使った運動遊び①(調整力についての解説と身体各部位の運動) 第3回 身体を使った運動遊び②(いろいろな移動運動) 第4回 身体を使った運動遊び③(いろいろなからだ遊び等) 第5回 身体を使った運動遊び④(ジャンプやステップのからだ遊び等) 第6回 鬼遊び①(いろいろな鬼遊び) 第7回 鬼遊び②(子どもの発達に合わせた鬼遊びの工夫) 第8回 鬼遊び③(鬼遊びの実践) 第9回 ボールを使った運動遊び①(いろいろなボールを使った運動遊び) 第10回 ボールを使った運動遊び②(子どもの発達に合わせたボール遊び) 第11回 ボールを使った運動遊び③(ボールを使った集団遊びの実践) 第12回 調整力を高める遊びを考える①(からだ遊びやボールを使った運動遊びの工夫) 第13回 調整力を高める遊びを考える②(運動遊びの発表と振り返り) 第14回 子どもの運動能力測定の方法と実施 第15回 まとめ(子どもの運動機能とさまざまな運動遊びの関連)
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習
準備学習(予習・復習)	【7・11回】授業で実施した各種運動遊びの特性やねらいをまとめてください。 【8・13回】テーマに沿った運動遊びをグループで協力して立案・実践してください。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 体育 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A1051	科目名	器楽		単位数	1
担当者	野上 俊之、宮田 淑未、生塩 公光子、水嶋 晶子、馬杉 知佐、森木 和美、永井 祐子					
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	演習	
ナンバリング	1A4-2030					

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	保育現場では、保育者が子どもといっしょにいきたいと「うたって」「ひける」ことが求められています。この授業では、子どもたちと共に音楽を楽しむために必要な、音楽の基礎的技術の習得をめざします。音楽を楽しみながら身につけるためには、体からあふれ出す音、声になって行き交う音、楽器を通して響き合う音、音楽を共有する喜びを感じながら学んでいきましょう。
教育目標との関連	専門科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達指標「保育者に要求される音楽的資質について理解する」「正しい読譜力、豊かな演奏技術の習得、童謡の詩の内容を読み取る」と関連しています。「うたう」「ひく」「かたる」などの諸活動から、音楽を総合的に表現できるよう学習してください。
到達目標	S:音楽を理解し、正しい読譜力、豊かな音楽表現を追求しようとしている。 A:音楽を理解し、豊かな音楽表現ができる。 B:音楽を理解し、音楽表現ができる。 C:音楽を表現しようとしている。
評価方法	〔知識・理解〕楽譜を読み取る。(20%) 〔技能〕正しい読譜力と演奏技術。(20%) 〔思考・判断・表現〕より良い音楽を求めようとしている。(20%) 〔態度・志向性〕毎回の授業への取り組み状況。(40%)
備考	
テキスト・教材・経費等	子どものうた200(チャイルド社)。 ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタなど

授業計画	1～5 導入、「第1期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 6～9 「第2期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 10～14 「第3期弾きうたい課題」、練習曲、課題演奏。 15 練習曲演奏 16～20 「第4期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 21～24 「第5期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 25～29 「第6期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 30 練習曲演奏
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表
準備学習(予習・復習)	毎回の授業で指摘された問題点や提示された課題を、自分の練習の中で繰り返し直しながら実践することが大切です。毎日練習時間を確保してください。ただ長時間弾くだけでなく、自分の音や声を良く聞いて、的確な判断をしながら練習してください。 良い音楽、良い演奏をたくさん聴いてください。

免許・資格	幼二種免・保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A1052	科目名	器楽	単位数	1
担当者	野上 俊之、宮田 淑未、生塩 公光子、水嶋 晶子、馬杉 知佐、森木 和美、吉川 絢子、三上 ゆりか				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育現場では、保育者が子どもといっしょにいきいきと「うたって」「ひける」ことが求められています。この授業では、子どもたちと共に音楽を楽しむために必要な、音楽の基礎的技術の習得をめざします。音楽を楽しみながら身につけるためには、体からあふれ出す音、声になって行き交う音、楽器を通して響き合う音、音楽を共有する喜びを感じながら学んでいきましょう。				
教育目標との関連	専門科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達指標「保育者に要求される音楽的資質について理解する」「正しい読譜力、豊かな演奏技術の習得、童謡の詩の内容を読み取る」と関連しています。「うたう」「ひく」「かたる」などの諸活動から、音楽を総合的に表現できるよう学習してください。				
到達目標	S:音楽を理解し、正しい読譜力、豊かな音楽表現を追求しようとしている。 A:音楽を理解し、豊かな音楽表現ができる。 B:音楽を理解し、音楽表現ができる。 C:音楽を表現しようとしている。				
評価方法	〔知識・理解〕楽譜を読み取る。(20%) 〔技能〕正しい読譜力と演奏技術。(20%) 〔思考・判断・表現〕より良い音楽を求めようとしている。(20%) 〔態度・志向性〕毎回の授業への取り組み状況。(40%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	子どものうた200(チャイルド社)。 ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタなど				
授業計画	1～5 導入、「第1期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 6～9 「第2期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 10～14 「第3期弾きうたい課題」、練習曲、課題演奏。 15 練習曲演奏 16～20 「第4期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 21～24 「第5期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 25～29 「第6期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 30 練習曲演奏				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業で指摘された問題点や提示された課題を、自分の練習の中で繰り返し直ししながら実践することが大切です。毎日練習時間を確保してください。ただ長時間弾くだけでなく、自分の音や声を良くきいて、的確な判断をしながら練習してください。 良い音楽、良い演奏をたくさん聴いてください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A1053	科目名	器楽	単位数	1
担当者	野上 俊之、宮田 淑未、生塩 公光子、水嶋 晶子、馬杉 知佐、森木 和美、永井 祐子				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育現場では、保育者が子どもといっしょにいきたいと「うたって」「ひける」ことが求められています。この授業では、子どもたちと共に音楽を楽しむために必要な、音楽の基礎的技術の習得をめざします。音楽を楽しみながら身につけるためには、体からあふれ出す音、声になって行き交う音、楽器を通して響き合う音、音楽を共有する喜びを感じながら学んでいきましょう。				
教育目標との関連	専門科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達指標「保育者に要求される音楽的資質について理解する」「正しい読譜力、豊かな演奏技術の習得、童謡の詩の内容を読み取る」と関連しています。「うたう」「ひく」「かたる」などの諸活動から、音楽を総合的に表現できるよう学習してください。				
到達目標	S:音楽を理解し、正しい読譜力、豊かな音楽表現を追求しようとしている。 A:音楽を理解し、豊かな音楽表現ができる。 B:音楽を理解し、音楽表現ができる。 C:音楽を表現しようとしている。				
評価方法	〔知識・理解〕楽譜を読み取る。(20%) 〔技能〕正しい読譜力と演奏技術。(20%) 〔思考・判断・表現〕より良い音楽を求めようとしている。(20%) 〔態度・志向性〕毎回の授業への取り組み状況。(40%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	子どものうた200(チャイルド社)。 ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタなど				
授業計画	1～5 導入、「第1期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 6～9 「第2期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 10～14 「第3期弾きうたい課題」、練習曲、課題演奏。 15 練習曲演奏 16～20 「第4期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 21～24 「第5期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 25～29 「第6期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 30 練習曲演奏				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業で指摘された問題点や提示された課題を、自分の練習の中で繰り返し直ししながら実践することが大切です。毎日練習時間を確保してください。ただ長時間弾くだけでなく、自分の音や声を良く聞いて、的確な判断をしながら練習してください。 良い音楽、良い演奏をたくさん聴いてください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A1054	科目名	器楽	単位数	1
担当者	野上 俊之、宮田 淑未、生塩 公光子、水嶋 晶子、馬杉 知佐、森木 和美、吉川 絢子、三上 ゆりか				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育現場では、保育者が子どもといっしょにいきいきと「うたって」「ひける」ことが求められています。この授業では、子どもたちと共に音楽を楽しむために必要な、音楽の基礎的技術の習得をめざします。音楽を楽しみながら身につけるためには、体からあふれ出す音、声になって行き交う音、楽器を通して響き合う音、音楽を共有する喜びを感じながら学んでいきましょう。				
教育目標との関連	専門科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達指標「保育者に要求される音楽的資質について理解する」「正しい読譜力、豊かな演奏技術の習得、童謡の詩の内容を読み取る」と関連しています。「うたう」「ひく」「かたる」などの諸活動から、音楽を総合的に表現できるよう学習してください。				
到達目標	S:音楽を理解し、正しい読譜力、豊かな音楽表現を追求しようとしている。 A:音楽を理解し、豊かな音楽表現ができる。 B:音楽を理解し、音楽表現ができる。 C:音楽を表現しようとしている。				
評価方法	〔知識・理解〕楽譜を読み取る。(20%) 〔技能〕正しい読譜力と演奏技術。(20%) 〔思考・判断・表現〕より良い音楽を求めようとしている。(20%) 〔態度・志向性〕毎回の授業への取り組み状況。(40%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	子どものうた200(チャイルド社)。 ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタなど				
授業計画	1～5 導入、「第1期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 6～9 「第2期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 10～14 「第3期弾きうたい課題」、練習曲、課題演奏。 15 練習曲演奏 16～20 「第4期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 21～24 「第5期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 25～29 「第6期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 30 練習曲演奏				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業で指摘された問題点や提示された課題を、自分の練習の中で繰り返し直ししながら実践することが大切です。毎日練習時間を確保してください。ただ長時間弾くだけでなく、自分の音や声を良く聞いて、的確な判断をしながら練習してください。 良い音楽、良い演奏をたくさん聴いてください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A1070	科目名	幼稚園教育実習Ⅰ	単位数	2
担当者	菊野 秀樹、野上 俊之、七木田 方美				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	講義／実習
ナンバリング	1A5-3011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力、チームワーク力、自己省察力、創造・表現力				
概要	教育実習は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定める必修科目です。実習を通して、保育者として必要な資質、技能、態度を身につけることに、その意義と目的があります。1年次に行う実習は観察・参加及び部分実習で、一日の一部分の指導を行います。実習の事前事後には、実習の心得や子どもと接するときの姿勢、日誌の書き方などを講義します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達目標すべてに関連しています。幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目です。				
到達目標	次の4つの観点などを到達目標としています。 【知識・理解】子どもを理解するとともに保育者の職務について理解する 【技能】実習記録が書け、表現力豊かに指導や援助ができる 【思考・判断・表現】自己の課題に基づいた目標を設定し、実習をとおして評価・反省ができる 【志向性・態度】マナーを守り、学ぼうとする意欲や仕事に対する責任感をもつ				
評価方法	到達目標の4つの観点から、実習に係る手続きや希望届等の書類の提出状況、実習の事前・事後に課すレポート及び実習評価を総合して評価します。なお、この科目は、全出席(出勤)を前提としています。				
備考	〈履修要件〉 幼稚園教育実習Ⅱの履修にあたっては、幼稚園教育実習Ⅰ(2単位)を含む当該免許資格専門科目(1年次開講)の2/3以上の単位取得を要件とする。				
テキスト・教材・経費等	・文部科学省2008幼稚園教育要領 フレーベル館 190円+税 ・実習ハンドブック				
授業計画	講義(事前・事後指導)15時間 第1回:オリエンテーション～教育実習の意義と目的～ 第2回:付属幼稚園実習に向けて(1)～観察、参加実習の内容～ 第3回:付属幼稚園の概要～付属幼稚園の園長～ 第4回:付属幼稚園実習の心構え～実習ハンドブックを使って心得を講義～ 第5回:実習開始式～クラスの概要について～ 第6回:2年次夏の実習園の決定と交渉～実習施設の選定について講義と指導～ 第7回:付属幼稚園実習に向けて(2)～部分実習の目的・意義・内容について～ 第8回:1組、2組(2回に分けて)の配属クラス別にクラスの様子、姿を講義し、指導内容について学ぶ 第9回:幼稚園教育実習のまとめ  実習45時間 ①付属幼稚園実習(3日間) ○観察・参加実習 ②付属幼稚園実習(1週間) ○観察・参加及び部分指導実習				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、グループワーク				
準備学習(予習・復習)	保育は、一日の出来事を反省的に振り返りながら実践を積み重ねていくことがとても大切です。したがって、実習においても、この「省察」を重んじています。そのために、実習日誌はPDSサイクルに基づいており、実習前には自己目標のレポート、実習後には自己評価のレポートを書きます。日々の実習日誌も本日の目標→省察という過程の繰り返しで、それらをポートフォリオにまとめます。				
免許・資格	幼二種免				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育実習 担当形態:複数				



時間割番号	1A1084	科目名	保育実習指導 I			単位数	2
担当者	久保田 貴美子、馬杉 知佐、内本 充統、楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期～2018年度 前期	開講年次	1～2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A5-3021						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		傾聴・受心力、自己省察力、創造・表現力					
概要	保育実習の目的を効果的に達成するための授業です。 実習前には保育所及びその他の児童福祉施設の概要や実習内容、実習日誌の書き方、実習生としての態度や心構えなどを学びます。 保育所長や施設長などの外部講師による講義や児童福祉施設などの見学も行います。 実習後には自己評価を行い、自分の課題を認識し、次の実習に向けての目標設定を行います。						
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、すべての学習到達度指標と関連しています。						
到達目標	【知識・理解】保育所や児童福祉施設の機能、役割や利用者の状況について理解する。 【技能】対象者に応じた保育技術を身につける。正確に記録するための文章表現力を身につける。 【思考・判断・表現】保育士として適切な行動や態度を身につけるため、自己評価し、自分の課題を認識できる。 【態度・志向性】保育所や児童福祉施設の業務を遂行するために積極的に行動する。						
評価方法	参加状況及び授業態度(60%)、レポート、課題提出状況など(40%)を総合的に評価します。 なお、この科目は全出席を前提としています。						
備考							
テキスト・教材・経費等	「最新保育講座13 保育実習」 ミネルヴァ書房 2,200円+税 「実習ハンドブック」「実習日誌ポートフォリオ」 「実習生のための自己評価チェックリスト」 萌文書林 700円 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 190円+税 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 249+税						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育所実習について 第3回 保育所実習の目的と内容 第4回 日誌など実習記録の基本 第5回 実習の心得と自己評価 第6回 施設の概要及び見学について 第7回 保育所実習の心構え 第8回 保育所実習の準備 第9回 保育所実習の評価と課題 第10回 施設実習の心構え 第11回 施設実習についての二年次生の体験談 第12回 施設実習に向けての準備 第13回 施設実習の評価と課題 第14回 指導実習について 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	自己省察、課題発見学習						
準備学習(予習・復習)	専門教育科目のすべての授業が、保育実習、保育実習指導の授業に関連しています。 普段の授業の内容を実習場面でどう生かしていくのか、日ごろから考え、バーチャル保育室やカンファレンスルームを利用して自分の保育の力を養成して下さい。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	専門科目 I (必修) 保育実習 保育実習指導 I						

時間割番号	1A1085	科目名	保育実習 I			単位数	4
担当者	久保田 貴美子、馬杉 知佐、内本 充統、楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期～2018年度 前期		開講年次	1～2	授業方法	実習	
ナンバリング	1A5-3031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		傾聴・受信力、自己省察力、創造・表現力					
概要	大学で学んだ理論や技術を学外の保育所及びその他の児童福祉施設で実践し、応用能力を養います。 1年次春季休暇中に保育所実習(通所形態、2単位)、及び2年次6月に児童福祉施設(保育所以外)実習(宿泊形態、2単位)、合計4単位を取得する必要があります。						
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、すべての学習到達度指標と関連しています。						
到達目標	【知識・理解】児童福祉施設の機能、役割や利用者の状況、保育士の職務内容について実践を通じて理解する。 【技能】対象者に応じた保育技術を身につける。観察した内容などを的確に日誌に記録できる。 【思考・判断・表現】保育場面に応じて、保育士として適切な行動や態度をとることができる。 【態度・志向性】保育所や児童福祉施設の業務を遂行するために積極的に行動する。						
評価方法	実習日誌、レポートなど(50%)、実習先評価(50%)により総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	「最新保育講座13 保育実習」 ミネルヴァ書房 2,200円+税 「実習ハンドブック」「実習日誌ポートフォリオ」 「実習生のための自己評価チェックリスト」 萌文書林 700円 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 190円+税 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 249円+税						
授業計画	1: 保育所で観察・参加実習を行う。 2: 児童福祉施設で観察・参加実習を行う。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習						
準備学習(予習・復習)	【事前】 春季の実習先保育所は学生が選ぶのが原則であるため、早めに選定しておいてください。 実習の前には具体的な自己目標を設定しレポートを書きます。また、バーチャル保育室やカンファレンスルームを活用し、実習の事前準備をしましょう。 【実習】 実習後には毎回実習日誌を書きます。その日の実習を振り返り、省察し次の日の保育につなげましょう。 【事後】 実習を振り返り自己評価を行いましょう。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	専門科目 I (必修) 保育実習 保育実習 I						

時間割番号	1A2012	科目名	保育者論			単位数	2
担当者	菊野 秀樹						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A1-2020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考、傾聴・受信力、チームワーク力

概要	この授業は保育者の専門性について学びます。保育者として求められる資質とはどのようなもののでしょうか。子どもや保護者とのよりよい関係はどのようにしてつられていくのでしょうか。授業は、保育実践のDVD、実習日誌、実践報告、児童小説などを用い、講義とグループディスカッションを進めていきます。
教育目標との関連	専門教育科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達目標の【保育の本質と目的について理解する】、【保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ】に関連します。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得の必修科目です。
到達目標	(知識・理解)保育者の仕事を理解する。 (技能)保育者に求められる専門的能力を述べるができる。 (思考・判断・表現)保育実践における保育者の配慮について考えることができる。 (態度・志向性)専門職として自らを高めていくために保育者の資質について探求しようとする。
評価方法	「知識・理解」 ノート 30% 「技能」 レポート 30% 「思考・判断・表現」 レポート 30% 「態度・志向性」 ノート 10%
備考	
テキスト・教材・経費等	教材 ・「幼児教育学」 荘司雅子著 柳原書店 ・「感性があふない」寺内定夫 毎日新聞社 ・DVD「3年間の保育記録」企画・制作／岩波映像株式会社、 ・実習日誌

授業計画	第1回：オリエンテーション 資料配布 第2回：付属幼稚園の園庭環境について考える。(環境を整備する保育者) 第3回：実習で観察した保育者の配慮について考える。(心をくばる保育者) 第4回：保育者の配慮を具体的に書く。(保育者の意図を想像する) 第5回：付属幼稚園の室内環境を考える。(動線を考え環境をつくる保育者) 第6回：保育の出来事を具体的に書く。(保育を語る) 第7回：領域「健康」から保育者の配慮を学ぶ。(教育要領から配慮を学ぶ) 第8回：実践報告から学ぶ「入園時期の不安な気持ち」 第9回：実践報告から学ぶ「子どもとの関係で悩む保育者」 第10回：実践報告から学ぶ「保護者とのかかわり」 第11回：遊びの大切さについて考える。 第12回：児童文学を通して5領域を学ぶ。(子どもの姿から「内容」について考える) 第13回：“子どもらしさ”について考える。 第14回：子どもから学ぶ保育者 第15回：まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク
準備学習(予習・復習)	予習：配布された資料を読み、キーワードにアンダーラインを引く。 復習：ノートの整理と課題レポート。

免許・資格	幼二種免・保育士
免許・資格の科目区分	幼・教職に関する科目(必修) 教職の意義等に関する科目(教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)、進路選択に資する各種の機会の提供等) 担当形態：単独 保・保育の本質・目的の理解に関する科目

時間割番号	1A2013	科目名	保育者論	単位数	2												
担当者	菊野 秀樹																
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義												
ナンバリング	1A1-2020																
コア・アクティブ・ラーニング科目群																	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		論理的思考、傾聴・受信力、チームワーク力															
概要	この授業は保育者の専門性について学びます。保育者として求められる資質とはどのようなもののでしょうか。子どもや保護者とのよりよい関係はどのようにしてつられていくのでしょうか。授業は、保育実践のDVD、実習日誌、実践報告、児童小説などを用い、講義とグループディスカッションを進めていきます。																
教育目標との関連	専門教育科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達度指標の【保育の本質と目的について理解する】、【保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ】に関連します。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得の必修科目です。																
到達目標	(知識・理解) 保育者の仕事を理解する。 (技能) 保育者に求められる専門的能力を述べるができる。 (思考・判断・表現) 保育実践における保育者の配慮について考えることができる。 (態度・志向性) 専門職として自らを高めていくために保育者の資質について探求しようとする。																
評価方法	<table border="0"> <tr> <td>「知識・理解」</td> <td>ノート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>「技能」</td> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>「思考・判断・表現」</td> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>「態度・志向性」</td> <td>ノート</td> <td>10%</td> </tr> </table>					「知識・理解」	ノート	30%	「技能」	レポート	30%	「思考・判断・表現」	レポート	30%	「態度・志向性」	ノート	10%
「知識・理解」	ノート	30%															
「技能」	レポート	30%															
「思考・判断・表現」	レポート	30%															
「態度・志向性」	ノート	10%															
備考																	
テキスト・教材・経費等	教材 ・「幼児教育学」 荘司雅子著 柳原書店 ・「感性があふない」寺内定夫 毎日新聞社 ・DVD「3年間の保育記録」企画・制作／岩波映像株式会社、 ・実習日誌																
授業計画	第1回：オリエンテーション 資料配布 第2回：付属幼稚園の園庭環境について考える。(環境を整備する保育者) 第3回：実習で観察した保育者の配慮について考える。(心をくばる保育者) 第4回：保育者の配慮を具体的に書く。(保育者の意図を想像する) 第5回：付属幼稚園の室内環境を考える。(動線を考え環境をつくる保育者) 第6回：保育の出来事を具体的に書く。(保育を語る) 第7回：領域「健康」から保育者の配慮を学ぶ。(教育要領から配慮を学ぶ) 第8回：実践報告から学ぶ「入園時期の不安な気持ち」 第9回：実践報告から学ぶ「子どもとの関係で悩む保育者」 第10回：実践報告から学ぶ「保護者とのかかわり」 第11回：遊びの大切さについて考える。 第12回：児童文学を通して5領域を学ぶ。(子どもの姿から「内容」について考える) 第13回：“子どもらしさ”について考える。 第14回：子どもから学ぶ保育者 第15回：まとめ																
アクティブ・ラーニングの授業形態																	
準備学習(予習・復習)	予習：配布された資料を読み、キーワードにアンダーラインを引く。 復習：ノートの整理と課題レポート。																
免許・資格	幼二種免・保育士																
免許・資格の科目区分	幼・教職に関する科目(必修) 教職の意義等に関する科目(教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)、進路選択に資する各種の機会の提供等) 担当形態：単独 保・保育の本質・目的の理解に関する科目																

時間割番号	1A2014	科目名	児童家庭福祉	単位数	2
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A1-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	「児童家庭福祉」の意義、制度、実施体系について理解し、児童家庭福祉の一分野としての保育について、その関連性を理解していきます。現代社会における児童問題全般に対して理解を深め、課題及び対応方法について学んでいきます。また、「子ども・子育て支援新制度」等、これからの「保育」はどうあるべきかを考えていきます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達指標「保育の本質と目的について理解する」「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】「児童家庭福祉」の意義、制度、実施体系について理解する。 【技能】子育て支援サービス等、子どもや保護者のニーズに対応する知識、技術を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの最善の利益を尊重するための支援を考えることができる。 【態度・志向性】「児童家庭福祉」の現状について、問題意識を持って考えることができる。				
評価方法	授業への参加状況(30%) 授業における課題の達成状況及び小テスト(20%) レポート課題の達成状況(50%) 以上の観点から総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	「子ども家庭福祉の世界」有斐閣 1,900円				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の領域</li> <li>2. 児童家庭福祉における重要概念</li> <li>3. 児童家庭福祉の歴史</li> <li>4. ライフステージと児童家庭福祉：胎児期・乳児期</li> <li>5. ライフステージと児童家庭福祉：幼児期・学童期</li> <li>6. ライフステージと児童家庭福祉：思春期・成人への移行期</li> <li>7. 児童家庭福祉の行政機関</li> <li>8. 少子化社会の現状と課題</li> <li>9. 子どもの貧困：経済的問題と二次的問題の予防</li> <li>10. 子ども虐待：問題の発見と介入</li> <li>11. 非行・情緒障害：適切な援助と自立支援</li> <li>12. 障害：特別な配慮を必要とする子ども支援</li> <li>13. 児童家庭福祉の専門職</li> <li>14. 児童福祉施設</li> <li>15. 子育て支援</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・カード、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	「子どもの最善の利益」とは何か、具体的に遭遇する保育場面等を想定して考えてみてください。保育士としてどうあるべきか、どう行動すべきか、日々の学生生活と関連付けて考えてみてください。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保育士資格 保育の本質・目的の理解に関する科目				

時間割番号	1A2015	科目名	児童家庭福祉			単位数	2
担当者	内本 充統						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A1-3010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	「児童家庭福祉」の意義、制度、実施体系について理解し、児童家庭福祉の一分野としての保育について、その関連性を理解していきます。現代社会における児童問題全般に対して理解を深め、課題及び対応方法について学んでいきます。また、「子ども・子育て支援新制度」等、これからの「保育」はどうあるべきかを考えていきます。
教育目標との関連	専門教育科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達指標「保育の本質と目的について理解する」「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。
到達目標	【知識・理解】「児童家庭福祉」の意義、制度、実施体系について理解する。 【技能】子育て支援サービス等、子どもや保護者のニーズに対応する知識、技術を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの最善の利益を尊重するための支援を考えることができる。 【態度・志向性】「児童家庭福祉」の現状について、問題意識を持って考えることができる。
評価方法	授業への参加状況(30%) 授業における課題の達成状況及び小テスト(20%) レポート課題の達成状況(50%) 以上の観点から総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	「子ども家庭福祉の世界」有斐閣 1,900円

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の領域</li> <li>2. 児童家庭福祉における重要概念</li> <li>3. 児童家庭福祉の歴史</li> <li>4. ライフステージと児童家庭福祉: 胎児期・乳児期</li> <li>5. ライフステージと児童家庭福祉: 幼児期・学童期</li> <li>6. ライフステージと児童家庭福祉: 思春期・成人への移行期</li> <li>7. 児童家庭福祉の行政機関</li> <li>8. 少子化社会の現状と課題</li> <li>9. 子どもの貧困: 経済的問題と二次的問題の予防</li> <li>10. 子ども虐待: 問題の発見と介入</li> <li>11. 非行・情緒障害: 適切な援助と自立支援</li> <li>12. 障害: 特別な配慮を必要とする子ども支援</li> <li>13. 児童家庭福祉の専門職</li> <li>14. 児童福祉施設</li> <li>15. 子育て支援</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・カード、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	「子どもの最善の利益」とは何か、具体的に遭遇する保育場面等を想定して考えてみてください。保育士としてどうあるべきか、どう行動すべきか、日々の学生生活と関連付けて考えてみてください。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育士資格 保育の本質・目的の理解に関する科目

時間割番号	1A2016	科目名	保育原理	単位数	2
担当者	菊野 秀樹				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A1-2040				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力、傾聴・受容力、コミュニケーション力			
概要	この授業は、歴史を通して保育の原点を学修することを目的としています。ヨーロッパにおける子ども親と保育親の変遷を知り、ヒューマンズを基盤にした保育原理を学んでいきます。また、自分自身が幼児期、少年期、青年期を通して、どんな遊びをしていたかを考え、遊びの意義について考えます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達度指標の【保育の本質と目的について理解する】、【子どもの最善の利益を尊重する】に関連します。保育士資格取得の必修科目です。				
到達目標	(知識・理解)ヒューマンズの教育について理解することができる。 (技能)子どもの視点で世界を見ようとする。 (思考・判断・表現)授業の内容を理解し、自分の考えを述べるができる。 (態度・志向性)現在の子どもを取り巻く環境について問題意識をもつことができる。				
評価方法	(知識・理解) ノート30% (技能)レポート30%「実習で最も印象深い出来事」 (思考・判断・表現)レポート20%「ヒューマンズの教育について」 (態度・志向性)レポート20%「子どもを取り巻く環境」				
備考					
テキスト・教材・経費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育所保育指針解説書』 2008 フレーベル館</li> <li>・『幼稚園教育要領解説書』 2008 フレーベル館</li> <li>・『児童心理学』 山下俊郎著 1982全国社会福祉協議会</li> <li>・『保育原理 第3版現代の保育学④』待井和江編 ミネルヴァ書房</li> <li>・DVD『3年間の保育記録』企画・制作／岩波映像株式会社 参考書</li> <li>・『幼児教育を築いた人々』 藤永保、三笠乙彦 監修 春秋社</li> </ul>				
授業計画	第1回:オリエンテーション (資料配布) 第2回: 保育の常識について考える 第3回: 保育の目的を知る 第4回: 人格について考える 第5回: 欧州における集団保育の歴史を知る 第6回: ルソーの子ども親を知る 第7回: ベスタロッターの教育観を知る 第8回: フレーベルの子ども親、保育観を知る。「ヒューマンズの教育についての感想」 第9回: 日本における集団保育の歴史を知る 第10回: 自発的な活動としての遊びについて考える「実習で最も印象深い出来事」 第11回: 遊びの種類について知る。(感覚、運動、模倣、受容、構成) 第12回: 保育環境について考える。「子どもを取りまく環境についての問題点」 第13回: 遊びの意義について考える 第14回: 指導計画「ねらい」と「内容」について知る。 第15回: まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態					
準備学習(予習・復習)	予習は、授業前に配布される資料を読み、キーワードにアンダーラインを引いてくることとします。復習はノートの整理とレポート課題です。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保育の本質・目的の理解に関する科目				

時間割番号	1A2017	科目名	教育心理学	単位数	2
担当者	鈴木 隆男				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A2-2010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	教育の基礎となる人間の発達、学習、人格形成、障害、評価などに関して、誕生から青年期くらいまでの期間にかかわる基礎的な事柄を説明します。子どもを育み、そだちを援助する大人として、子どもの心、行動とその成長の過程にかかわる基礎的な概念を理解してください。				
教育目標との関連	教育や保育の基礎となる、保育の対象の理解に関する専門科目です。学習到達度指標【知識・理解】の中の「子どもを知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の成長のありようと、それにかかわる保育者としての自己理解を深めてほしいと思っています。				
到達目標	【知識・理解】 ①対象の発達や教育にかかわる基礎的な事柄を理解し身につけてください。 ②子どもの育ちにかかわる保育者の役割を理解してください。 ③対象の発達や教育を評価するための基礎的事項を理解し身につけてください。				
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験50% レポート20% 授業への参加状況(授業内容の振り返りシート、コメントペーパーの記述)30%				
備考					
テキスト・教材・経費等	授業ごとにワークシートを配布します。 ▽参考書等：平山・鈴木(編著)ライフサイクルからみた発達の基礎、ミネルヴァ書房(前期保育の心理学Ⅰのテキスト)、幼稚園教育要領、保育の心理学Ⅰのワークシートおよび復習シート				
授業計画	第1回：教育心理学とは何か 第2回：子どもの身体と運動の発達 第3回：子どもの知的活動の基礎—操作的思考— 第4回：子どもの社会性の発達 第5回：子どもの発達と生活 第6回：中間まとめ—子どもをとりまく社会状況— 第7回：学習の基礎過程 1-強化を伴わない学習- 第8回：学習の基礎過程 2-強化を伴う学習：条件づけ- 第9回：生活の中に見られる条件づけによる学習 第10回：学習の基礎としての動機づけ 第11回：人格と適応 第12回：不適応行動 第13回：障害のある幼児、児童及び生徒の理解 第14回：集団の心理 第15回：測定と評価				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、授業内容の振り返りシート、自己省察を兼ねた授業中のミニレポート、中間テスト				
準備学習(予習・復習)	授業ごとに指定される参考資料に目を通してください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ワークシートを整理し、必要に応じて幼稚園教育要領や、前期「保育の心理学Ⅰ」のワークシートや復習シートなどを使って、確認する習慣をつけてください。				
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状、保育士				
免許・資格の科目区分	幼：教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)) 担当形態：単独 保：保育の対象の理解に関する科目				



時間割番号	1A2018	科目名	教育心理学	単位数	2
担当者	鈴木 隆男				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A2-2010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	教育の基礎となる人間の発達、学習、人格形成、障害、評価などに関して、誕生から青年期くらいまでの期間にかかわる基礎的な事柄を説明します。子どもを育み、そだちを援助する大人として、子どもの心、行動とその成長の過程にかかわる基礎的な概念を理解してください。				
教育目標との関連	教育や保育の基礎となる、保育の対象の理解に関する専門科目です。学習到達度指標【知識・理解】の中の「子どもを知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の成長のありようと、それにかかわる保育者としての自己理解を深めてほしいと思っています。				
到達目標	【知識・理解】 ①対象の発達や教育にかかわる基礎的な事柄を理解し身につけてください。 ②子どもの育ちにかかわる保育者の役割を理解してください。 ③対象の発達や教育を評価するための基礎的事項を理解し身につけてください。				
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験50% レポート20% 授業への参加状況(授業内容の振り返りシート、コメントペーパーの記述)30%				
備考					
テキスト・教材・経費等	授業ごとにワークシートを配布します。 ▽参考書等：平山・鈴木(編著)ライフサイクルからみた発達の基礎、ミネルヴァ書房(前期保育の心理学Ⅰのテキスト)、幼稚園教育要領、保育の心理学Ⅰのワークシートおよび復習シート				
授業計画	第1回：教育心理学とは何か 第2回：子どもの身体と運動の発達 第3回：子どもの知的活動の基礎—操作的思考— 第4回：子どもの社会性の発達 第5回：子どもの発達と生活 第6回：中間まとめ-子どもをとりまく社会状況- 第7回：学習の基礎過程 1-強化を伴わない学習- 第8回：学習の基礎過程 2-強化を伴う学習：条件づけ- 第9回：生活の中に見られる条件づけによる学習 第10回：学習の基礎としての動機づけ 第11回：人格と適応 第12回：不適応行動 第13回：障害のある幼児、児童及び生徒の理解 第14回：集団の心理 第15回：測定と評価				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、授業内容の振り返りシート、自己省察を兼ねた授業中のミニレポート、中間テスト				
準備学習(予習・復習)	授業ごとに指定される参考資料に目を通してください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ワークシートを整理し、必要に応じて幼稚園教育要領や、前期「保育の心理学Ⅰ」のワークシートや復習シートなどを使って、確認する習慣をつけてください。				
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状、保育士				
免許・資格の科目区分	幼：教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)) 担当形態：単独 保：保育の対象の理解に関する科目				

時間割番号	1A2019	科目名	子どもの保健Ⅱ			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A2-2040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	保育所保育指針第5章/養護の方法/保育環境づくり/事故防止/応急処置/慢性疾患/生活習慣

概要	保育所保育指針第5章「健康及び安全」にかかわる内容を中心に、各々が小児保健にかかわる問題意識をもち、確かな科学的知見を調べ、保育指針に沿って知識をつけ、考える力をつけます。
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の対象の理解」と関連しており、この授業では特に乳幼児の心身の発達支援について理解することを目標としています。資格必修科目です。
到達目標	【態度・志向性】子どもの健康支援、安全管理、食育等について調べ、自分自身の問題ととらえて考える 【知識・理解】乳幼児の健康支援、環境及び衛生管理並びに発達状況の把握、乳幼児期の心身の生活支援方法を理解する 【技能】正しい情報を収集する 【思考・判断・表現】子どもの発達に即した思考ができる
評価方法	【態度・志向性】【知識・理解】【技能】【思考・判断・表現】について、定期試験にて評価します
備考	
テキスト・教材・経費等	前期開講の「子どもの保健Ⅰ」で使用したテキストを使用する。

授業計画	第1回 保育所保育指針第5章について 第2回 日常における養護の方法 第3回 子どもの保育環境づくり(ケアからセルフケアへ) 第4回 流行する病気と保育 第5回 乳児のケアの実際①(抱っこ等) 第6回 乳児のお世話の実際②(授乳・離乳食等) 第7回 SIDSおよびSBSの予防 第8回 誤飲および誤嚥とその対処法 第9回 いざというときの応急処置(急病時) 第10回 いざというときの応急処置(傷害時) 第11回 慢性疾患や障害を持つ子どもの保育 第12回 病児、病後児保育について 第13回 子どもの生活習慣病 第14回 世界の子どもの保健 第15回 保育指針に基づいた子どもの健康および発達支援のまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	ワークシートによる課題解決学習
準備学習(予習・復習)	予習課題を出します。テキスト、インターネットを通して、正確に調べてきましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目

時間割番号	1A2020	科目名	子どもの保健Ⅱ			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1A2-2040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	保育所保育指針第5章/養護の方法/保育環境づくり/事故防止/応急処置/慢性疾患/生活習慣

概要	保育所保育指針第5章「健康及び安全」にかかわる内容を中心に、各々が小児保健にかかわる問題意識をもち、確かな科学的知見を調べ、保育指針に沿って知識をつけ、考える力をつけます。
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の対象の理解」と関連しており、この授業では特に乳幼児の心身の発達支援について理解することを目標としています。資格必修科目です。
到達目標	【態度・志向性】子どもの健康支援、安全管理、食育等について調べ、自分自身の問題ととらえて考える 【知識・理解】乳幼児の健康支援、環境及び衛生管理並びに発達状況の把握、乳幼児期の心身の生活支援方法を理解する 【技能】正しい情報を収集する 【思考・判断・表現】子どもの発達に即した思考ができる
評価方法	【態度・志向性】【知識・理解】【技能】【思考・判断・表現】について、定期試験にて評価します
備考	
テキスト・教材・経費等	前期開講の「子どもの保健Ⅰ」で使用したテキストを使用する。

授業計画	第1回 保育所保育指針第5章について 第2回 日常における養護の方法 第3回 子どもの保育環境づくり(ケアからセルフケアへ) 第4回 流行する病気と保育 第5回 乳児のケアの実際①(抱っこ等) 第6回 乳児のお世話の実際②(授乳・離乳食等) 第7回 SIDSおよびSBSの予防 第8回 誤飲および誤嚥とその対処法 第9回 いざというときの応急処置(急病時) 第10回 いざというときの応急処置(傷害時) 第11回 慢性疾患や障害を持つ子どもの保育 第12回 病児、病後児保育について 第13回 子どもの生活習慣病 第14回 世界の子どもの保健 第15回 保育指針に基づいた子どもの健康および発達支援のまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	ワークシートによる課題解決学習
準備学習(予習・復習)	予習課題を出します。テキスト、インターネットを通して、正確に調べてきましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目

時間割番号	1A2021	科目名	教育課程論	単位数	2
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A3-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力				
概要	幼稚園・保育所・認定こども園での教育・保育は、各施設が立案する教育・保育課程と指導計画によって行われています。本科目では、教育・保育課程や指導計画の意義及びその編成原理、手順を学びます。具体的には、教育課程制度の歴史と現状、幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容、対象理解の方法、指導計画書の作成ポイントなどについて講義をします。そのなかで、保育者による子どもたちの育ちや学びの保障について考えます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標の「人と信頼関係を築き、相互に協力して共に育ち合おうとする」並びに「子どもの生活に即した保育を構想することができる」に関連しています。教育課程の意義及び編成の方法を学ぶ、幼児・保育士資格必修科目です。				
到達目標	【知識・理解】教育・保育課程、指導・保育計画の意義を理解し、その作成に求められる基本的知識を得る。 【思考・判断・表現】指導計画の作成や評価などを通して保育について自分なりに考える。 【態度・志向性】積極的に課題に取り組み、意欲的に学ぼうとする。				
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題(20%)により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト: 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館)(いずれも前期購入済み) ※参考書: 楠本恭之他『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年(1年前期「教育基礎論」テキスト)。				
授業計画	第1回: 学校教育・保育制度と教育・保育課程 第2回: 教育・保育課程の意義と法的根拠 第3回: 教育課程に関する諸問題 第4回: 小学校以降の教育課程 第5回: 幼稚園教育要領と保育所保育指針① 歴史と構造 第6回: 幼稚園教育要領と保育所保育指針② 子どもの理解 第7回: 幼稚園教育要領と保育所保育指針③ 保育内容5領域 第8回: 指導計画書の作成① 保育指導の構成原理 ※2-7回授業に関する課題 第9回: 指導計画書の作成② 保育の環境構成 第10回: 指導計画書の作成③ 保育指導のポイント 第11回: 指導計画書の作成④ 保育内容としての遊び 第12回: 指導計画書の作成⑤ 実践事例の検討 幼稚園における指導のビデオを見て、そのポイントを分析します。それをもとにグループで意見を交換し、気づきを共有します。 第13回: 子ども理解の方法 第14回: 保育の評価 ※課題(指導計画)提出 8-12回の授業で得た知識をもとに、指導計画を作成します。その際、各自が遊びに関する情報を集め、オリジナリティのある計画を立案します。 第15回: 指導計画書のまとめ 提出された指導計画書について、良い点や改善点などを指摘し、各自が今後の課題をとらえ、継続して努力する材料とします。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業後に、授業中に示された問いについて考え、意見や疑問をノートにまとめよう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼: 教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(教育課程の意義及び編成の方法) 担当形態: 単独 保: 保育の内容・方法の理解に関する科目 保育課程論				

時間割番号	1A2022	科目名	教育課程論	単位数	2
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1A3-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力				
概要	幼稚園・保育所・認定こども園での教育・保育は、各施設が立案する教育・保育課程と指導計画によって行われています。本科目では、教育・保育課程や指導計画の意義及びその編成原理、手順を学びます。具体的には、教育課程制度の歴史と現状、幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容、対象理解の方法、指導計画書の作成ポイントなどについて講義をします。そのなかで、保育者による子どもたちの育ちや学びの保障について考えます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標の「人と信頼関係を築き、相互に協力して共に育ち合おうとする」並びに「子どもの生活に即した保育を構想することができる」に関連しています。教育課程の意義及び編成の方法を学ぶ、幼児・保育士資格必修科目です。				
到達目標	【知識・理解】教育・保育課程、指導・保育計画の意義を理解し、その作成に求められる基本的知識を得る。 【思考・判断・表現】指導計画の作成や評価などを通して保育について自分なりに考える。 【態度・志向性】積極的に課題に取り組み、意欲的に学ぼうとする。				
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題(20%)により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）（いずれも前期購入済み） ※参考書：楠本恭之他『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年（1年前期「教育基礎論」テキスト）。				
授業計画	第1回：学校教育・保育制度と教育・保育課程 第2回：教育・保育課程の意義と法的根拠 第3回：教育課程に関する諸問題 第4回：小学校以降の教育課程 第5回：幼稚園教育要領と保育所保育指針① 歴史と構造 第6回：幼稚園教育要領と保育所保育指針② 子どもの理解 第7回：幼稚園教育要領と保育所保育指針③ 保育内容5領域 第8回：指導計画書の作成① 保育指導の構成原理 ※2-7回授業に関する課題 第9回：指導計画書の作成② 保育の環境構成 第10回：指導計画書の作成③ 保育指導のポイント 第11回：指導計画書の作成④ 保育内容としての遊び 第12回：指導計画書の作成⑤ 実践事例の検討 幼稚園における指導のビデオを見て、そのポイントを分析します。それをもとにグループで意見を交換し、気づきを共有します。 第13回：子ども理解の方法 第14回：保育の評価 ※課題（指導計画書）提出 8-12回の授業で得た知識をもとに、指導計画書を作成します。その際、各自が遊びに関する情報を集め、オリジナリティのある計画を立案します。 第15回：指導計画書のまとめ 提出された指導計画書について、良い点や改善点などを指摘し、各自が今後の課題をとらえ、継続して努力する材料とします。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習				
準備学習（予習・復習）	毎回の授業後に、授業中に示された問いについて考え、意見や疑問をノートにまとめよう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼：教職に関する科目（必修） 教育課程及び指導法に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法） 担当形態：単独 保：保育の内容・方法の理解に関する科目 保育課程論				

時間割番号	1A2023	科目名	保育内容(健康)			単位数	1
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	小児保健で学んだ乳幼児の心身の成長・発達をふまえ、現代の子どもの心身およびライフスタイルについての知識と、保育内容「健康」の内容の理解を深めます。子ども自らが健康で充実した生活を送るために必要な事項について、その援助・指導の仕方についての知識・技能の基礎について実践を通じた授業をします。						
教育目標との関連	幼児教育専門科目「保育の内容・方法の理解」と関連しており、この授業では、保育所保育指針第3章保育の内容、(2)教育に関わる内容、ア健康、および幼稚園教育要領における5領域中の健康領域について、その方法を学びます。幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。						
到達目標	【知識・理解】保育内容「健康」の内容を理解する 【思考・判断・表現】子どもの生活に即した保育内容「健康」に焦点をあてた保育を構想することができる 【態度・志向性】協力してグループ活動を遂行できる 【技能】保育内容「健康」の指導案を書くことができる						
評価方法	【知識・理解】予習プリントの遂行状況(20%) 【思考・判断・表現】指導案立案のためのワークシート(20%) 誕生日カード課題(20%) 【態度・志向性】グループ活動における自己評価(20%) 【技能】年齢に応じた指導案の立案(20%)						
備考	授業は演習形式です。毎時間の課題を確実にクリアしましょう。						
テキスト・教材・経費等	子どもと保育の心理学 保育出版社 保育所保育指針解説 厚生労働省 幼稚園教育要領解説 文部科学省 ▽参考書:適宜、指示する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育所保育指針保育内容「健康」、養護に関するに関する内容、幼稚園教育要領における領域「健康」の位置づけ 第3回 子どもの生活習慣とお便り①「体温」 第4回 子どもの生活習慣とお便り②「睡眠」 第5回 子どもの生活習慣とお便り③「朝食」 第6回 子どもの生活習慣とお便りのまとめ 第7回 子どもの年齢の特徴と遊び 第8回 遊びと学習と身体と心 第9回 自然を通じた遊び体験 第10回 保育所保育指針における遊びの位置づけ 第11回 指導案の構成と必要性 第12回 指導案を作成する「環境の構成」 第13回 指導案を作成する「導入・展開・まとめ」 第14回 子どもの成長を保護者共有するために(カード作り) 第15回 保育内容「健康」と保育者・まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	個別およびグループによる課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	課題が授業中に仕上げられるよう、準備を整えておきましょう。動きやすい服、靴で授業に参加します。						
免許・資格	保育士 幼二種免						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						

時間割番号	1A2024	科目名	保育内容(健康)			単位数	1
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	小児保健で学んだ乳幼児の心身の成長・発達をふまえ、現代の子どもの心身およびライフスタイルについての知識と、保育内容「健康」の内容の理解を深めます。子ども自らが健康で充実した生活を送るために必要な事項について、その援助・指導の仕方についての知識・技能の基礎について実践を通じた授業をします。						
教育目標との関連	幼児教育専門科目「保育の内容・方法の理解」と関連しており、この授業では、保育所保育指針第3章保育の内容、(2)教育に関わる内容、ア健康、および幼稚園教育要領における5領域中の健康領域について、その方法を学びます。幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。						
到達目標	【知識・理解】保育内容「健康」の内容を理解する 【思考・判断・表現】子どもの生活に即した保育内容「健康」に焦点をあてた保育を構想することができる 【態度・志向性】協力してグループ活動を遂行できる 【技能】保育内容「健康」の指導案を書くことができる						
評価方法	【知識・理解】予習プリントの遂行状況(20%) 【思考・判断・表現】指導案立案のためのワークシート(20%) 誕生日カード課題(20%) 【態度・志向性】グループ活動における自己評価(20%) 【技能】年齢に応じた指導案の立案(20%)						
備考	授業は演習形式です。毎時間の課題を確実にクリアしましょう。						
テキスト・教材・経費等	子どもと保育の心理学 保育出版社 保育所保育指針解説 厚生労働省 幼稚園教育要領解説 文部科学省 ▽参考書:適宜、指示する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育所保育指針保育内容「健康」、養護に関するに関する内容、幼稚園教育要領における領域「健康」の位置づけ 第3回 子どもの生活習慣とお便り①「体温」 第4回 子どもの生活習慣とお便り②「睡眠」 第5回 子どもの生活習慣とお便り③「朝食」 第6回 子どもの生活習慣とお便りのまとめ 第7回 子どもの年齢の特徴と遊び 第8回 遊びと学習と身体と心 第9回 自然を通じた遊び体験 第10回 保育所保育指針における遊びの位置づけ 第11回 指導案の構成と必要性 第12回 指導案を作成する「環境の構成」 第13回 指導案を作成する「導入・展開・まとめ」 第14回 子どもの成長を保護者共有するために(カード作り) 第15回 保育内容「健康」と保育者・まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	個別もしくはグループによる課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	課題が授業中に仕上げられるよう、準備を整えておきましょう。動きやすい服、靴で授業に参加します。						
免許・資格	保育士 幼二種免						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						

時間割番号	1A2025	科目名	保育内容(健康)			単位数	1
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	小児保健で学んだ乳幼児の心身の成長・発達をふまえ、現代の子どもの心身およびライフスタイルについての知識と、保育内容「健康」の内容の理解を深めます。子ども自らが健康で充実した生活を送るために必要な事項について、その援助・指導の仕方についての知識・技能の基礎について実践を通じた授業をします。						
教育目標との関連	幼児教育専門科目「保育の内容・方法の理解」と関連しており、この授業では、保育所保育指針第3章保育の内容、(2)教育に関わる内容、ア健康、および幼稚園教育要領における5領域中の健康領域について、その方法を学びます。幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。						
到達目標	【知識・理解】保育内容「健康」の内容を理解する 【思考・判断・表現】子どもの生活に即した保育内容「健康」に焦点をあてた保育を構想することができる 【態度・志向性】協力してグループ活動を遂行できる 【技能】保育内容「健康」の指導案を書くことができる						
評価方法	【知識・理解】予習プリントの遂行状況(20%) 【思考・判断・表現】指導案立案のためのワークシート(20%) 誕生日カード課題(20%) 【態度・志向性】グループ活動における自己評価(20%) 【技能】年齢に応じた指導案の立案(20%)						
備考	授業は演習形式です。毎時間の課題を確実にクリアしましょう。						
テキスト・教材・経費等	子どもと保育の心理学 保育出版社 保育所保育指針解説 厚生労働省 幼稚園教育要領解説 文部科学省 ▽参考書:適宜、指示する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育所保育指針保育内容「健康」、養護に関するに関する内容、幼稚園教育要領における領域「健康」の位置づけ 第3回 子どもの生活習慣とお便り①「体温」 第4回 子どもの生活習慣とお便り②「睡眠」 第5回 子どもの生活習慣とお便り③「朝食」 第6回 子どもの生活習慣とお便りのまとめ 第7回 子どもの年齢の特徴と遊び 第8回 遊びと学習と身体と心 第9回 自然を通じた遊び体験 第10回 保育所保育指針における遊びの位置づけ 第11回 指導案の構成と必要性 第12回 指導案を作成する「環境の構成」 第13回 指導案を作成する「導入・展開・まとめ」 第14回 子どもの成長を保護者共有するために(カード作り) 第15回 保育内容「健康」と保育者・まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	個別およびグループによる課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	課題が授業中に仕上げられるよう、準備を整えておきましょう。動きやすい服、靴で授業に参加します。						
免許・資格	保育士 幼二種免						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						



時間割番号	1A2026	科目名	乳児保育			単位数	2
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3170						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子どもや保護者を取り巻く環境の変化により、保育所への期待が高まり、保育所の役割や機能、乳児保育の需要も高まっています。子どもの発達の道筋を踏まえた保育、保育所における乳児保育のあり方や基本を学びます。保育内容、保育環境や援助方法、子育て支援などを総合的に学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳児保育の意義と保育に必要な基本的な課題を理解する。 2. 0, 1, 2歳児の発達や生活や遊びと、その援助方法を理解する。 3. 乳児保育の状況等を学び、課題意識を持ち積極的に提案する。
評価方法	期末テスト(50%)小テスト(20%)ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	乳児保育(北大路書房)(1700円+税) 保育所保育指針解説(フレーベル館)(190円+税)

授業計画	1. 乳児保育の現状 2. 乳児保育の意義と基本 3. 子ども理解と保育(1)生命の誕生と保育 4. 子ども理解と保育(2)子どもの生活 5. 乳児の発達と保育(1)0歳児 6. 乳児の発達と保育(2)1歳児 7. 乳児の発達と保育(3)2歳児 8. 乳児保育の内容(1)保健・衛生及び安全 9. 乳児保育の内容(2)子どもの育ちと食事 10. 発達を促す生活と遊び(1) 11. 発達を促す生活と遊び(2) 12. 安全な保育環境 13. 乳児保育と保育計画 14. 保育指導計画の作成と展開 15. 家庭・地域の協働と今後の課題
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、グループ学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	・乳児保育(テキスト)保育所保育指針の指定ページを事前に読み、乳児内容を理解しましょう。 ・授業のキーワードとなるところは復習し、テキストでも確認しましょう。 子どもの発達と遊びや環境について具体的に話し合い、まとめる力を持つとともに内容を理解しましょう。 乳児保育の基本を、保育実習などで確認した内容を話し合い、関連性や具体性、課題等を理解し活用方法を自発的に提案しましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A2027	科目名	乳児保育	単位数	2
担当者	池田 淑子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3170				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	子どもや保護者を取り巻く環境の変化により、保育所への期待が高まり、保育所の役割や機能、乳児保育の需要も高まっています。子どもの発達の道筋を踏まえた保育、保育所における乳児保育のあり方や基本を学びます。保育内容、保育環境や援助方法、子育て支援などを総合的に学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。				
到達目標	1. 乳児保育の意義と保育に必要な基本的な課題を理解する。 2. 0, 1, 2歳児の発達や生活や遊びと、その援助方法を理解する。 3. 乳児保育の状況等を学び、課題意識を持ち積極的に提案する。				
評価方法	期末テスト(50%)小テスト(20%)ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	乳児保育(北大路書房)(1700円+税) 保育所保育指針解説(フレーベル館)(190円+税)				
授業計画	1. 乳児保育の現状 2. 乳児保育の意義と基本 3. 子ども理解と保育(1)生命の誕生と保育 4. 子ども理解と保育(2)子どもの生活 5. 乳児の発達と保育(1)0歳児 6. 乳児の発達と保育(2)1歳児 7. 乳児の発達と保育(3)2歳児 8. 乳児保育の内容(1)保健・衛生及び安全 9. 乳児保育の内容(2)子どもの育ちと食事 10. 発達を促す生活と遊び(1) 11. 発達を促す生活と遊び(2) 12. 安全な保育環境 13. 乳児保育と保育計画 14. 保育指導計画の作成と展開 15. 家庭・地域の協働と今後の課題				
アクティブ・ラーニングの授業形態					
準備学習(予習・復習)	・乳児保育(テキスト)保育所保育指針の指定ページを事前に読み、乳児内容を理解しましょう。 ・授業のキーワードとなるところは復習し、テキストでも確認しましょう。 子どもの発達と遊びや環境について具体的に話し合い、まとめる力を持つとともに内容を理解しましょう。 乳児保育の基本を、保育実習などで確認した内容を話し合い、関連性や具体性、課題等を理解しましょう。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A2028	科目名	乳児保育			単位数	2
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3170						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子どもや保護者を取り巻く環境の変化により、保育所への期待が高まり、保育所の役割や機能、乳児保育の需要も高まっています。子どもの発達の道筋を踏まえた保育、保育所における乳児保育のあり方や基本を学びます。保育内容、保育環境や援助方法、子育て支援などを総合的に学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達目標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳児保育の意義と保育に必要な基本的な課題を理解する。 2. 0, 1, 2歳児の発達や生活や遊びと、その援助方法を理解する。 3. 乳児保育の状況等を学び、課題意識を持ち積極的に提案する。
評価方法	期末テスト(50%)小テスト(20%)ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	乳児保育(北大路書房)(1700円+税) 保育所保育指針解説(フレーベル館)(190円+税)

授業計画	1. 乳児保育の現状 2. 乳児保育の意義と基本 3. 子ども理解と保育(1)生命の誕生と保育 4. 子ども理解と保育(2)子どもの生活 5. 乳児の発達と保育(1)0歳児 6. 乳児の発達と保育(2)1歳児 7. 乳児の発達と保育(3)2歳児 8. 乳児保育の内容(1)保健・衛生及び安全 9. 乳児保育の内容(2)子どもの育ちと食事 10. 発達を促す生活と遊び(1) 11. 発達を促す生活と遊び(2) 12. 安全な保育環境 13. 乳児保育と保育計画 14. 保育指導計画の作成と展開 15. 家庭・地域の協働と今後の課題
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、グループ学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	・乳児保育(テキスト)保育所保育指針の指定ページを事前に読み、乳児内容を理解しましょう。 ・授業のキーワードとなるところは復習し、テキストでも確認しましょう。 子どもの発達と遊びや環境について具体的に話し合い、まとめる力を持つとともに内容を理解しましょう。 乳児保育の基本を、保育実習などで確認した内容を話し合い、関連性や具体性、課題等を理解しましょう。
免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A2029	科目名	音楽Ⅱ	単位数	1
担当者	野上 俊之、乗松 恵美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受信力、プレゼンテーション力				
概要	幼児期に感受性、想像力、表現力、協調性などを育む上で、音楽の果たす役割は非常に大きなものがあります。そして「うたう」ことは、音楽表現の原点であるといわれています。ここでは、保育者として必要な音楽的基礎技能の習得をめざし、「音楽Ⅰ」を深化させ、うたのレパートリーを拡げるとともに実践的な鍵盤楽器の演奏法を身につけ、即興的かつ創造的に表現できることを目指します。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	歌唱法の習得 より多くのうたが使えるようになる 楽譜にこだわらない演奏ができる				
評価方法	授業への参加姿勢(30%) 課題消化状況(40%) 実技発表(30%) を総合的に評価します。ただし、歌唱と器楽演奏それぞれ一定基準に達することが前提です。				
備考	二人の担当者がリレー形式で行います。				
テキスト・教材・経費等	小林美実編 こどものうた200 チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布します。				
授業計画	第1回:歌唱編(身体の構造・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第2回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム①・視唱練習(実技))(乗松) 第3回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム②・歌唱練習(実技))(乗松) 第4回:歌唱編(発声のための身体づくり①・視唱練習(実技))(乗松) 第5回:歌唱編(発声のための身体づくり②・歌唱練習(実技))(乗松) 第6回:歌唱編(日本語の発音・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第7回:歌唱編(まとめ)(乗松) 第8回:器楽編(原始的な音づくり)(野上) 第9回:器楽編(うたと楽譜の簡単化)(野上) 第10回:器楽編(コードの簡単化)(野上) 第11回:器楽編(機能と和声による即興的伴奏:I・V)(野上) 第12回:器楽編(機能と和声による即興的伴奏:IV・V7)(野上) 第13回:器楽編(コードトーン・ノンコードトーン)(野上) 第14回:器楽編(コードネームの利用法)(野上) 第15回:器楽編(まとめ)(野上)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、個別対応				
準備学習(予習・復習)	実技は毎回、課題の演奏、発表の形で進めていきますので、十分な練習をして授業に臨んでください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A2030	科目名	音楽Ⅱ	単位数	1
担当者	野上 俊之、乗松 恵美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受信力、プレゼンテーション力				
概要	幼児期に感受性、想像力、表現力、協調性などを育む上で、音楽の果たす役割は非常に大きなものがあります。そして「うたう」ことは、音楽表現の原点であるといわれています。ここでは、保育者として必要な音楽的基礎技能の習得をめざし、「音楽Ⅰ」を深化させ、うたのレパートリーを拡げるとともに実践的な鍵盤楽器の演奏法を身につけ、即興的かつ創造的に表現できることを目指します。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	歌唱法の習得 より多くのうたが使えるようになる 楽譜にこだわらない演奏ができる				
評価方法	授業への参加姿勢(30%) 課題消化状況(40%) 実技発表(30%) を総合的に評価します。ただし、歌唱と器楽演奏それぞれ一定基準に達することが前提です。				
備考	二人の担当者がリレー形式で行います。				
テキスト・教材・経費等	小林美実編 こどものうた200 チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布します。				
授業計画	第1回:歌唱編(身体の構造・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第2回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム①・視唱練習(実技))(乗松) 第3回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム②・歌唱練習(実技))(乗松) 第4回:歌唱編(発声のための身体づくり①・視唱練習(実技))(乗松) 第5回:歌唱編(発声のための身体づくり②・歌唱練習(実技))(乗松) 第6回:歌唱編(日本語の発音・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第7回:歌唱編(まとめ)(乗松) 第8回:器楽編(原始的な音づくり)(野上) 第9回:器楽編(うたと楽譜の簡単化)(野上) 第10回:器楽編(コードの簡単化)(野上) 第11回:器楽編(機能と和声による即興的伴奏:I・V)(野上) 第12回:器楽編(機能と和声による即興的伴奏:IV・V7)(野上) 第13回:器楽編(コードトーン・ノンコードトーン)(野上) 第14回:器楽編(コードネームの利用法)(野上) 第15回:器楽編(まとめ)(野上)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、個別対応				
準備学習(予習・復習)	実技は毎回、課題の演奏、発表の形で進めていきますので、十分な練習をして授業に臨んでください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A2031	科目名	音楽Ⅱ	単位数	1
担当者	野上 俊之、乗松 恵美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受信力、プレゼンテーション力				
概要	幼児期に感受性、想像力、表現力、協調性などを育む上で、音楽の果たす役割は非常に大きなものがあります。そして「うたう」ことは、音楽表現の原点であるといわれています。ここでは、保育者として必要な音楽的基礎技能の習得をめざし、「音楽Ⅰ」を深化させ、うたのレパートリーを拡げるとともに実践的な鍵盤楽器の演奏法を身につけ、即興的かつ創造的に表現できることを目指します。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	歌唱法の習得 より多くのうたが使えるようになる 楽譜にこだわらない演奏ができる				
評価方法	授業への参加姿勢(30%) 課題消化状況(40%) 実技発表(30%) を総合的に評価します。ただし、歌唱と器楽演奏それぞれ一定基準に達することが前提です。				
備考	二人の担当者がリレー形式で行います。				
テキスト・教材・経費等	小林美実編 こどものうた200 チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布します。				
授業計画	第1回:歌唱編(身体の構造・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第2回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム①・視唱練習(実技))(乗松) 第3回:歌唱編(呼吸と発声のメカニズム②・歌唱練習(実技))(乗松) 第4回:歌唱編(発声のための身体づくり①・視唱練習(実技))(乗松) 第5回:歌唱編(発声のための身体づくり②・歌唱練習(実技))(乗松) 第6回:歌唱編(日本語の発音・視唱練習・歌唱(実技))(乗松) 第7回:歌唱編(まとめ)(乗松) 第8回:器楽編(原始的な音づくり)(野上) 第9回:器楽編(うたと楽譜の簡単化)(野上) 第10回:器楽編(コードの簡単化)(野上) 第11回:器楽編(機能と和声による即興的伴奏:I・V)(野上) 第12回:器楽編(機能と和声による即興的伴奏:IV・V7)(野上) 第13回:器楽編(コードトーン・ノンコードトーン)(野上) 第14回:器楽編(コードネームの利用法)(野上) 第15回:器楽編(まとめ)(野上)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、個別対応				
準備学習(予習・復習)	実技は毎回、課題の演奏、発表の形で進めていきますので、十分な練習をして授業に臨んでください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A2032	科目名	図画工作Ⅱ			単位数	1
担当者	久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	自分の感性で生きる喜びをつくり出せる方法の一つに、造形表現活動があります。豊かな発想と、創造的な技能を働かせ、ものをつくり出す楽しさと、自己を表現する充実感や心地よさを味わいましょう。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。
到達目標	○造形的な創造活動の基礎的能力を身につける。○自分の思いを自分なりに表現し、豊かな感性と創造性を育む。○幼児の造形的表現活動を理解し、援助できるようにする。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度
備考	
テキスト・教材・経費等	スケッチブック(8つ切り)、ポスターカラー12色セット

授業計画	第1回 幼児の絵の発達と指導の実際 第2回 切り絵(下絵を描き黒画用紙に転写) 第3回 切り絵(カッターナイフで切り取っていく) 第4回 切り絵(薄く色を塗り黒画用紙を貼って完成) 第5回 はりこのおもちゃ(型を作り和紙を貼っていく) 第6回 はりこのおもちゃ(中身を取り出して重しを入れる) 第7回 はりこのおもちゃ(絵の具で彩色し、ニスを塗って完成) 第8回 プラ板でキーホルダー作り 第9回 ポップアップカード 第10回 ポップアップカード 第11回 毛糸を使って(ドリームキャッチャー) 第12回 毛糸を使って(ゆびあみ) 第13回 紙版画(下絵を描き紙を貼っていく) 第14回 紙版画(刷り) 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	図工室は子どもたちの大好きな場所。いろいろな素材や道具に触れ、そこから多くの空想や想像を広げていきます。ものの見方・考え方はひとつではありません。固定化した意味や価値観から離れ、違うまなざしで世界を見ると、アートが生まれるのです。世界でひとつだけのものを、自分の力でつくること。言葉では言い表せない自分の中の何かを、いろいろな出会いや発見を通してカタチとしてあらわすこと。皆さんには是非、夢中になって図工室でのひとときを楽しんでほしいと思います。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 図画工作 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A2033	科目名	図画工作Ⅱ			単位数	1
担当者	久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	自分の感性で生きる喜びをつくり出せる方法の一つに、造形表現活動があります。豊かな発想と、創造的な技能を働かせ、ものをつくり出す楽しさと、自己を表現する充実感や心地よさを味わいましょう。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。
到達目標	○造形的な創造活動の基礎的能力を身につける。○自分の思いを自分なりに表現し、豊かな感性と創造性を育む。○幼児の造形的表現活動を理解し、援助できるようにする。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度
備考	
テキスト・教材・経費等	スケッチブック(8つ切り)、ポスターカラー12色セット

授業計画	第1回 幼児の絵の発達と指導の実際 第2回 切り絵(下絵を描き黒画用紙に転写) 第3回 切り絵(カッターナイフで切り取っていく) 第4回 切り絵(薄く色を塗り黒画用紙を貼って完成) 第5回 はりこのおもちゃ(型を作り和紙を貼っていく) 第6回 はりこのおもちゃ(中身を取り出して重しを入れる) 第7回 はりこのおもちゃ(絵の具で彩色し、ニスを塗って完成) 第8回 プラ板でキーホルダー作り 第9回 ポップアップカード 第10回 ポップアップカード 第11回 毛糸を使って(ドリームキャッチャー) 第12回 毛糸を使って(ゆびあみ) 第13回 紙版画(下絵を描き紙を貼っていく) 第14回 紙版画(刷り) 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	図工室は子どもたちの大好きな場所。いろいろな素材や道具に触れ、そこから多くの空想や想像を広げていきます。ものの見方・考え方はひとつではありません。固定化した意味や価値観から離れ、違うまなざしで世界を見るとき、アートが生まれるのです。世界でひとつだけのものを、自分の力でつくること。言葉では言い表せない自分の中の何かを、いろいろな出会いや発見を通してカタチとしてあらわすこと。皆さんには是非、夢中になって図工室でのひとときを楽しんでほしいと思います。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 図画工作 保:保育の表現技術 保育表現技術



時間割番号	1A2034	科目名	図画工作Ⅱ			単位数	1
担当者	久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-2050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	自分の感性で生きる喜びをつくり出せる方法の一つに、造形表現活動があります。豊かな発想と、創造的な技能を働かせ、ものをつくり出す楽しさと、自己を表現する充実感や心地よさを味わいましょう。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。
到達目標	○造形的な創造活動の基礎的能力を身につける。○自分の思いを自分なりに表現し、豊かな感性と創造性を育む。○幼児の造形的表現活動を理解し、援助できるようにする。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度
備考	
テキスト・教材・経費等	スケッチブック(8つ切り)、ポスターカラー12色セット

授業計画	第1回 幼児の絵の発達と指導の実際 第2回 切り絵(下絵を描き黒画用紙に転写) 第3回 切り絵(カッターナイフで切り取っていく) 第4回 切り絵(薄く色を塗り黒画用紙を貼って完成) 第5回 はりこのおもちゃ(型を作り和紙を貼っていく) 第6回 はりこのおもちゃ(中身を取り出して重しを入れる) 第7回 はりこのおもちゃ(絵の具で彩色し、ニスを塗って完成) 第8回 プラ板でキーホルダー作り 第9回 ポップアップカード 第10回 ポップアップカード 第11回 毛糸を使って(ドリームキャッチャー) 第12回 毛糸を使って(ゆびあみ) 第13回 紙版画(下絵を描き紙を貼っていく) 第14回 紙版画(刷り) 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	図工室は子どもたちの大好きな場所。いろいろな素材や道具に触れ、そこから多くの空想や想像を広げていきます。ものの見方・考え方はひとつではありません。固定化した意味や価値観から離れ、違うまなざしで世界を見るとき、アートが生まれるのです。世界でひとつだけのものを、自分の力でつくること。言葉では言い表せない自分の中の何かを、いろいろな出会いや発見を通してカタチとしてあらわすこと。皆さんには是非、夢中になって図工室でのひとときを楽しんでほしいと思います。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 図画工作 保:保育の表現技術 保育表現技術

時間割番号	1A2035	科目名	体育Ⅱ	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2070				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	子どもの運動機能の発達を促す運動遊びを自ら展開する方法を立案しながら学習します。特に、伝承遊びやいろいろな道具を使った多様な運動遊びの技能、運動遊びの環境設定に関する知識を習得しながら、様々な運動遊びを展開することができる豊かな表現力を養います。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の表現技術」に位置づけられ、学習到達目標「子どもの心身の健康や発達について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「自らの保育の過程を振り返り、自己評価できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力してともに育ち合おうとする」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの運動発達、多様な運動遊びについての知識を深める。 【技能】伝承遊び、道具や大型遊具等を使った運動遊びの技能を習得する。 【思考・判断・表現】自らの体験を活かした豊かな表現力で運動遊びを展開することができる。 【態度・志向性】他者と協力しながら積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種の運動遊びの特性やねらいについてのまとめ課題(30%) 【技能】伝承遊びに関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】グループワーク課題(10%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)				
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリント等を配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの運動機能といろいろな道具・大型遊具について) 第2回 伝承遊び(お手玉、けん玉等) 第3回 道具を使った運動遊び①(フープを使った運動遊び) 第4回 道具を使った運動遊び②(棒を使った運動遊び) 第5回 道具を使った運動遊び③(縄を使った運動遊び) 第6回 道具を使った運動遊び④(新聞紙を使った運動遊び) 第7回 大型遊具を使った運動遊び①(マットを使った運動遊び) 第8回 大型遊具を使った運動遊び②(跳び箱を使った運動遊び) 第9回 大型遊具を使った運動遊び③(マットと跳び箱を使った運動遊びの実践) 第10回 道具と大型遊具を使った運動遊びの環境設定 第11回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える①(環境設定を工夫した運動遊びの立案) 第12回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える②(環境設定を工夫した運動遊びの実践) 第13回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える③(実践した運動遊びの振り返り) 第14回 伝承遊びの発表会 第15回 まとめ(子どもの運動機能と道具や大型遊具を使った運動遊びの関連、環境設定の工夫)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習				
準備学習(予習・復習)	【3～8回】授業で実施した各種運動遊びの特性とねらいをまとめてください。 【11～12回】道具や大型遊具を使い、環境設定を工夫した運動遊びをグループで立案・実践してください。 【14回】伝承遊びの発表会までにお手玉とけん玉の技能を習得してください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 体育 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A2036	科目名	体育Ⅱ	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2070				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	子どもの運動機能の発達を促す運動遊びを自ら展開する方法を立案しながら学習します。特に、伝承遊びやいろいろな道具を使った多様な運動遊びの技能、運動遊びの環境設定に関する知識を習得しながら、様々な運動遊びを展開することができる豊かな表現力を養います。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の表現技術」に位置づけられ、学習到達目標「子どもの心身の健康や発達について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「自らの保育の過程を振り返り、自己評価できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力してともに育ち合おうとする」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの運動発達、多様な運動遊びについての知識を深める。 【技能】伝承遊び、道具や大型遊具等を使った運動遊びの技能を習得する。 【思考・判断・表現】自らの体験を活かした豊かな表現力で運動遊びを展開することができる。 【態度・志向性】他者と協力しながら積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種の運動遊びの特性やねらいについてのまとめ課題(30%) 【技能】伝承遊びに関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】グループワーク課題(10%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)				
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリント等を配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの運動機能といろいろな道具・大型遊具について) 第2回 伝承遊び(お手玉、けん玉等) 第3回 道具を使った運動遊び①(フープを使った運動遊び) 第4回 道具を使った運動遊び②(棒を使った運動遊び) 第5回 道具を使った運動遊び③(縄を使った運動遊び) 第6回 道具を使った運動遊び④(新聞紙を使った運動遊び) 第7回 大型遊具を使った運動遊び①(マットを使った運動遊び) 第8回 大型遊具を使った運動遊び②(跳び箱を使った運動遊び) 第9回 大型遊具を使った運動遊び③(マットと跳び箱を使った運動遊びの実践) 第10回 道具と大型遊具を使った運動遊びの環境設定 第11回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える①(環境設定を工夫した運動遊びの立案) 第12回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える②(環境設定を工夫した運動遊びの実践) 第13回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える③(実践した運動遊びの振り返り) 第14回 伝承遊びの発表会 第15回 まとめ(子どもの運動機能と道具や大型遊具を使った運動遊びの関連、環境設定の工夫)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習				
準備学習(予習・復習)	【3～8回】授業で実施した各種運動遊びの特性とねらいをまとめてください。 【11～12回】道具や大型遊具を使い、環境設定を工夫した運動遊びをグループで立案・実践してください。 【14回】伝承遊びの発表会までにお手玉とけん玉の技能を習得してください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 体育 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A2037	科目名	体育Ⅱ	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2070				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	子どもの運動機能の発達を促す運動遊びを自ら展開する方法を立案しながら学習します。特に、伝承遊びやいろいろな道具を使った多様な運動遊びの技能、運動遊びの環境設定に関する知識を習得しながら、様々な運動遊びを展開することができる豊かな表現力を養います。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の表現技術」に位置づけられ、学習到達目標「子どもの心身の健康や発達について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「自らの保育の過程を振り返り、自己評価できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力してともに育ち合おうとする」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの運動発達、多様な運動遊びについての知識を深める。 【技能】伝承遊び、道具や大型遊具等を使った運動遊びの技能を習得する。 【思考・判断・表現】自らの体験を活かした豊かな表現力で運動遊びを展開することができる。 【態度・志向性】他者と協力しながら積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種の運動遊びの特性やねらいについてのまとめ課題(30%) 【技能】伝承遊びに関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】グループワーク課題(10%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)				
備考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリント等を配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの運動機能といろいろな道具・大型遊具について) 第2回 伝承遊び(お手玉、けん玉等) 第3回 道具を使った運動遊び①(フープを使った運動遊び) 第4回 道具を使った運動遊び②(棒を使った運動遊び) 第5回 道具を使った運動遊び③(縄を使った運動遊び) 第6回 道具を使った運動遊び④(新聞紙を使った運動遊び) 第7回 大型遊具を使った運動遊び①(マットを使った運動遊び) 第8回 大型遊具を使った運動遊び②(跳び箱を使った運動遊び) 第9回 大型遊具を使った運動遊び③(マットと跳び箱を使った運動遊びの実践) 第10回 道具と大型遊具を使った運動遊びの環境設定 第11回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える①(環境設定を工夫した運動遊びの立案) 第12回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える②(環境設定を工夫した運動遊びの実践) 第13回 道具と大型遊具を使った運動遊びを考える③(実践した運動遊びの振り返り) 第14回 伝承遊びの発表会 第15回 まとめ(子どもの運動機能と道具や大型遊具を使った運動遊びの関連、環境設定の工夫)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習				
準備学習(予習・復習)	【3～8回】授業で実施した各種運動遊びの特性とねらいをまとめてください。 【11～12回】道具や大型遊具を使い、環境設定を工夫した運動遊びをグループで立案・実践してください。 【14回】伝承遊びの発表会までにお手玉とけん玉の技能を習得してください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 体育 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A2038	科目名	総合演習			単位数	2
担当者	馬杉 知佐、野上 俊之、久保田 貴美子、七木田 方美、菊野 秀樹、高德 希、内本 充統、楠本 恭之						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1A1-2051						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受信力、自己省察力、

概要	初年次セミナーや実習で学んだことを基盤に、さらに保育実践に必要な応用力を身につけます。 (1) 個々の特性や目標に応じた保育者として必要な、適切に子どもを「みる力」としての、「観る力」(観察する力)、「視る力」(見立てる力)、「看る力」(かかわる力)を身につける。 (2) 保育者として必要な身近な課題に取り組み、現代を生きる人間的な力や主体的に学ぶ力を育む。 授業では、グループワークによるディスカッションを行ったり、ワークシートを用いた問題解決型の学修、ロールプレイなどを行います。また、この科目は保育・教育実習とも関連づけて行われます。
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。保育実践に必要な応用力を養うことを目的とした科目です。
到達目標	【知識・理解】保育者としてふさわしいマナーを身につけ、時事問題についても意識を向ける。 【技能】行動目標に応じた、観察力、見立て力、かかわり力を身につける。 【思考・判断・表現】問題解決や探究活動に主体的・創造的に取り組み表現しようとする。 【態度・志向性】GPAを分析し、個々の行動目標を明確にする。
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】マナー力、時事問題意識力に関する試験 【技能】行動目標に応じた課題遂行 【思考・判断・表現】レポート提出、創作課題表現 【態度・志向性】授業への参加状況、Hi!wayシステムの取り組み状況
備考	
テキスト・教材・経費等	ワークシートを配布します。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 Hi!step及びHi!check入力と行動目標の明確化 第3回 マナー力①電話のかけ方 第4回 実習日誌のふりかえり 第5回 幼教オリジナル力①新聞紙あそび 第6回 幼教オリジナル力②手あそびと絵本 第7回 部分指導実習にむけて/自己目標およびグループワーク 第8回 マナー力②敬語 第9回 時事問題意識力 第10回 観察力・見立て力・かかわり力(実習ビデオ視聴)①課題設定 第11回 観察力・見立て力・かかわり力②発表 第12回 卒業研究発表「わ・あい」への参加 第13回 特別研究・卒業研究に向けた課題分析 第14回 Hi!step及びHi!checkによるふりかえり 第15回 まとめ:2sem自己評価、特別研究へ向けて
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、ロールプレイ
準備学習(予習・復習)	【第3・8回】実際に保育所などに電話をかけた訪問しますので、しっかり練習しておきましょう。 【第5・6回】まずは自分でいろいろと試してみよう。次に子どもならどう考えるか、子どもの視点、気持ちになって考えてみてください。 【第9回】普段から新聞を読む癖をつけましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1A3005	科目名	社会的養護			単位数	2
担当者	片伊勢 志穂						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1A3-4010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	児童養護の基本的な考え方や、社会的養護を必要とする子どもや家族が利用する施設や制度の仕組み、その役割を学びます。私たちが当たり前で生活している社会を見つめ直し、社会的養護の課題等を検討していきます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達度指標「保育の本質と目的について理解する」と関連しています。
到達目標	1.児童養護の歴史や現状を学び、理解する。 2.社会的養護が必要な子どもへの支援の方法やその考え方について学ぶ。 3.課題や問題点について考え、発言していく。
評価方法	参加状況(30%)、授業態度(コメントカードを含む)(30%)、試験もしくは、レポート等の課題提出(40%)により総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	・『社会的養護 社会的養護の理論と実際』徳岡博巳／編著、あいり出版、2160円 ・必要に応じて資料等を配布します。

授業計画	1: 授業のオリエンテーション 2: 児童養護の考え方 (家庭や社会の役割) 3: 社会的養護の現状と課題 4: 児童養護の体系-① 5: 児童養護の体系-② 6: 児童養護の歴史、子どもの権利 7: 乳児院、児童養護施設における養護 8: 情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設における養護 9: 障がい児分野における養護 10: 里親制度、養子縁組における養護 11: 家庭、学校、地域などにおける養護 12: 援助者の専門性、役割と課題-① 13: 援助者の専門性、役割と課題-② 14: 補足とまとめ 15: まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペアーワーク、課題発見学習
準備学習(予習・復習)	授業をただ聞くだけでなく、自分自身で考え、自分の意見を持つ事が大切です。 児童養護とは何かを理解すること、児童養護に必要な考え方とはどのようなものなのか等をしっかり考えていきましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保: 保育の本質・目的の理解に関する科目

時間割番号	1A3006	科目名	社会的養護			単位数	2
担当者	片伊勢 志穂						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1A3-4010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	児童養護の基本的な考え方や、社会的養護を必要とする子どもや家族が利用する施設や制度の仕組み、その役割を学びます。私たちが当たり前で生活している社会を見つめ直し、社会的養護の課題等を検討していきます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達度指標「保育の本質と目的について理解する」と関連しています。
到達目標	1.児童養護の歴史や現状を学び、理解する。 2.社会的養護が必要な子どもへの支援の方法やその考え方について学ぶ。 3.課題や問題点について考え、発言していく。
評価方法	参加状況(30%)、授業態度(コメントカードを含む)(30%)、試験もしくは、レポート等の課題提出(40%)により総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	・『社会的養護 社会的養護の理論と実際』徳岡博巳／編著、あいり出版、2160円 ・必要に応じて資料等を配布します。

授業計画	1: 授業のオリエンテーション 2: 児童養護の考え方 (家庭や社会の役割) 3: 社会的養護の現状と課題 4: 児童養護の体系-① 5: 児童養護の体系-② 6: 児童養護の歴史、子どもの権利 7: 乳児院、児童養護施設における養護 8: 情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設における養護 9: 障がい児分野における養護 10: 里親制度、養子縁組における養護 11: 家庭、学校、地域などにおける養護 12: 援助者の専門性、役割と課題-① 13: 援助者の専門性、役割と課題-② 14: 補足とまとめ 15: まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペアーワーク、課題発見学習
準備学習(予習・復習)	授業をただ聞くだけでなく、自分自身で考え、自分の意見を持つ事が大切です。 児童養護とは何かを理解すること、児童養護に必要な考え方とはどのようなものなのか等をしっかり考えていきましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保: 保育の本質・目的の理解に関する科目

時間割番号	1A3007	科目名	教育方法論	単位数	2
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1A3-2020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	教育的行為には、内容と方法が不可分のものとして含まれます。本科目では、まず、教育・保育方法の意義、歴史について概説します。つぎに、現代日本の教育・保育内容を確認しながら、教育・保育の方法について、具体的に示します。学習者に対する不断の理解に基づいて、学習者の主体性を保証する教育・保育のあり方について考えていきます。とくに、教育・保育における環境構成の重要性を理解するため、ビデオ記録の分析を行います。そして、自ら指導計画を作成し、評価・改善を行う力量形成の基礎を培います。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標の「保育者の役割について理解する」並びに「保育の記録を通して、子ども一人一人の育ちをとらえることができる」に関連しています。				
到達目標	【知識・理解】教育・保育方法の意義及び歴史を知る。 【技能】実践事例を分析することができる。 【思考・判断・表現】子ども理解に基づいた教育・保育方法を考えることができる。 【態度・志向性】積極的に課題に取り組み、意欲的に学ぼうとする。				
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題(20%)により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト: 楠本恭之他編『改訂なぜからはじめる保育原理』建帛社、2016年、2052円。 ※参考図書: 楠本恭之他編『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年、2160円。				
授業計画	第1回: オリエンテーション、教育・保育関係法令の復習 第2回: 教育・保育方法の意義 第3回: 教育・保育方法の歴史① 18世紀以前 第4回: 教育・保育方法の歴史② 19世紀 第5回: 教育・保育方法の歴史③ 20世紀 第6回: 教育・保育方法の歴史④ 現在の日本の教育・保育方法 第7回: 教育・保育方法と教育・保育の環境 ※2-6回授業に関する課題 第8回: 教育・保育方法と教育・保育内容 第9回: 教育・保育方法の分析① 実践事例の分析 幼稚園における指導のビデオを見て、そのポイントを分析します。次回授業において、学生の分析をもとにグループで意見を交換し、気づきを共有します。 第10回: 教育・保育方法の分析② 実践事例分析のフィードバック 第11回: 教育・保育方法の分析③ 実践事例の再分析と記録 第12回: 指導計画案の作成① 子ども理解の方法 第13回: 指導計画案の作成② 理解に基づく援助のあり方 第14回: 指導計画案の作成③ 指導計画案の作成 ※課題(指導計画案)提出 6-13回の授業で得た知識をもとに、指導計画案を作成します。その際、各自が遊びに関する情報を集め、オリジナリティのある計画を立案します。 第15回: 指導計画案のまとめ 提出された指導計画案について、良い点や改善点などを指摘し、各自が今後の課題をとらえ、改善する材料とします。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、実践記録の分析、課題の作成				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業後に、学んだこと・考えたことをノートにまとめましょう。そして、次回の授業前に思い出し、授業を受ける準備をしてください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼: 教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)) 担当形態: 単独 保: 専門科目Ⅱ(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目				



時間割番号	1A3008	科目名	教育方法論			単位数	2
担当者	井原 忠郷						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1A3-2020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子ども理解に基づいた様々な保育方法について学びます。紹介する実践事例から、一人ひとりの子ども理解の上に保育方法があることを理解し、実際の指導方法について考えていきます。また計画・実践・評価という環境の中で保育を展開することの重要性を知り、保育を計画することの意味や、記録を通して保育を振り返る力を養っていきます。特に、いくつかの基礎的な技術指導の最初の部分についての指導や指導上の配慮についても学びたいと思っています。
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標の「保育者の役割について理解する」並びに「保育の記録を通して、子ども一人一人の育ちをとらえることができる」に関連しています。
到達目標	【知識・理解】子ども理解に基づいた様々な保育方法について理解する。 【技能】記録を通して保育を振り返ることができる。 【思考・判断・表現】一人ひとりの子ども理解に基づいた保育方法を考えることができる。 【態度・志向性】積極的に課題に取り組み、保育者としての専門性を向上することに関心を持つ。
評価方法	小レポート(40%)、実践報告書の内容と理解(30%)、参加状況と受講態度(30%)を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	授業概要のプリントと参考資料(保育現場で使われている)を配布します。

授業計画	第1回 オリエンテーション(授業内容と計画について概要説明) 第2回 幼児期にふさわしい教育の方法 第3回 主体的な生活を基盤とする保育 第4回 あそびを通じた指導 第5回 教師(保育者)の役割 第6回 ささまざまな保育形態 第7回 保育の流れについて 第8回 指導計画と指導の実際 第9回 基本的生活習慣とその指導 第10回 家庭状況調査票の意味と扱い方 第11回 基本的な技術を育てる I 第12回 基本的な技術を育てる II 第13回 教材研究と教材準備 I 第14回 教材研究と教材準備 II 第15回 保育を楽しむために(まとめ)
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、教材作成、家庭状況調査票の作成
準備学習(予習・復習)	いくつかの課題を出すので、きちんとした対応(準備・反省)を求めます。 特に「家庭状況調査票」の作成については、各自の母子手帳等を参考にしてみてください。

免許・資格	幼二種免・保育士
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)) 担当形態:単独 保:専門科目Ⅱ(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A3009	科目名	保育内容(人間関係)	単位数	1
担当者	菊野 秀樹				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、チームワーク力、プレゼンテーション力				
概要	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における「人のかかわりに関する領域-人間関係-」は、単に一つの領域としてではなく、生活を通して総合的に学習されるものととらえる必要があります。この授業では、テキストの保育事例を題材にロールプレイとプレゼンテーションを行い、幼児期の人間関係について学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標【子どもの心身の健康や発達について理解する】【保育の記録を通して、子ども一人ひとりの育ちをとらえることができる】に関連します。幼稚園教諭免許状・保育士資格取得の必修科目です。				
到達目標	(知識・理解) 自我の働きについて理解できる。 (技能) 具体的な事例を通して、幼児の心の動きを推察することができる。 (思考・判断・表現) 事例の要点を述べることができる。 (態度・志向性) 他者と協力して課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】 レポート 30% 【技能】 ロールプレイとプレゼンテーション 20% 【思考・判断・表現】 レポート 30% 【態度・志向性】 授業態度と協調性 20%				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト・保育内容 人間関係 あなたならどうしますか？ 酒井幸子 萌文書林 2,000円+税 参考書 ・文部科学省2008幼稚園教育要領 フレーベル館 ・乳幼児の世界 野村庄吾 岩波新書				
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:人のかかわりが育つ道すじ 第3回:「はず」の世界「つもり」の世界 第4回:「ながら」の世界 第5回:自意識、自律・自立 第6回:友だちとかかわる力を身に付けていく 第7回:葛藤体験を大切に 第8回:発達における遊びの重要性 第9回:自分の気持ちを出すこと(自己主張) 第10回:他者の気持ちに気づくこと(思いやり) 第11回:協力すること 第12回:教える・教えられること、イメージやアイデアを伝え合うこと 第13回:ルールを守って遊ぶこと、問題を抱えた人間関係 第14回:自己発揮・自己抑制・自我の発達、いざこざ・トラブル・葛藤 第15回:まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ロールプレイ、プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	この授業では、4人～5人でグループになり、保育事例の要点をロールプレイとパワーポイントでプレゼンテーションします。そのため、以下ことが予習になります。①各自が事例の要点まとめてレポートにする。②グループで事例を脚色してロールプレイを行いビデオに撮影する。③グループで話し合いながら、プレゼンテーションのためのパワーポイントを制作する。④「子ども時代のわたしと名前の由来」をスライドショーにする。復習はレポートの提出です。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A3010	科目名	保育内容(人間関係)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3020						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		論理的思考力、発想力、チームワーク力、プレゼンテーション力					
概要	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における「人のかかわりに関する領域-人間関係-」は、単に一つの領域としてではなく、生活を通して総合的に学習されるものととらえる必要があります。この授業では、テキストの保育事例を題材にロールプレイとプレゼンテーションを行い、幼児期の人間関係について学びます。						
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標【子どもの心身の健康や発達について理解する】【保育の記録を通して、子ども一人ひとりの育ちをとらえることができる】に関連します。幼稚園教諭免許状・保育士資格取得の必修科目です。						
到達目標	(知識・理解) 自我の働きについて理解できる。 (技能) 具体的な事例を通して、幼児の心の動きを推察することができる。 (思考・判断・表現) 事例の要点を述べることができる。 (態度・志向性) 他者と協力して課題に取り組むことができる。						
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】 レポート 30% 【技能】 ロールプレイとプレゼンテーション 20% 【思考・判断・表現】 レポート 30% 【態度・志向性】 授業態度と協調性 20%						
備考							
テキスト・教材・経費等	テキスト: 保育内容 人間関係 あなたならどうしますか? 酒井幸子 萌文書林 2,000円+税 ▽参考書: ・文部科学省2008幼稚園教育要領 フレーベル館 ・乳幼児の世界 野村庄吾 岩波新書						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:人のかかわりが育つ道すじ 第3回:「はず」の世界「つもり」の世界 第4回:「ながら」の世界 第5回:自意識、自律・自立 第6回:友だちとかかわる力を身に付けていく 第7回:葛藤体験を大切に 第8回:発達における遊びの重要性 第9回:自分の気持ちを出すこと(自己主張) 第10回:他者の気持ちに気づくこと(思いやり) 第11回:協力すること 第12回:教える・教えられること、イメージやアイデアを伝え合うこと 第13回:ルールを守って遊ぶこと、問題を抱えた人間関係 第14回:自己発揮・自己抑制・自我の発達、いざこざ・トラブル・葛藤 第15回:まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	ロールプレイ、プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	この授業では、4人～5人でグループになり、保育事例の要点をロールプレイとパワーポイントでプレゼンテーションします。そのため、以下ことが予習になります。①各自が事例の要点まとめてレポートにする。②グループで事例を脚色してロールプレイを行いビデオに撮影する。③グループで話し合いながら、プレゼンテーションのためのパワーポイントを制作する。④「子ども時代のわたしと名前の由来」をスライドショーにする。復習はレポートの提出です。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A3011	科目名	保育内容(人間関係)	単位数	1
担当者	菊野 秀樹				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、チームワーク力、プレゼンテーション力				
概要	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における「人のかかわりに関する領域-人間関係-」は、単に一つの領域としてではなく、生活を通して総合的に学習されるものととらえる必要があります。この授業では、テキストの保育事例を題材にロールプレイとプレゼンテーションを行い、幼児期の人間関係について学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標【子どもの心身の健康や発達について理解する】【保育の記録を通して、子ども一人ひとりの育ちをとらえることができる】に関連します。幼稚園教諭免許状・保育士資格取得の必修科目です。				
到達目標	(知識・理解) 自我の働きについて理解できる。 (技能) 具体的な事例を通して、幼児の心の動きを推察することができる。 (思考・判断・表現) 事例の要点を述べることができる。 (態度・志向性) 他者と協力して課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】 レポート 30% 【技能】 ロールプレイとプレゼンテーション 20% 【思考・判断・表現】 レポート 30% 【態度・志向性】 授業態度と協調性 20%				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト: 保育内容 人間関係 あなたならどうしますか? 酒井幸子 萌文書林 2,000円+税 参考書: ・文部科学省2008幼稚園教育要領 フレーベル館 ・乳幼児の世界 野村庄吾 岩波新書				
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:人のかかわりが育つ道すじ 第3回:「はず」の世界「つもり」の世界 第4回:「ながら」の世界 第5回:自意識、自律・自立 第6回:友だちとかかわる力を身に付けていく 第7回:葛藤体験を大切に 第8回:発達における遊びの重要性 第9回:自分の気持ちを出すこと(自己主張) 第10回:他者の気持ちに気づくこと(思いやり) 第11回:協力すること 第12回:教える・教えられること、イメージやアイデアを伝え合うこと 第13回:ルールを守って遊ぶこと、問題を抱えた人間関係 第14回:自己発揮・自己抑制・自我の発達、いざこざ・トラブル・葛藤 第15回:まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ロールプレイ、プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	この授業では、4人～5人でグループになり、保育事例の要点をロールプレイとパワーポイントでプレゼンテーションします。そのため、以下ことが予習になります。①各自が事例の要点まとめてレポートにする。②グループで事例を脚色してロールプレイを行いビデオに撮影する。③グループで話し合いながら、プレゼンテーションのためのパワーポイントを制作する。④「子ども時代のわたしと名前の由来」をスライドショーにする。復習はレポートの提出です。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A3012	科目名	保育内容(環境)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹、中丸 元良、松本 信吾、橋本 真、高田 憲治						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3030						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		発想力、傾聴・受容力					
概要	子どもは環境(自分の回りの物や事)に興味を持ってかかわり、体験を通じて理解しながら環境を自分の中に取り入れ、成長していきます。そのような子どもの姿や、もの感じ取り方、理解のしかたを学びます。また、子どもに適切な援助ができる保育者になれるよう、意識と知識を学び、観察力と考察力を磨きます。						
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる」と関連しています。幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。						
到達目標	○身の回りの物や事に興味をもち、疑問を持ってかかわろうとする。 ○子どもと環境との関係を、子どもの立場に立って理解しようとする。 ○子どもへの適切なかかわりを常に意識できるようになる。						
評価方法	授業態度(45%)、提出物の評価(40%)、協調性(15%)を総合して評価します						
備考							
テキスト・教材・経費等	▽参考書:『私は虫である』熊田子佳慕・著 2010 求龍堂 『サンタクロースっているんでしょうか』中村妙子・訳 1977 偕成社 DVD:『主体的な遊びで育つ子ども』大豆生啓友・中坪史典編著 2016 エイデル研究所 その他、適宜指示します。						
授業計画	第1回 授業の概要・保育内容(環境)とは・学外授業の説明(菊野秀樹) 第2回 広島大学附属幼稚園での学外授業(1) 自然の中で行う保育の意味を考える。(松本慎吾) 第3回 広島大学附属幼稚園での学外授業(2) 自然環境の活かし方の実際を学ぶ。(松本慎吾) 第4回 広島大学附属幼稚園での学外授業(3) 環境との対話演習(遊びを考える)(松本慎吾) 第5回 遊びのなかでの試行錯誤の意味について考える(橋本真) 第6回 かえで幼稚園での学外授業(1) 心情、意欲、態度の流れで環境を考える(中丸元良) 第7回 かえで幼稚園での学外授業(2) 環境に込められた園や保育者の願い(中丸元良) 第8回 かえで幼稚園での学外授業(3) 環境と援助の関係(中丸元良) 第9回 子どもと共に作り上げていく保育室(橋本真) 第10回 子どもに感じさせたい自然の変化や社会的事象について考える(井原忠郷) 第11回 身近な動植物への対応と生命への配慮について考える(井原忠郷) 第12回 自然と触れ合う環境づくり(高田憲治) 第13回 身近な施設や社会情報の中から保育で扱う項目について考える(井原忠郷) 第14回 遊びと生活を通して教や文字に関心をもち(高田憲治) 第15回 まとめ(菊野秀樹)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習						
準備学習(予習・復習)	環境とは自分の周りにある物やできごと、社会の仕組みなどです。子どもたちも、それらとかわりながら生活し、育っています。しかも子どもたちは、身の回りのものやできごとを、大人以上の疑問と興味を持って見つめています。保育者をめざすみなさんも、身の周りにひそんでいる面白さをたくさん発見してください。そして、「なぜ?」、「不思議」をたくさん見つけ、「子どもだったらどう受け取り、どういう反応をするか」を常に考えてみましょう。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:オムニバス 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						

時間割番号	1A3013	科目名	保育内容(環境)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹、中丸 元良、松本 信吾、橋本 真、高田 憲治						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3030						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		発想力、傾聴・受容力					
概要	子どもは環境(自分の回りの物や事)に興味を持ってかわかり、体験を通じて理解しながら環境を自分の中に取り入れ、成長していきます。そのような子どもの姿や、もの感じ取り方、理解のしかたを学びます。また、子どもに適切な援助ができる保育者になれるよう、意識と知識を学び、観察力と考察力を磨きます。						
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる」と関連しています。幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。						
到達目標	○身の回りの物や事に興味を持ち、疑問を持ってかわかろうとすること。 ○子どもと環境との関係を、子どもの立場に立って理解しようとする事。 ○子どもへの適切なかわかりを常に意識できるようになること。						
評価方法	授業態度(45%)、提出物の評価(40%)、協調性(15%)を総合して評価します						
備考							
テキスト・教材・経費等	▽参考書:『私は虫である』熊田子佳慕・著 2010 求龍堂 『サンタクロースっているんでしょうか』中村妙子・訳 1977 偕成社 DVD:『主体的な遊びで育つ子ども』大豆生啓友・中坪史典編著 2016 エイデル研究所 その他、適宜指示します。						
授業計画	第1回 授業の概要・保育内容(環境)とは・学外授業の説明(菊野秀樹) 第2回 広島大学附属幼稚園での学外授業(1) 自然の中で行う保育の意味を考える。(松本慎吾) 第3回 広島大学附属幼稚園での学外授業(2) 自然環境の活かし方の実際を学ぶ。(松本慎吾) 第4回 広島大学附属幼稚園での学外授業(3) 環境との対話演習(遊びを考える)(松本慎吾) 第5回 遊びのなかでの試行錯誤の意味について考える(橋本真) 第6回 かえで幼稚園での学外授業(1) 心情、意欲、態度の流れで環境を考える(中丸元良) 第7回 かえで幼稚園での学外授業(2) 環境に込められた園や保育者の願い(中丸元良) 第8回 かえで幼稚園での学外授業(3) 環境と援助の関係(中丸元良) 第9回 子どもと共に作り上げていく保育室(橋本真) 第10回 子どもに感じさせたい自然の変化や社会的事象について考える(井原忠郷) 第11回 身近な動植物への対応と生命への配慮について考える(井原忠郷) 第12回 自然と触れ合う環境づくり(高田憲治) 第13回 身近な施設や社会情報の中から保育で扱う項目について考える(井原忠郷) 第14回 遊びと生活を通して教や文字に関心をもち(高田憲治) 第15回 まとめ(菊野秀樹)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習						
準備学習(予習・復習)	環境とは自分の周りにある物やできごと、社会の仕組みなどです。子どもたちも、それらとかわりながら生活し、育っています。しかも子どもたちは、身の回りのものやできごとを、大人以上の疑問と興味を持って見つめています。保育者をめざすみなさんも、身の周りにひそんでいる面白さをたくさん発見してください。そして、「なぜ?」、「不思議」をたくさん見つけ、「子どもだったらどう受け取り、どういう反応をするか」を常に考えてみましょう。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:オムニバス 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習						

時間割番号	1A3014	科目名	保育内容(環境)	単位数	1
担当者	菊野 秀樹、中丸 元良、松本 信吾、橋本 真、高田 憲治				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力、傾聴・受容力				
概要	子どもは環境(自分の回りの物や事)に興味を持ってかわかり、体験を通じて理解しながら環境を自分の中に取り入れ、成長していきます。そのような子どもの姿や、もの感じ取り方、理解のしかたを学びます。また、子どもに適切な援助ができる保育者になれるよう、意識と知識を学び、観察力と考察力を磨きます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる」と関連しています。幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。				
到達目標	○身の回りの物や事に興味を持ち、疑問を持ってかわかろうとすること。 ○子どもと環境との関係を、子どもの立場に立って理解しようとする事。 ○子どもへの適切なかわかりを常に意識できるようになること。				
評価方法	授業態度(45%)、提出物の評価(40%)、協調性(15%)を総合して評価します				
備考					
テキスト・教材・経費等	▽参考書:『私は虫である』熊田子佳慕・著 2010 求龍堂 『サンタクロースっているんでしょうか』中村妙子・訳 1977 偕成社 DVD:『主体的な遊びで育つ子ども』大豆生啓友・中坪史典編著 2016 エイデル研究所 その他、適宜指示します				
授業計画	第1回 授業の概要・保育内容(環境)とは・学外授業の説明(菊野秀樹) 第2回 広島大学附属幼稚園での学外授業(1) 自然の中で行う保育の意味を考える。(松本慎吾) 第3回 広島大学附属幼稚園での学外授業(2) 自然環境の活かし方の実際を学ぶ。(松本慎吾) 第4回 広島大学附属幼稚園での学外授業(3) 環境との対話演習(遊びを考える)(松本慎吾) 第5回 遊びのなかでの試行錯誤の意味について考える(橋本真) 第6回 かえで幼稚園での学外授業(1) 心情、意欲、態度の流れで環境を考える(中丸元良) 第7回 かえで幼稚園での学外授業(2) 環境に込められた園や保育者の願い(中丸元良) 第8回 かえで幼稚園での学外授業(3) 環境と援助の関係(中丸元良) 第9回 子どもと共に作り上げていく保育室(橋本真) 第10回 子どもに感じさせたい自然の変化や社会的事象について考える(井原忠郷) 第11回 身近な動植物への対応と生命への配慮について考える(井原忠郷) 第12回 自然と触れ合う環境づくり(高田憲治) 第13回 身近な施設や社会情報の中から保育で扱う項目について考える(井原忠郷) 第14回 遊びと生活を通して教や文字に関心をもち(高田憲治) 第15回 まとめ(菊野秀樹)				
アクティブ・ラーニングの授業形態					
準備学習(予習・復習)	環境とは自分の周りにある物やできごと、社会の仕組みなどです。子どもたちも、それらとかわかりながら生活し、育っています。しかも子どもたちは、身の回りのものやできごとを、大人以上の疑問と興味を持って見つめています。保育者をめざすみなさんも、身の周りにひそんでいる面白さをたくさん発見してください。そして、「なぜ?」、「不思議」をたくさん見つけ、「子どもだったらどう受け取り、どういう反応をするか」を常に考えてみましょう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:オムニバス 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習				

時間割番号	1A3015	科目名	障がい児保育			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3060						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	乳幼児期における障がいのある子どもについて基本的理解を深めるとともに、障がいを持つ子どもが集団の中で自分らしく生活を送ることができるための支援のあり方について学習する。また、ひとつの障がいについて、責任を持って調べ、他者に伝えます。						
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の内容・方法の理解」と関連しており、この授業では、保育所や幼稚園で特別な支援が必要とされる乳幼児の理解と支援方法について学びます。保育士資格必修科目および幼稚園教諭免許状選択科目です。						
到達目標	【態度・志向性】子どもの障がい特性を知ろうとし、必要な支援を調べたり考えたりすることができる 【知識・理解】子どもの障がい特性を理解し、インバメントとディスアビリティの違いがわかる 【思考・判断・表現】障がいの特性を他者にうまく伝えられる 【技能】障がい特性に即した基本的な支援方法がわかる						
評価方法	【態度・志向性】障がいに関する資料収集と調べ具合(20%) 【知識・理解】障がいに関する課題レポートの的確さ(30%) 【思考・判断・表現】正確な知識に基づいた理解絵本の完成度(30%) 【技能】障がいに応じた基本的姿勢に即した話し方、教具の作成(20%)						
備考	子育て交流広場や、Kissの「レインボーカフェ」「タッチアンドプレイルーム」に積極的に観察参加し、子どもの行動観察をし、見立てる力を身につけます。						
テキスト・教材・経費等	「つながる・つなげる障害児保育-かかわりあうクラスづくりのために」 保育出版社 価格2270円+税						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 障がいの科学的理解と個の理解/発達と障害 第3回 生まれてすぐに分かる障がい(ダウン症・口唇口蓋裂を中心に) 第4回 運動機能障がいの理解と保育 第5回 視覚・聴覚障がいの理解と保育 第6回 保育と特別支援教育 第7回 学習に課題のある子どもの保育 第8回 不注意や多動の見られる子どもの保育 第9回 対人関係の課題や強いこだわりのある子どもの保育 第10回 子どもとつながる、こどもたちをつなげる 第11回 保護者とつながる 第12回 小学校へつなげる 第13回 支援の実際(障がい特性を生かす) 第14回 障がいのある子どもをテーマにした絵本の発表 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	キーワードの予習、ワークシートによる課題解決 絵本づくり						
準備学習(予習・復習)	多様な障がいについて授業で学ぶのに並行して、個々が一つの障がいについての理解と保育について責任を持って深め、理解絵本作成をします。インバメントとディスアビリティの違いを深めましょう。予習復習はワークシートにのっとなって行います。						
免許・資格	保育士 幼二種免						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育の基礎理論に関する科目(幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程を含む。)) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 障がい児保育						



時間割番号	1A3016	科目名	障がい児保育			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3060						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	乳幼児期における障がいのある子どもについて基本的理解を深めるとともに、障がいを持つ子どもが集団の中で自分らしく生活を送ることができるための支援のあり方について学習する。また、ひとつの障がいについて、責任を持って調べ、他者に伝えます。
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の内容・方法の理解」と関連しており、この授業では、保育所や幼稚園で特別な支援が必要とされる乳幼児の理解と支援方法について学びます。保育士資格必修科目および幼稚園教諭免許状選択科目です。
到達目標	【態度・志向性】子どもの障がい特性を知ろうとし、必要な支援を調べたり考えたりすることができる 【知識・理解】子どもの障がい特性を理解し、インペアメントとティスアビリティの違いがわかる 【思考・判断・表現】障がいの特性を他者にうまく伝えられる 【技能】障がい特性に即した基本的な支援方法がわかる
評価方法	【態度・志向性】障がいに関する資料収集と調べ具合(20%) 【知識・理解】障がいに関する課題レポートの的確さ(30%) 【思考・判断・表現】正確な知識に基づいた理解絵本の完成度(30%) 【技能】障がいに応じた基本的姿勢に即した話し方、教具の作成(20%)
備考	子育て交流広場や、Kissの「レインボーカフェ」「タッチアンドプレイルーム」に積極的に観察参加し、子どもの行動観察をし、見立てる力を身につけます。
テキスト・教材・経費等	「つながる・つなげる障害児保育-かかわりあうクラスづくりのために」 保育出版社 価格2270円+税

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 障がいの科学的理解と個の理解/発達と障害 第3回 生まれてすぐに分かる障がい(ダウン症・口唇口蓋裂を中心に) 第4回 運動機能障がいの理解と保育 第5回 視覚・聴覚障がいの理解と保育 第6回 保育と特別支援教育 第7回 学習に課題のある子どもの保育 第8回 不注意や多動の見られる子どもの保育 第9回 対人関係の課題や強いこだわりのある子どもの保育 第10回 子どもとつながる、こどもたちをつなげる 第11回 保護者とつながる 第12回 小学校へつなげる 第13回 支援の実際(障がい特性を生かす) 第14回 障がいのある子どもをテーマにした絵本の発表 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	キーワードの予習、ワークシートによる課題解決 絵本づくり
準備学習(予習・復習)	多様な障がいについて授業で学ぶのに並行して、個々が一つの障がいについての理解と保育について責任を持って深め、理解絵本作成をします。インペアメントとティスアビリティの違いを深めましょう。予習復習はワークシートにのっとなって行います。

免許・資格	保育士 幼二種免
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育の基礎理論に関する科目(幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程を含む。)) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 障がい児保育

時間割番号	1A3017	科目名	障がい児保育		単位数	2
担当者	七木田 方美					
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習	
ナンバリング	1A3-3060					
コア・アクティブ・ラーニング科目群						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード						
概要	乳幼児期における障がいのある子どもについて基本的理解を深めるとともに、障がいを持つ子どもが集団の中で自分らしく生活を送ることができるための支援のあり方について学習する。また、ひとつの障がいについて、責任を持って調べ、他者に伝えます。					
教育目標との関連	幼児教育科専門科目「保育の内容・方法の理解」と関連しており、この授業では、保育所や幼稚園で特別な支援が必要とされる乳幼児の理解と支援方法について学びます。保育士資格必修科目および幼稚園教諭免許状選択科目です。					
到達目標	【態度・志向性】子どもの障がい特性を知ろうとし、必要な支援を調べたり考えたりすることができる 【知識・理解】子どもの障がい特性を理解し、インバメントとディスアビリティの違いがわかる 【思考・判断・表現】障がいの特性を他者にうまく伝えられる 【技能】障がい特性に即した基本的な支援方法がわかる					
評価方法	【態度・志向性】障がいに関する資料収集と調べ具合(20%) 【知識・理解】障がいに関する課題レポートの的確さ(30%) 【思考・判断・表現】正確な知識に基づいた理解絵本の完成度(30%) 【技能】障がいに応じた基本的姿勢に即した話し方、教具の作成(20%)					
備考	子育て交流広場や、Kissの「レインボーカフェ」「タッチアンドプレイルーム」に積極的に観察参加し、子どもの行動観察をし、見立てる力を身につけます。					
テキスト・教材・経費等	「つながる・つなげる障害児保育-かかわりあうクラスづくりのために」 保育出版社 価格2270円＋税					
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 障がいの科学的理解と個の理解/発達と障害 第3回 生まれてすぐに分かる障がい(ダウン症・口唇口蓋裂を中心に) 第4回 運動機能障がいの理解と保育 第5回 視覚・聴覚障がいの理解と保育 第6回 保育と特別支援教育 第7回 学習に課題のある子どもの保育 第8回 不注意や多動の見られる子どもの保育 第9回 対人関係の課題や強いこだわりのある子どもの保育 第10回 子どもとつながる、こどもたちをつなげる 第11回 保護者とつながる 第12回 小学校へつなげる 第13回 支援の実際(障がい特性を生かす) 第14回 障がいのある子どもをテーマにした絵本の発表 第15回 まとめ					
アクティブ・ラーニングの授業形態	キーワードの予習、ワークシートによる課題解決 絵本づくり					
準備学習(予習・復習)	多様な障がいについて授業で学ぶのに並行して、個々が一つの障がいについての理解と保育について責任を持って深め、理解絵本作成をします。インバメントとディスアビリティの違いを深めましょう。予習復習はワークシートにのっとなって行います。					
免許・資格	保育士 幼二種免					
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育の基礎理論に関する科目(幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程を含む。)) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目 障がい児保育					

時間割番号	1A3018	科目名	保育内容(音楽表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	馬杉 知佐						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3070						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	保育の場における器楽表現(ピアノ、簡易楽器等)は、ピアノの伴奏、子どもの動きに合わせた音づくり、楽器を使用したリズムあそび等、さまざまに用いられる。そこで、Emile Jaques-Dalcrozeの創案したリトミックのアイデアをベースにして、保育者自身の豊かな感性を養い、生きた魅力ある音楽の表現ができることを学習します。						
教育目標との関連	専門科目「教育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの音楽的経験を理解する」「音楽という文化遺産を伝え、豊かな感性をもって、器楽表現できる」と関連しています。豊かな感性、表現力を持った保育者となるよう願っています。						
到達目標	【知識・理解】子どもの音楽的経験を理解する。 【技能】豊かな感性をもって器楽表現できるようにする。 【思考・判断・表現】音楽という文化遺産を子どもに伝える。 【態度・志向性】音楽活動をとらして、豊かな器楽表現ができるように取り組む。						
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合して評価します。 【知識・理解】子どもの音楽活動の理解(20%) 【技能】器楽表現(30%) 【思考・判断・表現】課題レポート(20%) 【態度・志向性】授業への参加状況、課題への取り組み(30%)						
備考	「リトミック」は、たくさんの音楽のイメージをからだの中に蓄えます。つまり自分の体が、音楽を表現できる楽器になるということです。後期の音楽表現Ⅱのための基礎となる講義です。						
テキスト・教材・経費等	『続こどものうた200』チャイルド社、必要に応じてプリントを配布します。 ▽参考書:適宜、指示します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 乳幼児の音楽活動について 第3回 「音」を楽しむ(1)打楽器 第4回 「音」を楽しむ(2)声 第5回 「音」を楽しむ(3)雑音 第6回 「リズム」を楽しむ(1)テニスボール 第7回 「リズム」を楽しむ(2)ゴムボール、バランスボール 第8回 「リズム」を楽しむ(3)スカーフ 第9回 「リズム」を楽しむ(4)パチ、スティック 第10回 聴覚活動とは 第11回 表現活動(1)オリジナル指遊び 第12回 表現活動(2)オリジナル身体表現 第13回:表現活動(3)リトミック 第14回 5領域と音楽表現の関わり 第15回 領域におけるリトミック						
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア・ワーク、グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション、自己省察、課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	【3回～9回】毎回課題があるので、日常的に歌や指遊び、楽曲などに触れ、アイデアをためておいて下さい。課題は全員の前で発表します。 【11回～13回】模擬授業をするので、指導案を作成しスムーズに行えるようにしましょう。 【14回～15回】幼稚園教育要領解説を良く読み、5領域の理解を深めておきましょう。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A3019	科目名	保育内容(音楽表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	馬杉 知佐						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3070						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	保育の場における器楽表現(ピアノ、簡易楽器等)は、ピアノの伴奏、子どもの動きに合わせた音づくり、楽器を使用したリズムあそび等、さまざまに用いられる。そこで、Emile Jaques-Dalcrozeの創案したリトミックのアイデアをベースにして、保育者自身の豊かな感性を養い、生きた魅力ある音楽の表現ができることを学習します。						
教育目標との関連	専門科目「教育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの音楽的経験を理解する」「音楽という文化遺産を伝え、豊かな感性をもって、器楽表現できる」と関連しています。豊かな感性、表現力を持った保育者となるよう願っています。						
到達目標	【知識・理解】子どもの音楽的経験を理解する。 【技能】豊かな感性をもって器楽表現できるようにする。 【思考・判断・表現】音楽という文化遺産を子どもに伝える。 【態度・志向性】音楽活動をとらして、豊かな器楽表現ができるように取り組む。						
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合して評価します。 【知識・理解】子どもの音楽活動の理解(20%) 【技能】器楽表現(30%) 【思考・判断・表現】課題レポート(20%) 【態度・志向性】授業への参加状況、課題への取り組み(30%)						
備考	「リトミック」は、たくさんの音楽のイメージをからだの中に蓄えます。つまり自分の体が、音楽を表現できる楽器になるということです。後期の音楽表現Ⅱのための基礎となる講義です。						
テキスト・教材・経費等	『続こどものうた200』チャイルド社、必要に応じてプリントを配布します。 ▽参考書:適宜、指示します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 乳幼児の音楽活動について 第3回 「音」を楽しむ(1)打楽器 第4回 「音」を楽しむ(2)声 第5回 「音」を楽しむ(3)雑音 第6回 「リズム」を楽しむ(1)テニスボール 第7回 「リズム」を楽しむ(2)ゴムボール、バランスボール 第8回 「リズム」を楽しむ(3)スカーフ 第9回 「リズム」を楽しむ(4)パチ、スティック 第10回 聴覚活動とは 第11回 表現活動(1)オリジナル指遊び 第12回 表現活動(2)オリジナル身体表現 第13回:表現活動(3)リトミック 第14回 5領域と音楽表現の関わり 第15回 領域におけるリトミック						
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア・ワーク、グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション、自己省察、課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	【3回～9回】毎回課題があるので、日常的に歌や指遊び、楽曲などに触れ、アイデアをためておいて下さい。課題は全員の前で発表します。 【11回～13回】模擬授業をするので、指導案を作成しスムーズに行えるようにしましょう。 【14回～15回】幼稚園教育要領解説を良く読み、5領域の理解を深めておきましょう。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A3020	科目名	保育内容(身体表現Ⅰ)	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3090				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	子どもの運動機能の発達を促すためのリズム運動について、自らの体験を通して学習します。身体の多様な動きに対する知識を深め、全身を動かすことの楽しさを感じる活動(リズム体操、手を使ったリズム運動等)を通して、子どものイメージと動きをベースにした表現活動へと発展できるように考えます。				
教育目標との関連	専門教育科目における「保育の内容・方法の理解」に位置づけられる科目です。学習到達度指標における「保育の本質と目的について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの運動機能の発達とリズム運動の関連について理解する。 【技能】自らの活動を通して、指導に必要な基礎技能と表現力を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの運動機能の発達に即したリズム運動へと発展させることができる。 【態度・志向性】自分や他者の身体に関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種リズム運動の特性とねらいについてのまとめ課題(20%) 【技能】各種リズム運動に関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】個人課題、グループワーク課題(20%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)				
備考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリント等を配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの運動機能の発達とリズム運動について) 第2回 いろいろなリズム運動の体験①(イメージとからだ遊び) 第3回 いろいろなリズム運動の体験②(ステップ等の移動運動) 第4回 いろいろなリズム運動の体験③(リズムとステップ) 第5回 リズム体操①(運動の形態と方法の理解) 第6回 リズム体操②(いろいろなリズム体操) 第7回 リズム体操③(子どもの発達に合わせたリズム体操の作品づくり) 第8回 リズム体操④(子どもの発達に合わせたリズム体操の発表へ向けて) 第9回 リズム体操⑤(子どもの発達に合わせたリズム体操の発表と振り返り) 第10回 手を使ったリズム運動①(手を使ったリズム運動の体験) 第11回 手を使ったリズム運動②(手を使ったリズム運動の作品づくり) 第12回 手を使ったリズム運動③(手を使ったリズム運動の発表へ向けて) 第13回 手を使ったリズム運動④(手を使ったリズム運動の発表) 第14回 手を使ったリズム運動⑤(手を使ったリズム運動の振り返り) 第15回 まとめ(子どもの運動機能とさまざまなリズム運動の関連について)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習				
準備学習(予習・復習)	【7~9回】個人やグループでオリジナルのリズム体操を創作・発表してください。 【11~14回】手を使ったリズム運動をグループで協力して創作・発表してください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目(選択科目)				

時間割番号	1A3021	科目名	保育内容(身体表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	高德 希						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3090						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概 要	子どもの運動機能の発達を促すためのリズム運動について、自らの体験を通して学習します。身体の多様な動きに対する知識を深め、全身を動かすことの楽しさを感じる活動(リズム体操、手を使ったリズム運動等)を通して、子どものイメージと動きをベースにした表現活動へと発展できるように考えます。						
教育目標との関連	専門教育科目における「保育の内容・方法の理解」に位置づけられる科目です。学習到達度指標における「保育の本質と目的について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。						
到達目標	【知識・理解】子どもの運動機能の発達とリズム運動の関連について理解する。 【技能】自らの活動を通して、指導に必要な基礎技能と表現力を身につける。 【思考・判断・表現】子どもの運動機能の発達に即したリズム運動へと発展させることができる。 【態度・志向性】自分や他者の身体に関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。						
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】各種リズム運動の特性とねらいについてのまとめ課題(20%) 【技能】各種リズム運動に関する技能の習得(20%) 【思考・判断・表現】個人課題、グループワーク課題(20%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)						
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。						
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリント等を配布します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション(子どもの運動機能の発達とリズム運動について) 第2回 いろいろなリズム運動の体験①(イメージとからだ遊び) 第3回 いろいろなリズム運動の体験②(ステップ等の移動運動) 第4回 いろいろなリズム運動の体験③(リズムとステップ) 第5回 リズム体操①(運動の形態と方法の理解) 第6回 リズム体操②(いろいろなリズム体操) 第7回 リズム体操③(子どもの発達に合わせたリズム体操の作品づくり) 第8回 リズム体操④(子どもの発達に合わせたリズム体操の発表へ向けて) 第9回 リズム体操⑤(子どもの発達に合わせたリズム体操の発表と振り返り) 第10回 手を使ったリズム運動①(手を使ったリズム運動の体験) 第11回 手を使ったリズム運動②(手を使ったリズム運動の作品づくり) 第12回 手を使ったリズム運動③(手を使ったリズム運動の発表へ向けて) 第13回 手を使ったリズム運動④(手を使ったリズム運動の発表) 第14回 手を使ったリズム運動⑤(手を使ったリズム運動の振り返り) 第15回 まとめ(子どもの運動機能とさまざまなリズム運動の関連について)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習						
準備学習(予習・復習)	【7~9回】個人やグループでオリジナルのリズム体操を創作・発表してください。 【11~14回】手を使ったリズム運動をグループで協力して創作・発表してください。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目(選択科目)						

時間割番号	1A3022	科目名	保育内容(創作表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	野上 俊之、久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3110						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子どもの感性や表現力を豊かに育てるには、保育者自身がその素地を備えていることが大切です。その手段として、造形的・音楽的活動を中心に取あげ、単なるものまねではなく、創意工夫を凝らしてイメージやアイデアをさまざまな色・形・音にしていこうと目指しています。具体的には、人形劇、パネルシアター、影絵、紙芝居などを、個人及びグループの独自性を生かして創作し、成果を発表します。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力して共に育ち合おうとする」と関連しています。 幼稚園教諭免許状・保育士資格選択科目です。
到達目標	○自主的・主体的な創作活動を通して、造形的・音楽的感性や豊かな創造性や表現力を身につける。 ○グループによる協調や協力する態度や精神を培う。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度、発表などを総合的に判断します。
備考	
テキスト・教材・経費等	適宜紹介していきます。 ▽参考書:適宜、指示します。

授業計画	第1回: 授業計画および授業の目標について 第2回: 児童文化について調べる 第3回: 調べたことを発表 第4回: 発表に向けグループ分け、テーマを決める 第5回: シナリオ・演出など話し合う 第6回: 舞台や小道具など、発表に必要なものを確認する 第7回: 役割分担をし、制作にとりかかる 第8回: より効果的になるよう工夫しながら制作する 第9回: BGMや効果音の創作 第10回: 発声練習・滑舌練習などをし、シナリオを読み込む 第11回: パーツの動かし方を工夫しながら練習する 第12回: 足りない部分を補いながら、制作・練習する 第13回: 発表 第14回: ふりかえり 第15回: まとめ、保育への活かし方
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、発表
準備学習(予習・復習)	創作とは? 表現とは? 伝えるとは? この授業ではその手段として音楽・造形的な面からさまざまなアプローチをしていきます。しかし一番大切なことは、その中身です。あなたの伝えたいことはなんですか? 表したいことは何ですか? とにかく感性を磨いてください。小説を読む、映画を見る。演劇を観る。音楽を聴く。美術館に行く。自然と戯れる等々。きっと今まで気がつかなかったことに気づくはずです。中身がスカスカだと相手には何も伝わりません。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼: 教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態: 複数 保: 専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A3023	科目名	保育内容(創作表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	野上 俊之、久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3110						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子どもの感性や表現力を豊かに育てるには、保育者自身がその素地を備えていることが大切です。その手段として、造形的・音楽的活動を中心に取あげ、単なるものまねではなく、創意工夫を凝らしてイメージやアイデアをさまざまな色・形・音にしていけることを目指しています。具体的には、人形劇、パネルシアター、影絵、紙芝居などを、個人及びグループの独自性を生かして創作し、成果を発表します。
教育目標との関連	幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力して共に育ち合おうとする」と関連しています。 幼稚園教諭免許状・保育士資格選択科目です。
到達目標	○自主的・主体的な創作活動を通して、造形的・音楽的感性や豊かな創造性や表現力を身につける。 ○グループによる協調や協力する態度や精神を培う。
評価方法	参加状況、関心・意欲・態度、発表などを総合的に判断します。
備考	
テキスト・教材・経費等	適宜紹介していきます。 ▽参考書:適宜、指示します。

授業計画	第1回:授業計画および授業の目標について 第2回:児童文化について調べる 第3回:調べたことを発表 第4回:発表に向けグループ分け、テーマを決める 第5回:シナリオ・演出など話し合う 第6回:舞台や小道具など、発表に必要なものを確認する 第7回:役割分担をし、制作にとりかかる 第8回:より効果的になるよう工夫しながら制作する 第9回:BGMや効果音の創作 第10回:発声練習・滑舌練習などをし、シナリオを読み込む 第11回:パーツの動かし方を工夫しながら練習する 第12回:足りない部分を補いながら、制作・練習する 第13回:発表 第14回:ふりかえり 第15回:まとめ、保育への活かし方
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、発表
準備学習(予習・復習)	創作とは?表現とは?伝えるとは?この授業ではその手段として音楽・造形的な面からさまざまなアプローチをしていきます。しかし一番大切なことは、その中身です。あなたの伝えたいことはなんですか?表したいことは何ですか?とにかく感性を磨いてください。小説を読む、映画を見る。演劇を観る。音楽を聴く。美術館に行く。自然と戯れる等々。きっと今まで気がつかなかったことに気づくはずですよ。中身がスカスカだと相手には何も伝わりません。

免許・資格	幼二種免、保育士
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:複数 保:専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目



時間割番号	1A3024	科目名	保育内容(言語表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3130						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題設定力、創造・表現力					
概要	口承文芸である昔話は、長い間、口で語り、耳で聞かれていました。そのため、長い時間の中で、聞く人にとってイメージしやすい形ができあがったと考えられています。授業では、その形(昔話の語法)を理解し、ストーリーテリングの技術を習得することを目的とします。この授業では、実技発表としてお話を覚えストーリーテリングをします。						
教育目標との関連	専門科目【保育内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」に関連します。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得の選択科目です。						
到達目標	【知識・理解】昔話の語法を理解する 【技能】子どもが聞きやすい声でストーリーテリングができる 【思考・判断・表現】子どもの発達に即したお話を選ぶことができる 【態度・志向性】お話を最後まで語ることができる						
評価方法	[知識・理解] 実技発表 20% [技能] 実技発表 40% [思考・判断・表現] 実技発表 20% [態度・志向性] 授業態度 20%						
備考							
テキスト・教材・経費等	参考書 ・『こんにちは、昔話です』 小澤俊夫 小澤昔ばなし研究所、2009年 ・『子どもにとどく語りを』 藤井いつみ 小澤昔ばなし研究所、2008年 ・『お話のろうそく』 東京こども図書館 ・『日本の昔話5巻本』 福音館書店						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:昔話は口承文芸 第3回:昔話はおとぎ話 第4回:欠如が充足されていく構造 第5回:一次元性、実技発表 第6回:昔話のもつ精密さ、実技発表 第7回:中身を抜いて語る、実技発表 第8回:平面性、実技発表、実技発表 第9回:外的原動力で前進させる、実技発表 第10回:主人公中心の物語、実技発表 第11回:0.1.2才の絵本、実技発表 第12回:昔話絵本、実技発表 第13回:科学絵本、実技発表 第14回:子ども目線の絵本、実技発表 第15回:まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表						
準備学習(予習・復習)	予習・復習はお話を覚えることです。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A3025	科目名	保育内容(言語表現Ⅰ)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3130						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題設定力、創造・表現力					
概要	口承文芸である昔話は、長い間、口で語り、耳で聞かれていました。そのため、長い時間の中で、聞く人にとってイメージしやすい形ができあがったと考えられています。授業では、その形(昔話の語法)を理解し、ストーリーテリングの技術を習得することを目的とします。この授業では、実技発表としてお話を覚えストーリーテリングをします。						
教育目標との関連	専門科目【保育内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」に関連します。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得の選択科目です。						
到達目標	【知識・理解】昔話の語法を理解する 【技能】子どもが聞きやすい声でストーリーテリングができる 【思考・判断・表現】子どもの発達に即したお話を選ぶことができる 【態度・志向性】お話を最後まで語ることができる						
評価方法	[知識・理解] 実技発表 20% [技能] 実技発表 40% [思考・判断・表現] 実技発表 20% [態度・志向性] 参加状況 20%						
備考							
テキスト・教材・経費等	参考書 『こんにちは、昔話です』 小澤俊夫 小澤昔ばなし研究所、2009年 『子どもにとどく語りを』 藤井いつみ 小澤昔ばなし研究所、2008年 『お話のろうそく』 東京こども図書館 『日本の昔話5巻本』 福音館書店						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:昔話は口承文芸 第3回:昔話はおとぎ話 第4回:欠如が充足されていく構造 第5回:一次元性、実技発表 第6回:昔話のもつ精密さ、実技発表 第7回:中身を抜いて語る、実技発表 第8回:平面性、実技発表、実技発表 第9回:外的原動力で前進させる、実技発表 第10回:主人公中心の物語、実技発表 第11回:0.1.2才の絵本、実技発表 第12回:昔話絵本、実技発表 第13回:科学絵本、実技発表 第14回:子ども目線の絵本、実技発表 第15回:まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表						
準備学習(予習・復習)	予習、復習はお話を覚えることです。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A3026	科目名	臨床相談	単位数	2
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3150				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育所等の児童福祉施設や幼稚園で見られる子どもの発達や性格・行動上の課題等について、どのように理解し援助していけばよいか、理論を学ぶと同時に具体的な事例を通して実践力を身につけていきます。また、ワークによる体験的な学習も行います。				
教育目標との関連	専門科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」、「一人一人の子どもや保護者に対する基礎的な相談・援助ができる」、「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの行動の背景にある様々な要因について理解する。 【技能】カウンセリング等、治療的な援助についての基礎的な知識、技法を理解する。 【思考・判断・表現】子どもへの個別的な支援について、適切な判断を行い実行できる。 【態度・志向性】子どもや保護者の言動に関心を持ち、積極的に援助を行う態度を身につける。				
評価方法	授業への参加状況(30%)授業中の課題の達成状況(30%)レポート課題の達成状況(40%)以上の観点から総合的に評価します。				
備考	日常的に起こる子どもの問題について考えていきます。後期の「相談援助」へとつながっていく授業です。				
テキスト・教材・経費等	「実践・保育相談支援」みらい 2,000円				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解の方法:ライフステージの視点から</li> <li>2. 子ども理解の方法:保育現場での理解</li> <li>3. 保育相談支援における保育者の役割</li> <li>4. 保護者に対する保育相談支援の意義</li> <li>5. 保育相談支援の基本:子どもの最善の利益と福祉の重視</li> <li>6. 保育相談支援の基本:保護者の養育力の向上に資する支援</li> <li>7. 保育相談支援の基本:関係機関等との連携・協力</li> <li>8. 保護者支援の方法と技術:カウンセリングマインド</li> <li>9. 保護者支援の方法と技術:支援のプロセス</li> <li>10. 保護者支援の方法と技術:記録、評価、カンファレンス</li> <li>11. 保育所・幼稚園における保育相談支援の実践</li> <li>12. 保育所・幼稚園における特別な対応を要する家庭への支援</li> <li>13. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援</li> <li>14. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントカード、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	保育実習や幼稚園教育実習において、子どもの発達や行動についてよく観察し、どのように理解し援助すればよいか、考えるようにしてください。日頃から人とのコミュニケーションのとり方について、自分自身の特徴や課題について考えてみましょう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。))の理論及び方法 担当形態:単独 保育士資格 保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A3027	科目名	臨床相談	単位数	2
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3150				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育所等の児童福祉施設や幼稚園で見られる子どもの発達や性格・行動上の課題等について、どのように理解し援助していけばよいか、理論を学ぶと同時に具体的な事例を通して実践力を身につけていきます。また、ワークによる体験的な学習も行います。				
教育目標との関連	専門科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」、「一人一人の子どもや保護者に対する基礎的な相談・援助ができる」、「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの行動の背景にある様々な要因について理解する。 【技能】カウンセリング等、治療的な援助についての基礎的な知識、技法を理解する。 【思考・判断・表現】子どもへの個別的な支援について、適切な判断を行い実行できる。 【態度・志向性】子どもや保護者の言動に関心を持ち、積極的に援助を行う態度を身につける。				
評価方法	授業への参加状況(30%)授業中の課題の達成状況(30%)レポート課題の達成状況(40%)以上の観点から総合的に評価します。				
備考	日常的に起こる子どもの問題について考えていきます。後期の「相談援助」へとつながっていく授業です。				
テキスト・教材・経費等	「実践・保育相談支援」みらい 2,000円				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解の方法:ライフステージの視点から</li> <li>2. 子ども理解の方法:保育現場での理解</li> <li>3. 保育相談支援における保育者の役割</li> <li>4. 保護者に対する保育相談支援の意義</li> <li>5. 保育相談支援の基本:子どもの最善の利益と福祉の重視</li> <li>6. 保育相談支援の基本:保護者の養育力の向上に資する支援</li> <li>7. 保育相談支援の基本:関係機関等との連携・協力</li> <li>8. 保護者支援の方法と技術:カウンセリングマインド</li> <li>9. 保護者支援の方法と技術:支援のプロセス</li> <li>10. 保護者支援の方法と技術:記録、評価、カンファレンス</li> <li>11. 保育所・幼稚園における保育相談支援の実践</li> <li>12. 保育所・幼稚園における特別な対応を要する家庭への支援</li> <li>13. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援</li> <li>14. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントカード、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	保育実習や幼稚園教育実習において、子どもの発達や行動についてよく観察し、どのように理解し援助すればよいか、考えるようにしてください。日頃から人とのコミュニケーションのとり方について、自分自身の特徴や課題について考えてみましょう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。))の理論及び方法 担当形態:単独 保育士資格 保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A3028	科目名	臨床相談	単位数	2
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3150				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育所等の児童福祉施設や幼稚園で見られる子どもの発達や性格・行動上の課題等について、どのように理解し援助していけばよいか、理論を学ぶと同時に具体的な事例を通して実践力を身につけていきます。また、ワークによる体験的な学習も行います。				
教育目標との関連	専門科目【保育の内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」、「一人一人の子どもや保護者に対する基礎的な相談・援助ができる」、「子どもの最善の利益を尊重する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】子どもの行動の背景にある様々な要因について理解する。 【技能】カウンセリング等、治療的な援助についての基礎的な知識、技法を理解する。 【思考・判断・表現】子どもへの個別的な支援について、適切な判断を行い実行できる。 【態度・志向性】子どもや保護者の言動に関心を持ち、積極的に援助を行う態度を身につける。				
評価方法	授業への参加状況(30%)授業中の課題の達成状況(30%)レポート課題の達成状況(40%)以上の観点から総合的に評価します。				
備考	日常的に起こる子どもの問題について考えていきます。後期の「相談援助」へとつながっていく授業です。				
テキスト・教材・経費等	「実践・保育相談支援」みらい 2,000円				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解の方法:ライフステージの視点から</li> <li>2. 子ども理解の方法:保育現場での理解</li> <li>3. 保育相談支援における保育者の役割</li> <li>4. 保護者に対する保育相談支援の意義</li> <li>5. 保育相談支援の基本:子どもの最善の利益と福祉の重視</li> <li>6. 保育相談支援の基本:保護者の養育力の向上に資する支援</li> <li>7. 保育相談支援の基本:関係機関等との連携・協力</li> <li>8. 保護者支援の方法と技術:カウンセリングマインド</li> <li>9. 保護者支援の方法と技術:支援のプロセス</li> <li>10. 保護者支援の方法と技術:記録、評価、カンファレンス</li> <li>11. 保育所・幼稚園における保育相談支援の実践</li> <li>12. 保育所・幼稚園における特別な対応を要する家庭への支援</li> <li>13. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援</li> <li>14. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントカード、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	保育実習や幼稚園教育実習において、子どもの発達や行動についてよく観察し、どのように理解し援助すればよいか、考えるようにしてください。日頃から人とのコミュニケーションのとり方について、自分自身の特徴や課題について考えてみましょう。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。))の理論及び方法 担当形態:単独 保育士資格 保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A3029	科目名	乳児保育			単位数	2
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3170						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子どもや保護者を取り巻く環境の変化により、保育所への期待が高まり、保育所の役割や機能、乳児保育の需要も高まっています。子どもの発達の道筋を踏まえた保育、保育所における乳児保育のあり方や基本を学びます。保育内容、保育環境や援助方法、子育て支援などを総合的に学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳児保育の意義と保育に必要な基本的な課題を理解する。 2. 0, 1, 2歳児の発達や生活や遊びと、その援助方法を理解する。 3. 乳児保育の状況等を学び、課題意識を持ち積極的に提案する。
評価方法	課題レポート(50%)実践プレゼン(20%)小テスト(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	乳児保育(北大書房)(1700円＋税) 保育所保育指針解説(フレーベル館)(190円＋税)

授業計画	1. 乳児保育の現状 2. 乳児保育の意義と基本 3. 子ども理解と保育(1)生命の誕生と保育 4. 子ども理解と保育(2)子どもの生活 5. 乳児の発達と保育(1)0歳児 6. 乳児の発達と保育(2)1歳児 7. 乳児の発達と保育(3)2歳児 8. 乳児保育の内容(1)保健・衛生及び安全 9. 乳児保育の内容(2)子どもの育ちと食事 10. 0歳児の遊びと環境 11. 1歳児の遊びと環境 12. 2歳児の遊びと環境 13. 保育環境の提案及び発表 14. 保育計画と記録 15. 家庭・地域の協働と今後の課題
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	・乳児保育(テキスト)保育所保育指針の指定ページを事前に読み、乳児内容を理解しましょう。 ・授業のキーワードとなるところは復習し、テキストでも確認しましょう。 子どもの発達と遊び、保育環境の構成を理解し、グループ和ワークをします。まとめ・発表力をつけましょう。 乳児保育の基本を、保育実習などで確認した内容を話し合い、関連性や具体性、課題等を理解し活用方法を自発的に提案しましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A3030	科目名	乳児保育	単位数	2
担当者	池田 淑子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3170				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	子どもや保護者を取り巻く環境の変化により、保育所への期待が高まり、保育所の役割や機能、乳児保育の需要も高まっています。子どもの発達の道筋を踏まえた保育、保育所における乳児保育のあり方や基本を学びます。保育内容、保育環境や援助方法、子育て支援などを総合的に学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。				
到達目標	1. 乳児保育の意義と保育に必要な基本的な課題を理解する。 2. 0, 1, 2歳児の発達や生活や遊びと、その援助方法を理解する。 3. 乳児保育の状況等を学び、課題意識を持ち積極的に提案する。				
評価方法	課題レポート(50%)実践プレゼン(20%)小テスト(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	乳児保育(北大書房)(1700円+税) 保育所保育指針解説(フレーベル館)(190円+税)				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の現状</li> <li>2. 乳児保育の意義と基本</li> <li>3. 子ども理解と保育(1)生命の誕生と保育</li> <li>4. 子ども理解と保育(2)子どもの生活</li> <li>5. 乳児の発達と保育(1)0歳児</li> <li>6. 乳児の発達と保育(2)1歳児</li> <li>7. 乳児の発達と保育(3)2歳児</li> <li>8. 乳児保育の内容(1)保健・衛生及び安全</li> <li>9. 乳児保育の内容(2)子どもの育ちと食事</li> <li>10. 0歳児の遊びと環境</li> <li>11. 1歳児の遊びと環境</li> <li>12. 2歳児の遊びと環境</li> <li>13. 保育環境の提案及び発表</li> <li>14. 保育計画と記録</li> <li>15. 家庭・地域の協働と今後の課題</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育(テキスト)保育所保育指針の指定ページを事前に読み、乳児内容を理解しましょう。</li> <li>・授業のキーワードとなるところは復習し、テキストでも確認しましょう。</li> <li>子どもの発達と遊びの保育環境を理解し、グループワークをする。グループワークは、まとめ・発表力をつけましょう。</li> </ul> 乳児保育の基本を、保育実習などで確認した内容を話し合い、関連性や具体性、課題等を理解しましょう。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A3031	科目名	乳児保育			単位数	2
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3170						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	子どもや保護者を取り巻く環境の変化により、保育所への期待が高まり、保育所の役割や機能、乳児保育の需要も高まっています。子どもの発達の道筋を踏まえた保育、保育所における乳児保育のあり方や基本を学びます。保育内容、保育環境や援助方法、子育て支援などを総合的に学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。
到達目標	1. 乳児保育の意義と保育に必要な基本的な課題を理解する。 2. 0, 1, 2歳児の発達や生活や遊びと、その援助方法を理解する。 3. 乳児保育の状況等を学び、課題意識を持ち積極的に提案する。
評価方法	課題レポート(50%)実践プレゼン(20%)小テスト(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	乳児保育(北大書房)(1700円+税) 保育所保育指針解説(フレーベル館)(190円+税)

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の現状</li> <li>2. 乳児保育の意義と基本</li> <li>3. 子ども理解と保育(1)生命の誕生と保育</li> <li>4. 子ども理解と保育(2)子どもの生活</li> <li>5. 乳児の発達と保育(1)0歳児</li> <li>6. 乳児の発達と保育(2)1歳児</li> <li>7. 乳児の発達と保育(3)2歳児</li> <li>8. 乳児保育の内容(1)保健・衛生及び安全</li> <li>9. 乳児保育の内容(2)子どもの育ちと食事</li> <li>10. 0歳児の遊びと環境</li> <li>11. 1歳児の遊びと環境</li> <li>12. 2歳児の遊びと環境</li> <li>13. 保育環境の提案及び発表</li> <li>14. 保育計画と記録</li> <li>15. 家庭・地域の協働と今後の課題</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育(テキスト)保育所保育指針の指定ページを事前に読み、乳児内容を理解しましょう。</li> <li>・授業のキーワードとなるところは復習し、テキストでも確認しましょう。</li> <li>子どもの発達と遊び、保育環境について理解し、グループワークに参加しましょう。グループワークは、まとめ・発表力をつけましょう。乳児保育の基本を、保育実習などで確認した内容を話し合い、関連性や具体性、課題等を理解しましょう。</li> </ul>

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目



時間割番号	1A3032	科目名	音楽Ⅲ	単位数	1
担当者	野上 俊之				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	歌い、演奏するための知識や技能を習得するとともに、音楽活動する楽しさを体験することによって、音楽表現の幅を広げバリエーション力を高めます。これにより、子どもたちの音楽的な遊びに気づき、共感できる感性と豊かで心のこもった表現力を身につけてほしい。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力して育ち合おうとする」と関連しています。				
到達目標	S:豊かな表現で演奏に説得力がある。 A:音楽の再創造ができる。 B:音楽表現の手段として、音源の活用が巧みである。 C:音楽活動の楽しさを体感できる。				
評価方法	授業態度(30%) 参加状況(30%) 課題消化状況(40%) を総合して評価します。				
備 考					
テキスト・教材・経費等	必要に応じて資料や教材を配布します。				
授業計画	第1回:オリエンテーション(音楽表現活動の知識と技術、子どもの実態) 第2回:保育現場のうたベストテン 第3回:合唱にアレンジ 第4回:親る音楽の歴史 第5回:ミュージカル鑑賞 第6回:音を創る-手作り楽器、既製の楽器 第7回:合奏-選曲、編曲 第8回:合奏-練習(個人) 第9回:合奏-練習(グループ)、評価の観点 第10回:合奏-発表 第11回:4~6手連弾-選曲、編曲、練習 第12回:連弾-個人練習 第13回:連弾-合わせ 第14回:連弾-発表 第15回:まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク 発表				
準備学習(予習・復習)	連弾や器楽合奏では、自分で選曲したり自前の楽器の活用も可能ですが、保育で使えるものが大前提です。グループで演奏することになりますから個人練習は、授業外で時間を作って臨んでほしい。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術(選択科目)				

時間割番号	1A3033	科目名	音楽Ⅲ			単位数	1
担当者	野上 俊之						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A4-3010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	歌い、演奏するための知識や技能を習得するとともに、音楽活動する楽しさを体験することによって、音楽表現の幅を広げバリエーション力を高めます。これにより、子どもたちの音楽的な遊びに気づき、共感できる感性と豊かで心のこもった表現力を身につけてほしい。
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「人と信頼関係を築き、相互に協力して育ち合おうとする」と関連しています。
到達目標	S:豊かな表現で演奏に説得力がある。 A:音楽の再創造ができる。 B:音楽表現の手段として、音源の活用が巧みである。 C:音楽活動の楽しさを体感できる。
評価方法	授業態度(30%) 参加状況(30%) 課題消化状況(40%) を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	必要に応じて資料や教材を配布します。

授業計画	第1回:オリエンテーション(音楽表現活動の知識と技術、子どもの実態) 第2回:保育現場のうたベストテン 第3回:合唱にアレンジ 第4回:親る音楽の歴史 第5回:ミュージカル鑑賞 第6回:音を創る—手づくり楽器、既製の楽器 第7回:合奏—選曲、編曲 第8回:合奏—練習(個人) 第9回:合奏—練習(グループ)、評価の観点 第10回:合奏—発表 第11回:4～6手連弾—選曲、編曲、練習 第12回:連弾—個人練習 第13回:連弾—合わせ 第14回:連弾—発表 第15回:まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク 発表
準備学習(予習・復習)	連弾や器楽合奏では、自分で選曲したり自前の楽器の活用も可能ですが、保育で使えるものが大前提です。グループで演奏することになりますから個人練習は、授業外で時間を作って臨んでほしい。

免許・資格	幼二種免・保育士
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術(選択科目)

時間割番号	1A3034	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	鈴木 隆男				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク、レポート作成				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また学外で行われる「わ・あい〜コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3035	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	野上 俊之				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また学外で行われる「わ・あい～コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3036	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	久保田 貴美子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・創作(制作)等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また後期に学外で行われる「わ・あい～コンサルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3037	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	菊野 秀樹				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また学外で行われる「わ・あい〜コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3038	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	七木田 方美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考	7月に開催される広島市東区とのイベントで、親子のふれあい遊びを提供します。				
テキスト・教材・経費等					
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組む必要があります。また学外で行われる「わ・あい〜コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3039	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	馬杉 知佐				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組む必要があります。また学外で行われる「わ・あい〜コンセルヒじやま」で成果を發表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					



時間割番号	1A3040	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また学外で行われる「わ・あい〜コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3041	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この科目は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また学外で行われる「わ・あい～コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くあります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3042	科目名	特別研究 I	単位数	1
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-3031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、自己省察力				
概要	この授業は、卒業研究につながるものとして、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、自らの研究課題を絞り込んでいきます。卒業論文・(創作)制作等の様式や研究形態については、指導教員と協議します。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点到達目標とし、研究を通して保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域の内容と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を習得する。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究計画を立てる。 【態度・志向性】課題を進んで検証しながら、意欲的に研究に取り組もうとする。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】文献調査や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】研究テーマの設定と研究計画の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト: 各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 研究内容(テーマ)を決めます。 2: 研究計画を立案します。 3: 担当教員の指導のもとで研究を進めます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	自らの研究テーマに主体的に取り組むことが必要です。また、学外でおこなわれる「わ・あい～コンセルールひじやま～」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A3050	科目名	器楽	単位数	1
担当者	馬杉 知佐				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-2030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育現場では、保育者が子どもといっしょにいきたいと「うたって」「ひける」ことが求められています。この授業では、子どもたちと共に音楽を楽しむために必要な、音楽の基礎的技術の習得をめざします。音楽を楽しみながら身につけるためには、体からあふれ出す音、声になって行き交う音、楽器を通して響き合う音、音楽を共有する喜びを感じながら学んでいきましょう。				
教育目標との関連	専門科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達指標「保育者に要求される音楽的資質について理解する」「正しい読譜力、豊かな演奏技術の習得、童謡の詩の内容を読み取る」と関連しています。「うたう」「ひく」「かたる」などの諸活動から、音楽を総合的に表現できるよう学習してください。				
到達目標	S:音楽を理解し、正しい読譜力、豊かな音楽表現を追求しようとしている。 A:音楽を理解し、豊かな音楽表現ができる。 B:音楽を理解し、音楽表現ができる。 C:音楽を表現しようとしている。				
評価方法	〔知識・理解〕楽譜を読み取る。(20%) 〔技能〕正しい読譜力と演奏技術。(20%) 〔思考・判断・表現〕より良い音楽を求めようとしている。(20%) 〔態度・志向性〕毎回の授業への取り組み状況。(40%)				
備考					
テキスト・教材・経費等	子どものうた200(チャイルド社)。 ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタなど				
授業計画	1～5 導入、「第1期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 6～9 「第2期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 10～14 「第3期弾きうたい課題」、練習曲、課題演奏。 15 練習曲演奏 16～20 「第4期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 21～24 「第5期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 25～29 「第6期弾きうたい課題」、「練習曲」、課題演奏。 30 練習曲演奏				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表				
準備学習(予習・復習)	毎回の授業で指摘された問題点や提示された課題を、自分の練習の中で繰り返し直ししながら実践することが大切です。毎日練習時間を確保してください。ただ長時間弾くだけでなく、自分の音や声を良く聞いて、的確な判断をしながら練習してください。 良い音楽、良い演奏をたくさん聴いてください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術 保育表現技術				

時間割番号	1A3070	科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	単位数	3
担当者	菊野 秀樹、野上 俊之、七木田 方美				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	講義／実習
ナンバリング	1A5-4011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力、チームワーク力、自己省察力、創造・表現力				
概要	教育実習は、幼稚園の幼児と実際に接し、保育者として必要な知識・態度・技能を身につけることに、その意義と目的があります。「子どもを知る」「保育を知る」「自分を知る」を目指して、幼児の生活に即した指導計画の作成を行い、幼児一人ひとりの思いや活動を理解するとともに、幼児の自己実現を図るための環境構成等の指導技術について学んでいきます。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目です。				
到達目標	次の4つの観点などを到達目標としています。 【知識・理解】子どもを理解するとともに保育者の職務について理解する 【技能】実習記録が書け、表現力豊かに指導や援助ができる 【思考・判断・表現】自己の課題に基づいた目標を設定し、実習をとおして評価・反省ができる 【関心・意欲・態度】マナーを守り、学ぼうとする意欲や仕事に対する責任感をもつ				
評価方法	到達目標の4つの観点から、実習に係る手続きや希望届等の書類の提出状況、実習の事前・事後に課すレポート及び実習評価を総合して評価します。なお、この科目は、全出席(出勤)を前提としています。				
備考	〈履修要件〉 幼稚園教育実習Ⅱの履修にあたっては、幼稚園教育実習Ⅰ(2単位)を含む当該免許資格専門科目(1年次開講)の2/3以上の単位取得を要件とする。				
テキスト・教材・経費等	・文部科学省2008幼稚園教育要領 フレーベル館 190円+税 ・実習ハンドブック				
授業計画	講義(事前・事後指導)8時間 第1回:オリエンテーション～幼稚園教育実習Ⅱの年間予定と実習の意義について～ 第2回:1組、2組(2回に分けて)全日指導の内容について 第3回:1組、2組(2回に分けて)クラスの概要について 第4回:学外幼稚園実習の準備 第5回:学外幼稚園実習の全体評価と課題 第6回:実習修了式～2年間の実習を振り返る  実習135時間 ①付属幼稚園実習(1週間) ○観察・参加及び全日指導実習 ②学外(付属を含む)幼稚園実習(2週間) ○観察・参加及び部分・全日指導実習				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、グループワーク				
準備学習(予習・復習)	幼稚園教育実習Ⅰと同様に、自己目標のレポート、自己評価のレポート、実習日誌等をポートフォリオにまとめます。幼稚園教育実習Ⅱではさらに、部分・全日指導になりますので、指導案の作成や教材研究、環境構成の準備等が必要になります。				
免許・資格	幼二種免				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育実習 担当形態:複数				

時間割番号	1A3080	科目名	保育実習指導Ⅱ			単位数	1
担当者	久保田 貴美子、馬杉 知佐、楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A5-4021						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		傾聴・受得力、自己省察力、創造・表現力					
概要	保育実習Ⅱの目的を効果的に達成するための授業です。 実習前には過去の保育実習における自分の課題や既習の教科の内容を踏まえ、指導実習に向けて保育実践力を養います。保育士としての専門性や職業倫理を身につけます。 実習後には自己評価を行い、自分の課題を明確にします。						
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、すべての学習到達度指標と関連しています。						
到達目標	【知識・理解】保育所の機能、役割など保育全般の基礎的な内容について理解する。 【技能】実習や既習の教科の内容を踏まえ、教科横断的な学力や保育実践力を身につける。 【思考・判断・表現】実習の総括と自己評価を行い、保育に対する成果と課題を明確にする。 【態度・志向性】積極的に授業に参加し、仲間と協力して実習の事前事後の学びを深めることができる。						
評価方法	参加状況及び授業態度(60%)、レポート、課題提出状況など(40%)を総合的に評価します。 なお、この科目は全出席を前提としています。						
備考							
テキスト・教材・経費等	「最新保育講座13 保育実習」 ミネルヴァ書房 2,200円+税 「実習ハンドブック」「実習日誌ポートフォリオ」 「実習生のための自己評価チェックリスト」 萌文書林 700円 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 190円+税 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 249+税						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 過去の保育実習を踏まえた自己課題の整理 第3回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第4回 子どもの保育と保護者支援 第5回 子どもの状態に応じた適切ななかかわり 第6回 表現技術を生かした保育実践 第7回 保育の全体計画に基づく具体的な計画 第8回 実習記録 第9回 指導案の作成 第10回 保育士の専門性と職業倫理 第11回 保育実習の心構え、留意事項 第12回 保育実習の準備 第13回 保育実習の総括と自己評価 第14回 保育の課題について 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	自己省察、課題発見学習						
準備学習(予習・復習)	専門教育科目のすべての授業が、保育実習、保育実習指導の授業に関連しています。 普段の授業の内容を実習場面でどう生かしていくのか、日ごろから考え、バーチャル保育室やカンファレンスルームを利用して自分の保育の力を養成して下さい。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	専門科目Ⅱ(選択) 保育実習・保育実習指導						

時間割番号	1A3081	科目名	保育実習指導Ⅲ			単位数	1
担当者	内本 充統						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A5-4031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、コミュニケーション力、自己省察力、プレゼンテーション力						
概要	保育実習Ⅲの目的を効果的に達成するための授業です。 実習前には過去の保育実習における自分の課題や既習の教科の内容を踏まえ、保育実践力を養います。保育士としての専門性や職業倫理を身につけます。 実習後には自己評価を行い、自分の課題を明確にします。						
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、すべての学習到達度指標と関連しています。						
到達目標	【知識・理解】保育所以外の児童(または社会)福祉施設の役割、機能等、保育全般の専門的な理解を深める。 【技能】実習や既習の教科の内容を踏まえ、保育実践力を身につける。 【思考・判断・表現】実習の総括と自己評価を行い、保育に対する成果と課題を明確にして、保育の改善に取り組むことができる。 【態度・志向性】子どもの最善の利益について考えたとともに保育者としての職業倫理を身につける。						
評価方法	参加状況及び授業態度(60%)、レポート、課題提出状況など(40%)を総合的に評価します。 なお、この科目は全出席を前提としています。						
備考							
テキスト・教材・経費等	「最新保育講座13 保育実習」 ミネルヴァ書房 2,200円+税 「実習ハンドブック」「実習日誌ポートフォリオ」 「実習生のための自己評価チェックリスト」 萌文書林 700円						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:過去の保育実習を踏まえた自己課題の整理 第3回:子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第4回:子どもの保育と保護者支援 第5回:子どもの状態に応じた適切ななかかわり 第6回:表現技術を生かした保育実践 第7回:児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 第8回:実習記録 第9回:児童福祉施設等(保育所以外)における支援の実際 第10回:保育士の専門性と職業倫理 第11回:保育実習の心構え、留意事項 第12回:保育実習の準備 第13回:保育実習の総括と自己評価 第14回:保育の課題について 第15回:まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、自己目標・自己評価、グループディスカッション						
準備学習(予習・復習)	専門教育科目のすべての授業が、保育実習、保育実習指導の授業に関連しています。 普段の授業の内容を実習場面でどう生かしていくのか、日ごろから考え、保育室やカンファレンスルームを利用して自分の保育の力を養成して下さい。 児童福祉施設でのボランティア活動等に積極的に参加するようにしましょう。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	保育士資格 保育実習・保育実習指導						

時間割番号	1A3082	科目名		単位数	2
担当者	久保田 貴美子、馬杉 知佐、楠本 恭之				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1A5-4041				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	傾聴・受心力、自己省察力、創造・表現力				
概要	一年保育実習 I 4単位と保育実習指導 I 1単位を履修した者が、資質や保育技術を高めるために行う実習です。保育所における実習の中で、部分指導や全日指導が課せられます。ここでは、指導案を作成し指導実習を行うことが求められます。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、すべての学習到達度指標と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】保育計画・指導計画などの理解をするとともに、指導計画を立案できる。 【技能】部分指導、全日指導実習を行い、計画に基づいて実践できる。 【思考・判断・表現】指導後に自らの保育を振り返り、点検、評価、改善できる。 【態度・志向性】保育所の業務を遂行するために積極的に行動しようとする。				
評価方法	実習日誌、レポートなど(50%)、実習先評価(50%)により総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	「最新保育講座13 保育実習」 ミネルヴァ書房 2,200円+税 「実習ハンドブック」「実習日誌ポートフォリオ」 「実習生のための自己評価チェックリスト」 萌文書林 700円 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 190円+税 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 249円+税				
授業計画	保育所において実習(部分指導、全日指導)を行う。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習				
準備学習(予習・復習)	【事前】実習先保育所は学生が選ぶのが原則であるため、早めに希望する保育所を選定しておいてください。日ごろの授業の集大成としての実習です。具体的な自己目標を設定し、自分の学んできた力を十分に発揮できるよう、バーチャル保育室やカンファレンスルームを活用し準備しましょう。指導案の作成などは早めに準備しておいてください。 【実習】実習後には毎回実習日誌を書きます。その日の実習を振り返り、省察し次の日の保育につなげましょう。 【事後】実習を振り返り自己評価を行いましょう。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	専門科目 II (選択) 保育実習・保育実習指導				



時間割番号	1A3083	科目名		単位数	2
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1A5-4051				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	傾聴・受信力、コミュニケーション力、自己省察力、想像・表現力				
概 要	一年次の保育実習4単位と保育実習指導 I 1単位を履修し、合計5単位を取得した者が、資質や保育技術を高めるために行う実習です。保育所以外の児童福祉施設又は社会福祉施設において10日間の実習が課せられます。なお、児童福祉施設以外の社会福祉施設を希望する場合は、その施設の保育士資格を有する職員の指導を受けることを条件としています。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、すべての学習到達度指標と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】保育所以外の児童(または社会)福祉施設の役割や機能及び保育士の業務内容について、実践を通じて理解する。 【技能】施設に応じた、より専門的な保育技術を身につける。 【思考・判断・表現】利用者に応じた、個別的な援助方法を考え、実践することができる。 【態度・志向性】保育所以外の児童(または社会)福祉施設の業務を遂行するために積極的に行動するとともに保育士としての職業倫理を身につける。				
評価方法	実習日誌、レポートなど(50%)、実習先評価(50%)により総合的に評価します。				
備 考					
テキスト・教材・経費等	「最新保育講座13 保育実習」 ミネルヴァ書房 2,200円+税 「実習ハンドブック」「実習日誌ポートフォリオ」 「実習生のための自己評価チェックリスト」 萌文書林 700円				
授業計画	保育所以外の児童福祉施設又は社会福祉施設において10日間の実習を行う。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習(実習)				
準備学習(予習・復習)	実習先施設は学生が選ぶことになるので、早めに希望する施設を選定しておいてください。日ごろの授業の集大成としての実習となるので、自分の学んできた力を十分に発揮できるよう保育室やカンファレンスルームを活用し、準備をして臨むようにしてください。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保育士資格 保育実習・保育実習指導				

時間割番号	1A4002	科目名	相談援助	単位数	1
担当者	岡田 和治				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4010				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	保育士は子どもの保育と保護者への相談支援が業務とされています。子育てに関して保護者や関係者から相談を受けて、適切な相談援助ができることが、保育士の資質として重要です。その際に必要な適切な支援ができるよう演習形式で知識や技術を学びます。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達指標「ひとり一人の子どもや保護者に対する基礎的な相談・援助ができる」と関連しています。
到達目標	保護者や関係者からの相談が受けることのできる知識と技術を身に付けることができます。保護者が相談しやすい保育士となる基本的な態度や資質を醸成します。
評価方法	次の1, 2, 3を総合評価(100点)します。 1 課題提出状況(20点): 2回レポートの提出を求めます。 2 授業への参加状況(30点): 毎回出席票又はワークシートを提出してもらいます。 3 試験(50点): 習熟度を評価します。 なお、欠席が1/3(6回)以上の場合には、評価の対象とならないので注意してください。
備考	
テキスト・教材・経費等	テキスト・教科書は使用しません。毎回資料等を用意します。

授業計画	第1回 保育士の行う相談援助とは 第2回 相談援助の理論「ソーシャルワーク」 第3回 相談面接技術「傾聴」 第4回 相談面接技術「面接と支援」 第5回 育児相談と育児観 第6回 相談演習1:生活習慣 第7回 相談演習2:発達相談 言葉が遅い 第8回 相談演習3:児童虐待(1)ネグレクト 第9回 相談演習4:児童虐待(2)発見と対応 第10回 相談演習5:ひとり親家庭 第11回 相談演習6:育児不安と子育て支援 第12回 相談演習7:障害のある子どもをもつ保護者の支援 第13回 家庭へのアプローチ 第14回 所内連携・関係機関の連携とネットワーク 第15回 苦情解決と第三者評価
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー グループ学習 問題解決学習
準備学習(予習・復習)	①児童家庭福祉、発達心理学、社会的養護などの授業で学習したことを復習しておきましょう。 ②NHK Eテレ「すくすく子育て」(土曜日21:00)を見るようにこちらがけましょう。 ③日ごろから自分のコミュニケーションを意識的にすることも大切です。 ④予習・復習の具体的な学修方法や内容など (予習)授業終了時に次回の演習内容についてお話ししますので、そのテーマに沿って他の講義等の内容を再学習しておいてください。例. 第2回:ソーシャルワークの定義 (復習)授業の中で体験した内容を、思い出してまとめておくこと。例. 第2回:保育士がソーシャルワークを担う意義について

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保:保育の本質・目的の理解に関する科目

時間割番号	1A4003	科目名	相談援助	単位数	1
担当者	岡田 和治				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育士は子どもの保育と保護者への相談支援が業務とされています。子育てに関して保護者や関係者から相談を受けて、適切な相談援助ができることが、保育士の資質として重要です。その際に必要な適切な支援ができるよう演習形式で知識や技術を学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達度指標「ひとり一人の子どもや保護者に対する基礎的な相談・援助ができる」と関連しています。				
到達目標	保護者や関係者からの相談が受けることのできる知識と技術を身に付けることができます。保護者が相談しやすい保育士となる基本的な態度や資質を醸成します。				
評価方法	次の1, 2, 3を総合評価(100点)します。 1 課題提出状況(20点): 2回レポートの提出を求めます。 2 授業への参加状況(30点): 毎回出席票又はワークシートを提出してもらいます。 3 試験(50点): 習熟度を評価します。 なお、欠席が1/3(6回)以上の場合には、評価の対象とならないので注意してください。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト・教科書は使用しません。毎回資料等を用意します。				
授業計画	第1回 保育士の行う相談援助とは 第2回 相談援助の理論「ソーシャルワーク」 第3回 相談面接技術「傾聴」 第4回 相談面接技術「面接と支援」 第5回 育児相談と育児観 第6回 相談演習1:生活習慣 第7回 相談演習2:発達相談 言葉が遅い 第8回 相談演習3:児童虐待(1)ネグレクト 第9回 相談演習4:児童虐待(2)発見と対応 第10回 相談演習5:ひとり親家庭 第11回 相談演習7:育児不安と子育て支援 第12回 相談演習8:障害のある子どもの保護者支援 第13回 家庭へのアプローチ 第14回 所内連携・関係機関の連携とネットワーク 第15回 苦情解決と第三者評価				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー グループ学習 問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	①児童家庭福祉、発達心理学、社会的養護などの授業で学習したことを復習しておきましょう。 ②NHK Eテレ「すくすく子育て」(土曜日21:00)を見るようにこちらがけましょう。 ③日ごろから自分のコミュニケーションを意識的にすることも大切です。 ④予習・復習の具体的な学修方法や内容など (予習)授業終了時に次回の演習内容についてお話ししますので、そのテーマに沿って他の講義等の内容を再学習しておいてください。例. 第2回:ソーシャルワークの定義 (復習)授業の中で体験した内容を、思い出してまとめておくこと。例. 第2回:保育士がソーシャルワークを担う意義について				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の本質・目的の理解に関する科目				

時間割番号	1A4004	科目名	相談援助	単位数	1
担当者	岡田 和治				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	保育士は子どもの保育と保護者への相談支援が業務とされています。子育てに関して保護者や関係者から相談を受けて、適切な相談援助ができることが、保育士の資質として重要です。その際に必要な適切な支援ができるよう演習形式で知識や技術を学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の本質・目的の理解」に位置付き、学習到達指標「ひとり一人の子どもや保護者に対する基礎的な相談・援助ができる」と関連しています。				
到達目標	保護者や関係者からの相談が受けることのできる知識と技術を身に付けることができます。保護者が相談しやすい保育士となる基本的な態度や資質を醸成します。				
評価方法	次の1, 2, 3を総合評価(100点)します。 1 課題提出状況(20点): 2回レポートの提出を求めます。 2 授業への参加状況(30点): 毎回出席票又はワークシートを提出してもらいます。 3 試験(50点): 習熟度を評価します。 なお、欠席が1/3(6回)以上の場合には、評価の対象とならないので注意してください。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト・教科書は使用しません。毎回資料等を用意します。				
授業計画	第1回 保育士の行う相談援助とは 第2回 相談援助の理論「ソーシャルワーク」 第3回 相談面接技術「傾聴」 第4回 相談面接技術「面接と支援」 第5回 育児相談と育児観 第6回 相談演習1:生活習慣 第7回 相談演習2:発達相談 言葉が遅い 第8回 相談演習3:児童虐待(1)ネグレクト 第9回 相談演習4:児童虐待(2)発見と対応 第10回 相談演習5:ひとり親家庭 第11回 相談演習6:育児不安と子育て支援 第12回 相談演習7:障害のある子どもの保護者支援 第13回 家庭へのアプローチ 第14回 所内連携・関係機関の連携とネットワーク 第15回 苦情解決と第三者評価				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー グループ学習 問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	①児童家庭福祉、発達心理学、社会的養護などの授業で学習したことを復習しておきましょう。 ②NHK Eテレ「すくすく子育て」(土曜日21:00)を見るように心がけましょう。 ③日ごろから自分のコミュニケーションを意識的にすることも大切です。 ④予習・復習の具体的な学修方法や内容など (予習)授業終了時に次回の演習内容についてお話ししますので、そのテーマに沿って他の講義等の内容を再学習しておいてください。例. 第2回:ソーシャルワークの定義 (復習)授業の中で体験した内容を、思い出してまとめておくこと。例. 第2回:保育士がソーシャルワークを担う意義について				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の本質・目的の理解に関する科目				

時間割番号	1A4005	科目名	保育原理Ⅱ	単位数	2
担当者	菊野 秀樹				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1A1-3020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、傾聴・受容力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力				
概要	この授業は子どもの世界を学びます。子どもとよい関係をつくるためには子どものことを知らなければなりません。この授業では、実習日誌や保育実践のDVDから子どもの姿を捉え、保育の原理を通して子どもの世界について学んでいきます。グループで様々な意見を出し合いながら、子どもの世界について考える楽しさを味わいたいと思います。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の本質・目的の理解】に位置付き、学習到達目標の【保育の本質と目的について理解する】、【子どもの生活に即した保育を構想することができる】に関連します。保育士資格取得の選択科目です。				
到達目標	(知識・理解) 保育方法の基本原則を理解する。 (技能) 保育環境を考察することができる。 (思考・判断・表現) 幼稚園教育要領および保育所保育指針が示すねらいと内容について説明することができる。 (態度・志向性) 保育の社会的課題について述べるすることができる。				
評価方法	「知識・技能」 ノート 20% 「技術」 実技 20% 「思考・判断・意欲」ワークブック 30% 「態度・志向性」 プレゼンテーション 30%				
備考					
テキスト・教材・経費等	参考書： 『保育所保育指針解説書』2008 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説書』2008 フレーベル館 『児童心理学』山下俊郎著 1982 全国社会福祉協議会 『保育原理』田中未来・久保いと著 1993 川島書店 『ちょっと変わった保育原理』 北大路書房 『保育原理』1970 学文社				
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：感覚遊び、運動遊び 第3回：模倣遊び、受容遊び 第4回：構成遊び 第5回：成長と学習 第6回：発達の原理 第7回：発達の原理と教育 第8回：自由な活動と一斉活動について考える 第9回：保育環境をつくる 第10回：主体的意志力について考える 第11回：指導案のねらいと内容について考える 第12回：指導案をつくる 第13回：保幼小連携について考える 第14回：保育の課題について考える 第15回：まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習				
準備学習(予習・復習)	予習：配布された資料を読み、キーワードにアンダーラインを引く。 復習：ノートの整理と課題レポート。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保育の本質・目的の理解に関する科目				

時間割番号	1A4006	科目名	保育の心理学Ⅱ			単位数	1
担当者	鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A2-3010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	生涯発達の観点から、保育における発達の道筋を理解する。そのなかで特に乳児期、幼児期、児童期という、子どもの時期の理解をめざし、保育の心理学Ⅰで学んだ様々な問題について理解を深め、さらに保育の実践との関連について考えよう。						
教育目標との関連	保育の基礎となる、対象の理解に関する専門科目です。学習到達度指標【知識・理解】中の「子供を知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の発達の理解を基礎にして、人間に対する心理学的な理解を深めてほしいと思います。						
到達目標	【知識・理解】 ①生涯発達の観点を理解し、ライフサイクルの視点から子どもの時期を理解し、特徴を記憶してください。 ②発達に関する基礎的な概念が保育とどうかかわるか考えてください。 ③発達初期の重要性を保育との関連で考えてください。						
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験 50% レポート 20% 授業への参加状況 30%						
備考							
テキスト・教材・経費等	授業ごとにワークシートを配布します。 必要に応じて補足資料を配布します 参考書：ライフサイクルから見た発達の基礎(保育の心理学Ⅰの教科書)/保育所保育指針/保育の心理学Ⅰ(1年前期)、教育心理学(1年後期)の授業のワークシート及び復習シート						
授業計画	1 : 生涯発達とはどのようなことか 2 : 社会の中の子ども 3 : 子どもの心を理解する手掛かり 4 - 5 : 発達初期の子どもの生活リズムと保育 6 - 7 : 自立の基礎としての生活習慣と保育 8 - 9 : 学習の基礎 10 - 11 : 子どもの認識 12 - 13 : 子どものパーソナリティと社会性 14 : 他者の心を知る働き 15 : 思いやりを育てる保育						
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペア・ワーク、授業内容の振り返りシート、自己省察を兼ねた授業中のミニレポート						
準備学習(予習・復習)	授業ごとに指定した資料に目を通してください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ノートやワークシートを整理し、教科書、参考資料、保育の心理学Ⅰ(1年前期)や教育心理学(1年後期)のワークシートや復習シートで確認する習慣を身につけてください。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学Ⅱ						

時間割番号	1A4007	科目名	保育の心理学Ⅱ			単位数	1
担当者	鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A2-3010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	生涯発達の観点から、保育における発達の道筋を理解する。そのなかで特に乳児期、幼児期、児童期という、子どもの時期の理解をめざし、保育の心理学Ⅰで学んだ様々な問題について理解を深め、さらに保育の実践との関連について考えよう。						
教育目標との関連	保育の基礎となる、対象の理解に関する専門科目です。学習到達度指標【知識・理解】中の「子供を知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の発達の理解を基礎にして、人間に対する心理学的な理解を深めてほしいと思います。						
到達目標	【知識・理解】 ①生涯発達の観点を理解し、ライフサイクルの視点から子どもの時期を理解し、特徴を記憶してください。 ②発達に関する基礎的な概念が保育とどうかかわるか考えてください。 ③発達初期の重要性を保育との関連で考えてください。						
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験 50% レポート 20% 授業への参加状況 30%						
備考							
テキスト・教材・経費等	授業ごとにワークシートを配布します。 必要に応じて補足資料を配布します 参考書：ライフサイクルから見た発達の基礎（保育の心理学Ⅰの教科書）／保育所保育指針／保育の心理学Ⅰ（1年前期）、教育心理学（1年後期）の授業のワークシート及び復習シート						
授業計画	1 : 生涯発達とはどのようなことか 2 : 社会の中の子ども 3 : 子どもの心を理解する手掛かり 4 - 5 : 発達初期の子どもの生活リズムと保育 6 - 7 : 自立の基礎としての生活習慣と保育 8 - 9 : 学習の基礎 10 - 11 : 子どもの認識 12 - 13 : 子どものパーソナリティと社会性 14 : 他者の心を知る働き 15 : 思いやりを育てる保育						
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペア・ワーク、授業内容の振り返りシート、自己省察を兼ねた授業中のミニレポート						
準備学習（予習・復習）	授業ごとに指定した資料に目を通してください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ノートやワークシートを整理し、教科書、参考資料、保育の心理学Ⅰ（1年前期）や教育心理学（1年後期）のワークシートや復習シートで確認する習慣を身につけてください。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学Ⅱ						

時間割番号	1A4008	科目名	保育の心理学Ⅱ			単位数	1
担当者	鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A2-3010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	生涯発達の見点から、保育における発達の道筋を理解する。そのなかで特に乳児期、幼児期、児童期という、子どもの時期の理解をめざし、保育の心理学Ⅰで学んだ様々な問題について理解を深め、さらに保育の実践との関連について考えよう。						
教育目標との関連	保育の基礎となる、対象の理解に関する専門科目です。学習到達度指標【知識・理解】中の「子供を知る」、「保育を知る」、「自分を知る」という項目と関連しています。人間の発達の理解を基礎にして、人間に対する心理学的な理解を深めてほしいと思います。						
到達目標	【知識・理解】 ①生涯発達の見点を理解し、ライフサイクルの見点から子どもの時期を理解し、特徴を記憶してください。 ②発達に関する基礎的な概念が保育とどうかかわるか考えてください。 ③発達初期の重要性を保育との関連で考えてください。						
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 【知識・理解】 試験 50% レポート 20% 授業への参加状況 30%						
備考							
テキスト・教材・経費等	授業ごとにワークシートを配布します。 必要に応じて補足資料を配布します 参考書：ライフサイクルから見た発達の基礎(保育の心理学Ⅰの教科書)/保育所保育指針/保育の心理学Ⅰ(1年前期)、教育心理学(1年後期)の授業のワークシート及び復習シート						
授業計画	1 : 生涯発達とはどのようなことか 2 : 社会の中の子ども 3 : 子どもの心を理解する手掛かり 4 - 5 : 発達初期の子どもの生活リズムと保育 6 - 7 : 自立の基礎としての生活習慣と保育 8 - 9 : 学習の基礎 10 - 11 : 子どもの認識 12 - 13 : 子どものパーソナリティと社会性 14 : 他者の心を知る働き 15 : 思いやりを育てる保育						
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペア・ワーク、授業内容の振り返りシート、自己省察を兼ねた授業中のミニレポート						
準備学習(予習・復習)	授業ごとに指定した資料に目を通してください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ノートやワークシートを整理し、教科書、参考資料、保育の心理学Ⅰ(1年前期)や教育心理学(1年後期)のワークシートや復習シートで確認する習慣を身につけてください。						
免許・資格	保育士						
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学Ⅱ						



時間割番号	1A4009	科目名	子どもの保健Ⅲ	単位数	1
担当者	俵 佐和子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A2-3020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	今、子どもたちを取り巻く環境は心身共に安全・安心なものとは言えない状況にあります。保育士の立場として何が出来るか、何をしなければいけないのか教室実習・グループワークをとおして一緒に学び考えていきたいと思ひます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付け、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。				
到達目標	○小児の健全な成長・発育を促進するために心身の健康状態と疾病について理解する。 ○異常の早期発見・救急処置・事故防止などが適切に実践できる保育・擁護の知識と技術を習得する。				
評価方法	参加状況・授業態度(50%) 小テスト(実技テストを含む40%) まとめ問題(論述形式10%)を総合して評価します。				
備考	演習しやすい服装のこと。(ジャージ等)				
テキスト・教材・経費等	よくわかる保育士エクササイズ2 子どもの保健演習ブック 松本峰雄監修 ミネルバ書房 2100円				
授業計画	第1回 小児保健実習の必要性、健康状態の観察と記録(グループワークを含む) 第2～3回 乳幼児の身体計測と評価・計測実習 第4～5回 乳幼児の生理機能とその評価・測定実習 第6回 乳幼児の精神・運動発達機能とその評価・乳幼児の擁護(移動手段など) 第7回 乳幼児の擁護(おむつ交換・衣着脱・手洗い・歯磨き等実習) 第8回 乳幼児の養護(沐浴) 第9回 乳幼児の養護(調乳) 第10回 乳幼児の養護(離乳食) 第11回 主な疾病と看護 第12回 救急処置 第13～14回 乳幼児の養護・看護・救急処置の仕方まとめ(グループ発表含む) 第15回 まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、ペアワーク、課題発見・解決学習、プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	・1年のときに学んだ小児保健を復習しておくこと。それにより、乳幼児の成長・発達や特性を再認識しておくこと。 ・グループ分けをし、事前に各グループに養護技術を割り当てる。その目的や目標、準備等をまとめプレゼンをしてもらう。その後講義で補足説明をし、各グループで演習を行う。演習後は、どんな情報が足りなかったか、どんな工夫をすればよかったかなどを話し合いより良い養護技術取得に努める。 ・授業前には教科書をよく読んでおくこと。授業中の演習では1度したら終わりではなく授業時間いっぱい何度もやってみること。 ・演習しやすい服装。(ジャージ・運動靴などがふさわしい)				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健Ⅱ				

時間割番号	1A4010	科目名	子どもの保健Ⅲ			単位数	1
担当者	俵 佐和子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A2-3020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	今、子どもたちを取り巻く環境は心身共に安全・安心なものとは言えない状況にあります。保育士の立場として何が出来るか、何をしなければいけないのか教室実習・グループワークをとおして一緒に学び考えていきたいと思います。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。
到達目標	○小児の健全な成長・発育を促進するために心身の健康状態と疾病について理解する。 ○異常の早期発見・救急処置・事故防止などが適切に実践できる保育・擁護の知識と技術を習得する。
評価方法	参加状況・授業態度(50%) 小テスト(実技テストを含む40%) まとめ問題(論述形式10%)を総合して評価します。
備考	演習しやすい服装のこと。(ジャージ等)
テキスト・教材・経費等	よくわかる保育士エクササイズ2 子どもの保健演習ブック 松本峰雄監修 ミネルバ書房 2100円

授業計画	<p>第1回 小児保健実習の必要性、健康状態の観察と記録(グループワークを含む)</p> <p>第2～3回 乳幼児の身体計測と評価・計測実習</p> <p>第4～5回 乳幼児の生理機能とその評価・測定実習</p> <p>第6回 乳幼児の精神・運動発達機能とその評価・乳幼児の擁護(移動手段など)</p> <p>第7回 乳幼児の擁護(おむつ交換・衣着脱・手洗い・歯磨き等実習)</p> <p>第8回 乳幼児の養護(沐浴)</p> <p>第9回 乳幼児の養護(調乳)</p> <p>第10回 乳幼児の養護(離乳食)</p> <p>第11回 主な疾病と看護</p> <p>第12回 救急処置</p> <p>第13～14回 乳幼児の養護・看護・救急処置の仕方まとめ(グループ発表含む)</p> <p>第15回 まとめ</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、ペーパーワーク、課題発見・解決学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年のときに学んだ小児保健を復習しておくこと。それにより、乳幼児の成長・発達や特性を再認識しておくこと。</li> <li>グループ分けをし、事前に各グループに養護技術を割り当てる。その目的や目標、準備等をまとめ、プレゼンをしてもらう。その後講義で補足説明をし、各グループで演習を行う。演習後は、どんな情報が足りなかったか、どんな工夫をすればよかったなどを話し合いより良い養護技術を獲得するように努める。</li> <li>授業前には教科書をよく読んでおくこと。授業中の演習では1度したら終わりではなく授業時間いっぱい何度かやってみること。</li> <li>演習しやすい服装。(ジャージ・運動靴がらさわしい)</li> </ul>

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保:保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健Ⅱ

時間割番号	1A4011	科目名	子どもの保健Ⅲ	単位数	1
担当者	俵 佐和子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A2-3020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	今、子どもたちを取り巻く環境は心身共に安全・安心なものとは言えない状況にあります。保育士の立場として何ができるか、何をしなければいけないのか教室実習・グループワークをとおして一緒に学び考えていきたいと思います。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。				
到達目標	○小児の健全な成長・発育を促進するために心身の健康状態と疾病について理解する。 ○異常の早期発見・救急処置・事故防止などが適切に実践できる保育・擁護の知識と技術を習得する。				
評価方法	参加状況・授業態度(50%) 小テスト(実技テストを含む40%) まとめ問題(論述形式10%)を総合して評価します。				
備考	演習しやすい服装のこと。(ジャージ等)				
テキスト・教材・経費等	よくわかる保育士エクササイズ2 子どもの保健演習ブック 松本峰雄監修 ミネルバ書房 2100円				
授業計画	第1回 小児保健実習の必要性、健康状態の観察と記録(グループワークを含む) 第2～3回 乳幼児の身体計測と評価・計測実習 第4～5回 乳幼児の生理機能とその評価・測定実習 第6回 乳幼児の精神・運動発達機能とその評価・乳幼児の擁護(移動手段など) 第7回 乳幼児の擁護(おむつ交換・衣着脱・手洗い・歯磨き等実習) 第8回 乳幼児の養護(沐浴) 第9回 乳幼児の養護(調乳) 第10回 乳幼児の養護(離乳食) 第11回 主な疾病と看護 第12回 救急処置 第13～14回 乳幼児の養護・看護・救急処置の仕方まとめ(グループ発表含む) 第15回 まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、ペーパーワーク、課題発見・解決学習、プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	・1年のときに学んだ小児保健を復習しておくこと。それにより、乳幼児の成長・発達や特性を再認識しておくこと。 ・グループ分けをし、事前に各グループに養護技術を割り当てる。その目的や目標、準備等をまとめ、プレゼンをしてもらう。その後講義で補足説明をし、各グループで演習を行う。演習後は、どんな情報が足りなかったか、どんな工夫をすればよかったなどを話し合いより良い養護技術を獲得するように努める。 ・授業前には教科書をよく読んでおくこと。授業中の演習では1度したら終わりではなく授業時間いっぱい何度もやってみること。 ・演習しやすい服装。(ジャージ・運動靴がらさわしい)				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健Ⅱ				

時間割番号	1A4012	科目名	子どもの食と栄養	単位数	2
担当者	岡本 美恵				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A2-3030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	小児期は心身の健やかな発育・発達に重要であり、その食・栄養は生涯にわたる健康づくりの基盤になります。また、基本的な食習慣が形成される大切な時期です。保育所保育指針では、健康は生活の基本であるとして、「食を営む力」の基礎を培うことを目標としています。乳幼児期から豊かな食の体験を育む食育の観点から、専門的知識・技術をアクティブラーニングによって習得します。				
教育目標との関連	幼児教育科の目標は、「子どものこころに寄り添う人になる」であり、乳幼児期の保育は人間形成・生きる力の基礎を培うために大切であり、幅広い知識、豊かな感性、創造力、表現力、優れた保育技術を備えた実践力を持つ保育者の育成をめざすと位置づけられています。				
到達目標	1 小児を取り巻く社会や食環境について理解できる。 2 小児期における食生活と栄養の問題に対処できる。 3 小児期の食育について理解し、実践できる。				
評価方法	授業への参加状況・授業態度(30%)、課題・レポート提出(20%)、課題への取組み・発表(30%)、小テスト(20%)により、総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	上原誉志夫ほか編「改定 セミナー子どもの食と栄養」建帛社、調理実習の材料に関しては、各自持参とする。				
授業計画	第1回 受講ガイダンス、子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養の基礎的知識 第3回 子どもの食事と栄養バランス 第4回 胎児期の栄養と母体の栄養 第5回 乳児期の栄養と食生活 第6回 幼児期の栄養と食生活 第7回 子どもの食事(おやつ)実習(1) 第8回 学童期・思春期の栄養と食生活 第9回 食育の基本と内容 第10回 小児の疾患と栄養 第11回 食教育の進め方 第12回 栄養指導媒体づくり 第13回 食教育の発表 第14回 子どもの食事実習(2) 第15回 まとめ				
アクティブラーニングの授業形態	プレゼンテーション、グループ学習、問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	教科書に従って、毎回、授業を進めます。教科書で予習しておく、授業内容をよく理解できます。授業後はその内容をまとめておく、理解がより深まるとともに、次の授業内容の理解にもつながります。各グループで食教育のための媒体づくりと食育指導や調理実習も計画していますので、食に関心を高めておくとういでしょう。				
免許・資格	幼教二種免 保育士				
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解				

時間割番号	1A4013	科目名	子どもの食と栄養	単位数	2
担当者	岡本 美恵				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A2-3030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	小児期は心身の健やかな発育・発達に重要であり、その食・栄養は生涯にわたる健康づくりの基盤になります。また、基本的な食習慣が形成される大切な時期です。保育所保育指針では、健康は生活の基本であるとして、「食を営む力」の基礎を培うことを目標としています。乳幼児期から豊かな食の体験を育む食育の観点から、専門的知識・技術をアクティブラーニングによって習得します。				
教育目標との関連	幼児教育科の目標は、「子どものこころに寄り添う人になる」であり、乳幼児期の保育は人間形成・生きる力の基礎を培うために大切であり、幅広い知識、豊かな感性、創造力、表現力、優れた保育技術を備えた実践力を持つ保育者の育成をめざすと位置づけられています。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児を取り巻く社会や食環境について理解できる。</li> <li>2 小児期における食生活と栄養の問題に対処できる。</li> <li>3 小児期の食育について理解し、実践できる。</li> </ol>				
評価方法	授業への参加状況・授業態度(30%)、課題・レポート提出(20%)、課題への取組み・発表(30%)、小テスト(20%)により、総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	上原誉志夫ほか編「改定 セミナー子どもの食と栄養」建帛社、調理実習の材料に関しては、各自持参とする。				
授業計画	第1回 受講ガイダンス、子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養の基礎的知識 第3回 子どもの食事と栄養バランス 第4回 胎児期の栄養と母体の栄養 第5回 乳児期の栄養と食生活 第6回 幼児期の栄養と食生活 第7回 子どもの食事(おやつ)実習(1) 第8回 学童期・思春期の栄養と食生活 第9回 食育の基本と内容 第10回 小児の疾患と栄養 第11回 食教育の進め方 第12回 栄養指導媒体づくり 第13回 食教育の発表 第14回 子どもの食事実習(2) 第15回 まとめ				
アクティブラーニングの授業形態	プレゼンテーション、グループ学習、問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	教科書に従って、毎回、授業を進めます。教科書で予習しておく、授業内容をよく理解できます。授業後はその内容をまとめておく、理解がより深まるとともに、次の授業内容の理解にもつながります。各グループで食教育のための媒体づくりと食育指導や調理実習も計画していますので、食に関心を高めているとよいでしょう。				
免許・資格	幼二種免 保育士				
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解				

時間割番号	1A4014	科目名	子どもの食と栄養	単位数	2
担当者	岡本 美恵				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A2-3030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	小児期は心身の健やかな発育・発達に重要であり、その食・栄養は生涯にわたる健康づくりの基盤になります。また、基本的な食習慣が形成される大切な時期です。保育所保育指針では、健康は生活の基本であるとして、「食を営む力」の基礎を培うことを目標としています。乳幼児期から豊かな食の体験を育む食育の観点から、専門的知識・技術をアクティブラーニングによって習得します。				
教育目標との関連	幼児教育科の目標は、「子どものこころに寄り添う人になる」であり、乳幼児期の保育は人間形成・生きる力の基礎を培うために大切であり、幅広い知識、豊かな感性、創造力、表現力、優れた保育技術を備えた実践力を持つ保育者の育成をめざすと位置づけられています。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児を取り巻く社会や食環境について理解できる。</li> <li>2 小児期における食生活と栄養の問題に対処できる。</li> <li>3 小児期の食育について理解し、実践できる。</li> </ol>				
評価方法	授業への参加状況・授業態度(30%)、課題・レポート提出(20%)、課題への取組み・発表(30%)、小テスト(20%)により、総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	上原誉志夫ほか編「改定 セミナー子どもの食と栄養」建帛社、調理実習の材料に関しては、各自持参とする。				
授業計画	第1回 受講ガイダンス、子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養の基礎的知識 第3回 子どもの食事と栄養バランス 第4回 胎児期の栄養と母体の栄養 第5回 乳児期の栄養と食生活 第6回 幼児期の栄養と食生活 第7回 子どもの食事(おやつ)実習(1) 第8回 学童期・思春期の栄養と食生活 第9回 食育の基本と内容 第10回 小児の疾患と栄養 第11回 食教育の進め方 第12回 栄養指導媒体づくり 第13回 食教育の発表 第14回 子どもの食事実習(2) 第15回 まとめ				
アクティブラーニングの授業形態	プレゼンテーション、グループ学習、問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	教科書に従って、毎回、授業を進めます。教科書で予習しておく、授業内容をよく理解できます。授業後はその内容をまとめておく、理解がより深まるとともに、次の授業内容の理解にもつながります。各グループで食教育のための媒体づくりと食育指導や調理実習も計画していますので、食に関心を高めておくとういでしょう。				
免許・資格	幼二種免 保育士				
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解				

時間割番号	1A4015	科目名	家庭支援論			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1A2-4010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	保育所保育指針、特に留意する事項として子育て支援があげられています。保育所や児童福祉施設の保育士は、子育てを支援の対象が子どものみならず、家族の支援が必要となっています。その上で、どのような支援が必要なのか、具体的事例を検討しながら家族支援に必要な基本的態度を学び、徹底的に考えます。
教育目標との関連	幼児教育科専門科目の「保育対象の理解」と関連しており、この授業では、乳幼児期の子どもの家族を支える方法や理論を学びます。資格必修科目です。
到達目標	【態度・志向性】親子観察に向いたり、自分自身のことについて客観視しながら記録をとることができる 【知識・理解】観察をもとに、家族の関係を見立てることができる 【思考・判断・表現】親子の関係を育む技能を習得し、応用しようとする 【技能】さまざまな事象に対して自己移入しながら解決に導ける
評価方法	【態度・志向性】観察課題の取組状況(30%) 【知識・理解】正しい情報の基づいた見立ての正確さ(20%) 【思考・判断・表現】愛着形成支援技法の理念と方法の習得度合(20%) 【技能】3種類の物語に対して自己移入しながら解釈できる(30%)
備考	子育て交流広場「ほっぴがし」やKissの「タッチケア」等の等愛着形成支援に参加し、親子観察を行い、見立てることができるようにします。
テキスト・教材・経費等	授業にて指定します。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション 超高齢化時代の子どもと家族を支える</li> <li>第2回 保育所における保護者支援</li> <li>第3回 子育て不安と産後ブルー</li> <li>第4回 子どもが生まれるという経験</li> <li>第5回 母子家庭への支援</li> <li>第6回 親子の絆の育まれ方</li> <li>第7回 2項関係から3項関係へ</li> <li>第8回 障害のある子どもが生まれるということ</li> <li>第9回 乳幼児期の養育と脳の発達の関係</li> <li>第10回 幼いほどに必要なケア・アタッチメントの形成</li> <li>第11回 子どもの反抗期と親のストレスを支える</li> <li>第12回 親に精神疾患がある子どもの支援</li> <li>第13回 はじめての子育てとタッチケア</li> <li>第14回 相談の実際に学ぶ</li> <li>第15回 まとめ-子育ての世代間伝達を断つために</li> </ul>
アクティブ・ラーニングの授業形態	ワークシートによる個別の課題解決学習
準備学習(予習・復習)	ほっぴがしへの参加や付属幼稚園における親子支援への参加を積極的に行ってみることで、関心を高めましょう。自ら足を運び学ぼうとすることがスタートです。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解

時間割番号	1A4016	科目名	家庭支援論			単位数	2
担当者	七木田 方美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1A2-4010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	保育所保育指針、特に留意する事項として子育て支援があげられています。保育所や児童福祉施設の保育士は、子育てを支援の対象が子どものみならず、家族の支援が必要となっています。その上で、どのような支援が必要なのか、具体的事例を検討しながら家族支援に必要な基本的態度を学び、徹底的に考えます。
教育目標との関連	幼児教育科専門科目の「保育対象の理解」と関連しており、この授業では、乳幼児期の子どもの家族を支える方法や理論を学びます。資格必修科目です。
到達目標	【態度・志向性】親子観察に向いたり、自分自身のことについて客観視しながら記録をとることができる 【知識・理解】観察をもとに、家族の関係を見立てることができる 【思考・判断・表現】親子の関係を育む技能を習得し、応用しようとする 【技能】さまざまな事象に対して自己移入しながら解決に導ける
評価方法	【態度・志向性】観察課題の取組状況(30%) 【知識・理解】正しい情報の基づいた見立ての正確さ(20%) 【思考・判断・表現】愛着形成支援技法の理念と方法の習得度合(20%) 【技能】3種類の物語に対して自己移入しながら解釈できる(30%)
備考	子育て交流広場「ぼっぼひがし」やKissの「タッチケア」等の等愛着形成支援に参加し、親子観察を行い、見立てることができるようにします。
テキスト・教材・経費等	授業にて指定します

授業計画	第1回 オリエンテーション 超高齢化時代の子どもと家族を支える 第2回 保育所における保護者支援 第3回 子育て不安と産後ブルー 第4回 子どもが生まれるという経験 第5回 母子家庭への支援 第6回 親子の絆の育まれ方 第7回 2項関係から3項関係へ 第8回 障害のある子どもが生まれるということ 第9回 乳幼児期の養育と脳の発達の関係 第10回 幼いほどに必要なケア・アタッチメントの形成 第11回 子どもの反抗期と親のストレスを支える 第12回 親に精神疾患がある子どもの支援 第13回 はじめての子育てとタッチケア 第14回 相談の実際に学ぶ 第15回 まとめ-子育ての世代間伝達を断つために
アクティブ・ラーニングの授業形態	ワークシートによる個別の課題解決学習
準備学習(予習・復習)	関心のある子育てにかかわる諸問題を調べ、発表します。積極的に親子のいるところに足を運び、観察眼を養い、疑問を持ちながら授業に参加します。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保育の対象の理解



時間割番号	1A4017	科目名	保育内容(音楽表現Ⅱ)			単位数	1
担当者	馬杉 知佐						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3080						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	子どもの音楽表現とその援助について考えることは、私たちと音楽とのかわり合いを見つめることでもあります。自分の音楽体験を振り返りつつ子どもの音楽表現を考えていくと、音楽の持つ特性が動きや表現を作り出していることに気がつかれます。そこで、リズムをベースにして、音楽の特性についていくつかの側面から、実践的に学んでいきます。						
教育目標との関連	専門科目「教育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの音楽表現を理解する」「リズムをベースにして豊かな音楽表現を習得し、自ら音・音楽を作り出す」と関連しています。音楽表現が子どもの生活の中に喜びとしてあり、確かな育ちへの原動力となることを願っています。						
到達目標	【知識・理解】子どもの音楽表現を理解する。 【技能】リズムをベースにして、豊かな音楽表現を習得する。 【思考・判断・表現】文化的な実践をとおしての音楽活動に視点を置き創造する。 【態度・志向性】音楽活動をとおして、曲をアレンジしたり、創作したりできるようにする。以上のことから、子どもの生活の中に、豊かな音楽の表現が展開できるようになることを目指します。						
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合して評価します。 【知識・理解】子どもの音楽表現を理解(20%) 【技能】課題レポート「音楽と絵本」(30%) 【思考・判断・表現】音楽的表現力(30%) 【態度・志向性】授業への参加状況、課題への取り組み(20%)						
備考	手遊び、歌遊び、童謡の弾き歌い模擬授業は随時授業に導入します。ピアノレッスン、就職試験のための音楽実技については、個別に指導します。						
テキスト・教材・経費等	『続こどものうた200』チャイルド社、必要に応じてプリントを配布します。 ▽参考書:適宜、指示します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 乳幼児の発達と音楽 第3回 子どもの音楽表現への理解 第4回 イメージと音楽表現(1)動きからのインスピレーション 第5回 イメージと音楽表現(2)ひびきからのインスピレーション 第6回 イメージと音楽表現(3)音楽(楽曲)のインスピレーション 第7回 いろいろなリズムで音楽表現 第8回 おはなしと音楽表現 第9回 おはなしと音楽表現の発表会 第10回 五領域とリズム(1)目標の立て方 第11回 五領域とリズム(2)導入 第12回 五領域とリズム(3)素材や楽器の使い方 第13回 五領域とリズム(4)小集団の指導と技術 第14回 発達障がい児の為のリズム 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア・ワーク、グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション、自己省察、課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	【4回～6回】自然の変化や日常的の出来事など、身の回りに何が起きているかを常にキャッチし、アイデアにいかせるようにしましょう。 【8、9回】絵本に親しみ、様々な種類の絵本を読んでおきましょう。 【10回～14回】模擬授業を毎回おこなうので、指導案を作成しスムーズにおこなえるようにしましょう。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A4018	科目名	保育内容(身体表現Ⅱ)	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-3100				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	子どもの表現(遊び)を広げるための集団での遊びやリズム運動について、自らの体験を通して学習します。また、いろいろな手具を有効に使いながら、集団での発表の場につなげるための取り組みについても考えます。授業で実施する様々な活動では、常に明確なねらいを設定し、意図的な遊びを展開することができる表現力を身につけていきます。				
教育目標との関連	専門教育科目における「保育の内容・方法の理解」に位置づけられる科目です。学習到達度指標における「保育者の役割について理解する」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】いろいろなリズム運動を發展させ、子どもの表現(遊び)について理解する。 【技能】集団でのリズム運動や遊びの技能を身につけ、豊かな表現力で指導をすることができる。 【思考・判断・表現】リズム運動から子どもの表現(遊び)を広げる活動へと發展させることができる。 【態度・志向性】積極的に課題に取り組み、自ら活動を展開することができる。				
評価方法	到達目標の4つの観点は次の方法で総合的に評価します。 【知識・理解】集団でのリズム運動の特性とねらいについてのまとめ課題(10%) 【技能】集団でのリズム運動に関する技能や表現の習得(10%) 【思考・判断・表現】個人課題、グループワーク課題(40%) 【態度・志向性】授業態度、参加状況(40%)				
備 考	授業には、体操服(本学指定のもの)と体育館シューズが必要です。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリント等を配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション(集団でのリズム運動について) 第2回 新聞紙を使った遊び①(集団での新聞紙を使った運動遊びの立案) 第3回 新聞紙を使った遊び②(集団での新聞紙を使った運動遊びの実践) 第4回 新聞紙を使った遊び③(集団での新聞紙を使った運動遊びの実践と振り返り) 第5回 手具を使ったリズム運動①(手具を使ったリズム運動の体験) 第6回 手具を使ったリズム運動②(手具を使った集団でのリズム運動の作品づくり) 第7回 手具を使ったリズム運動③(手具を使った集団でのリズム運動の発表に向けて) 第8回 手具を使ったリズム運動④(集団でのリズム運動の発表) 第9回 手具を使ったリズム運動⑤(集団でのリズム運動の振り返り) 第10回 大きい手具を使ったリズム運動①(パラバルーンを使った遊びの体験) 第11回 大きい手具を使ったリズム運動②(パラバルーンを使ったリズム運動の作品づくり) 第12回 大きい手具を使ったリズム運動③(パラバルーンを使ったリズム運動の発表に向けて) 第13回 大きい手具を使ったリズム運動④(パラバルーンを使ったリズム運動の発表) 第14回 大きい手具を使ったリズム運動⑤(パラバルーンを使ったリズム運動の振り返り) 第15回 まとめ(子どもの表現や遊びを広げる集団でのリズム運動の展開について)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習				
準備学習(予習・復習)	【2~4回】集団での新聞紙遊びを個人またはグループで立案・実践してください。 【6~8回】手具を使った集団でのリズム運動の作品をグループで協力して創作・発表してください。 【11~13回】パラバルーンを使ったリズム運動の作品をグループで協力して創作・発表してください。				
免許・資格	幼二種免、保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態:単独 保:保育の内容・方法の理解に関する科目(選択科目)				

時間割番号	1A4019	科目名	保育内容(創作表現Ⅱ)			単位数	1
担当者	野上 俊之、久保田 貴美子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3120						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	<p>保育者は、子どもにとって最も身近な人的環境になります。そのため、保育者は豊かな感性と創造力を身につけていることが求められます。音楽や造形は自分のイメージしたこと、創造したことを相手に伝えるための自己表現の手段です。この授業では五感を開放し、グループワークなどのアクティブ・ラーニングの手法を使って、より広い視野からの創作活動を行っていきます。</p>						
教育目標との関連	<p>幼児教育科の学習到達度指標における「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」「保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ」と関連しています。幼児・保育士資格選択科目です。</p>						
到達目標	<p>自主的・主体的な創作活動を通して、造形的・音楽的感性や豊かな創造性・表現力を身につける。</p>						
評価方法	<p>参加状況、関心・意欲・態度、発表等を総合的に判断する。</p>						
備考	<p>からまつ学寮で1泊2日のグループワークを行います。これに欠席すると出席日数不足で単位が出ませんので、注意してください。</p>						
テキスト・教材・経費等	<p>適宜紹介していきます。 ▽参考書:適宜、指示します。</p>						
授業計画	<p>第1回: 授業計画および授業の目標について 第2回: 音楽と造形の関わりについて 第3回: イメージについて 第4回: 音の創作 第5回: 色・形の創作 第6回: 音・色・形のコラボレーション 第7回: 視覚と聴覚による発表、ふりかえり 第8回: 自然や環境を素材にした創作表現について 第9回: 自然に触れる 第10回: 自然と遊ぶ 第11回: 自然を生かす 第12回: 自然を創作に・グループワーク 第13回: 自然を対象とした発表、ふりかえり 第14回: 保育への活かし方 第15回: まとめ</p>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	<p>創作発表、体験学習</p>						
準備学習(予習・復習)	<p>創作とは？表現とは？伝えるとは？この授業ではその手段として音楽・造形的な面からさまざまなアプローチをしていきます。しかし一番大切なことは、その中身です。あなたの伝えたいことはなんですか？表したいことは何ですか？とにかく感性を磨いてください。小説を読む。映画を見る。演劇を観る。音楽を聴く。美術館に行く。自然と戯れる等々。きっと今まで気がつかなかったことに気づくはずです。中身がスカスカだと相手には何も伝わりません。</p>						
免許・資格	<p>幼二種免、保育士</p>						
免許・資格の科目区分	<p>幼: 教職に関する科目(選択) 教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法) 担当形態: 複数 保: 専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目</p>						

時間割番号	1A4020	科目名	保育内容(言語表現Ⅱ)			単位数	1
担当者	菊野 秀樹						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3140						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		発想力、チームワーク力、創造・表現力					
概 要	授業では、テーブル人形とコーン人形を製作します。そして、人形を動かす基本技術を学び人形劇の魅力を知ります。また、子どもが行う人形遊びや人形劇遊びの教育的意義と環境設定について学びます。						
教育目標との関連	専門科目【保育内容・方法の理解】に位置付き、学習到達度指標「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」に関連します。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得の選択科目です。						
到達目標	<p>[知識・理解] テーブル人形とコーン人形の作り方、人形の動かし方を知る。</p> <p>[技能] テーブル人形とコーン人形をつくる。</p> <p>[思考・判断・表現] 台詞に合わせて人形を動かしたり、パフォーマンスを考えたりすることができる。</p> <p>[態度・志向性] 整理整頓ができる。</p>						
評価方法	<p>知識・理解] 人形製作40%</p> <p>[技能] 基本的な演技力20%</p> <p>[思考・判断・表現] 発想の奇抜さ20%</p> <p>[態度・志向性] 協調性 20%</p>						
備 考							
テキスト・教材・経費等	<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉と表現力を育む児童文化」明文書林2013年</li> <li>・「いっしょにつくろう」福音館書店1994年</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:テーブル人形の作り方を知る。</p> <p>第3回:テーブル人形の顔をつくる</p> <p>第4回:テーブル人形の顔に布を張る</p> <p>第5回:テーブル人形の身体をつくる</p> <p>第6回:コーン人形の作り方を知る</p> <p>第7回:コーン人形の顔をつくる</p> <p>第8回:コーン人形の髪の毛をつくる</p> <p>第9回:コーン人形の身体をつくる</p> <p>第10回:コーン人形の身体と筒をつける。</p> <p>第11回:グループでパフォーマンスを考える。</p> <p>第12回:グループでパフォーマンスの練習をする</p> <p>第13回:グループごとにパフォーマンスを発表する</p> <p>第14回:人形劇遊びの教育的意義について考える</p> <p>第15回:まとめ</p>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	実技 発表						
準備学習(予習・復習)	人形劇を創作するためには、たくさんのお話を知っておく必要があります。予習は、絵本を読み、絵本のリストを作成することとします。復習は、人形の動かし方を学んだ後、パフォーマンスの練習をすることとします。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	<p>幼・教職に関する科目(選択)</p> <p>教育課程及び指導法に関する科目(保育内容の指導法)</p> <p>担当形態:単独</p> <p>保・保育の内容・方法の理解に関する科目</p>						

時間割番号	1A4021	科目名	社会的養護内容	単位数	1
担当者	片伊勢 志穂				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-4010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	前期で学んだ「社会的養護」を基に、事例検討やビデオ等を通じて、「社会的養護内容」を学んでいきます。社会的養護を必要とする子どもやその家族が利用する施設や制度の内容、その役割や必要性を理解し、考えていきます。そこから、課題や援助方法などを具体的に考え、意見交換を行います。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる」と関連しています。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の必要性、役割を理解する。</li> <li>・社会的養護の課題等について、自分なりの考えを持ち、発言していく。</li> <li>・意見や考えを出し合い、クラスで共有し、他者から多くを学ぶ。</li> </ul>				
評価方法	参加状況(30%)、授業態度(コメントカードを含む)(30%)、試験もしくは、レポート等の課題提出(40%)により総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『社会的養護 社会的養護の理論と実際』徳岡博巳／編著、あいり出版、2160円</li> <li>・必要に応じて資料等を配布します。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 授業のオリエンテーション</li> <li>2: 児童養護の概要</li> <li>3: 児童福祉施設における養護内容(現状と課題)①</li> <li>4: 児童福祉施設における養護内容(現状と課題)②</li> <li>5: 乳児院、児童養護施設における援助-日常生活の支援、自立支援、退所後の支援</li> <li>6: 乳児院、児童養護施設における援助-家族の支援、家庭調整、里親制度</li> <li>7: 乳児院、児童養護施設における援助-治療的支援、安心安全を目指す支援</li> <li>8: 障がい児施設における援助</li> <li>9: 情緒障害児施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設等における援助</li> <li>10: 援助者の専門性、倫理、価値①</li> <li>11: 援助者の専門性、倫理、価値②</li> <li>12: 援助技術、援助の方法</li> <li>13: ワーク(援助計画、援助方法の作成)</li> <li>14: 補足とまとめ</li> <li>15: まとめ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペアーワーク、課題発見学習				
準備学習(予習・復習)	前期で学んだ「社会的養護」を振り返り、より具体的な養護の内容について学んでいきます。子どもや保護者の支援において大切にしたいこと等、自分自身の意見や考えをしっかりと持てるようにしましょう。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A4022	科目名	社会的養護内容	単位数	1
担当者	片伊勢 志穂				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-4010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	前期で学んだ「社会的養護」を基に、事例検討やビデオ等を通じて、「社会的養護内容」を学んでいきます。社会的養護を必要とする子どもやその家族が利用する施設や制度の内容、その役割や必要性を理解し、考えていきます。そこから、課題や援助方法などを具体的に考え、意見交換を行います。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる」と関連しています。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の必要性、役割を理解する。</li> <li>・社会的養護の課題等について、自分なりの考えを持ち、発言していく。</li> <li>・意見や考えを出し合い、クラスで共有し、他者から多くを学ぶ。</li> </ul>				
評価方法	参加状況(30%)、授業態度(コメントカードを含む)(30%)、試験もしくは、レポート等の課題提出(40%)により総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『社会的養護 社会的養護の理論と実際』徳岡博巳／編著、あいり出版、2160円</li> <li>・必要に応じて資料等を配布します。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 授業のオリエンテーション</li> <li>2: 児童養護の概要</li> <li>3: 児童福祉施設における養護内容(現状と課題)①</li> <li>4: 児童福祉施設における養護内容(現状と課題)②</li> <li>5: 乳児院、児童養護施設における援助-日常生活の支援、自立支援、退所後の支援</li> <li>6: 乳児院、児童養護施設における援助-家族の支援、家庭調整、里親制度</li> <li>7: 乳児院、児童養護施設における援助-治療的支援、安心安全を目指す支援</li> <li>8: 障がい児施設における援助</li> <li>9: 情緒障害児施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設等における援助</li> <li>10: 援助者の専門性、倫理、価値①</li> <li>11: 援助者の専門性、倫理、価値②</li> <li>12: 援助技術、援助の方法</li> <li>13: ワーク(援助計画、援助方法の作成)</li> <li>14: 補足とまとめ</li> <li>15: まとめ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペアーワーク、課題発見学習				
準備学習(予習・復習)	前期で学んだ「社会的養護」を振り返り、より具体的な養護の内容について学んでいきます。子どもや保護者の支援において大切にしたいこと等、自分自身の意見や考えをしっかりと持てるようにしましょう。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A4023	科目名	社会的養護内容			単位数	1
担当者	片伊勢 志穂						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-4010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	前期で学んだ「社会的養護」を基に、事例検討やビデオ等を通じて、「社会的養護内容」を学んでいきます。社会的養護を必要とする子どもやその家族が利用する施設や制度の内容、その役割や必要性を理解し、考えていきます。そこから、課題や援助方法を具体的に考え、意見交換を行います。
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる」と関連しています。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の必要性、役割を理解する。</li> <li>・社会的養護の課題等について、自分なりの考えを持ち、発言していく。</li> <li>・意見や考えを出し合い、クラスで共有し、他者から多くを学ぶ。</li> </ul>
評価方法	参加状況(30%)、授業態度(コメントカードを含む)(30%)、試験もしくは、レポート等の課題提出(40%)により総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『社会的養護 社会的養護の理論と実際』徳岡博巳／編著、あいり出版、2160円</li> <li>・必要に応じて資料等を配布します。</li> </ul>

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 授業のオリエンテーション</li> <li>2: 児童養護の概要</li> <li>3: 児童福祉施設における養護内容(現状と課題)①</li> <li>4: 児童福祉施設における養護内容(現状と課題)②</li> <li>5: 乳児院、児童養護施設における援助-日常生活の支援、自立支援、退所後の支援</li> <li>6: 乳児院、児童養護施設における援助-家族の支援、家庭調整、里親制度</li> <li>7: 乳児院、児童養護施設における援助-治療的支援、安心安全を目指す支援</li> <li>8: 障がい児施設における援助</li> <li>9: 情緒障害児施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設等における援助</li> <li>10: 援助者の専門性、倫理、価値①</li> <li>11: 援助者の専門性、倫理、価値②</li> <li>12: 援助技術、援助の方法</li> <li>13: ワーク(援助計画、援助方法の作成)</li> <li>14: 補足とまとめ</li> <li>15: まとめ</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペアーワーク、課題発見学習
準備学習(予習・復習)	前期で学んだ「社会的養護」を振り返り、より具体的な養護の内容について学んでいきます。子どもや保護者の支援において大切にしたいこと等、自分自身の意見や考えをしっかりと持てるようにしましょう。

免許・資格	保育士
免許・資格の科目区分	保: 保育の内容・方法の理解に関する科目

時間割番号	1A4024	科目名	保育カンファレンス			単位数	1
担当者	井原 忠郷						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3160						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	保育を進めていく上で、子ども理解と把握、その子どもの持つ課題を明らかにすることは重要です。そのために保育者同士の連携や研修、さらには保護者との連携が必要になります。こうしたことについて具体的事例を中心に保育の記録やカンファレンスのあり方について学びたいと思います。						
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】の位置付き、学習到達度指標の「保育の記録を通して、子ども一人一人の育ちをとらえることが出来る」並びに「保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ」に関連しています。						
到達目標	【知識・理解】保育における子ども理解や保育記録・保育カンファレンスの基礎的な内容について理解する。 【技能】保育の記録の書き方や保育カンファレンスの進め方について理解し適切に行動できる。 【思考・判断・表現】保育カンファレンスを通して、自己を振り返り評価することができる。 【態度・志向性】保育カンファレンスに関心を持ち、積極的に取り組む。						
評価方法	保育の記録他課題(40%)や授業毎の小レポート(40%)、参加状況と受講態度(20%)を総合して評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	毎回、授業概要のプリントと参考資料(保育現場で使われている)を配布します。 サイドテキスト:「保育者の常識67」出版元:一藝社 その他、必要に応じて紹介します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業内容と計画について概要説明) 第2回 保育の記録について 第3回 カウンセリングマインドとは？ 第4回 子ども課題の読み取り 第5回 連絡帳① ～保育現場での受け止め方～ 第6回 連絡帳② ～保護者からの連絡にどう応えるか？～ 第7回 連絡帳③ ～対応のあり方・ポイント～ (宿題) 第8回 クラス便りを考える 第9回 クラス便りの実際 第10回 個人面談① ～実際と課題～ 第11回 個人面談② ～保護者への対応とあり方・ポイント～ 第12回 個人面談③ ～個人記録を保育に生かすために～ 第13回 保育における行事の考え方 第14回 指導要録・保育要録について 第15回 保育者としての資質向上のためにすべきこと(まとめ)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、課題への取り組み、自己省察						
準備学習(予習・復習)	保育現場で実際に利用されている資料を可能な限り提供したいので、利用する立場に自分を置いて内容理解に努めてもらいたいと思います。						
免許・資格	幼二種免・保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(幼児理解の理論及び方法) 担当形態:単独 保:専門科目Ⅱ(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目						



時間割番号	1A4025	科目名	保育カンファレンス			単位数	1
担当者	井原 忠郷						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3160						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	保育を進めていく上で、子ども理解と把握、その子どもの持つ課題を明らかにすることは重要です。そのために保育者同士の連携や研修、さらには保護者との連携が必要になります。こうしたことについて具体的事例を中心に保育の記録やカンファレンスのあり方について学びたいと思います。						
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】の位置付き、学習到達度指標の「保育の記録を通して、子ども一人一人の育ちをとらえることが出来る」並びに「保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ」に関連しています。						
到達目標	【知識・理解】保育における子ども理解や保育記録・保育カンファレンスの基礎的な内容について理解する。 【技能】保育の記録の書き方や保育カンファレンスの進め方について理解し適切に行動できる。 【思考・判断・表現】保育カンファレンスを通して、自己を振り返り評価することができる。 【態度・志向性】保育カンファレンスに関心を持ち、積極的に取り組む。						
評価方法	保育の記録他課題(40%)や授業毎の小レポート(40%)、参加状況と受講態度(20%)を総合して評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	毎回、授業概要のプリントと参考資料(保育現場で使われている)を配布します。 サイドテキスト:「保育者の常識67」出版元:一藝社 その他、必要に応じて紹介します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業内容と計画について概要説明) 第2回 保育の記録について 第3回 カウンセリングマインドとは？ 第4回 子ども課題の読み取り 第5回 連絡帳① ～保育現場での受け止め方～ 第6回 連絡帳② ～保護者からの連絡にどう応えるか？～ 第7回 連絡帳③ ～対応のあり方・ポイント～ (宿題) 第8回 クラス便りを考える 第9回 クラス便りの実際 第10回 個人面談① ～実際と課題～ 第11回 個人面談② ～保護者への対応とあり方・ポイント～ 第12回 個人面談③ ～個人記録を保育に生かすために～ 第13回 保育における行事の考え方 第14回 指導要録・保育要録について 第15回 保育者としての資質向上のためにすべきこと(まとめ)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、課題への取り組み、自己省察						
準備学習(予習・復習)	保育現場で実際に利用されている資料を可能な限り提供したいので、利用する立場に自分を置いて内容理解に努めてもらいたいと思います。						
免許・資格	幼二種免・保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(幼児理解の理論及び方法) 担当形態:単独 保:専門科目Ⅱ(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A4026	科目名	保育カンファレンス			単位数	1
担当者	井原 忠郷						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A3-3160						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	保育を進めていく上で、子ども理解と把握、その子どもの持つ課題を明らかにすることは重要です。そのために保育者同士の連携や研修、さらには保護者との連携が必要になります。こうしたことについて具体的事例を中心に保育の記録やカンファレンスのあり方について学びたいと思います。						
教育目標との関連	専門教育科目【保育の内容・方法の理解】の位置付き、学習到達度指標の「保育の記録を通して、子ども一人一人の育ちをとらえることが出来る」並びに「保育者としての社会的責任と自己実現の喜びを持つ」に関連しています。						
到達目標	【知識・理解】保育における子ども理解や保育記録・保育カンファレンスの基礎的な内容について理解する。 【技能】保育の記録の書き方や保育カンファレンスの進め方について理解し適切に行動できる。 【思考・判断・表現】保育カンファレンスを通して、自己を振り返り評価することができる。 【態度・志向性】保育カンファレンスに関心を持ち、積極的に取り組む。						
評価方法	保育の記録他課題(40%)や授業毎の小レポート(40%)、参加状況と受講態度(20%)を総合して評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	毎回、授業概要のプリントと参考資料(保育現場で使われている)を配布します。 サイドテキスト:「保育者の常識67」出版元:一藝社 その他、必要に応じて紹介します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業内容と計画について概要説明) 第2回 保育の記録について 第3回 カウンセリングマインドとは？ 第4回 子ども課題の読み取り 第5回 連絡帳① ～保育現場での受け止め方～ 第6回 連絡帳② ～保護者からの連絡にどう応えるか？～ 第7回 連絡帳③ ～対応のあり方・ポイント～ (宿題) 第8回 クラス便りを考える 第9回 クラス便りの実際 第10回 個人面談① ～実際と課題～ 第11回 個人面談② ～保護者への対応とあり方・ポイント～ 第12回 個人面談③ ～個人記録を保育に生かすために～ 第13回 保育における行事の考え方 第14回 指導要録・保育要録について 第15回 保育者としての資質向上のためにすべきこと(まとめ)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	小レポート、課題への取り組み、自己省察						
準備学習(予習・復習)	保育現場で実際に利用されている資料を可能な限り提供したいので、利用する立場に自分を置いて内容理解に努めてもらいたいと思います。						
免許・資格	幼二種免・保育士						
免許・資格の科目区分	幼:教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(幼児理解の理論及び方法) 担当形態:単独 保:専門科目Ⅱ(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目						

時間割番号	1A4027	科目名	乳児保育Ⅱ	単位数	1
担当者	池田 淑子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A3-4020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	子どもの成長発達や、愛着関係、自我・自律を育むことを基礎とした内容、及び乳児保育の意義を学びます。保育者の資質と保育内容や保育環境、援助の方法を、事例又は実践をふまえ、社会的な意義と役割を学びます。保育の実践に活用できる内容のファイルを作成し、考察・評価・方法を総合的に学びます。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の対象の理解」に位置付き、学習到達度指標「子どもの心身の健康や発達について理解する」と関連しています。				
到達目標	1 子どもの心身の発達と保育内容、及び保育者の資質や援助方法を具体的に理解する。 2 乳児保育の内容を具体的な事例等をグループワークで理解を深める。 3. 保育実践に活用できるファイルを作成し発表する。				
評価方法	課題レポート内容(50%)実践ファイル(20%)参加状況(10%)小テスト(20%)を総合して評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	特にテキストは使用しません。プリント、資料を配布します。保育所保育指針解説、乳児保育(前期テキスト)を、参考図書として使用します。				
授業計画	1:乳児保育の基本 2:乳児保育と養護 3:子どもと保育環境(1)保育室と環境 4:子どもと保育環境(2)環境構成 5:子どもと保育環境(3)戸外遊びと自然環境 6:乳児保育の計画と評価(1)保育課程、計画、記録、評価 7:乳児保育の計画と評価(2)指導計画と配慮事項 8:乳児保育と計画と評価(3)指導計画作成 9:保育の実践と記録 10:乳児保育の展開(1)グループ討議と発表 11:乳児保育の展開(1)グループ討議と発表 12:乳児の病気と保健 13:乳児の安全、事故予防 14:子育て支援(1)実際と情報提供 15:子育て支援(2)家庭との連携・共助				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク				
準備学習(予習・復習)	・保育所保育指針と事前配布資料は予習し、授業のキーワードとなるところは復習すること。 前期で使用したテキスト「乳児保育」は、指定ページは必読すること。 ・ワークシートは、設問や課題を記入し提出すること。(事前配布) ・グループワークでは、「保護者との協働、子育て支援の具体的な方法」を、話し合い発表すること。 ・保育実践ファイルは、各自で課題を選択し「意義、内容、活用方法、評価反省」を手順資料に準じて作成すること。				
免許・資格	保育士				
免許・資格の科目区分	保:専門科目(選択) 保育の内容・方法の理解に関する科目				

時間割番号	1A4028	科目名	生活	単位数	2
担当者	石田 浩子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1A3-3180				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	生活科は、小学校の教科であるとともに、保育・幼児教育との接続において重要な役割を担っています。この授業では、生活科の特色についての理解を深めるとともに、保育所・幼稚園を卒園した子どもたちの小学校での学びを実際に体験します。保幼小の連携を進める上で必要となる、小学校低学年教育についての基礎的な知識を身に付けた教員・保育士を目指します。				
教育目標との関連	専門教育科目「保育の内容・方法の理解」に位置付き、学習到達度指標「保育の本質と目的について理解する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】生活科の目標と内容構成について理解する。 【技能】具体的な活動や体験を通して生まれる児童の気づきを想定し、表現することができる。 【思考・判断・表現】学習活動の中で生まれる児童の気づきについて目標に照らして考えることができる。 【態度・志向性】教科書、学習指導要領や授業実践例などから生活科の特性を正しく理解しようとする。				
評価方法	課題レポート 40% 小レポート 40% 授業参加状況 20% 以上を総合的に評価します。				
備考	この科目は、小学校低学年の児童の様子を、実際の小学校現場や動画・写真を通して、見たり感じたりできるようにしたいと考えています。				
テキスト・教材・経費等	・テキストとして、小学校学習指導要領解説 生活編（文部科学省）104円を使用します。 ・授業に沿った資料を準備したり、実際の子どもたちの様子を動画や写真で紹介したりします。				
授業計画	第1回：生活科教育概説(学習指導要領における教育目標と内容) 第2回：人のかかわり① 学校と自分、家庭と自分、地域の人々 第3回：社会のかかわり 公共物・公共施設、子どもの空間認識・探検活動(グループワークによる探検活動を含む) 第4回：人のかかわり② 生活と出来事の交流(探検活動のまとめとしてのプレゼンテーションを含む) 第5回：自然のかかわり① 季節の変化と生活(グループワークによる調査活動を含む) 第6回：自然のかかわり② 動植物の飼育・栽培 第7回：自然のかかわり③ 遊びと科学的な見方・考え方①(実際に作って遊ぶ体験学習を含む) 第8回：自然のかかわり④ 遊びと科学的な見方・考え方②(実際に作って遊ぶ体験学習を含む) 第9回：生活科授業の実践①(小学校訪問・授業観察・グループディスカッション) 第10回：生活科授業の実践②(小学校訪問・授業観察・グループディスカッション) 第11回：生活科授業の実践③(小学校訪問・授業観察・グループディスカッション) 第12回：生活科授業の実践④(小学校訪問・授業観察・グループディスカッション) 第13回：自分の成長(自分の成長を振り返る調査学習も含む) 第14回：生活科の内容と実践上の課題 第15回：まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア・ワーク、グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション、自己省察				
準備学習(予習・復習)	各授業後、配布資料や各自のノート記録で内容を再確認しておいて下さい。小学校訪問し、実際の授業を観察した際には、授業で指定されたテーマについてレポートを提出してください。また、毎回、授業で体験した生活科の学びについての所感を記録しておく、レポート作成の際、まとめやすくなると思います。				
免許・資格	幼二種免				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目(選択) 生活				

時間割番号	1A4029	科目名	音楽Ⅳ	単位数	1
担当者	野上 俊之				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A4-3020				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	音の高さ、強さ、長さ、音色の組み合わせによって様々な音や音楽が生まれます。この授業では、その結果としての原始的なサウンドから高度に機能化されたものまで、リトミック指導法を通して、即興的かつ創造的に表現できることを目指します。				
教育目標との関連	専門教育科目【保育の基礎技能】に位置付き、学習到達度指標の「子ども一人ひとりの生活や発達過程に応じた援助ができる」「保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる」と関連しています。				
到達目標	S:リトミック指導法十分理解し、音楽的内容の指導実践に具体化できる。 A:リトミック指導法を理解し、音楽指導に活用できる。 B:音や音楽を即興的、創造的に表現できる。 C:音や音楽を用いてリズムカルに自己表現できる。				
評価方法	授業態度(30%) 参加状況(30%) 課題消化状況(40%) を総合して評価します。				
備 考	内容によって専門の外部講師が担当することもあります。				
テキスト・教材・経費等	必要に応じて資料や教材を購入、配布します。				
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:言葉、音による即時反応 第3回:即時反応つくってあそぶ 第4回:音に気づく 第5回:強弱、速度、音高、空間 第6回:リズムの基礎-加算 第7回:リズムの基礎-分割 第8回:基礎リズムであそぶ 第9回:アクセント 第10回:拍子 第11回:リズム・パターン 第12回:リズム・フレーズ 第13回:ソルフェージュ 第14回:総合-物語遊び、楽器演奏 第15回:まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク 発表 体験学習				
準備学習(予習・復習)	個人あるいはグループで発表するケースが多々ありますので、人前で演じる度胸が必要ですが、授業内容では正解がたくさんあるため自信を持って表現できるよう練習して臨んでください。				
免許・資格	幼二種免・保育士				
免許・資格の科目区分	幼:教科に関する科目 音楽 保:保育の表現技術(選択科目)				

時間割番号	1A4030	科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)			単位数	2
担当者	菊野 秀樹、内本 充統、楠本 恭之、井原 忠郷						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1A5-4061						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、自己省察力、創造・表現力						
概要	これまでの講義、演習、学外実習を通じて習得した知識と技能について最終確認し、弱点の克服と得意分野の発展を促すために、多様な指導内容について実践方法を重視した講義、ディスカッション、見学、ロールプレイングによる演習を実施します。						
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達目標すべてに関連しています。 幼稚園教諭免許状・保育士資格必修科目です。						
到達目標	次の4つの観点などを到達目標としています。 【知識・理解】保育者に求められる資質・能力を理解し、自分の得意分野と弱点を認識する 【技能】保育の基礎技能を豊かな表現力で指導できる 【思考・判断・表現】保育者に求められる資質・能力について自己評価し、課題を改善できる 【態度・志向性】自分の弱点を克服するため主体的に授業に取り組む						
評価方法	テーマA、B、C別課題(各25%)、講話についてのレポート(25%)、その他グループ学習への参加状況や授業態度などを総合して評価します。						
備考	この科目の履修にあたっては、幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの単位を取得しているまたは取得見込みであること、教職に関する科目すべての単位を取得しているまたは履修中であることが求められます。						
テキスト・教材・経費等	とくにテキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。 ▽参考書：適宜、指示します。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：ふり返り―長所と短所の把握―(担当：菊野) 第3回：保育の意義(担当：楠本) 第4回保育者の役割、職務内容(担当：楠本) 第5回から第10回：テーマA、B、Cの3グループにわけ、ローテーションでおこないます。グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、問題解決学習、実践事例分析に取り組みます。 テーマA-1 保護者との連携についての実践―課題の説明―(担当：菊野) テーマA-2 保護者との連携についての実践―発表・討論―(担当：菊野) テーマB-1 相談・援助についての実践(担当：内本) テーマB-2 相談・援助についての発表・討論(担当：内本) テーマC-1 指導案作成―課題説明、質疑応答、作成―(担当：井原) テーマC-2 指導案作成―発表・討論―(担当：井原) 第11回：保育の環境―説明と環境構成―(担当：菊野) 第12回：保育の環境―発表と解説―(担当：菊野) 第13回：保育士の仕事(講話) 第14回：幼児教育・保育の政策動向(講話) 第15回：まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、グループ学習、自己省察						
準備学習(予習・復習)	【第2回】この科目のはじめに、これまでの授業や実習を通じて習得した知識や技能のなかで、自分の強みと課題かを学習ポートフォリオをもちいて分析します。自分の長所と弱点を把握し、行動目標を立てよう。 【第5から10回】 テーマA：保護者に伝えるということ意識して、実習中の事例から子どもの姿とそのときの自分の思いを、クラスだよりとして書いてみよう。 テーマB：実習において子どもの性格・行動や発達に関して、困った、心配した、気になった事例について、自分の見立てや対応及びその効果についてまとめよう。そして、今もう一度振り返ってみて、どのように理解し、対応すればよかったかを考えてみよう。 テーマC：指導立案を立てよう。 【第13・14回】：学外講師による講話をもとに、レポートを作成します。						
免許・資格	幼二種免、保育士						
免許・資格の科目区分	幼：教職に関する科目(教職実践演習) 履修履歴の把握：○ 学校現場の意見聴取：○ 保：総合演習 保育実践演習 教職担当教員：楠本恭介、菊野秀樹、内本充統、井原忠郷						

時間割番号	1A4031	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	鈴木 隆男				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価、レポート作成				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4032	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	野上 俊之				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					



時間割番号	1A4033	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	久保田 貴美子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品創作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンサルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4034	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	菊野 秀樹				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてと関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンサルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4035	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	七木田 方美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考	子育て支援の場で親子にかかわりながら実践的に研究を進めます。				
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンセルヒじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4036	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	馬杉 知佐				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンセルルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4037	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	高德 希				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンサルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4038	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	内本 充統				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達度指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点到達目標とし、研究をとおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	研究発表、作品制作・発表、自己評価				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい〜コンセルルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1A4039	科目名	特別研究Ⅱ	単位数	1
担当者	楠本 恭之				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1A1-4031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	創造・表現力、チームワーク力、イノベーション力				
概要	この科目は、特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、各自が保育や幼児教育にかかわり特に研究したいテーマについて、指導教員のもとで指導や助言を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作として仕上げていくものです。				
教育目標との関連	専門科目【保育の実践と研究】に位置付き、学習到達指標すべてに関連しています。				
到達目標	次の4つの観点を到達目標とし、研究をおして保育の専門性の向上を図ります。 【知識・理解】保育・幼児教育における研究領域と課題についての知識を深める。 【技能】研究の分析・検討および方法について必要な技能を高める。 【思考・判断・表現】研究領域の課題を整理・表現し、研究論文あるいは創作(制作)としてまとめる。 【態度・志向性】課題を解決するために、研究をさらに進める。				
評価方法	到達目標の4つの観点から総合的に評価します。 【知識・理解】研究ノートや創作(制作)記録、授業における発表内容 【技能】論文や創作(制作)の内容 【思考・判断・表現】論文や創作(制作)の内容 【態度・志向性】授業への参加状況、研究への取り組み				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自の研究領域に適した文献・資料を適宜紹介します。				
授業計画	卒業研究と連動させて、この授業は次のように進めていきます。 1: 特別研究Ⅰで学習した成果と課題をもとに、さらに研究を進めます。 2: 学外研究発表会において研究成果を発表します。 3: これまでの研究への取り組みを、論文あるいは創作(制作)記録にまとめます。				
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	特別研究Ⅰで取り組んだテーマをさらに深めていきますので、より意欲的に研究に取り組んでください。「わ・あい～コンサルひじやま」で成果を発表しますので、授業時間外の学習活動も多くなります。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F1013	科目名	住生活論		単位数	2
担当者	迫垣内 裕					
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義	
ナンバリング	1F1-2091					
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、課題設定力、発想力、傾聴・受容力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力					
概 要	もっとも身近な私たちの住んでいる住まいを、昔の住まいやと世界の住まいと比較することを出発点として、関連するスライド・ビデオなどを利用して、住生活についての理解を深めます。また、今後のハウス・インテリア系列関連科目の基礎となるものです。					
教育目標との関連	総合生活デザイン学科カリキュラム・ポリシー3に属する系列専門科目です。					
到達目標	住居・インテリアへの興味・関心を深める(興味のなかった人は興味を持つ、興味のある人はそれを発展させる)こと。また、簡単なインテリアや間取りをまとめるための基礎的な知識・能力を身につけます。					
評価方法	提出物(3回予定)(80%)及び授業への参加状況(20%)を総合して評価します。					
備 考						
テキスト・教材・経費等	適宜関連するプリントを配付します。					
授業計画	第1回: 授業で学ぶこと・進め方 第2回: 日本の住まい(現代と昔1) 第3回: 日本の住まい(現代と昔2) 第4回: 外国の住まい(和室と洋室1) 第5回: 外国の住まい(和室と洋室2) 第6回: 和室と洋室3【グループワーク】 第7回: 日本の住まいとその実情1 第8回: 日本の住まいとその実情2 第9回: 住まいと間取り(間取りの基本) 第10回: 住まいと間取り(基本法規など) 第11回: 住まいの計画(エスキース1) 第12回: 住まいの計画(エスキース2) 第13回: 住まいの計画(仕上げ1) 第14回: 住まいの計画(仕上げ2)、計画課題の提出 第15回: まとめ、相互評価、講評 ※必要に応じ、スマホによる授業応答システムを活用して、意見や理解度を把握しながら授業を進行します。					
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、グループワーク、その他(情報収集・情報整理)					
準備学習(予習・復習)	住まいに興味を深める入門編として位置づけていますので、スライドで住宅を見たり、ネットで調べたり、また間取りやインテリアイメージを考案したりと、様々な資料を提供しながら住・インテリアの認識を深めていきます。授業へのメントは次回に皆さんに披露し、復習の材料とします。授業内容の理解が第一です。					
免許・資格	中二種免(家庭) インテリアプランナー					
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(住居学)					



時間割番号	1F1014	科目名	医療事務 I			単位数	2
担当者	河井 由紀子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2140						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業では、医療制度のしくみや、あらゆる診療行為に対する診療費及び算定方法について学びます。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	実際の業務に必要な知識、技能を修得し資格試験に合格するための実力を身につける。
評価方法	定期試験 50パーセント、授業参加状況 30パーセント、提出物 20パーセント
備 考	
テキスト・教材・経費等	医療保障制度2700円、医科テキスト3240円、薬価早見表324円(以上 医療事務研究所) 検定希望者は医療事務学科問題集1242円、ニチイハンドブック1,800円を購入すると有利です。 追って授業内にて説明いたします。

授業計画	第1回. 医療保障制度の概要 第2回. 初診 第3回. 再診 第4回. 投薬① 第5回. 投薬② 第6回. 注射 第7回. 初診～注射までの復習 第8回. 処置① 第9回. 処置② 第10回. 検査① 第11回. 検査② 第12回. 検査③ 第13回. 画像診断① 第14回. 画像診断② 第15回. まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習
準備学習(予習・復習)	授業の流れとポイント説明それに関する問題(例、プリント等)を取り組んでいきます。医療事務1.2.3全て受講して検定試験を受ける態勢が整います。国家試験ではありませんが、将来必ず役に立つ資格です。頑張って受けてみて下さい。

免許・資格	医療事務
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F1015	科目名	秘書実務	単位数	2
担当者	西村 この実				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1F1-2170				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	社会人として欠かせない様々な場面での基本マナーを学びます。マナーという心の表現方法を知り、その内容と意味を理解します。実習を通してより良い振る舞いを身につけます。 秘書検定3級を受検を必須とします。				
教育目標との関連	社会人としてのコミュニケーション力を身につけ、マナーについて知見を得る。				
到達目標	(1)秘書に必要な実務やマナーとは何かを知ること (2)色々な場面での秘書の実務やマナーについて理解を深めること (3)知識だけでなく美しい振る舞いまで身につけられること				
評価方法	受講態度(30%)、課題提出(30%)、実技課題(40%)を総合的に評価します。				
備 考	卒業要件科目であり、秘書士資格必修科目です。				
テキスト・教材・経費等	「秘書検定テキスト&問題集」成美堂出版発行 1,100円＋税 適宜プリントを配布します。 秘書検定受検料 約4,000円				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 秘書の身だしなみと立ち居振る舞い 第3回 秘書の敬語・接客用語 第4回 秘書の指示の受け方、報告の仕方 第5回 秘書の慶事・弔事 第6回 秘書の文書管理 第7回 秘書の資料管理 第8回 秘書のスケジュール管理 第9回 秘書としての心構え 第10回 秘書の役割 第11回 秘書としての茶菓の接待 第12回 秘書の訪問のマナー 第13回 秘書の名刺のマナー 第14回 秘書の電話のマナー 第15回 まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	特に前半カリキュラム「身だしなみ」「挨拶」「お辞儀」は受講の中だけでなく学生生活を通して実践し身につけていってください。 第2回から9回にかけては、秘書検定対策を包含した授業を行います。授業で指定するページの予習、学んだ箇所の復習を毎回行ってください。 第10回からは、実践しながら理論を学びます。復習として、理論をきっちり理解するとともに、実践を反復練習してください。				
免許・資格	秘書士				
免許・資格の科目区分	秘書士資格認定科目				

時間割番号	1F1016	科目名	秘書実務			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2170						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	社会人として欠かせない様々な場面での基本マナーを学びます。マナーという心の表現方法を知り、その内容と意味を理解します。実習を通してより良い振る舞いを身につけます。 秘書検定3級の実験を必須とします。
教育目標との関連	社会人としてのコミュニケーション力を身につけ、マナーについて知見を得る。
到達目標	(1)秘書に必要な実務やマナーとは何かを知ること (2)色々な場面での秘書の実務やマナーについて理解を深めること (3)知識だけでなく美しい振る舞いまで身につけられること
評価方法	受講態度(30%)、課題提出(30%)、実技課題(40%)を総合的に評価します。
備 考	卒業要件科目であり、秘書士資格必修科目です。
テキスト・教材・経費等	「秘書検定テキスト&問題集」成美堂出版発行 1,100円＋税 適宜プリントを配布します。 秘書検定受験料 約4,000円

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 秘書の身だしなみと立ち居振る舞い 第3回 秘書の敬語・接客用語 第4回 秘書の指示の受け方、報告の仕方 第5回 秘書の慶事・弔事 第6回 秘書の文書管理 第7回 秘書の資料管理 第8回 秘書のスケジュール管理 第9回 秘書としての心構え 第10回 秘書の役割 第11回 秘書としての茶菓の接待 第12回 秘書の訪問のマナー 第13回 秘書の名刺のマナー 第14回 秘書の電話のマナー 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習
準備学習(予習・復習)	特に前半カリキュラム「身だしなみ」「挨拶」「お辞儀」は受講の中だけでなく学生生活を通して実践し身につけていってください。 第2回から9回にかけては、秘書検定対策を包含した授業を行います。授業で指定するページの予習、学んだ箇所の復習を毎回行ってください。 第10回からは、実践しながら理論を学びます。復習として、理論をきっちり理解するとともに、実践を反復練習してください。

免許・資格	秘書士
免許・資格の科目区分	秘書士資格認定科目

時間割番号	1F1017	科目名	プレゼンテーション			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2190						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	話し手と聞き手の相互交流形式の、効果的なプレゼンテーションの方法について学びます。 発声、スピーチの反復練習を通して、言語表現、非言語表現の基本を習得します。 他人のプレゼンテーションの評価をしたり、プレゼンテーションの意図を考えながら授業を進めるアクティブラーニング型授業です。
教育目標との関連	社会における基本的なコミュニケーション力を身につけることに留意し、授業を進めます。
到達目標	【知識・理解】プレゼンテーションの仕組みについて理解する 【技能・表現】第三者に好印象を与えながら話すことができる 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習したフレームワークを活用して体系的に認識できる 【関心・意欲・態度】論理的に構成を考え、演出を工夫し話すことができる
評価方法	授業への参画度(30%)、プレゼンテーション(70%)を総合的に評価します。 プレゼンテーションは「話す」「聞く」「書く」の3種類のプレゼンテーションを評価するものです。
備 考	卒業要件科目であり、秘書士資格必修科目です。
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布します。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 プレゼンテーションの基本 第3回 ストーリーづくり 第4回 構成のづくり 第5回 滑舌のよい話し方 第6回 言葉の使い方、論理的な話し方 第7回 話の組み立て 第8回 聴衆に好感をもたれる態度 第9回 非言語表現の使い方 第10回 見やすい資料の作り方 第11回 効果的な資料の作り方 第12回 総合演習① 第13回 総合演習② 第14回 総合演習③ 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習
準備学習(予習・復習)	毎回テーマを設定し、各自にプレゼンテーションを行ってもらいます。 テーマは事前に提示しますから、予習として練習をしてきてください。 その際、授業で学んだ理論や、実技で注意されたことに留意し、前回よりもレベルの高いプレゼンテーションを行うことができるようにしてください。

免許・資格	秘書士、ビジネス実務士、観光ビジネス実務士
免許・資格の科目区分	秘書士、ビジネス実務士、観光ビジネス実務士資格認定科目

時間割番号	1F1018	科目名	プレゼンテーション			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2190						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概 要	話し手と聞き手の相互交流形式の、効果的なプレゼンテーションの方法について学びます。 発声、スピーチの反復練習を通して、言語表現、非言語表現の基本を習得します。 他人のプレゼンテーションの評価をしたり、プレゼンテーションの意図を考えながら授業を進めるアクティブラーニング型授業です。						
教育目標との関連	社会における基本的なコミュニケーション力を身につけることに留意し、授業を進めます。						
到達目標	【知識・理解】プレゼンテーションの仕組みについて理解する 【技能・表現】第三者に好印象を与えながら話すことができる 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習したフレームワークを活用して体系的に認識できる 【関心・意欲・態度】論理的に構成を考え、演出を工夫し話すことができる						
評価方法	授業への参画度(30%)、プレゼンテーション(70%)を総合的に評価します。 プレゼンテーションは「話す」「聞く」「書く」の3種類のプレゼンテーションを評価するものです。						
備 考	卒業要件科目であり、秘書士資格必修科目です。						
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布します。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 プレゼンテーションの基本 第3回 ストーリーづくり 第4回 構成のづくり 第5回 滑舌のよい話し方 第6回 言葉の使い方、論理的な話し方 第7回 話の組み立て 第8回 聴衆に好感をもたれる態度 第9回 非言語表現の使い方 第10回 見やすい資料の作り方 第11回 効果的な資料の作り方 第12回 総合演習① 第13回 総合演習② 第14回 総合演習③ 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	毎回テーマを設定し、各自にプレゼンテーションを行ってまいります。 テーマは事前に提示しますから、予習として練習をしてきてください。 その際、授業で学んだ理論や、実技で注意されたことに留意し、前回よりもレベルの高いプレゼンテーションを行うことができるようにしてください。						
免許・資格	秘書士、ビジネス実務士、観光ビジネス実務士						
免許・資格の科目区分	秘書士、ビジネス実務士、観光ビジネス実務士資格認定科目						

時間割番号	1F1019	科目名	ビジネス英語	単位数	2
担当者	七枝 敏洋				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1F2-2040				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	海外との情報交流を円滑に行うためには、コミュニケーション・ツールとしての英語力を身につける必要があります。それぞれの文化やビジネス習慣が異なる国・地域の人々と仕事をするために、相手が発信する情報を理解し、自分の意図することを正確に伝えることが重要です。本講座では職場で使うビジネス英会話、英文レター、英文ビジネスEメールの基礎知識と能力を獲得するために学びます。招待状の発送、返信、慶事についての表現も学びますので個人的なコミュニケーションにも役立ちます。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシーによる、「職業人として必要な知識・技能、態度を学ぶため」に関連します。				
到達目標	○オフィスにおける英会話での電話での受け答えなどのビジネスマナー、アポイントメントをとる、海外出張先などで必要な会話力を習得します。 ○英文レター作成の基本ルールや型などの基礎を習得します。必要なキーワードの理解、意味と使い方を習得します。発注書、FAXの表題、封筒の書き方、Eメールでの告知、異動告知、お祝い、お悔やみ、記念行事への招待、お礼状、推薦状などのビジネスレターを、テキストを見ながら作成できるようになります。				
評価方法	授業中の姿勢(発表を含む)20%、英文ビジネスレターの提出20%、期末テスト60%をもとに、総合的に評価します。英語が苦手だった人も努力を評価します。				
備考	英語の得意な人、学びなおしをしたい人も対象に、ビジネスでの場面で必要な会話表現、知識に絞って講義します。英会話の上達は間違いを恐れず声にだすことです。課題レポートも社会で役立ちます。				
テキスト・教材・経費等	テキスト:改訂版日商ビジネス英語検定3級公式テキスト、編集:日本商工会議所、発行所:日本能率協会マネジメントセンター 1600円(税別)				
授業計画	第1回 単元の授業の構成、日商ビジネス英語検定試験3級について、文法構文の確認 第2回 ビジネス英会話の基礎-アポイントメントをとる 第3回 ビジネス英会話の基礎-ホテルの予約をとる 第4回 ビジネス英会話の基礎-空港で 第5回 ビジネス英会話の基礎-本社を訪ねる 第6回 ビジネス英会話の基礎-海外ビジネスパートナーとの昼食 第7回 英文レターライティングの基礎-レターフォームのスタイル 第8回 英文レターライティングの基礎-輸出入会社の新設部門の紹介、発注書の作成ほか 第9回 英文レターライティングの基礎-FAXのフォーマットと手紙の書き方 第10回 英文ビジネスEメールの基礎-省略語と新支店設立の案内状 第11回 英文ビジネスEメールの基礎-異動のお知らせとお祝いの手紙 第12回 英文ビジネスEメールの基礎-招待状と返事 第13回 英文ビジネスEメールの基礎-お礼の手紙とお悔やみの手紙 第14回 英文ビジネスEメールの基礎-推薦状と履歴書 第15回 省察とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、グループコーチング、レターライティング、Eメールのペーパー提出				
準備学習(予習・復習)	【2~6回】知らない単語を事前に調べ、意味をよく理解しておいてください。邦文を見て英語で言えるようになるようにしてください。 【9回】自宅の住所を、何も見ずに英語で書けるように復習してください。 【9~14回】邦文を見て、英文でワードにタイプできるようになるようにしてください。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F1020	科目名	ひろしまの観光資源			単位数	2
担当者	多田 雅彦						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F3-2040						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	世界遺産の原爆ドームや厳島神社というバックボーンを持った広島県の特徴を検証・理解し、瀬戸内海の観光資源を利用した観光立県としての魅力を引き出して、観光という視点からの学修を通じて学生に郷土の素晴らしさを認識してもらうことを学習のテーマとします。現地研修を実施するための準備として学生のグループ分けをおこない、それぞれのグループの研究成果を現地において発表してもらい、郷土の素晴らしさを発見していきます。						
教育目標との関連	本学科の社会人として貢献できる力、社会人を身につけるためには、郷土も「ひろしま」を理解することは大切である。そのことの基本として地元「ひろしま」を知る素地を本科目の学びを通して深めることを目標とします。						
到達目標	観光ビジネス実務士の資格認定に関する規定に到達できる「ひろしまの観光資源」対応の科目です。 1) 広島県の観光資源について検証・理解すること。2) 世界遺産に選定された条件の理解を理解すること。 3) 観光に携わる県内の関係機関の役割に気づくことができること。4) 就業するために求められる能力について気づくことができること。						
評価方法	(1) 光情報の収集力、論理的思考力、課題設定力、レポート提出		30%				
	(2) 観光資源検証への発想力、企画計画力、実践力、レポート提出		40%				
	(3) 実践活動のまとめの提出と発表(2回実施)		30%				
備考	広島市観光協会、廿日市市観光協会との協力を必要とします。						
テキスト・教材・経費等	テキスト: コミル広島宮島(JTBパブリッシング)840円、歩く地図本広島・呉(株式会社ザメディアジョン)600円、歩く地図本宮島(株式会社ザメディアジョン)600円、プリント配布						
授業計画	第1回 オリエンテーション: 授業の概要、広島県の観光資源についてのテーマの提示 第2回 観光資源企画: テーマに関する調査活動についてその進め方(資料収集) 第3回 資料検証: 広島県の地理、観光資源の検証(資料検証のまとめ) 第4回 広島県の地域性①: 旧安芸の国エリアとその周辺の観光資源の理解(地域の特性の理解) 第5回 広島県の地域性②: 旧備後の国エリアとその周辺の観光資源の理解(地域の特性の理解) 第6回 広島の世界遺産: 原爆ドームと平和公園、宮島が世界遺産選定の理由(グループ毎資料収集) 第7回 1回目現地研修準備: 広島市内の観光資源とその巡り方について(グループによる計画) 第8回 1回目現地研修実施: 原爆ドームと平和公園周辺の模擬ガイド(実地研修のレポート作成) 第9回 1回目現地研修報告: 実施成果の振り返りとまとめ(実施報告書作成) 第10回 広島県内の関係機関: 運輸機関、観光施設、宿泊施設、特産品の情報(グループ毎資料収集) 第11回 広島県の観光資源: 県内の地域ごとの特性を生かした取組みの状況(グループ毎の検証) 第12回 2回目現地研修準備: 宮島の厳島神社とその周辺の歴史的遺産について(グループによる計画) 第13回 2回目現地研修実施: 宮島での模擬ガイドと海を活用する地域特性(実地研修のレポート作成) 第14回 2回目現地研修報告: 実施成果の振り返りとまとめ(実施報告書作成) 第15回 ひろしまの観光資源: 前期授業実施報告書のまとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己考察						
準備学習(予習・復習)	事前に、テキストだけではなく、自分とグループで検索した観光資源情報をできるだけ活用できるように力を付けていきましょう。報告・連絡・相談を密にするコミュニケーション力を付けましょう。現地研修終了後はレポートを作成し、ひろしまの観光資源への理解を深めていきます。						
免許・資格	観光ビジネス実務士						
免許・資格の科目区分	観光ビジネス実務士資格 必修専門教育科目						

時間割番号	1F1021	科目名	ファッション造形実習 I			単位数	1
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	実習		
ナンバリング	1F4-2031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力, 課題設定力, 創造・表現力					
概要	パターンを利用したチュニットの製作を通して、ファッション造形の基礎的な理論と技術を習得します。また、体型の把握とパターンとの関連について学び、既製服選択のための知識を得ます。 この科目は教職の必修科目であり、中学校技術・家庭の「被服」領域の学習指導も考慮します。						
教育目標との関連	チュニット製作を通して、縫製の知識と技術を修得します。簡単な衣服を作る実践力を身につけます。						
到達目標	(1) ミシン、アイロンをはじめとする用具・器具の適切な取り扱いなど基礎技術を修得します。 (2) 採寸では自己身体のサイズを確認し、パターンの取り扱いを理解します。 (3) 製作過程では適切な布地の選び方、裁断の方法、本縫いなどの知識と技術を修得します。 (4) 完成したチュニットは、縫製後、着装・観察・発表します。						
評価方法	作品/レポート70%、受講態度30%で総合評価します。						
備考	1年次後期の「ファッション造形実習Ⅱ」を受講しようと考えている人は、本科目を履修しておくことが望ましいです。						
テキスト・教材・経費等	適宜資料を配布します。 材料費(布、糸など)は、各自で用意してください。						
授業計画	第1回 ガイダンス、パターンと体型の関連について、採寸、布の見積もり 第2回 基礎縫い・・・ミシン・ロックミシンの扱い、縫い方 第3回 基礎縫い・・・手縫い 第4回 パターン製作・・・サイズの決定とパターン修正 第5回 地直し、マーキング 第6回 裁断、しるしつけ 第7回 しるしつけの確認 第8回 接着芯の裁断と接着芯はり 第9回 縫製・・・肩・脇・袖下・見返し布端の始末 第10回 縫製・・・肩縫い、衿ぐり縫い 第11回 縫製・・・脇縫い、裾の始末 第12回 縫製・・・袖づくり(袖下縫い、袖山のギャザー寄せ)、袖口の始末 第13回 縫製・・・袖付け 第14回 仕上げ 第15回 作品プレゼンテーション、評価						
アクティブ・ラーニングの授業形態	製作実習、自己省察						
準備学習(予習・復習)	1回の授業の進捗が速いため欠課をすると授業について行くことが困難になります。 授業進度に遅れた場合は自主的に空き時間を使って課題を進めてください。 毎回の積み重ねが大切です。						
免許・資格	中二種免(家庭)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(被服学)						



時間割番号	1F1022	科目名	ブライダル I	単位数	2
担当者	若槻 暢子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1F4-2060				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	この授業では、日本におけるブライダル市場に関する現状と知識について理解するとともに、ブライダルを取り巻く様々なビジネスについても学習します。また知識だけでなく、グループワークを通じて、コミュニケーション能力・他者を理解する力を養ってほしいと願っています。さらにブライダルにかかすことの出来ない提案力、プレゼンテーション能力、ホスピタリティーを学びます。				
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。				
到達目標	日本の文化・慣習・しきたりなどをもとに長年引き継がれてきている「日本のウエディング」の基礎を身に付ける。そして変動するブライダル市場を理解し、挙式・披露宴を企画コーディネートすることができる。グループワークを通じて他者と協力し合い、発見的・積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	試験(60%) ミニレポート(20%) 授業参加状況(20%) 等により総合的に評価します。				
備考	ブライダルプランナー検定の取得に必要な科目です。				
テキスト・教材・経費等	The Business of Japanese Weddings ※系列実践演習(ファッション系列)でも使用します。				
授業計画	①日本のブライダル市場 ②ウエディングの決定 ③婚礼施設の主業務 ④関連商品・サービス/衣裳・フラワー・美容・写真・演出等 ⑤婚礼実務/顧客獲得からのプロセス・当日 ⑥様々なオペレーション業務 ⑦新規顧客営業 ⑧業界展望と求められる人材像 ⑨ブライダルビジネスにおけるコミュニケーション ⑩現場見学～ホテル・ハウスウエディング～ その1 ⑪その2 ⑫グループワーク その1 ⑬その2 ⑭その3 ⑮まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、プレゼンテーション、調査・実習				
準備学習(予習・復習)	各回の復習として「ミニレポート」に積極的に取り組むとよいでしょう。 テキストの講読を通して、講義内容への理解を深め、分からないところは積極的に質問をしてください。				
免許・資格	ブライダルプランナー				
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F1023	科目名	食生活実習Ⅰ	単位数	1
担当者	森田 清美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	実習
ナンバリング	1F5-2041				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力				
概要	日常生活を健康的に過ごす食事づくりとして、日本料理・洋風料理・中国料理での基礎的な調理について学びます。朝食づくりから始まり、実習を通して食品の特徴、主食・主菜・副菜が揃った献立を調理し、おいしく栄養的な料理ができるように体験学習をします。 なお教職の必修科目であり、中学技術・家庭の「食物」領域の学習指導も考慮します。				
教育目標との関連	「生きる力」の基礎的・基本的な知識・技能の習得と関連づけて、食生活を豊かに健やかにする専門的な知識・技術を身につけて、自主的に食生活の運営ができるスキルを養成します。				
到達目標	1. 日常食の基礎的な調理ができ、食事づくりを意欲的に取り組む姿勢ができることを目標とします。 2. 自分の食生活を点検して、問題点を発見し、食生活の改善に取り組むことができるスキルをつけます。 そのため、授業計画に示す食生活点検①～⑤を検定試験の学修を通して考えることを目標とします。				
評価方法	授業への参加状況(30%)、実習記録レポート(50%)、検定試験への取り組み(20%)を総合して評価します。				
備考	「食生活アドバイザー検定」受験者は履修することが望ましいです。				
テキスト・教材・経費等	毎時、資料を配付します。調理実習の材料費は各自負担となり、費用を徴収します。 FLAネットワーク協会「食生活アドバイザー3級公式テキスト」				
授業計画	第1回 調理実習を行う心構え、班編成 第2回 朝食づくり-炊飯・みそ汁- 第3回 日本料理-丼・澄まし汁- 第4回 洋風料理-煮込み・冷菜- 第5回 日本料理-寿司・蒸し物- 第6回 洋風料理-焼き物・スープ- 第7回 食生活点検①ウエルネス上手になろう 第8回 食生活点検②もてなし上手になろう 第9回 食生活点検③買い物上手になろう 第10回 食生活点検④段取り上手になろう 第11回 食生活点検⑤やりくり上手になろう 第12回 中国料理-焼き物・和え物- 第13回 日本料理-焼き物・汁物- 第14回 洋風焼菓子・冷菓 第15回 実習のまとめおよび実習室の管理				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実習、グループワーク、問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	あらかじめ、調理する料理のレシピを配付しますのでよく読んでおき、できれば事前に試作してみましょう。 実習後には、各家庭などで調理した料理を復習してください。なるべく、日常生活において食事をつくる機会を持ってください。食生活アドバイザー検定の学修として、予習・復習をし、小テストに取り組んでください。				
免許・資格	中二種免(家庭)?フードコーディネーター3級資格				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(食物学)?[文化]				

時間割番号	1F1024	科目名	食生活実習Ⅰ	単位数	1
担当者	森田 清美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	実習
ナンバリング	1F5-2041				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力				
概要	日常生活を健康的に過ごす食事づくりとして、日本料理・洋風料理・中国料理での基礎的な調理について学びます。朝食づくりから始まり、実習を通して食品の特徴、主食・主菜・副菜が揃った献立を調理し、おいしく栄養的な料理ができるように体験学習をします。なお教職の必修科目であり、中学校技術・家庭の「食物」領域の学習指導にも考慮します。				
教育目標との関連	「生きる力」の基礎的・基本的な知識・技能の習得と関連づけて、食生活を豊かに健やかにする専門的な知識・技術を身につけて、自主的に食生活の運営ができるスキルを養成します。				
到達目標	1. 日常食の基礎的な調理ができ、食事づくりを意欲的の取組む姿勢ができることを目標とします。 2. 自分の食生活を点検して、問題点を発見し、食生活の改善に取組むことができるスキルをつけます。 そのため、授業計画に示す食生活点検①～⑤を検定試験の学修を通して考えることを目標とします。				
評価方法	授業への参加状況(30%)、実習記録レポート(50%)、検定試験への取組み(20%)を総合して評価をします。				
備考	「食生活アドバイザー検定」受験者は履修することが望ましいです。				
テキスト・教材・経費等	毎時、資料を配布します。調理実習の材料費は各自負担となり、費用を徴収します。 FLAネットワーク協会「食生活アドバイザー3級公式テキスト」				
授業計画	第1回 調理実習を行う心構え、班編成 第2回 朝食づくりー炊飯・みそ汁ー 第3回 日本料理ー丼・澄し汁ー 第4回 洋風料理ー煮込み・冷菜ー 第5回 日本料理ー寿司・蒸し物ー 第6回 洋風料理ー焼き物・スープー 第7回 食生活点検①ウエルネス上手になろう 第8回 食生活点検②もてなし上手になろう 第9回 食生活点検③買い物上手になろう 第10回 食生活点検④段取り上手になろう 第11回 食生活点検⑤やりくり上手になろう 第12回 中国料理ー焼き物・和え物ー 第13回 日本料理ー焼き物・汁物ー 第14回 洋風焼き菓子・冷菓 第15回 実習のまとめおよび実習室の管理				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実習、グループワーク、問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	あらかじめ、調理する料理のレシピを配付しますのでよく読んでおき、できれば事前に試作してみましょう。 実習後には、各家庭などで調理した料理を復習してください。なるべく、日常生活において食事をつくる機会を持ってください。食生活アドバイザー検定の学修として、予習・復習をし、小テストに取り組んでください。				
免許・資格	中二種免(家庭)?フードコーディネーター3級資格				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(食物学)?[文化]				

時間割番号	1F1025	科目名	空間表現技法			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F6-2010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	住宅やインテリアの設計に必要な表現方法の基礎知識と基本技術を修得します。内容は、設計製図の基礎知識・技能、スケッチや実測による物体や空間のスケール把握、様々な空間表現の技法(アイソメ、アクソメ、透視図)などで、細かい作業もありますが、その繰り返し練習によって思い通りの形や空間を描けるようになります。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科カリキュラム・ポリシー3に属する系列専門科目です。
到達目標	設計製図の基礎知識・基本技術、物体や空間のスケール感覚が身につけられたか。 家具・部屋の立体図や透視図が合理的にまた美的に描けるか。
評価方法	課題の完成度(80%)及び授業への参加状況(20%)によって評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	プリントを適宜配付します。

授業計画	第1回 はじめに(授業の概要、進め方) 第2回～第5回 設計製図の基本知識、基本技術 第6回～第9回 住・インテリア関係のスケール及び家具の製図 第10回～第15回 様々な空間表現技法 (アイソメトリック図、アクソメトリック図、平行透視図、有角透視図など)
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、その他(実習)
準備学習(予習・復習)	課題の提示→作業→提出→返却という学びの流れの繰り返しによって理解を深め、知識や技術を修得していきます。不明点を残さないよう復習を重視してください。 宿題(課題学習)は翌週には解答を確認するので、翌週授業前の指定日まで必ず提出してください。課題や宿題の返却時には間違いや理解不足の箇所をよく確認してください。提出物のうち優秀なものは受講生に披露し良い箇所を確認しますので、自分の提出物とよく比較し、間違いや不足箇所を確認、理解してください。 また、資料は書き込み式のものが多いです、返却した課題資料とともに散逸しないようにファイリングしておきましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F1026	科目名	インテリアデザイン実習			単位数	1
担当者	角田 朱美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	実習		
ナンバリング	1F6-2080						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	私たちにあって日本古来の文化である「書」は新しいインテリアアートとして世界から注目されています。また住宅関連のワークショップなどでトレンドであるモザイクタイルアートを制作することにより提案手法を学びペーパークラフト制作により家具の仕組みまで学びます。
教育目標との関連	楽しく学びながら「夢実現力」「社会人力」を身につけ「なりたい自分」になるための、ハウス・インテリア系列基礎科目です。
到達目標	基本的な技術を理解した上で積極的に取り組むこと。 テーマに沿った作品作りになっている。
評価方法	完成作品(50%)、プレゼンテーション(20%)、受講状況(30%)を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	必要に応じてプリントを配布します。

授業計画	第1回 インテリア「書」の実例紹介・ディスカッション 第2回 インテリア「書」アート制作 第3回 インテリア「書」アート制作 第4回 篆刻・落款の製作 第5回 インテリア「書」の発表 第6回 木とタイルを使ったインテリア小物 概要・デザイン 第7回 木とタイルを使ったインテリア小物の制作(モザイクタイルアート) 第8回 木とタイルを使ったインテリア小物の制作(モザイクタイルアート) 第9回 ペーパークラフトによる家具制作(イス)概要と種類 第10回 ペーパークラフトによる家具制作(イス)方法 第11回 ペーパークラフトによる家具制作(イス) 第12回 ペーパークラフトによる家具制作(イス) 第13回 ペーパークラフトによる家具制作(イス)色付け 第14回 ペーパークラフトによる家具制作(イス)色付け 第15回 発表・まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、実習、発表
準備学習(予習・復習)	雑貨店などの市場及びインターネット、各種展示場などでの作品を参考にし、オリジナリティ溢れる作品になるようにイメージしてみましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2010	科目名	総合生活デザイン			単位数	2
担当者	森田 清美、迫垣内 裕、前田 和寛、西村 この実、鈴木 直恵、七枝 敏洋						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	総合生活デザイン学科は社会の多様な問題を総合的に分析・解決できる人材の育成を目標に、「達人」になって卒業しよう”を合言葉にしています。その道筋は、「生活人」→「仕事人」→「達人」という方向で達人を養成していきます。入口の「生活人」を養成するためには、「自力で立つ力」を育成しなければなりません。それを育成するために、基礎力(一般常識力)を演習を交えながら学修します。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	社会に必要な基礎力(一般常識力)を身につける。
評価方法	定期試験を行います。 試験に加え、授業態度により、総合的に評価します。
備 考	卒業要件科目です。
テキスト・教材・経費等	小冊子及び必要に応じて、資料を配布します。 また、『一般常識チェック&マスター 短大生・専門学校生の就職筆記試験対策』実教出版(900円)を使用します。購入してください。

授業計画	1回目: オリエンテーション・履修指導 2回目: 教養1-1(数学・社会) 3回目: 教養1-2(英語・数学・社会) 4回目: 教養1-3(国語・英語) 5回目: 教養1-4(社会・国語) 6回目: 教養1-5(国語・数学) 7回目: 教養1-6(数学・国語) 8回目: 教養1まとめ 9回目: 教養2-1(漢字・計算問題) 10回目: 教養2-2(漢字・計算問題) 11回目: 教養2-3(漢字・計算問題) 12回目: 教養2-4(漢字・計算問題) 13回目: 教養2-5(漢字・計算問題) 14回目: 教養2-6(漢字・計算問題) 15回目: 卒業研究発表会の聴講
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション、小テスト、問題解決学習
準備学習(予習・復習)	一般常識を学びます。テキストに沿って進めますから、授業プログラムを確認のうえ、テキストの予習復習をしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2011	科目名	総合生活デザイン演習 I			単位数	2
担当者	森田 清美、迫垣内 裕、前田 和寛、西村 この実、鈴木 直恵、七枝 敏洋						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2021						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、課題設定力、コミュニケーション力、チームワーク力						
概要	前半の授業では徳育として「五訓」のテーマに沿って卒業生の方の講義を聞き、グループごとにディスカッションをし、発表します。後半はゼミを選択しゼミ活動をスタートします。多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)するアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけます。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考	卒業要件科目です。全コース共通専門科目です。						
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。 ◎授業計画は教員によって異なるのでゼミ活動の初回授業時に説明します。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、グループディスカッション、グループワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F2012	科目名	生活達人チャレンジプログラム I			単位数	1
担当者	森田 清美、迫垣内 裕、前田 和寛、西村 この実、鈴木 直恵、七枝 敏洋						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-3050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	本学科は「社会人力」と「夢実現力」を身につけ、自分の夢を実現できる、「なりたい自分」になれる人(達人)をめざしています。そのためには、情報のスキルを1年次に身につけていくことは、必要不可欠です。情報のスキルアップのために、個々に情報の検定合格を目標に掲げ、その取り組みを通して、本学科の特性である資格・検定にトライしましょう。
教育目標との関連	情報の検定の学修を通して、「仕事人」となる基礎づくりをめざします。
到達目標	・情報の検定のうち、個々に選択し、合格をめざし取り組み達成感を持つ。
評価方法	出席状況・検定取得状況により、総合判断する。
備考	
テキスト・教材・経費等	指導担当教員が指示します。

授業計画	<p>情報の検定(次に示す)を選択し、合格をめざし、放課後(予定表を配付)に練習をする。担当教員より、取組表に出席印をもらい提出する。</p> <p>日本情報処理検定協会主催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ワープロ検定</li> <li>・文書デザイン検定</li> <li>・情報処理技能検定(表計算)</li> <li>・情報処理技能検定(データベース)</li> <li>・ホームページ作成検定</li> <li>・プレゼンテーション作成検定</li> </ul> <p>—上記6種類・各級より選択—</p> <p>※詳細については、「総合生活デザイン演習 I」の中で説明します。</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習
準備学習(予習・復習)	指導担当教員と相談のうえ、主体的・自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1F2013	科目名	衣生活論			単位数	2
担当者	鈴木 直恵、森田 清美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2070						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	豊かでも安全・快適・合理的な衣生活を営むために必要な知識を概説します。衣服着用の目的と被服の役割、衣服用の主な素材の性質を知り、私たちの生活のさまざまなシーンにおける、快適な衣服の着装について考えます。また、繊維の特徴を理解し、洗剤との関係やしみ抜きやかけすぎなどの実践的な被服管理についても学びます。 なお教職の必修科目であり、中学校技術・家庭の「被服」領域の学習指導にも考慮します。
教育目標との関連	共通専門科目の「生活」の領域に位置づけられ、社会を知り、社会に主体的に適応できる「生きる力」を養成します。この科目の学修を通して、衣生活を合理的に経営することのできる力を養います。
到達目標	豊かでも安全・快適・合理的な衣生活を営むために必要な知識を身につけ、また目的と用途に合った衣服の着装についても考え、被服管理を含め、衣生活を合理的に経営できるようになることを目標とします。
評価方法	定期試験60%、課題レポート30%、参加状況10%を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	必要に応じて資料を配付します。

授業計画	第1回 授業の目標方針と概要の説明 第2回 衣服のはじまりと変遷 第3回 身のまわりの衣服 第4回 衣服の選択 第6回 体型に合わせた衣服の購入 第7回 衣服を快適に着用するために 第8回 衣服を創る～ファッションデザインについて～ 第9回 衣服の安全性 第10回 高齢者の衣生活 第11回 衣服に付着する汚れとは 第12回 洗剤の働きとは 第13回 繊維の特徴(燃焼実験) 第14回 しみ抜きと修繕法 第15回 衣類の保管法と衣類の処理(3Rとの関わり)
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、調査・実習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	着ている衣服や身の回りの繊維製品に関心を持ち、衣生活を合理的に経営するための問題点を意識しましょう。また、新聞や身近な雑誌に被服に関連した話題がどのように掲載されているか、情報を集めましょう。

免許・資格	中二種免(家庭)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(被服学)

時間割番号	1F2014	科目名	簿記入門	単位数	2
担当者	三上 義雄				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1F1-2110				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	個人商店や会社などの経営活動を帳簿に記録し、一定期間ごと整理して、報告書(「損益計算書」と「貸借対照表」)。両者をまとめて「財務諸表」というの形にまとめ、株主や経営者、銀行などの企業の関係者に報告します。この財務諸表を作るための技術を簿記といいます。この授業では、簿記の基礎知識から各精算表の作成までを身につけることが主なねらいです。				
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。				
到達目標	企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力を育てます。 資格取得目標 日商簿記3級(11月)				
評価方法	【知識・理解度】定期試験(60%) 【平常点】宿題等提出物(40%)で評価します。 ただし、遅刻・欠席等は減点対象とします。				
備考					
テキスト・教材・経費等	TAC簿記検定講座著「合格テキスト日商3級」TAC出版 2,160円 TAC簿記検定講座著「合格トレーニング日商3級」TAC出版 1,620円				
授業計画	第1回 簿記の基礎 第2回 日常の取引Ⅰ 第3回 日常の取引Ⅱ 第4回 日常の取引Ⅲ 第5回 商品売買Ⅰ 第6回 商品売買Ⅱ 第7回 現金 第8回 当座預金 第9回 手形Ⅰ 第10回 手形Ⅱ 第11回 その他の期中取引Ⅰ 第12回 その他の期中取引Ⅱ 第13回 その他の期中取引Ⅲ 第14回 試算表の作成Ⅰ 第15回 試算表の作成Ⅱ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	簿記は毎日の学習の積み重ねを大切にしてください。初めて学習する科目ですから今がスタート地点です。心機一転頑張ってください。努力の積み重ねが素直に結果に表れる科目です。 日商簿記検定3級はとにかく過去問をたくさんやることを勧めます。				
免許・資格	ビジネス実務士、観光ビジネス実務士				
免許・資格の科目区分	ビジネス実務士、観光ビジネス実務士必修科目、日商簿記3級取得をめざす				

時間割番号	1F2015	科目名	保育学			単位数	2
担当者	池田 淑子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2130						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	人が人として育つ基本は家庭であり、子どもは深い愛情と温かい家庭で保護・養育されながら人格の基礎を形成されることを学びます。子どもを取り巻く環境の変化と共に、乳幼児期の心身の発達などを学ぶ体験が少ない現状があり、保育実習を通して育児の理解を深める。						
教育目標との関連	教職領域の専門的学修と関係の免許取得を目標とします。さらに、挨拶や返事、報告など、社会における基本的なコミュニケーション力や自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度を身につけることが大切です。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもと家庭の機能、家族関係及び集団保育の基本と内容を理解する。</li> <li>2 乳幼児期の心身の発達、及び子どもの育つ環境を理解する。</li> <li>3 保育実習を通して育児に対する実践能力を養う。</li> </ol>						
評価方法	期末テスト(40%)、実習(30%)、ワークシート(20%)参加状況(10%)を総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	新保育学 改訂4版 南山堂【1,900円＋税】 資料・プリントを配布します。(父子健康手帳)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育を学ぶ (1)子どもの育つ環境</li> <li>2 保育を学ぶ (2)生命の誕生と母性</li> <li>3 子どもを育てる(1)愛着と自律</li> <li>4 子どもを育てる(2)人格形成と家庭環境</li> <li>5 乳幼児の発育・発達の特徴</li> <li>6 乳幼児の生活と養護(1)衣、清潔、睡眠</li> <li>7 乳幼児の生活と養護(2)赤ちゃんを抱く、あやす等の触れ合い方</li> <li>8 乳幼児の栄養及び離乳食</li> <li>9 実践ワークのまとめと発表</li> <li>10 子どもを育つ環境(1)子どもの生活と文化</li> <li>11 子どもを育つ環境(2)家庭保育、集団保育</li> <li>12 子どもの遊びと文化</li> <li>13 乳幼児の病気・事故への対応</li> <li>14 保育ニーズと子育て支援</li> <li>15 協働としての育児</li> </ol>						
アクティブ・ラーニングの授業形態							
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートは、授業の学び、設問に記入し提出すること。ワークシートの添削は、理解力などに関わる ので必読すること。理解できないところは質問するか、自由記述に各戸と。</li> <li>・実習ノートは、事前に目的・方法・準備などを記入し、その後は評価反省し深く学ぶこと。</li> </ul>						
免許・資格	中二種免(家庭)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(保育学)						

時間割番号	1F2016	科目名	医療事務Ⅱ			単位数	2
担当者	河井 由紀子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2150						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業では、医療制度のしくみや、あらゆる診療行為に対する診療費及び算定方法について学びます。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	実際の業務に必要な知識、技能を修得し資格試験に合格するための実力を身につける。
評価方法	定期試験 50パーセント、授業参加状況 30パーセント、提出物 20パーセント
備 考	「医療事務Ⅰ」を履修した人が、履修条件となります。
テキスト・教材・経費等	医療保障制度2700円、医科テキスト3240円、薬価早見表324円(以上 医療事務研究所) 検定希望者は医療事務学科問題集1242円、ニチイハンドブック1,800円を購入すると有利です。 追って授業内にて説明いたします。

授業計画	第1回. 医療事務Ⅰの復習 第2回. 手術 第3回. 麻酔 第4回. 入院① 第5回. 入院② 第6回. 入院③ 第7回. 手術～入院までの復習 第8回. リハビリテーション 第9回. 精神科専門療法 第10回. 在宅医療 第11回. 医学管理① 第12回. 医学管理② 第13回. 診療報酬明細書の記入法① 第14回. 診療報酬明細書の記入法② 第15回. まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習
準備学習(予習・復習)	授業の流れとしてポイント説明それに関する問題(例、プリント)に取り組んでいきます。医療事務1・2・3全て受講して検定試験を受ける態勢が整います。国家試験ではありませんが、将来役に立つ資格だと思います。頑張って受けてみて下さい。

免許・資格	医療事務
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2017	科目名	医療事務Ⅲ			単位数	1
担当者	河井 由紀子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2160						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業では、医療制度のしくみや、あらゆる診療行為に対する診療費及び算定方法について学びます。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	実際の業務に必要な知識、技能を修得し資格試験に合格するための実力を身につける。
評価方法	定期試験 50パーセント、授業参加状況 30パーセント、提出物 20パーセント
備 考	医療事務Ⅰ・Ⅱを、履修した人が、履修条件です。
テキスト・教材・経費等	医療保障制度2700円、医科テキスト3240円、薬価早見表324円(以上 医療事務研究所) 検定希望者は医療事務学科問題集1242円、ニチイハンドブック1,800円を購入すると有利です。 追って授業内にて説明いたします。

授業計画	第1回 医療保障制度 第2回 公費負担医療制度 第3回 後期高齢者医療制度 第4回 窓口業務 第5回 介護保険制度 第6回 受験対策 第7回 受験対策
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習
準備学習(予習・復習)	予習は結構です。授業の流れとポイント説明それに関する復習(例、プリント等)に取り組んでいきます。医療事務Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ全て受講して検定試験が受ける態勢が整います。国家試験ではありませんが将来必ず役に立つ資格です。1コマ1コマ 濃厚ですが、皆さんが分かりやすい授業にしていきたいと思っております。

免許・資格	医療事務
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2018	科目名	ビジネス実務基礎			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2201						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、発想力、コミュニケーション力						
概要	職業人としてオフィスワークを効果的に行うための基本を知り、将来組織の中で創造的に業務に携わる基礎力への養成へと繋ぎます。常に変化し続けるビジネス社会において、組織人としての個人と生活者としての個人はどのような位置付けになるのか等も学びます。秘書検定の受検を必須とします。						
教育目標との関連	自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度を身につけ、生きる力の基礎となる「働く力」につなげます。						
到達目標	【知識・理解】ビジネス社会の仕組みを理解する 【技能・表現】オフィスワークを全般的に学べ、社会的認知度の高い秘書検定3級合格 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習したフレームワークを活用して体系的に認識できる。 【関心・意欲・態度】新聞の経済欄に興味を持つ						
評価方法	授業への参画度(20%)、レポート提出(30%)、筆記試験(50%)を総合的に評価します。						
備考	卒業要件科目であり、秘書士資格科目です。						
テキスト・教材・経費等	「新しい時代の秘書ビジネス実務」紀伊国屋書店発行 1,600円＋税 *上記テキストは2年前期授業科目『秘書学入門』でも使用します。 秘書検定受検料 約4,000円						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 会社・経営者・従業員 第3回 ビジネス実務の基本 第4回 効率的なスケジュールリング 第5回 ビジネス社会におけるコミュニケーション 第6回 ビジネス社会における応対業務 第7回 出張に関するビジネス実務 第8回 効率的な会議遂行のためのビジネス実務 第9回 ビジネス社会における慶弔と贈答 第10回 ビジネス文書と情報の扱い方 第11回 組織のなかでの働き方 第12回 ビジネス関連基礎知識①(PDCAサイクル) 第13回 ビジネス関連基礎知識②(情報の収集・活用) 第14回 ビジネス関連基礎知識③(コミュニケーション) 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	第2回から11回までは教科書に沿って進みます。したがって、予習として該当箇所を読み込んでください。12回から14回まではプリントを配布します。復習として、配布したプリントを読み返してください。						
免許・資格	秘書士、ビジネス実務士						
免許・資格の科目区分	秘書士資格認定科目、ビジネス実務士資格認定科目						

時間割番号	1F2019	科目名	ビジネス実務基礎			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-2201						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、発想力、コミュニケーション力						
概要	職業人としてオフィスワークを効果的に行うための基本を知り、将来組織の中で創造的に業務に携わる基礎力への養成へと繋ぎます。常に変化し続けるビジネス社会において、組織人としての個人と生活者としての個人はどのような位置付けになるのか等も学びます。秘書検定の受検を必須とします。						
教育目標との関連	自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度を身につけ、生きる力の基礎となる「働く力」につなげます。						
到達目標	【知識・理解】ビジネス社会の仕組みを理解する 【技能・表現】オフィスワークを全般的に学べ、社会的認知度の高い秘書検定3級合格 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習したフレームワークを活用して体系的に認識できる。 【関心・意欲・態度】新聞の経済欄に興味を持つ						
評価方法	授業への参画度(20%)、レポート提出(30%)、筆記試験(50%)を総合的に評価します。						
備考	卒業要件科目であり、秘書士資格科目です。						
テキスト・教材・経費等	「新しい時代の秘書ビジネス実務」紀伊国屋書店発行 1,600円＋税 *上記テキストは2年前期授業科目『秘書学入門』でも使用します。 秘書検定受検料 約4,000円						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 会社・経営者・従業員 第3回 ビジネス実務の基本 第4回 効率的なスケジュールリング 第5回 ビジネス社会におけるコミュニケーション 第6回 ビジネス社会における応対業務 第7回 出張に関するビジネス実務 第8回 効率的な会議遂行のためのビジネス実務 第9回 ビジネス社会における慶弔と贈答 第10回 ビジネス文書と情報の扱い方 第11回 組織のなかでの働き方 第12回 ビジネス関連基礎知識①(PDCAサイクル) 第13回 ビジネス関連基礎知識②(情報の収集・活用) 第14回 ビジネス関連基礎知識③(コミュニケーション) 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	第2回から11回までは教科書に沿って進みます。したがって、予習として該当箇所を読み込んでください。12回から14回まではプリントを配布します。復習として、配布したプリントを読み返してください。						
免許・資格	秘書士、ビジネス実務士						
免許・資格の科目区分	秘書士資格認定科目、ビジネス実務士資格認定科目						

時間割番号	1F2020	科目名	社会行動と心理			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F2-2031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、情報収集力、傾聴・受信力

概要	人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きています。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えていきます。このような人と他者や社会とのかかわりを検討するのが社会心理学です。この授業では、日常生活に潜む様々なトピックについて、科学的に捉えて考えいきます。
教育目標との関連	この科目は学科共通専門科目の「人間」の領域の科目です。人間の社会行動に対して論理的に考えることにより、「生きる力」を育成するという目標と関連します。
到達目標	日常生活の中での自分や他者の行動について、客観的に捉えて吟味する能力を身に着けるようになること。
評価方法	毎回の提出課題(30%) 期末試験(70%)
備考	第一回の授業で説明する受講ルール(私語禁止など)を厳守できない者の受講は認めません。
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布します。

授業計画	1 :イントロダクション 社会心理学とは 2 :「社会的認知」その① 人はどんな風に判断しているのか？ 3 :その② 4 :その③ 5 :その④ 6 :「自己過程」その① 人はどのように変化して、適応しているのか？ 7 :その② 8 :「個人間・対人間過程」その① 人は他者やどのようなやり取りをしているのか？ 9 :その② 10 :その③ 11 :「集団・組織行動」その① 集団や組織は、どうやって機能しているのか？ 12 :その② 13 :その③ 14 :最新の研究紹介 15 :総チェック・まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習
準備学習(予習・復習)	授業で受けた内容を、自分の日常生活で探そうにしてみてください。また自分や他者の行動について「なぜ」と考えるようにしてください。

免許・資格	上級秘書士
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1F2021	科目名	社会調査			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F2-3051						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、情報収集力、コミュニケーション力

概 要	この科目は、社会調査の実施における必要な技術を習得し、自分で考えて研究することのテクニックを磨きます。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、様々な問題に対して分析して対処できる人になることを目指します。
到達目標	調査の手続きを理解し、得られたデータからその背景について考察することができること。
評価方法	普段の授業への積極性(30%)、レポート(40%)、発表(30%)から評価する。
備 考	
テキスト・教材・経費等	適宜資料を配付します。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 社会調査基礎 その1 調査を実施する上で必要なこと、手続き、テクニックを習得</li> <li>3. その2</li> <li>4. その3</li> <li>5. その4</li> <li>6. テーマ設定 調査するテーマを決定</li> <li>7. 調査票作成・データ収集 その1 調査票を作成し、実際にデータを収集し入力</li> <li>8. その2</li> <li>9. その3</li> <li>10. 分析その1 得られたデータから分析を実施</li> <li>11. その2</li> <li>12. 報告書作成・プレゼン準備 その1 報告書を作成し、プレゼンの準備をする</li> <li>13. その2</li> <li>14. 発表 その1 内容を発表する</li> <li>15. その2</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク
準備学習(予習・復習)	チームによる共同作業がメインとなります。協調性および責任感を強く持つように。

免許・資格	上級秘書士、観光ビジネス実務士
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2022	科目名	観光総論	単位数	2
担当者	七枝 敏洋				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1F3-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	観光者、観光の対象、観光ビジネス、観光事業、観光政策、観光まちづくり				
概要	観光についてはじめて学ぶ人向けの講座です。世の中で観光活動がなくても生きて行けるでしょう。しかし、旅行と観光は世界で最大の産業であり、世界のGDPの9.4パーセント、雇用の8.2パーセントを占めています(2010年)。なぜ、人は観光するのでしょうか。講義では、観光の歴史、交通の発展、経済に与える影響、観光する人の心理、観光形態、消費者保護、政策と規制、地域振興など、観光者と観光ビジネスを俯瞰し(広く眺め)し、観光の意義を考えます。身近な観光資源を地理、歴史、社会の視点から学習します。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシーによる、「職業人として必要な知識・技能、態度を学ぶため」に関連します。				
到達目標	①観光者(ひと)を中心に、観光の歴史、心理、観光形態について簡潔に説明できる ②観光活動の経済的意義と政策の関与について簡単に説明できる。 ③身近・著名な観光資源の所在、魅力、価値を伝えることができる。				
評価方法	①授業への取組 20%、②課題レポート 30%、③期末試験 50%				
備考	観光ビジネス実務士資格取得の必須科目です。取得希望者は観光実務と併せて履修してください。				
テキスト・教材・経費等	穴戸学他著、観光概論、株式会社JTB総合研究所[2670円]を使用します。テキストは観光実務と共通です。適宜プリントを配布します。				
授業計画	<p>オリエンテーション: 授業の概要、受講規則、自己紹介、学修に対する抱負</p> <p>「観光とは」 : 観光の現代的意義</p> <p>観光の歴史① : 古代、明治維新、太平洋戦争、戦後の高度成長期へ</p> <p>観光の歴史② : 石油危機を経て、安定成長期、バブル崩壊、現代観光</p> <p>観光の現状① : わが国における観光の現状: 国内観光、海外観光旅行</p> <p>観光の現状② : 観光旅行の形態、訪日外国人旅行の現状</p> <p>観光地① : 観光を構成する要素、観光の対象、観光資源</p> <p>観光地② : 観光地の類型と特質、観光地の盛衰とその背景</p> <p>観光地③ : 観光まちづくりと観光振興</p> <p>観光地④ : 観光まちづくりと観光振興事例紹介</p> <p>国際観光 : 国際観光の現状、統計資料</p> <p>身近な観光資源 : 広島県内の観光資源</p> <p>身近な観光資源 : 中国地方の代表的観光資源</p> <p>観光性と観光資源 : 観光基本法と観光政策、試験箇所の公表</p> <p>まとめ : 振り返り、質疑応答</p>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	ペア学習、発表				
準備学習(予習・復習)	1.事前:教材のP2-20を読む。2.事後:観光の関連用語を説明できる。3.太平洋戦争を境として日本の観光の歴史の概略と流れを説明できる。4.マスツーリズムからネット社会による観光行動の特徴を説明できる。5.観光旅行の市場、推移と現状の傾向を説明できる。6.観光旅行の形態、訪日外国旅行の指向性を説明できる。7.観光を構成する要素を説明できる。8.観光地の類型と特質を説明できる。9.観光振興策を理解する。10.観光まちづくりの事例を2つ以上説明できる。11.国際観光の現状、統計資料の種類にどのようなものがあるか理解すること。12.広島県内の観光資源の特徴を知り、場所を案内できる。13.中国地方の代表的観光資源を知り、場所を紹介できる。14.観光立国推進法成立の背景を理解し、説明できる。15.観光の歴史、現状、構成する要素、政策を説明できる。				
免許・資格	観光ビジネス実務士の必修科目です。				
免許・資格の科目区分	観光ビジネス実務士				

時間割番号	1F2023	科目名	観光実務	単位数	2
担当者	七枝 敏洋				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1F3-2021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	ツーリズム 観光実務 観光ビジネス 観光事業 観光者				
概要	初めて観光を学ぶ人を対象に、観光者が、観光の対象(資源)を訪問するという活動(観光活動)を実現するために、観光事業と実務の役割があることを学びます。次に、身近な観光事業と公共政策の実務内容について、運輸、宿泊、旅行業、テーマパーク、施策の歴史、役割、経営の視点から取り上げます。これらの知識をもとに、それぞれが紹介したい地域の旅程(費用算出も含む)を組み、個々の観光事業を結びつける能力を育成します。旅程のプレゼンテーションを通じて、利用者と実務者双方から観光事業について考えます。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科の教育目標のひとつである「専門分野における確かな知識・技能及び実践力を身に付け、社会で役立つ適材として自立することができる」と関連しています。				
到達目標	○観光事業を観光者の立場とサービスを提供する実務者の立場で考えることができる。 ○観光事業に関する基礎的な知識を理解し、習得する。 ○観光者のニーズを想定し、観光事業を結びつけ、旅程を作成し、企画の意図を伝えることができる。				
評価方法	授業参加状況(20%)、旅程作成(10%)、旅程発表(10%)、課題レポート(10%)、期末テスト(50%)				
備考	観光ビジネス実務士資格取得の必須科目です。取得希望者は観光総論と併せて履修してください。				
テキスト・教材・経費等	テキスト・経費・教材 観光概論、穴戸学他、株式会社JTB総合研究所(2670円税込)、観光総論と共通 (参考文献)適宜配布します。				
授業計画	第1回 オリエンテーション。観光産業とは:ある観光活動に沿って、多くの観光事業、実務サービスの関係性について学びます。 第2回 運輸機関①輸送分担とJR 第3回 運輸機関②JRと関連事業の取り組み 第4回 運輸機関③航空会社と空港整備問題 第5回 運輸機関④航空運賃と関連事業の取り組み 第6回 運輸機関⑤クルーズとバス事業 第7回 宿泊施設①宿泊区分と旅館経営 第8回 宿泊施設②ホテルと経営 第9回 宿泊施設③民宿・ペンション、会員制リゾートクラブ 第10回 旅行業①旅行業種区分、役割、経営 第11回 旅行業②販売と戦略 第12回 テーマパークと理念 第13回 観光政策と観光行政、旅程を創ろう 第14回 企画した旅程を発表しよう① 第15回 企画した旅程を発表しよう②、我が国の観光行政の現状、まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習/ペアワーク/調査・実習/発表				
準備学習(予習・復習)	指定されるテキストの箇所を事前に読んでください。わからない用語は適宜質問しましょう。どのような観光事業があるか、また、身近なパンフレットを収集し、観光資源と観光サービスの知識をつけるなど、旅程の発表に備えてください。				
免許・資格	観光ビジネス実務士				
免許・資格の科目区分	観光ビジネス実務士資格認定科目				

時間割番号	1F2024	科目名	ファッションデザイン			単位数	2
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F4-2011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 論理的思考力, 発想力, 課題設定力, 企画・計画力

概要	ファッションデザインの基礎的な知識や特色などについて学び、ファッションデザインが持つ本質的な意味について理解を深めます。また演習を通して、感性を豊かにし、生活に応用できるよう発展させます。
教育目標との関連	ファッションデザインの基礎知識やデザイン発想法、美的形式原理などを学ぶことにより、感性を高め、デザイン力を育てます。
到達目標	ファッションデザインの基礎知識を習得し、ファッションに関する情報を分析できる力を備えることを目標とします。
評価方法	小テスト/ レポート/ 作品 (80%)、受講態度 (20%) を総合評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	適宜資料を配付します。ファッション雑誌など課題作成で使用するものは、各自で購入してください。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ファッションデザインとは 第3回 ファッションデザインの要素1 アイテム 第4回 ファッションデザインの要素2 シルエット 第5回 ファッションデザインの要素3 デテール 第6回 ファッションデザインの要素4 色彩 第7回 コレクションとデザイナー 第8回 課題 第9回 課題発表・評価 第10回 ファッションデザインの制作過程 第11回 ファッションデザインの美的形式原理1 ユニティー、ハーモニー 第12回 ファッションデザインの美的形式原理2 リズム、バランス、プロポーション 第13回 デザイン発想 第14回 デザイン様式とファッション 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習, 問題解決学習, プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	ファッションなどの店舗やファッション雑誌、インターネットから常にファッション情報について情報を収集してください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2025	科目名	ファッション造形実習Ⅱ			単位数	1
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	実習		
ナンバリング	1F4-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力, 課題設定力, 創造・表現力					
概要	大裁ち女ひとえ長着(ゆかた)の製作の経験学習を通して、平面構成における基礎的な知識と技術を学びます。完成したゆかたは帯を用いて着装の仕方を学び、柄合わせ、寸法の適否、仕上がり等の出来具合を考えます。						
教育目標との関連	ゆかたの製作を通して、縫製の知識と技術を修得し、簡単な衣服を製作する実践力と自己表現力を養います。						
到達目標	(1)ゆかたの各部の名称を学び、平面構成を理解します。 (2)ゆかたの反物(布地)の柄合わせを理解し、適切な裁断ができるようにします。 (3)縫製はミシン縫いを主とし、縫い代の始末は簡略的な手法を使って手縫いで行い、適切な縫製方法を習得します。 (4)完成したゆかたは着装し、観察・発表し、自己評価をします。						
評価方法	作品/レポート70%、受講態度30%で総合評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	適宜資料を配布します。材料(反物、帯、縫い糸など)は各自で用意してください。						
授業計画	第1回 授業スケジュール、ゆかたの構成、採寸と裁ちきり寸法出し 第2回 積りと柄合わせ、裁断 第3回 しるしつけ① 第4回 しるしつけ② 第5回 袖縫い① 第6回 袖縫い②、あげ縫い 第7回 背縫い、縫い代の始末 第8回 脇縫い、縫い代の始末 第9回 おくみつけ、縫い代の始末 第10回 縦襷、すそくけ 第11回 えりつけ 第12回 えりくけ 第13回 そでつけ 第14回 仕上げ、たたみ方 第15回 着装と自己評価						
アクティブ・ラーニングの授業形態	製作実習, 自己省察						
準備学習(予習・復習)	作品を仕上げていくために段階を追って継続的に授業を進めてゆきます。1回の実習内容の進度が非常に速いため、欠課をすると授業について行くことが困難になります。授業進度に遅れた場合は、空き時間や放課後などを使って、次週の授業までに自主的に課題を進めてください。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F2026	科目名	ブライダル演習 I			単位数	2
担当者	若槻 暢子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F4-2081						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考、発想力、傾聴・受信力

概要	ブライダル I で学んだ基礎を基にして、実際に現場で活躍できる実践力を身につけ、模擬挙式・披露宴を企画・演出・コーディネートしていきます。また、グループワークを通じてコミュニケーション能力・他者を理解する力を養ってほしいと願っています。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	挙式・披露宴を企画コーディネートすることができる。グループワークを通じて他者と協力し合い、発想的・積極的に課題に取り組むことができる。
評価方法	ミニレポート(40%) グループワーク(40%) 授業参加状況(20%) 等により総合的に評価します。
備考	ブライダルプランナー検定の取得に必要な科目です。
テキスト・教材・経費等	The Business of Japanese Weddings ※系列実践演習(ファッション系列)」でも使用します。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① コンセプトボード</li> <li>② ウェディングの決定(プレゼンテーション)</li> <li>③ 挙式進行</li> <li>④ 披露宴進行</li> <li>⑤ ウェディングアイテム作成 その1</li> <li>⑥ その2</li> <li>⑦ 関連商品・サービス/衣裳・フラワー・美容・写真・演出等(実践編)</li> <li>⑧ アメリカン・ウェディングと宗教ウェディング</li> <li>⑨ ブライダルビジネスにおけるコミュニケーション(実践編)</li> <li>⑩ 現場見学～ホテル・ハウスウェディング～</li> <li>⑪ グループワーク その1</li> <li>⑫ その2</li> <li>⑬ その3</li> <li>⑭ その4</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、調査学習、グループワーク
準備学習(予習・復習)	各回の復習として「ミニレポート」に積極的に取り組むとよいでしょう。 テキストの講読を通して、講義内容への理解を深め、分からないところは積極的に質問をしてください。

免許・資格	ブライダルプランナー
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2027	科目名	ウェディングフラワー		単位数	2
担当者	漁野 恵					
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習	
ナンバリング	1F4-2100					
コア・アクティブ・ラーニング科目群						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード						
概要	ウェディングフラワーの基礎知識を習得できるよう、花材、吸水フォームの取り扱い方の基礎から学び、花嫁のブーケ、テーブル装花を生花を使用し、実践で制作していきます。 また、ウェディングの各場面にあった花材の選択(花材の色合わせや組み合わせ方)、スタイルを学び、実践していけるよう、基礎的知識や能力を育成していきます。					
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。					
到達目標	花材、吸水フォーム、はさみの取り扱い方の基礎知識を理解していること。 各課題のスタイルを理解していること。 季節にあったウェディングフラワーを提案していけること。					
評価方法	出席状況、授業参加状況、制作の意図の理解度をもとに、総合的に判断します。					
備考	授業では2回ほど生花を使って実習をします。なお、集中講義です。日程はHiWayで知らせます。					
テキスト・教材・経費等	毎時、プリントを配付します。 経費 お花代として約3,000円ぐらいを予定しています。					
授業計画	第1回 オリエンテーション(自己紹介、道具の使用方法など) 第2回 実習 ゲストテーブル装花①(ドーム型) 第3回 実習 ゲストテーブル装花①(ドーム型) 第4回 実習 ゲストテーブル装花①(ドーム型) 第5回 ウェディングブーケについて 第6回 フラワーアークセサリーについて 第7回 ドレスラインとブーケデザインの相性について 第8回 ドレス生地・素材と花びらの質感について 第9回 実習 花嫁のブーケ(ラウンドブーケ) 第10回 実習 花嫁のブーケ(ラウンドブーケ) 第11回 実習 花嫁のブーケ(ラウンドブーケ) 第12回 実習 花婿の胸飾り(ブートニア) 第13回 ゲストテーブル装花について 第14回 花束について 第15回 ウェディング装飾について					
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・学習					
準備学習(予習・復習)	生活のあらゆるところで見かける花に興味を持ち、どのような生け方がされているかを注視してください。					
免許・資格						
免許・資格の科目区分						

時間割番号	1F2028	科目名	フードデザイン	単位数	2
担当者	森田 清美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1F5-2010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	私たちは今、さまざまな価値観があることを互いに認め合う時代に生きている。ライフスタイルも画一的ではなく、より自分らしいものが求められていようになった。このような状況において、フードコーディネーターの学修を通して、フードビジネスを捉え、必要不可欠な知識を体系的に学ぶ。				
教育目標との関連	フード領域の専門的学修を通して、フードコーディネーター3級資格の取得をめざす。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「おいしさ」＝「食を楽しむ」ための空間感を考える。</li> <li>2. フードビジネスの視点からメニュープランニングについて知る。</li> <li>3. 食の企画を模擬的にを行い、フードデザインを考える。</li> </ol>				
評価方法	レポート課題・発表(60%)、参加状況(40%)により総合的に評価します。				
備考	「食生活アドバイザー検定」受験のための推奨科目です。				
テキスト・教材・経費等	「フードコーディネーター教本」柴田書店→初回の授業内で、フードコーディネーター3級資格希望者に購入の案内をします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 食空間とテーブルコーディネーター・概説・食空間のあり方</li> <li>3. 食空間とテーブルコーディネーター・家庭の食空間</li> <li>4. 食空間とデザイン・デザインコンセプト</li> <li>5. メニュープランニング・概説・メニュープランニングの流れ</li> <li>6. メニュープランニングの実際(1)</li> <li>7. メニュープランニングの実際(2)</li> <li>8. メニュープランニングの流れ</li> <li>9. メニュープランニング・シート</li> <li>10. メニュープランニングの事例(1)</li> <li>11. メニュープランニングの事例(2)</li> <li>12. レストラン以外のメニュープランニング</li> <li>13. メニュープランニング(プレゼン発表)</li> <li>14. 食空間とデザイン・プランニングから開店まで</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	加工食品の正しい知識を学ぶことは、みなさんの日常の食生活においても大変役立ちます。日頃から、身の回りの加工食品に目を配るなど、積極的な姿勢で授業にのぞんでください。				
免許・資格	フードコーディネーター3級資格				
免許・資格の科目区分	[デザイン?アート][経済?経営]				



時間割番号	1F2029	科目名	食生活実習Ⅱ	単位数	1
担当者	森田 清美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	実習
ナンバリング	1F5-2051				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力				
概要	私達の食生活は、核家族化から孤食化傾向にあります。伝統的な行事食や郷土料理を再認識し、ライフステージ別の献立作成と調理実習を通じて経験学習を行います。さらに、生活習慣病予防を図り、健康で心豊かな食生活をおくることが出来るよう実習を通して基本を理解します。なお教職の必修科目であり、中学校技術・家庭の「食物」領域の学習指導も考慮します。				
教育目標との関連	フード領域の専門的学修と関連資格の取得をめざす。また、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度を身につけます。				
到達目標	地域文化をふまえた行事食や郷土料理を再認識し、ライフステージ別対象者の献立作成のポイントを理解し、実生活に行かせることを目的とします。				
評価方法	予習(事前)・復習(事後)シート・実習記録(40%)・実習態度(30%)・参加状況(30%)により総合的に評価します。				
備考	食生活実習Ⅰの履修が望ましい。「食生活アドバイザー検定」受験希望者は履修が望ましいです。				
テキスト・教材・経費等	毎時、資料を配布します。実習の材料は各自負担で持参で行います。なお、調味料代として300円徴収します。				
授業計画	第1回 実習にあたっての心構えおよび班編成 第2回 身近な郷土料理や行事食のいろいろ 第3回 献立の作成の手順 第4回 行事食(郷土料理)の献立作成 第5回 行事食(郷土料理)の調理実習①広島県 第6回 行事食(郷土料理)の調理実習②他県 第7回 行事食(郷土料理)の実習のまとめ 第8回 ライフステージ別の食生活のあり方 第9回 ライフステージ別対象者別献立作成 第10回 ライフステージ別の食生活調理実習—幼児期— 第11回 ライフステージ別の食生活調理実習—学童期— 第12回 ライフステージ別の食生活調理実習—高齢期— 第13回 ライフステージ別調理実習のまとめ 第14回 生活習慣病予防のための献立作成と食生活のあり方 第15回 衛生管理とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、グループワーク、問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	献立を各自で作成していきますので、食材の旬や調理特性に関心を持ち、料理書や新聞記事などで食に関して話題になっていることを収集しておきましょう。グループで献立を決めて調理し、量や味付け・組合せなどを記録しておき、特にうまく出来なかった点を今後活かせるようにまとめておきましょう。献立作成は班で行っていきませんが、予習として事前シートを完成し、復習として事後シートに記入・提出をして、学習を深めていきます。				
免許・資格	フードコーディネーター3級資格				
免許・資格の科目区分	[文化]・[科学]				

時間割番号	1F2030	科目名	栄養学		単位数	2
担当者	森田 清美					
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義	
ナンバリング	1F5-2070					
コア・アクティブ・ラーニング科目群						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード						
概要	栄養の基本的概念概念及びその意義を学ぶとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。また、エネルギー及び栄養素の代謝とその生理的意義についても理解を深める。					
教育目標との関連	フード領域の専門的学修と関連資格の取得を目指す。栄養学の観点から食品を考え、「食」について総合的に考える力をつけることを目標とする。					
到達目標	ヒトの栄養とは何かを理解すること。ライフステージ別栄養の大切さを理解すること。					
評価方法	定期期末試験50%、小テスト・レポート20%、受講態度30%					
備考						
テキスト・教材・経費等	「使い方からやさしくガイド はじめての食品成分表」女子栄養大学出版部					
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食品のおもな成分とそのはたらき①三大栄養素 第3回 食品のおもな成分とそのはたらき②無機質 第4回 食品のおもな成分とそのはたらき③ビタミン 第5回 食品のおもな成分とそのはたらき④その他の食品成分 第6回 食品のおもな成分とそのはたらき⑤栄養素の相互作用 第7回 自分の食生活を見つける～調査～ 第8回 自分の食生活を見つける～発表～ 第9回 幼児期の生理と食生活～成長期① 第10回 学童期の生理と食生活～成長期② 第11回 思春期の生理と食生活～成長期③ 第12回 成人期の生理と食生活 第13回 弁当作りを通して食生活を考える～献立作成～ 第14回 弁当作りを通して食生活を考える～実習～ 第15回 高齢者の生理と食生活					
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、課題発見学習、調査・実習					
準備学習(予習・復習)	毎回、小テストを実施します。予習として小テストに向け学修し、復習として、小テスト返却後、やり直しをし、提出します。					
免許・資格	中二種免(家庭)? フードコーディネーター3級資格					
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(食物学)?[科学]					

時間割番号	1F2031	科目名	CAD演習			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F6-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	CAD(Computer Aided Design コンピュータ支援設計)は住宅やインテリアの設計に必要な不可欠なものです。CADの基礎知識を学ぶとともに、2次元、3次元CADソフトの操作法を修得し、CADの利点を理解します。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科カリキュラム・ポリシー3に属する系列専門科目です。
到達目標	CADの基礎知識が修得できている。 使用ソフトの基本操作技術が修得できている。
評価方法	課題の完成度(80%)及び授業への参加状況(20%)によって評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	『はじめて学ぶJw_cad8』(エクснаレッジ)を使用します。 また、プリントを適宜配付します。

授業計画	<p>第1回(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CADとは、コンピュータと住宅・インテリアの設計、使用するソフトやパソコンの基本操作の確認</li> </ul> <p>第2回～第8回(前半:3D/CAD)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面の作成と3D化(基礎、1階、2階、屋根、エクステリア)</li> <li>・主要居室のインテリア設計(内装材料の選択、設備・家具の選択配置、色彩計画など)</li> <li>・発表及び評価</li> </ul> <p>第9回～第15回(後半:2D/CAD)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本操作、基本コマンド(線、円、伸縮、複線、複写、移動、文字・寸法)、レイヤなど</li> <li>・平面図の作図</li> </ul>
アクティブ・ラーニングの授業形態	その他(実習)
準備学習(予習・復習)	前半は、ソフト付属のオンラインマニュアルを活用します。操作時につまずくことがあればこのマニュアルを活用してください。 後半は、テキスト『はじめて学ぶJw_cad8』に沿って自学自習的に進めます。オプション課題をイントラネット(Hilway)上に設けていますので挑戦してください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2032	科目名	インテリアデザイン I			単位数	2
担当者	角田 朱美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1F6-2050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	インテリアの歴史の基礎知識や、家具・照明器具や内装材料などのインテリア商品の基礎知識を学び、インテリア全般の知識を幅広く身に着けます。 知識を生かしながら、お客様にコーディネートする手法までを学びます。
教育目標との関連	生活の応用力や仕事で役立つ知識・技能を見につけ「なりたい自分」になるための、ハウス・インテリア系列専門科目です。
到達目標	インテリアデザインの歴史について古代から現代までの基礎知識を理解すること。 住宅関連用品、住宅設備材料などの基礎知識を身につけ実践へとつなげていくこと。
評価方法	小テスト(35%)、レポート(35%)、受講状況(30%)を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	「暮らしとインテリア」

授業計画	第1回 インテリアの歴史(西洋) 第2回 インテリアの歴史(日本) 第3回 住宅・インテリアに関する契約 第4回 インテリアカラー 第5回 カラースキーム 第6回 家具の種類 第7回 内装の仕様 第8回 照明器具の種類 第9回 部屋別収納 第10回 コーディネーターの役割 第11回 住宅設備と環境 第12回 内装・外装の材料 第13回 まとめ 第14回 職業としてのインテリアデザイン 第15回 発表
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、問題解決学習、グループ学習
準備学習(予習・復習)	身近な環境にある住宅設備、内装、家具などの構造や使用される材料などを参考にしましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F2033	科目名	インテリアコーディネート			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F6-3070						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	インテリアコーディネートの基本を3Dソフトを利用して学びます。様々なインテリアのシーンにおいて、インテリアコーディネートやリフォームの基本知識を学びながら、コーディネートのトレーニングを行い、プレゼン能力を身につけます。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科カリキュラム・ポリシー3に属する系列専門科目です。
到達目標	使用ソフトの基礎知識・操作技術が修得できている。 コーディネートの基礎、リフォームによる問題点の解決と表現力が身についている。
評価方法	提出課題(60%)、プレゼンテーション(20%)、受講状況(20%)を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	テキストは貸与します。また、適宜プリントを配付します。

授業計画	<p>第1回 : ガイダンス</p> <p>第2回～第4回 : 基礎トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリア業務と3DマイホームデザイナーPRO</li> <li>・3DマイホームデザイナーPROの基礎トレーニング</li> </ul> <p>第5回～第9回 : インテリアコーディネート・トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーコーディネートの基本</li> <li>・インテリアエレメントと内装仕上げ</li> <li>・システムキッチンの計画</li> <li>・照明計画の基本</li> <li>・ウインドトリートメント</li> </ul> <p>第10回～第15回 : マンションリフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションリフォームへの展開</li> <li>・実施案のモデリング</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	雑誌やホームページ、ウインドショッピングなどで日頃からインテリアに関心をもって、自分なりのデータを蓄積しておきましょう。また、スマホアプリにはインテリアに係わる専門の無料アプリがありますので、検索して役立ちそうなものを活用してください(授業でも紹介します)。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3002	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	森田 清美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力, 課題設定力, 企画・計画力, チームワーク力

概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。全コース共通専門科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習, 体験学習, 調査学習, プロジェクト学習, グループワーク
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3003	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力, 課題設定力, 企画・計画力, チームワーク力						
概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習, 体験学習, 調査学習, プロジェクト学習, グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F3004	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		論理的思考力, 課題設定力, 企画・計画力, チームワーク力					
概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習, 体験学習, 調査学習, プロジェクト学習, グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							



時間割番号	1F3005	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力, 課題設定力, 企画・計画力, チームワーク力

概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。全コース共通専門科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習, 体験学習, 調査学習, プロジェクト学習, グループワーク
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3006	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力, 課題設定力, 企画・計画力, チームワーク力

概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけます。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習, 体験学習, 調査学習, プロジェクト学習, グループ・ワーク
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3007	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	山崎 初枝						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力 発想力 企画計画力 チームワーク力 イノベーション力

概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習 グループワーク
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3008	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	丹羽 真理						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、発想力、企画・計画力、チームワーク力、イノベーション力						
概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F3009	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	岡本 美恵						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、発想力、企画・計画力、チームワーク力、イノベーション力						
概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々々に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習、課題解決学習、プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F3010	科目名	総合生活デザイン演習Ⅱ			単位数	2
担当者	能城 光秀						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、課題設定力、企画・計画力、チームワーク力

概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン(成りたい自分になる)プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り拓く実践の場ともなります。
教育目標との関連	卒業研究の活動を通して、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけます。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習、調査・実習、グループ学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3011	科目名	食生活論			単位数	2
担当者	森田 清美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3090						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	命と食と暮らしに重点をおき、食文化や歴史、食の安心・安全、食環境等を学び、健やかに生きてゆくための明日への食を考えていきます。
教育目標との関連	建学の精神理念に基づいた教育目標に沿った講義科目であり、ひとのいのちにとって基盤となる食について学ぶ。
到達目標	食の基礎的かつ根幹的なことばを理解し、食についての科学的な考え方を習得できることを目標とします。
評価方法	①課題レポート 30% ②課題テスト 30% ③参加状況及び受講態度 40% ①～③を総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	必要に応じて資料を配付します。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 受講ガイダンス</li> <li>2 食生活の概念</li> <li>3 食生活と健康</li> <li>4 食生活と健康</li> <li>5 世界の食生活史</li> <li>6 世界の食生活史</li> <li>7 日本の食生活史世界の食生活史</li> <li>8 日本の食生活史</li> <li>9 食生活と安全</li> <li>10 食生活と安全</li> <li>11 21世紀における健全な食生活の展望</li> <li>12 21世紀における健全な食生活の展望</li> <li>13 食育の推進</li> <li>14 食育の推進</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー・課題発見学習
準備学習(予習・復習)	日々の暮らしの食について、新聞などで情報を得ること。

免許・資格	中二種免(家庭)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(食物学)

時間割番号	1F3012	科目名	カラーコーディネート	単位数	2
担当者	及川 久男				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1F1-3110				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	カラー時代と呼ばれて久しい現代、私たちの暮らしは、色彩をぬきにしては考える事はできません。しかし商品計画等に意識的に色彩が採用されたのは今世紀になってからでした。我々はそれを色彩革命と呼んでいます。それがTV等メディアのカラー化を契機として第2次色彩革命へと変貌をとげていきます。こうした色彩社会について考え学習をしていきます。
教育目標との関連	コミュニケーションを効果的に行うための、色彩学的な知見を得る。
到達目標	色彩学の基本から色彩の文化的側面、暮らしの中で色彩がどのように使われているかなど、実例を交えながら講義を行ない色彩学と色彩の効用についての理解を深めたい。
評価方法	授業態度と参加状況により評価する。
備考	ワークショップキットは2講目の授業で説明をするので事前に用意しておく事が望ましい。
テキスト・教材・経費等	カラーチャート・ワークショップキット(実習教授)

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 色彩を学ぶうえで(導入)</li> <li>2: 色彩の物理的側面 / 光と色彩, スペクトル, 電磁波と波長</li> <li>3: 色彩の生理的側面 / なぜ色を感じるのか</li> <li>4: 色彩の心理的側面 / 温度感, 重量感, 味覚, 色彩の心理影響</li> <li>5: 対比現象と残像 / 同時対比, 連続対比, 対比現象の効果応用</li> <li>6: 色とは / 色と色材のちがひ, 加算(法) 混合と減算(法) 混合</li> <li>7: そのほかの代表的な混合方法 / 並置混合, 回転混合</li> <li>8: 表色系について / マンセル表色系, オストワルト, PCCS</li> <li>9: 色彩の三属性 / 明度と彩度と色相, 原色とは何か</li> <li>10: PCCS色彩表色系 / 「トーン」という概念</li> <li>11: 色の名前 / 色名法について, 基本色名と系統色名, 固有色名</li> <li>12: 民族と色彩 / 各民族の色彩感覚</li> <li>13: 日本の色彩 / 伝統に培われた色彩感覚, 平安時代と近世</li> <li>14: 暮らしのなかの色彩 / 衣食住と色彩, 企業と色彩計画</li> <li>15: まとめ / 環境と色彩, 暮らしの中で色彩をどのようにするか</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習
準備学習(予習・復習)	目標にも書かれているように、本講義は、人の暮らし(日常)の中の色彩を学ぶ授業です。平日頃より、色彩に高い関心と興味を持つ事が最も大切であり、それが何よりの予習、復習と成ります。

免許・資格	インテリアプランナー
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1F3013	科目名	福祉入門			単位数	2
担当者	村上 須賀子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3190						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業では人が生きていくうえで困難を生じたときの助けとなる社会福祉の基本的な知識を学ぶことにより、社会人としての常識と地域住民として共に生きる視点を身につけます。
教育目標との関連	仕事人としてのキャリア形成の基本を学び、さらに共生社会の一員としての自覚を育みます。
到達目標	福祉住環境コーディネーター検定資格の基本を学び資格取得へのチャレンジが出来ます。
評価方法	授業コメント(5回) 25%、レポート(2回) 25%、定期試験 50% レポートについては初回のオリエンテーションで説明いたします。
備 考	福祉住環境コーディネーター検定資格に必要な科目です。 福祉住環境コーディネーター検定資格の取得を目指す人は、ハウス・インテリア関連科目も受講することが望ましいです。
テキスト・教材・経費等	『福祉住環境コーディネーター検定試験』3級公式テキスト<改訂4版> 東京商工会議所発行、¥2,500+税 (参考図書：『医療福祉総合ガイドブック2016年度版』NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会編 医学書院3,300円)

授業計画	<p>第1回:オリエンテーション(授業の進め方)・医療ソーシャルワーカーの仕事(DVD視聴)</p> <p>第2回:社会保障の仕組み :その1・社会保障の種類</p> <p>第3回:社会保障の仕組み :その2・公的扶助とは、社会保障 利用上の留意点</p> <p>第4回:少子高齢社会の現状と課題</p> <p>第5回:地域包括ケアシステム)、社会全体の取り組みの必要性</p> <p>第6回:日本の住環境の問題</p> <p>第7回:福祉住環境コーディネーターとは</p> <p>第8回:高齢者の自立生活を支える介護保険制度(DVD視聴)</p> <p>第9回:障害者総合支援法の仕組み</p> <p>第10回:障害者が生活の不自由を克服する道(当事者ゲスト)</p> <p>第11回:介護保険制度の仕組み</p> <p>第12回:ライフスタイルの多様化と住まい:その1各自の住まいを点検する</p> <p>第13回:ライフスタイルの多様化と住まい:その2各自の住まいの改善点を考える</p> <p>第14回:新聞報道に見る社会福祉問題(レポート・プレゼンテーション)</p> <p>第15回:まとめ(目標到達度の確認)</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題学習
準備学習(予習・復習)	復習:各授業で学んだ社会福祉に関連する新聞記事を切り抜いておいてください。最後にコメントをまとめて発表してください。 授業参加:事例やDVDを活用してリアルな知識を提供します。日常生活における福祉の課題を身近なこととして考えてゆきます。 各自授業に積極的に参加しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3014	科目名	秘書学入門			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3211						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 傾聴・受入力, チームワーク力, 創造・表現力, コミュニケーション力						
概要	秘書の基本的な知識を学びます。 それぞれの技能を一致させるための演習も含まれます。 秘書職に限らず、ビジネスの現場における一般事務職にとって必要な基本的理論を学び身に付け、さらに実際の秘書業務の進め方や、自分の役割を把握しながら仕事をすることなどを研究する機会とします。 秘書検定の受験を必須とします。						
教育目標との関連	人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持つとともに、社会人に必要なマナーを身につけることにつながります。						
到達目標	【知識・理解】秘書職の業務内容を理解する 【技能・表現】秘書の基礎技術を習得する 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習したフレームワークを活用して体系的に認識できる 【関心・意欲・態度】秘書的資質を保有し、日々の生活に生かすことができる						
評価方法	授業への参画度(30%)、レポート課題(30%)、実技課題(40%)を総合的に評価します。						
備考	卒業要件科目であり、秘書士資格必修科目です。						
テキスト・教材・経費等	「新しい時代の秘書ビジネス実務」紀伊国屋書店発行 1,600円＋税 秘書検定受検料 約4,000円						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 秘書に求められる能力 第3回 秘書とスケジュールリング 第4回 秘書のコミュニケーション 第5回 来客応対(シナリオ作成) 第6回 来客応対(グループ発表) 第7回 電話応対(アポイントメント実技発表) 第8回 出張コーディネーター 第9回 会議コーディネーター 第10回 慶弔・贈答のコーディネーター 第11回 秘書の文書業務・情報管理(社交文書と発送業務) 第12回 総合ロールプレイング① 第13回 総合ロールプレイング② 第14回 秘書に求められる実務 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	日常から丁寧な立ち居振る舞いや言葉遣いを心がけてください。予習を行い、積極的な参加を求めます。自身の意見を発言できる態勢で授業にのぞんでください。実践できるように復習してください。						
免許・資格	秘書士						
免許・資格の科目区分	秘書士資格認定科目						

時間割番号	1F3015	科目名	秘書学入門			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3211						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 傾聴・受入力, チームワーク力, 創造・表現力, コミュニケーション力						
概要	秘書の基本的な知識を学びます。 それぞれの技能を一致させるための演習も含まれます。 秘書職に限らず、ビジネスの現場における一般事務職にとって必要な基本的理論を学び身に付け、さらに実際の秘書業務の進め方や、自分の役割を把握しながら仕事をすることなどを研究する機会とします。 秘書検定の受検を必須とします。						
教育目標との関連	人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持つとともに、社会人に必要なマナーを身につけることにつながります。						
到達目標	【知識・理解】秘書職の業務内容を理解する 【技能・表現】秘書の基礎技術を習得する 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習したフレームワークを活用して体系的に認識できる 【関心・意欲・態度】秘書的資質を保有し、日々の生活に生かすことができる						
評価方法	授業への参画度(30%)、レポート課題(30%)、実技課題(40%)を総合的に評価します。						
備考	卒業要件科目であり、秘書士資格必修科目です。						
テキスト・教材・経費等	「新しい時代の秘書ビジネス実務」紀伊国屋書店発行 1,600円＋税 秘書検定受検料 約4,000円						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 秘書に求められる能力 第3回 秘書とスケジュールリング 第4回 秘書のコミュニケーション 第5回 来客応対(シナリオ作成) 第6回 来客応対(グループ発表) 第7回 電話応対(アポイントメント実技発表) 第8回 出張コーディネーター 第9回 会議コーディネーター 第10回 慶弔・贈答のコーディネーター 第11回 秘書の文書業務・情報管理(社交文書と発送業務) 第12回 総合ロールプレイング① 第13回 総合ロールプレイング② 第14回 秘書に求められる実務 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	日常から丁寧な立ち居振る舞いや言葉遣いを心がけてください。予習を行い、積極的な参加を求めます。自身の意見を発言できる態勢で授業にのぞんでください。実践できるように復習してください。						
免許・資格	秘書士						
免許・資格の科目区分	秘書士資格認定科目						

時間割番号	1F3016	科目名	生活創造実践演習	単位数	2
担当者	森田 清美				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1F1-3261				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考、発想力、傾聴・受信力				
概要	総合生活デザイン学科の生活創造コースはフード系列、ファッション系列、ハウス・インテリア系列、情報コミュニケーション系列から構成され、それぞれの系列ごとに取得できる資格・免許の他に系列に関連する検定資格の取得を奨励しています。資格や検定は社会に進むうえで非常に有効であるとの考え方に基づき、この授業では系列ごとに目標とする検定資格の中から任意のものを一つ、必修型で選択して学びます。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシーの「キャリア」分野に属する共通専門科目です。資格・検定の取得やビジネス知識を学び、「仕事人」を育成します。				
到達目標	系列ごとに決められた何れかの検定資格に相当する知識・技能を取得します。				
評価方法	小テストを繰り返し、定期試験を実施します。 [知識・理解] [技能・表現] [思考・判断] 系列ごとの検定試験の合格レベル(70%) [関心・意欲・態度] 授業への参画状況(30%)				
備考	卒業要件科目です。				
テキスト・教材・経費等	テキストはフード系列ではFLAネットワーク協会編「食生活アドバイザー2級公式テキスト」				
授業計画	第1回 オリエンテーション「食生活アドバイザー2級」の概要説明 第2回 食生活アドバイザーになろう 第3回 第1章:栄養と健康に関する知識・小テスト① 第4回 第2章:食文化と食習慣に関する知識・小テスト② 第5回 第3章:食品学に関する知識・小テスト③ 第6回 第4章:衛生管理に関する知識・小テスト④ 第7回 第5章:食マーケットに関する知識・小テスト⑤ 第8回 第6章:社会生活に関する基礎知識豆を知る・食べる・小テスト⑥ 第9回 第1～3章の復習 第10回 第4～6章の復習 第11回 過去問題にトライ① 第12回 過去問題にトライ② 第13回 検定試験模擬テスト 第14回 検定試験に向けての総復習 第15回 検定試験解答確認とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習、問題解決学習、プロジェクト学習				
準備学習(予習・復習)	1回目は全体授業とし、各系列でめざす検定資格、授業の進め方、使用テキスト、受験費用等についてガイダンスをします。授業は、テキストに沿って進めますから、各系列の授業プログラムを確認のうえ、テキストの予習(テキスト内容の事前理解、問題の予習)・復習(テキスト内容の復習、問題の再確認)をしてください。取得予定の検定資格の試験時期が授業の履修時期と異なる場合もありますが、学習を継続して検定試験に挑戦し、目標を達成してください。また、より上位の資格にもチャレンジしてください。				
免許・資格	FLAネットワーク協会「食生活アドバイザー2級」				
免許・資格の科目区分	検定受験のための科目				

時間割番号	1F3017	科目名	生活創造実践演習			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-3261						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力、企画・計画力						
概 要	総合生活デザイン学科の生活創造コースはフード系列、ファッション系列、ハウス・インテリア系列、情報コミュニケーション系列から構成され、それぞれの系列ごとに取得できる資格・免許の他に系列に関連する検定資格の取得を奨励しています。資格や検定は社会に進むうえで非常に有効であるとの考え方に基づき、この授業では系列ごとに目標とする検定資格の中から任意のものを一つ、必修型で選択して学びます。						
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー3の「キャリア」分野に属する共通専門科目です。資格・検定の取得やビジネス知識を学び、「仕事人」を育成します。						
到達目標	系列ごとに決められた何れかの検定資格に相当する知識・技能を取得します。						
評価方法	小テストを繰り返し、定期試験を実施します。 [知識・理解] [技能・表現] [思考・判断] 系列ごとの検定試験の合格レベル(70%) [関心・意欲・態度] 授業への参画状況(30%)						
備 考	卒業要件科目です。						
テキスト・教材・経費等	テキストは系列ごとに異なりますので、1回目のガイダンスで確認してください。						
授業計画	1: オリエンテーション・履修指導 2~14: 系列ごとの検定試験テキストに沿って進める 予習 → 講義 → 小テスト → 評価・反省して復習のサイクルで進める 15: 総まとめ ◎授業計画は教員によって異なるので初回授業時に説明します。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	1回目は全体授業とし、各系列でめざす検定資格、授業の進め方、使用テキスト、受験費用等についてガイダンスをします。授業は、テキストに沿って進めますから、各系列の授業プログラムを確認のうえ、テキストの予習(テキスト内容の事前理解、問題の予習)・復習(テキスト内容の復習、問題の再確認)をしてください。 時間外学習(課題)を適宜設定しますので、復習に役立ててください。この学習は単に解答が正しければ良いものではありません。なぜ正解(又は不正解)に至ったのか、理由を確認することが理解をさらに深めることに繋がります。 取得予定の検定資格の試験時期が授業の履修時期と異なる場合もありますが、学習を継続して検定試験に挑戦し、目標を達成してください。また、より上位の資格にもチャレンジしてください。						
免許・資格	リビングスタイリスト						
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F3018	科目名	生活創造実践演習	単位数	2
担当者	鈴木 直恵				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1F1-3261				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 論理的思考, 発想力, 傾聴・受信力				
概要	総合生活デザイン学科の生活創造コースはフード系列, ファッション系列, ハウス・インテリア系列, 情報コミュニケーション系列から構成され, それぞれの系列ごとに取得できる資格・免許の他に系列に関連する検定資格の取得を奨励しています。資格や検定は社会に進むうえで非常に有効であるとの考え方に基づき, この授業では系列ごとに目標とする検定資格の中から任意のものを一つ, 必修型で選択して学びます。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー3の「キャリア」分野に属する共通専門科目です。資格・検定の取得やビジネス知識を学び、「仕事人」を育成します。				
到達目標	系列ごとに決められた何れかの検定資格に相当する知識・技能を取得します。				
評価方法	小テストを繰り返し, 定期試験を実施します。 [知識・理解] [技能・表現] [思考・判断] 系列ごとの検定試験の合格レベル(70%) [関心・意欲・態度] 授業への参画状況(30%)				
備考	卒業要件科目です。				
テキスト・教材・経費等	初回授業で紹介しします。ファッション販売能力検定試験3級準拠・改訂版テキスト(定価1851円) ファッション販売能力検定試験問題集3級(定価1440円)受験料5,500円(平成28年度参考)				
授業計画	第1回 オリエンテーション「ファッション販売能力検定3級」概要説明 第2回 ファッション販売知識 第3回 ファッション販売知識・確認テスト 第4回 ファッション・マーケティング知識 第5回 ファッション・マーケティング知識・確認テスト 第6回 ファッション販売業務 第7回 ファッション販売業務・確認テスト 第8回 ファッション販売技術 第9回 ファッション販売技術・確認テスト 第10回 店舗演出・VP展開 第11回 店舗演出・VP展開・確認テスト 第13回 ファッション商品知識 第14回 ファッション商品知識・確認テスト 第15回 模擬試験				
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習				
準備学習(予習・復習)	1回目は全体授業とし, 各系列でめざす検定資格, 授業の進め方, 使用テキスト, 受験費用等についてガイダンスをします。授業は, テキストの単元に沿って進めます。各単元ごとに確認テストを行いますので, 毎週テキストの予習および復習をしてください。学習を継続して検定試験に挑戦し, 目標を達成してください。				
免許・資格	ファッション販売能力検定3級受験				
免許・資格の科目区分	検定受験のための科目				

時間割番号	1F3019	科目名	生活創造実践演習	単位数	2
担当者	西村 この実				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1F1-3261				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力、企画・計画力				
概要	総合生活デザイン学科の生活創造コースはフード系列、ファッション系列、ハウス・インテリア系列、情報コミュニケーション系列から構成され、それぞれの系列ごとに取得できる資格・免許の他に系列に関連する検定資格の取得を奨励しています。資格や検定は社会に進むうえで非常に有効であるとの考え方に基づき、この授業では系列ごとに目標とする検定資格の中から任意のものを一つ、必修型で選択して学びます。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー3の「キャリア」分野に属する共通専門科目です。資格・検定の取得やビジネス知識を学び、「仕事人」を育成します。				
到達目標	系列ごとに決められた何れかの検定資格に相当する知識・技能を取得します。				
評価方法	小テストを繰り返し、定期試験を実施します。 [知識・理解] [技能・表現] [思考・判断] 系列ごとの検定試験の合格レベル(70%) [関心・意欲・態度] 授業への参画状況(30%)				
備考	卒業要件科目です。				
テキスト・教材・経費等	テキストは秘書系列では1回目の初回授業で紹介し共同購入します。 秘書検定受検 約4,000円				
授業計画	第1回 オリエンテーション・「秘書技能検定」の概要説明 第2回 必要とされる資質(秘書としての心構え) 第3回 必要とされる資質(求められる能力)・小テスト① 第4回 職務知識(秘書の役割と機能)・小テスト② 第5回 職務知識(秘書の業務)・小テスト③ 第6回 一般知識(カタカナ用語、企業の基本知識)・小テスト④ 第7回 一般知識(人事・労務、財務、税務の知識)・小テスト⑤ 第8回 マナー・接遇(敬語、人間関係、来客対応)・小テスト⑥ 第9回 マナー・接遇(慶弔・贈答のマナー)・小テスト⑦ 第10回 技能(会議の知識、文書)・小テスト⑧ 第11回 技能(グラフ、受信文書の扱い)・小テスト⑨ 第12回 技能(ファイリング、スケジュール管理、オフィスレイアウト)・小テスト⑩ 第13回 検定試験模擬テスト 第14回 検定試験模擬テスト 第15回 検定試験解答確認とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	1回目は全体授業とし、各系列でめざす検定資格、授業の進め方、使用テキスト、受験費用等についてガイダンスをします。授業は、テキストに沿って進めますから、各系列の授業プログラムを確認のうえ、テキストの予習(テキスト内容の事前理解、問題の予習)・復習(テキスト内容の復習、問題の再確認)をしてください。時間外学習(課題)を適宜設定しますので、復習に役立ててください。この学習は単に解答が正しければ良いものではありません。なぜ正解(又は不正解)に至ったのか、理由を確認することが理解をさらに深めることに繋がります。取得予定の検定資格の試験時期が授業の履修時期と異なる場合もありますが、学習を継続して検定試験に挑戦し、目標を達成してください。また、より上位の資格にもチャレンジしてください。				
免許・資格	公益財団法人実務技能検定協会主催「秘書技能検定2級」				
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F3020	科目名	生活創造実践演習	単位数	2
担当者	三上 義雄				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1F1-3261				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力、企画・計画力				
概要	総合生活デザイン学科の生活創造コースはフード系列、ファッション系列、ハウス・インテリア系列、情報コミュニケーション系列から構成され、それぞれの系列ごとに取得できる資格・免許の他に系列に関連する検定資格の取得を奨励しています。資格や検定は社会に進むうえで非常に有効であるとの考え方に基づき、この授業では系列ごとに目標とする検定資格の中から任意のものを一つ、必修型で選択して学びます。大学生として最低限度必要な簿記の知識と技能を習得することを主なねらいです。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー「キャリア」分野に属する共通専門科目です。資格・検定の取得やビジネス知識を学び、「仕事人」を育成します。この簿記の授業では、簿記の基礎知識からさまざまな報告書の作成までを身につけ、日商簿記3級合格を目指します。				
到達目標	企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力を育てます。資格取得目標3級(6月)				
評価方法	[知識・理解度] 定期試験(60%) [平常点] 宿題等提出物(40%)で評価します。 ただし、遅刻・欠席等は減点対象とします。				
備考	卒業要件科目です。1年次に「簿記入門」の成績が「可」以上の者				
テキスト・教材・経費等	TAC簿記検定講座者「合格テキスト日商3級」TAC出版 2,160円 TAC簿記検定講座者「合格トレーニング日商3級」TAC出版 1,620円 TAC簿記検定講座者「過去問題集 日商3級」TAC出版 1,600円				
授業計画	第1回 期中取引(I) 第2回 期中取引(II) 第3回 期中取引(III) 第4回 試算表の作成 第5回 決算の手続き(I) 第6回 決算の手続き(II) 第7回 決算の手続き(III) 第8回 決算の手続き(IV) 第9回 決算の手続き(V) 第10回 決算の手続き(VI) 第11回 過去問題練習(I) 第12回 過去問題練習(II) 第13回 過去問題練習(III) 第14回 過去問題練習(IV) 第15回 過去問題練習(V)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題学習				
準備学習(予習・復習)	1回目は全体授業とし、各系列でめざす検定資格、授業の進め方、使用テキスト、受験費用等についてガイダンスをします。簿記は毎日の学習の積み重ねを大切にしてください。初めて学習する科目ですから今がスタート地点です。心機一転頑張ってください。努力の積み重ねが素直に結果に表れる科目です。日商簿記検定3級はとにかく過去問をたくさんやることを勧めます。				
免許・資格	日商簿記3級取得をめざす				
免許・資格の科目区分	検定受験のための科目				



時間割番号	1F3021	科目名	生活創造実践演習			単位数	2
担当者	小山 安紀子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-3261						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力、企画・計画力						
概要	総合生活デザイン学科の生活創造コースはフード系列、ファッション系列、ハウス・インテリア系列、情報コミュニケーション系列から構成され、それぞれの系列ごとに取得できる資格・免許の他に系列に関連する検定資格の取得を奨励しています。資格や検定は社会に進むうえで非常に有効であるとの考え方にに基づき、この授業では系列ごとに目標とする検定資格の中から任意のものを一つ、必修型で選択して学びます。						
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー3の「キャリア」分野に属する共通専門科目です。資格・検定の取得やビジネス知識を学び、「仕事人」を育成します。						
到達目標	系列ごとに決められた何れかの検定資格に相当する知識・技能を取得します。						
評価方法	小テストを繰り返し、定期試験を実施します。 [知識・理解] [技能・表現] [思考・判断] 系列ごとの検定試験の合格レベル(70%) [関心・意欲・態度] 授業への参画状況(30%)						
備考	卒業要件科目です。						
テキスト・教材・経費等	テキストは系列ごとに異なりますので、1回目のガイダンスで確認してください。						
授業計画	1: オリエンテーション・履修指導 2~14: 系列ごとの検定試験テキストに沿って進める 予習 → 講義 → 小テスト → 評価・反省して復習のサイクルで進める 15: 総まとめ ◎授業計画は教員によって異なるので初回授業時に説明します。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題学習						
準備学習(予習・復習)	1回目は全体授業とし、各系列でめざす検定資格、授業の進め方、使用テキスト、受験費用等についてガイダンスをします。授業は、テキストに沿って進めますから、各系列の授業プログラムを確認のうえ、テキストの予習(テキスト内容の事前理解、問題の予習)・復習(テキスト内容の復習、問題の再確認)をしてください。 時間外学習(課題)を適宜設定しますので、復習に役立ててください。この学習は単に解答が正しければ良いものではありません。なぜ正解(又は不正解)に至ったのか、理由を確認することが理解をさらに深めることに繋がります。 取得予定の検定資格の試験時期が授業の履修時期と異なる場合もありますが、学習を継続して検定試験に挑戦し、目標を達成してください。また、より上位の資格にもチャレンジしてください。						
免許・資格	ブライダルプランナー						
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F3022	科目名	フードビジネストレンド			単位数	2
担当者	森田 清美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F2-3031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 論理的思考, 発想力, 傾聴・受信力

概要	めまぐるしく変化する食について、食ビジネスに関わり第一線で活躍されている方からフードビジネスの現状やあり方をアクティブラーニングとして学びます。フードのトレンドを知り、消費者の目線だけでなく業界からフードを捉えることをねらいとしています。講師による授業後は、レポート作成をし、理解を深めていきます。
教育目標との関連	フード系専門科目です。将来、食ビジネスに就こうあるいは興味を持っている人は、調理や栄養だけでなく、食環境・食文化をはじめとする専門的な興味や知識を深めていきましょう。
到達目標	生産・流通からのフードトレンドを理解することを通して、食のあり方を考えます。
評価方法	レポート提出(60%)、期末レポート発表(20%)、授業への出席状況(20%)により総合的に評価します。
備考	「食生活アドバイザー検定」受験のための推奨科目です。外部講師の先生を招聘する予定です。
テキスト・教材・経費等	適宜プリント類を配布します。

授業計画	第1回 授業の目標方針と授業の概要について 第2回 ミール・ソリューションとは 第3回 野菜について学ぶ 第4回 市場理解:野菜 第5回 まとめ(野菜) ※レポート作成 第6回 果実について学ぶ 第7回 市場理解:果物 第8回 まとめ(果物) ※レポート作成 第9回 魚介(貝)について学ぶ 第10回 市場理解:魚介(貝) 第11回 まとめ(魚介) ※レポート作成 第12回 フードビジネスとは 第13回 消費者からみたフードビジネスとは 第14回 業界からみたフードビジネスとは 第15回 課題発表 ※レポート発表
アクティブラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 調査学習
準備学習(予習・復習)	買い物に行った際、店頭の食品に興味を持ち、表示やTVコマーシャル等を注視してください。また、講師の先生の授業後にはレポートを作成し、理解を深めていきます。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3023	科目名	栄養学			単位数	2
担当者	森田 清美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F2-3070						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	栄養の基本的概念概念及びその意義を学ぶとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。また、エネルギー及び栄養素の代謝とその生理的意義についても理解を深める。
教育目標との関連	フード領域の専門的学修と関連資格の取得を目指す。栄養学の観点から食品を考え、「食」について総合的に考える力をつけることを目標とする。
到達目標	ヒトの栄養とは何かを理解すること。ライフステージ別栄養の大切さを理解すること。
評価方法	定期期末試験50%、小テスト・レポート20%、受講態度30%
備 考	
テキスト・教材・経費等	「使い方からやさしくガイド はじめての食品成分表」女子栄養大学出版部

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食品のおもな成分とそのはたらき①三大栄養素 第3回 食品のおもな成分とそのはたらき②無機質 第4回 食品のおもな成分とそのはたらき③ビタミン 第5回 食品のおもな成分とそのはたらき④その他の食品成分 第6回 食品のおもな成分とそのはたらき⑤栄養素の相互作用 第7回 自分の食生活を見つける～調査～ 第8回 自分の食生活を見つける～発表～ 第9回 幼児期の生理と食生活～成長期① 第10回 学童期の生理と食生活～成長期② 第11回 思春期の生理と食生活～成長期③ 第12回 成人期の生理と食生活 第13回 弁当作りを通して食生活を考える～献立作成～ 第14回 弁当作りを通して食生活を考える～実習～ 第15回 高齢者の生理と食生活
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、課題発見学習、調査・実習
準備学習(予習・復習)	毎回、小テストを実施します。予習として小テストに向け学修し、復習として、小テスト返却後、やり直しをし、提出します。

免許・資格	中二種免(家庭)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(食物学)

時間割番号	1F3024	科目名	製菓実習	単位数	2
担当者	山本 竜二				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1F2-3090				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	<p>&lt;和菓子&gt; 和菓子実習では、和菓子の基礎的知識と技術を学びながら、日本の四季の美しさ、日本人の感性の豊かさについて学び、作ることの楽しさ、日本の情緒・風情を知ることが目的とします。</p> <p>&lt;洋菓子&gt; お菓子作りによって、生活に潤いと楽しさを持ち、食生活が豊かになることを目指します。</p>				
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。				
到達目標	<p>&lt;和菓子&gt; 和菓子の独特の菓子材料を使い、和菓子の代表的なお菓子作りを体験し、基礎的な知識・技術を習得することを目標とします。</p> <p>&lt;洋菓子&gt; 家庭にある道具(オープンレンジ等)で、ケーキを簡単に作れる様になることを目指します。</p>				
評価方法	<p>&lt;和菓子&gt; 参加状況 50%, 実習態度 50%</p> <p>&lt;洋菓子&gt; 授業態度, 授業参加状況により評価します。</p>				
備考	<洋菓子>エプロン・三角巾・お手拭を持参ください。				
テキスト・教材・経費等	<和菓子・洋菓子>適宜プリントを配布します。材料費等については授業の際に説明します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わらび餅、桜餅</li> <li>2. どら焼き、餡づくり</li> <li>3. いちご大福、みかん大福、餅チョコ</li> <li>4. 苺ショートケーキ</li> <li>5. シフォンケーキ、黒ゴマプリン</li> <li>6. ロールケーキ、珈琲ゼリー</li> <li>7. 水まんじゅう、金つば</li> <li>8. 梅酒ゼリー、フォンダンショコラ</li> <li>9. あんこルネ、苺プリン</li> <li>10. シュークリーム</li> <li>11. フルーツケーキ</li> <li>12. ベイクドチーズケーキ、菊(三角ヘラ)</li> <li>13. レアチーズケーキ、マドレーヌ</li> <li>14. 練り切り</li> <li>15. 小山ロールケーキ</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、実習				
準備学習(予習・復習)	<p>&lt;和菓子&gt; 和菓子作りという馴れない作業だと思いますが、作り方が解れば以外に簡単な物もあるので、安心して実習に参加してください。</p> <p>&lt;洋菓子&gt; 予習:お菓子の観察</p>				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F3025	科目名	ファッション造形実習Ⅱ			単位数	2
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F3-3041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力, 課題設定力, 創造・表現力					
概要	大裁ち女ひとえ長着(ゆかた)の製作の製作を通して、平面構成における基礎的な知識と技術を学びます。完成したゆかたは帯を用いて着装の仕方を学び、柄合わせ、寸法の適否、仕上がり等の出来具合を考えます。 なお教職の必修科目であり、中学校技術・家庭の「被服」領域の学習指導にも考慮します。						
教育目標との関連	ゆかたの製作を通して、縫製の知識と技術を修得し、簡単な衣服を製作する実践力と自己表現力を養います。						
到達目標	(1)ゆかたの各部の名称を学び、平面構成を理解します。 (2)ゆかたの反物(布地)の柄合わせを理解し、適切な裁断ができるようになります。 (3)縫製はミシン縫いを主とし、縫い代の始末は手縫いで行い、適切な縫製方法を習得します。 (4)完成したゆかたは着装し、観察・発表し、自己評価をします。						
評価方法	作品/レポート70%、受講態度30%で総合評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	適宜資料を配布します。材料(反物や帯、縫糸など)は各自で用意してください。						
授業計画	第1回 授業スケジュール、ゆかたの構成、採寸と裁ちきり寸法出し 第2回 積りと柄合わせ、裁断 第3回 しるしつけ① 第4回 しるしつけ② 第5回 袖縫い① 第6回 袖縫い②、あげ縫い 第7回 背縫い、縫い代の始末 第8回 脇縫い、縫い代の始末 第9回 おくみつけ、縫い代の始末 第10回 縦襷、すそくけ 第11回 えりつけ 第12回 えりくけ 第13回 そでつけ 第14回 仕上げ、たたみ方 第15回 着装と自己評価						
アクティブ・ラーニングの授業形態	製作実習, 自己省察						
準備学習(予習・復習)	作品を仕上げていくために段階を追って継続的に授業を進めてゆきます。 1回の実習時間の進度が速いため欠課をすると授業について行くことが困難になります。 授業進度に遅れた場合は空き時間や放課後などを使って自主的に課題を進めてください。						
免許・資格	中二種免(家庭)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(被服学)						

時間割番号	1F3026	科目名	ファッションビジネストレンド			単位数	2
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F3-3060						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	ファッションビジネスは素材産業からアパレル製品企画のアパレル産業、アパレル商品を販売するアパレル小売業などを包括するビジネス活動を指します。本講座では、主にアパレル小売業を中心として、ファッションビジネスの現状やファッショントレンドの方向性を探ります。
教育目標との関連	ファッションビジネス業界の仕組みを学び、将来的にファッション業界で働く基礎力を身に付けます。
到達目標	ファッションビジネス産業の基本的な知識を知り、ファッショントレンドを敏感に感じ取る力や分析する力を習得します。
評価方法	課題/レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(20%)などで総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	必要に応じて資料を配付します。課題作成に必要なファッション雑誌などは各自で用意してください。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ファッションビジネス産業の構造 第3回 ファッション小売業の業態(区分・ブランド) 第4回 ファッションビジネス産業の現状と問題 第5回 広島におけるファッションビジネスの現状 第6回 グループ調査 第7回 発表 第8回 ファッショントレンドとは 第9回 コレクションにおける2017 S/Sトレンド調査 第10回 発表 第11回 アパレルマーケティング(市場調査の基礎知識) 第12回 市場調査のためのグループ準備 第13回 市場調査 第14回 市場調査結果の分析およびまとめ 第15回 発表
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習 問題発見学習 プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	ファッションに関心を持ち、ファッション情報をあらゆる角度から常に収集しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3027	科目名	ブライダルⅡ	単位数	2
担当者	若槻 暢子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1F3-3080				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	日本のブライダルは欧米の伝統や慣習を深く受けており、多くのカップルが欧米のウェディングを取り入れようとしています。この授業では欧米の様々な挙式やセレブション、そして宗教・宗派別の慣習の違いや、欧米のプランナーの自分自身を売り込む(セルフ・プロモーション)スキルなどについて学びます。アメリカンウェディングと日本のブライダルの関連性を学び、身につけるだけではなく、グループワークを通じて、コミュニケーション能力・他者を理解する力を養ってほしいと願っています。				
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。				
到達目標	アメリカンウェディングを理解し、日本のブライダルに盛り込み、企画・提案・コーディネートすることができる。グループワークを通じて他者と協力し合い、発展的・積極的に課題に取り組むことができる。				
評価方法	試験(60%) ミニレポート(20%) 授業参加状況(20%) 等により総合的に評価します。				
備考	ブライダルプランナー検定の取得に必要な科目です。				
テキスト・教材・経費等	適宜関連するプリントを配布します。				
授業計画	①アメリカン・ウェディングとは ②アメリカンウェディング～準備編～ ③アメリカンウェディング～本番～ ④ブライダルコンサルタントの環境 ⑤宗教ウェディング ⑥様々なウェディング&イベント ⑦自己開発/営業力&対応力 ⑧米国コンサルタントのビジネス/料金&契約 ⑨～⑩現場見学～ホテル・ハウスウェディング～ ⑪～⑭グループワーク～挙式・披露宴の企画～ ⑮まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、課題発見学習、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	各回の復習として「ミニレポート」に積極的に取り組むとよいでしょう。 テキストの講読を通して、講義内容への理解を深め、分からないところは積極的に質問をしてください。				
免許・資格	ブライダルプランナー				
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F3028	科目名	ブライダル演習Ⅱ			単位数	2
担当者	若槻 暢子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F3-3100						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	ブライダルⅡで学んだ基礎を基にし、アメリカンウェディングと日本のブライダルとの関連性を学びます。模擬挙式・披露宴を企画・演出・コーディネートし、実際に現場で活躍できる実践力を身につけます。グループワークを通じて、コミュニケーション能力・他者を理解する力を養ってほしいと願っています。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	アメリカンウェディングを理解し、日本のブライダルに盛り込み、企画・提案・コーディネートすることができる。グループワークを通じて他者と協力し合い、発展的・積極的に課題に取り組むことができる。
評価方法	ミニレポート(40%) グループワーク(40%) 授業参加状況(20%) 等により総合的に評価します。
備考	ブライダルプランナー検定の取得に必要な科目です。
テキスト・教材・経費等	適宜関連するプリントを配布します。

授業計画	①アメリカンウェディングと日本のブライダルの関連性 ②アメリカンウェディング～準備編～(実践編) ③アメリカンウェディング～本番～(実践編) ④～⑦ウェディングアイテム作成 ⑧宗教ウェディング ⑨～⑩現場見学～ホテル・ハウスウェディング～ ⑪～⑭グループワーク～挙式・披露宴の企画～ ⑮まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループワーク
準備学習(予習・復習)	各回の復習として「ミニレポート」に積極的に取り組むとよいでしょう。 テキストの講読を通して、講義内容への理解を深め、分からないところは積極的に質問をしてください。

免許・資格	ブライダルプランナー
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1F3029	科目名	室内環境			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F4-3031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受信力、コミュニケーション力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概 要	快適な室内環境を創造していくための環境構成要素、すなわち光、熱、空気、音などの基礎理論と、室内環境を形成、維持していくための設備機器（給排水・衛生、空調調和など）についての基礎知識を得ます。我々が抱えている問題（騒音、振動、日照、換気、結露、災害など）に関する各種データを紹介し、それらと関連づけながら理解を深めていきます。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー3に該当する、ハウス・インテリア系列専門科目です。専門的学修と関連資格の取得、「生きる力」の育成を目指します。
到達目標	快適な室内環境を確保するための知識を修得します。 生じている問題に対して、その対策を提示できる能力を身に付けます。
評価方法	試験(50%)、小課題(40%)及び授業への参加状況(10%)によって評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	適宜関連するプリントを配付します。

授業計画	第1回 室内環境とは、なぜ室内環境を学ぶのか、授業の進め方 第2回 室内環境からみたよい住宅(間取り)とは 第3回 今と昔の住居の違いと室内環境の変化 第4回 暖かい住居1 第5回 暖かい住居2 第6回 湿気ない住居 第7回 涼しい住居 第8回 トピック1(学生テーマによる発表) 第9回 清浄な空気のある住居 第10回 静かな住居 第11回 明るい住居 第12回 学内を対象とした室内環境調査(騒音、照度等)及び自宅での調査(宿題) 第13回 トピック2(学生テーマによる発表) 第14回 安全な住居1 第15回 安全な住居2及びまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、調査学習、グループワーク
準備学習(予習・復習)	まとまった項目ごとに資料を一括して配付しますので、事前の学習に役立ててください。多くの資料(概要とデータ資料の2種類)を配付するので、散逸しないよう時系列にファイリングしておきましょう。 その日に学習した内容に関して課題を提示しますので、復習に役立てるとともに、指定期日までに提出して下さい。 複数の希望者(グループ)に関心のあるテーマについて調査した成果を発表する機会を作ります。積極的な対応を期待します。

免許・資格	インテリアプランナー
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3030	科目名	住・インテリア設計製図Ⅰ			単位数	1
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F4-3050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	製図用具やパソコンを使用して設計製図の具体的な課題をこなすことにより、住宅やインテリア設計における図面の読図力や表現技術の能力を養います。また、設計製図の行為を通じて人間-物-空間の繋がりを考え、住宅を総合的に捉えます。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー4に該当する、ハウス・インテリア系列専門科目です。専門的学修と関連資格の取得、「生きる力」の育成を目指します。
到達目標	2D/CAD, 3D/CADの操作法を修得する。 住宅やインテリア関係の基本的図面が理解できる。 プレゼンテーションの技法を修得する。
評価方法	課題の完成度(80%)及び授業への参加状況(20%)によって評価します。
備 考	1年次後期「CAD演習」で学んだ3DマイホームデザイナーPROやJw_cad for Windowsを操作しますので、「CAD演習」を履修していることが望ましい科目です。
テキスト・教材・経費等	『やさしく学ぶJw-cadデラックス』(エクスナレッジ)(1年次「CAD演習」で使用したものを引き続き使用します。また、プリントを適宜配付します。

授業計画	第1回 :授業概要、住・インテリア図面の解説 第2回～第3回 :インテリア空間の実測、清書 第4回～第8回 :2D/CADによる各種基本図面の理解と作図(家具図を例に) 第9回～第15回 :リビングスペースの設計製図 エスキース インテリア3D空間の作成 模型製作 発表
アクティブ・ラーニングの授業形態	その他(実習)
準備学習(予習・復習)	これまでに学習してきた知識・技能を確認しながら課題を進めてください。エスキース、製図作業には時間外学習が必要となりますので、授業時間外を利用するなどとして仕上げてください。

免許・資格	インテリアプランナー
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3031	科目名	インテリアデザインⅡ			単位数	2
担当者	角田 朱美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F4-3090						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	様々なインテリア用品からユニバーサルデザインまでをより深く学習し幅広い知識を修得します。 インテリアに関する課題をグループワークを通じて解決策を見だし、発表によりプレゼンテーション力を養います。
教育目標との関連	インテリアデザインⅠの学びを深化させ、生活の応用力や仕事で役立つ知識・技能を身につけ「ないたい自分」なるための、ハウス・インテリア系列専門科目です。
到達目標	インテリアファブリックスからユニバーサルデザインについても理解し、説明できる。 グループで問題点から解決策までを見出し積極的に取り組むことができる。
評価方法	小テスト(40%)、課題の提案・発表(30%)、受講状況(30%)
備 考	
テキスト・教材・経費等	「暮らしとインテリア」は、ハウスインテリア系列科目で共通に使用します。

授業計画	第1回 概要 第2回 インテリアファブリック 第3回 ウィンドトリートメント 第4回 住生活アクセサリ 第5回 品質表示法 第6回 ユニバーサルデザイン 第7回 ユニバーサルデザイン演習・発表 第8回 食器・ガラス食器 第9回 寝装品 第10回 キッチン用品 第11回 インテリアオーナメント 第12回 家具の配置 第13回 インテリアコーディネート 第14回 現場のプロに学ぶ 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習、グループ学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	毎回小テストを行います。小テストの内容を次回講義で復習します。 生活の中でも多く見受けられるデザインに関心を持ち参考にしましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3032	科目名	インテリアビジネストレンド			単位数	2
担当者	角田 朱美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	住宅やマンションのリフォーム施工事例を基に、お客様に実際に販売・提供するテクニックを身につけます。リビングスタイリスト・福祉住環境コーディネーターなどインテリア関連の資格についても触れていきます。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシーの学生の興味・関心に対応する専門的学修のハウス・インテリア系列専門科目です。この科目の学びを通して「生活人」として「仕事人」としての視点を持つことを目標とします。
到達目標	インテリアを幅広い範囲で具体的に学ぶことにより、自発的に行動できる人間力を身につける。
評価方法	発表内容(40%)、プレゼンテーション(30%)、受講状況(30%)を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	

授業計画	第1回 インTRODクシヨソ 第2回 住関連資格取得に向けて(リビングスタイリスト) 第3回 住関連資格取得に向けて(福祉住環境コーディネーター) 第4回 住関連資格取得に向けて(整理収納等) 第5回 発表・まとめ 第6回 リフォームトレンド 第7回 リフォーム事例の提案 第8回 発表 第9回 カラートレンド 第10回 目的別提案型コーディネート 第11回 お客様対応における立ち振る舞い、マナー、身だしなみ 第12回 お客様タイプ別対応方法 第13回 接客販売のシミュレーション 第14回 現場のプロに学ぶ(外部講師) 第15回 発表・まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	ショールーム、住宅展示場、雑誌などを活用し、常に最新の情報を収集しておきましょう。お客様の快適な暮らしを実現するためにはどのような提案をしたらよいか考えてみましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3033	科目名	マルチメディア入門			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F5-2011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力、課題設定力

概要	インターネットや携帯電話、デジタルカメラなど、マルチメディアを用いたコミュニケーションが日常的になってきた。マルチメディアの仕組みや技術について理解するために、情報の基礎的概念を把握し、文字・音声・画像・映像などの情報のデジタル化と処理法を学び、なぜマルチメディア化が進められているのかを考えます。そして、これらの技術が私たちにもたらす影響(光と影)について考えます。
教育目標との関連	情報社会で必要となる「情報」の基本的な考え方や情報社会に対する理解を得ることで、社会人として活躍できる「生きる力」の育成という教育目標と関連します。
到達目標	【知識・理解】マルチメディアに関する知識および情報社会に関する理解を獲得する 【技能・表現】情報を収集しそれを文章化する 【思考・判断】多くの情報から論理的に思考する能力を醸成する 【関心・意欲・態度】これからの情報社会について関心を持っていく
評価方法	・毎回の提出課題：30% ・レポート課題：30% ・試験：40%にて評価する
備考	第一回に行う受講上の注意(私語禁止など)を守れない人は、授業への出席を認めません。
テキスト・教材・経費等	プリントを適宜配付します。

授業計画	1:マルチメディアとは・情報の価値と情報量 2:2進数と文字のデジタル化 3:画像のデジタル化 4:音声・動画のデジタル化 5:アナログとデジタル、通信方式 6:暗号化技術の仕組み 7:セキュリティ対策と認証技術 8:仕事人として求められる情報セキュリティ 9:ディスカッション -セキュリティについて 10:ICチップとPOSシステム 11:「つながる」社会 12:スマート革命と情報社会 13:これからの情報社会の光と影 14:ディスカッション -「つながる」社会について 15:総括
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習
準備学習(予習・復習)	授業で出てきた内容をただ聞くだけではなく、日常生活でどのように関わっているのかを「体験」するように意識するようにしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3034	科目名	データベース演習	単位数	2
担当者	前田 和寛				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1F5-3021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、論理的思考力、企画・計画力				
概要	情報の利用技術の基本スキルであるデータベースの基礎スキルを習得するために、データベースソフト(Access)を利用しながら、リレーショナルデータベースの設計・開発・運用・操作の基礎を体得・学習する。				
教育目標との関連	総合生活デザイン学科の系列専門科目の情報コミュニケーション系列の教育目標である「学生の興味・関心に対応して専門的学修と関連資格が取得できるようにする、また、自主的な学修や体験的学習によって「生きる力」を養成する」と関連しています。				
到達目標	【知識・理解】データベースの基礎知識について理解する 【技能・表現】Accessを用いて基本的なテーブル設計および運用する技術を習得する 【思考・判断】実務でデータベースの基礎技術を活用できるようになる 【関心・意欲・態度】データベースの理解に向けて積極的に取り組む				
評価方法	【知識・理解】小テスト(10%)・試験(20%) 【技能・表現】オリジナルデータベース制作(30%) 【思考・判断】小テスト(10%)・試験(20%) 【関心・意欲・態度】参加状況(10%)				
備考	初回到説明する「受講上の注意」を遵守できない者は受講を認めません。				
テキスト・教材・経費等	資料を適宜配付します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: イントロダクション データベースとは</li> <li>2: データベースの基礎知識、種類</li> <li>3: リレーショナルデータベースとテーブル</li> <li>4: データベースの正規化(1)</li> <li>5: データベースの正規化(2)</li> <li>6: Accessの基本操作</li> <li>7: テーブルの操作(1)</li> <li>8: テーブルの操作(2)</li> <li>9: リレーションシップの作成</li> <li>10: クエリの作成(1)</li> <li>11: クエリの作成(2)</li> <li>12: フォームの作成</li> <li>13: レポートの作成</li> <li>14: オリジナルデータベースの作成(1)</li> <li>15: オリジナルデータベースの作成(2)</li> </ol>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	かなり内容が濃いものとなりますので、出された課題は確実にこなすようにしてください。 また欠席した場合はほぼ間違いなくついてこれなくなるので、次回出席するときまでに各自で時間を見つけて内容を確認するようにしてください。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F3035	科目名	プログラミング演習			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F5-3040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	プログラミング学習ソフト「Scratch」を使用して、基本的なプログラミングに対する考え方を学びます。
教育目標との関連	社会に出て活躍するための「生きる力」の育成という教育目標に関連し、様々なことに対する「論理的」な考え方を習得します。
到達目標	Scratchを使って自作のゲームを作成できること、ならびに課題に対して論理的に考えることができることを目標とします。
評価方法	授業の通常課題(35%) 中間チェック(15%) 自作ゲーム(50%)
備 考	毎回の内容を必ず次回までに習得することが前提となります。またテキストがないと一切の作業ができなくなるので、必ず毎回持参してください。
テキスト・教材・経費等	阿部和広 著 「小学生からはじめる わくわくプログラミング」

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Scratchをさわってみよう</li> <li>3. 物語メーカーを作ってみよう</li> <li>4. フィズバズを作ってみよう</li> <li>5. アリシミュレーターを作ってみよう</li> <li>6. クイズを作ってみよう</li> <li>7. かえるのうたを演奏してみよう</li> <li>8. アクションゲームを作ってみよう(1) ベース作成</li> <li>9. アクションゲームを作ってみよう(2) 完成と応用</li> <li>10. ここまでのまとめ</li> <li>11. 自作ゲームを作ろう(1) テーマと設計</li> <li>12. 自作ゲームを作ろう(2) ベース作成</li> <li>13. 自作ゲームを作ろう(3) 仕上げ</li> <li>14. 自作ゲームを作ろう(4) 実行テストとエラー修正</li> <li>15. 自作ゲームを作ろう(5) 作品発表</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	授業で作成したプログラムコードを、次回の授業までに間にもう一度「自分で」実際に作成するようにしてください。また、プログラムは非常に「論理的」です。「なぜこのようなコードなのか？」を毎回常に考えるようにしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3036	科目名	情報ビジネストレンド	単位数	2
担当者	末次 文雄				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1F5-3070				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	今日、情報ネットワーク環境の目覚ましい発展の中で、企業や家庭、個人など社会のあらゆるところで、情報化がすすんでいます。そのような社会環境にあって、企業は、顧客ニーズへの迅速な対応や、企業全体の活性化など、情報を武器にした企業変革を行っています。授業では、情報の意義を理解し、企業経営における情報通信技術の活用の仕方を、パターン化して、その実態を学び理解を深めます。
教育目標との関連	総合生活デザイン学科の系列専門科目の情報コミュニケーション系列の教育目標である「学生の興味・関心に対応して専門的学修と関連資格が取得できるようにする、また、自主的な学修や体験的学習によって「生きる力」を養成する」と関連しています。
到達目標	【知識・理解】情報の意義と企業における情報システム化・経営改革の動向を理解する。 【技能・表現】知識・理解で学習した内容を、第三者に分かりやすく説明できる。 【思考・判断】実際の事例を、知識・理解で学習した内容を活用して体系的に認識できる。 【関心・意欲・態度】敬遠しがちなテーマである社会・企業・情報に積極的に取り組む。
評価方法	【知識・理解】筆記試験(20%) 【技能・表現】課題レポート(20%) 【思考・判断】課題レポート(40%) 【関心・意欲・態度】参加状況(20%)
備考	いろいろな業種の企業を対象にして組織・業務・システム化内容を理解する。 また、課題レポートの提出タイミングで、小論文の書き方等の指導を行い、上記と合わせ就職活動を側面から支援する。
テキスト・教材・経費等	プリントを配布します。プリントを毎週持参できるファイルを用意してください。

授業計画	1: 受講ガイダンス(授業内容、情報化社会とは) 2: 問題解決のセオリー(講義と演習) 3: 個人・家庭の情報化 4: 企業の情報化 5: 企業におけるIT利用のパターン 6: IT利用の具体的事例(小売業-コンビニエンスストア) 7: フィールドワーク1(販売業) 8: IT利用の具体的事例(小売業-回転寿司) 9: フィールドワーク2(製造・販売業) 10: IT利用の具体的事例(製造業-自動車会社) 11: 公共部門の情報化(行政、教育、医療福祉) 12: SNS(Social Networking Service)の意義と事例 13: クラウド・コンピューティング 14: 情報化の光と陰 15: 未来のオフィス/未来型組織、総まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、課題発見、課題解決、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	適宜、復習をかねてレポート提出を求めます。 また、2回のフィールドワークではチームで実地調査・まとめ作業を共同で行い、発表してもらいますので、積極的に取り組んでください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1F3037	科目名	生化学			単位数	2
担当者	能城 光秀						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F3-3320						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	栄養士になるには多くの専門的な科目を学ばなければなりません。なかでも、生化学の知識を身につける分子レベルで物質代謝を理解することは必要不可欠です。生化学では、基礎生化学で学んだ生体物質の構造や性質、それらの生体内での様々な化学反応による代謝過程の詳細を学びます。						
教育目標との関連	栄養士として栄養指導を行う際に、必要な分子レベルでの生化学的なものの見方を身につけます。						
到達目標	1. 生体物質の構造や化学的性質についてさらに深く理解します。 2. 生体物質の生体内で受ける酵素による代謝過程について学び、エネルギー代謝についての理解を深めます。						
評価方法	期末テスト(60%)、中間テスト・レポート(20%)、参加状況及び授業態度(20%)						
備考	授業では視聴覚教材やプリントなどを利用していきます。適宜まとめのための動画なども見ます。確認のための小テストなどを行います。						
テキスト・教材・経費等	栄養科学イラストレイテッド改訂第2版『生化学』 藺田 勝/編 羊土社 ISBN 978-4-7581-0873-7 ¥2,800+税						
授業計画	第1回:細胞の構造 第2回:糖 質 第3回:脂 質 第4回:タンパク質とアミノ酸 第5回:酵素 第6回:核酸 第7回:ビタミン 第8回:ミネラル 第9回:糖質の代謝 第10回:脂質の代謝 第11回:タンパク質の分解とアミノ酸代謝 第12回:生体エネルギー学 第13回:ヌクレオチドの代謝 第14回:遺伝子発現とその制御 第15回:個体の調節機構とホメオスタシス						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習, グループ学習, プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	[復習]一年前期の栄養学概論と、1年後期の基礎生化学の内容を復習しておくこと。 [予習]教科書などの該当部分を読んでおくこと。						
免許・資格	栄養士 栄養教二種免						
免許・資格の科目区分	人体の構造と機能						

時間割番号	1F3038	科目名	解剖生理学実習	単位数	1
担当者	古川 真一				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1F3-3340				
コア・アクティブラーニング科目群					
コア・アクティブラーニングのキーワード		情報収集力、論理的思考力、企画・計画力、コミュニケーション力、自己省察力			
概要	<p>人体の基礎的な理解を勧めるために、人体の構造と機能についてビデオ・DVDなどの教材を用いて解説し、消化と吸収のメカニズム、生体調節のメカニズム(体温調節・発汗・排尿・食欲など)について基礎的な知識を学びます。血圧・脈拍・体温・ヘモグロビン量などの測定、小動物の骨格・臓器の観察とスケッチ、人体解剖模型や組織標本との比較検討など、人体の構造と機能の理解を深めます。また、健康と生活リズムの関連とその重要性を学習します。データ処理・科学的考察・レポート記述能力やグループワークなどアクティブラーニングを通して習得しましょう。</p>				
教育目標との関連	現場や地域において栄養指導の専門的担当者として活躍できる専門的知識・技術を身につける。				
到達目標	<p>○正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する組織・器官の構造と働きを理解すること。  ○体温調節・血圧調節・発汗・排尿など、生体調節のメカニズムを理解すること  ○健康と生活リズムの重要性を理解すること。</p>				
評価方法	実習レポート(80%)と授業態度等(20%)で総合的に評価します。				
備考	この科目は、毎回レポートや実習データ記録などの課題が出ます。積極的に授業に参加することが大切です。				
テキスト・教材・経費等	プリント教材を使用します。また、解剖生理学関係の教本を参考書として使用します。				
授業計画	<p>第1回 解剖生理学実習の概要及び諸注意・レポート作成法  第2回 身体計測及び身体組成の測定(期間中継続)  (身長・座高・体重・体脂肪・血圧・血行・ヘモグロビン量・静脈酸素分圧)  第3回 模型による人体解剖実習(1)観察とスケッチ  第4回 模型による人体解剖実習(2)観察とスケッチ  第5回 小動物の解剖と内部臓器等の観察(スケッチ)  第6回 酵素による消化実験  第7回 血液の観察(小動物)・スケッチ  第8回 模型による人体解剖実習(3)観察とスケッチ  第9回 心臓機能の測定(3分間万歩計計測・平穩時心拍数・運動時心拍数)  第10回 肺機能の測定(評価)  第11回 顕微鏡による人体組織の観察(スケッチ)  第12回 味覚検査  第13回 体格評価(含む骨密度)  第14回 唾液アミラーゼ活性の測定とストレス評価  第15回 解剖生理学実習まとめ・授業に関する課題提出</p>				
アクティブラーニングの授業形態	実習、グループ学習、問題解決学習、自己省察				
準備学習(予習・復習)	<p>【2】自分のデータを集積します。記録シートにデータを記入し、保管してください。最終的に表・グラフとして所定の方法で提出してください。  【3~14】各授業前に配布された教材プリントをよく読み、その日の授業内容を把握してください。  【3~14】実習レポートは次回の授業開始までに所定の場所へ提出してください。</p>				
免許・資格	栄養士 栄養教二種免				
免許・資格の科目区分	系列専門科目 人体の構造と機能				

時間割番号	1F3039	科目名	食品衛生学			単位数	2
担当者	水羽 和成						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F4-3330						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	食品衛生とは、食糧の生産から加工、貯蔵、流通、消費までの一連の過程において、食品の安全性等を確保する手段をいいます。この全過程に関わる有害微生物、有害物質等の種類、性状及びこれらに起因する健康被害やその防止対策等について学びます。併せて、食品の安全・安心のための法的規制についても学びます。
教育目標との関連	現場や地域において、栄養に関する指導者として活躍できる専門的知識を身につける。
到達目標	食品の安全及び安心について学び、食に密接にかかわる栄養士に必要な食品衛生の知識を身につけます。
評価方法	授業参加状況・授業態度・小テスト・期末テスト・提出物等を総合して評価します。
備考	適宜、小テストを実施します。
テキスト・教材・経費等	サクセス管理栄養士講座 食べ物と健康Ⅱ 食品衛生学（監修 一般社団法人 全国栄養士養成施設協会、公益社団法人 日本栄養士会 著者 植木 幸英、阿部 尚樹） 発行所 第一出版株式会社 1,800円＋税

授業計画	第 1回 オリエンテーション 食品衛生と法規 第 2回 食品衛生と法規 第 3回 食品衛生と法規 食品の変質 第 4回 食品の変質 第 5回 食中毒 第 6回 食中毒 第 7回 食中毒 第 8回 食品による感染症・寄生虫症 第 9回 食品中の汚染物質 第10回 食品中の汚染物質 第11回 食品添加物 第12回 食品添加物 第13回 食品衛生管理 第14回 食品衛生管理 第15回 補足とまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習、自己省察
準備学習(予習・復習)	テキストに準じて授業を進めます。 授業をより理解するために、事前にテキスト内容を確認しておいてください。 また、小テストの内容は、必ず理解しておいてください。

免許・資格	栄養士 栄養教二種免
免許・資格の科目区分	食品と衛生

時間割番号	1F3040	科目名	ライフステージ栄養学実習			単位数	1
担当者	福家 ともえ						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F5-3340						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	1年後期の栄養指導各論の講義に基づき、妊娠期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期、高齢期における各ライフステージの心身の特徴を理解し、対象者が健康でQOLを高める食生活ができる献立作成、及び調理学実習・調理の評価を行い、適切な食生活についてアクティブラーニングに基づいて理解を深めていきます。
教育目標との関連	栄養士として栄養指導・栄養教育が行えるように、専門的知識・スキルを身につけ、実践できるようになることに関連します。
到達目標	栄養指導総論・栄養指導各論の講義に基づいて、各職域現場の栄養士として専門的知識・技能を身につけ、指導案や指導媒体の作成を行い、個人及び集団の栄養指導・栄養教育ができるようになることを目指します。
評価方法	人が健康的な食生活を営むことができるには、食習慣の形成・完成・実践が求められます。 ①ライフステージ別の特徴に合った献立作成と栄養価計算、調理・供給にいたる流れに関する理解と課題レポートの提出 (40%) ②ライフステージ別食生活の特徴に関する栄養指導発表表(30%) ③授業態度・参加状況(30%) ①～③を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	栄養指導総論・栄養指導各論で使用した教科書、プリント配布、食品成分表を使用します。 調理実習に必要な材料費は、各自負担となります。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業説明等</li> <li>2 ライフステージ毎の献立と調理(1)</li> <li>3 ライフステージ毎の献立と調理(2)</li> <li>4 ライフステージ毎の栄養指導(1)</li> <li>5 ライフステージ毎の栄養指導(2)</li> <li>6 妊娠期の調理実習</li> <li>7 離乳食の調理実習</li> <li>8 妊娠期・離乳期の栄養指導発表</li> <li>9 幼児期の調理実習</li> <li>10 学童期・思春期の調理実習</li> <li>11 幼児期・学童期・思春期の栄養指導発表</li> <li>12 青年期・成人期の調理実習</li> <li>13 高齢期の調理実習</li> <li>14 青年期・成人期・高齢期の栄養指導発表</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、実習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	授業計画に伴い、各ライフステージ別食生活に関する特徴を予習します。 日程に従い、各ライフステージ別での1日の献立作成・栄養価計算・実習記録を毎回課題レポートにし、再度調理する際役立つように、実習や試食した気付き・改善点を記録してください。

免許・資格	栄養士 栄養教二種免
免許・資格の科目区分	栄養と健康

時間割番号	1F3041	科目名	臨床栄養学総論			単位数	2
担当者	丹羽 真理						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F5-3350						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	この講では、疾病の成り立ちや傷病者の病態や栄養状況の特徴を把握し、病気回復・改善、予防のための適正な栄養管理法についてアクティブラーニングによって学習します。栄養ケアプロセスの作成、評価、栄養教育など、総合的な栄養ケアプロセスの考え方を理解し、各疾患の概要、検査などアセスメントに必要な項目や適切な栄養療法を実践するための基本的な知識を習得します。また、チーム医療の一員である栄養士の役割と医師、看護師など他の職種との連携の仕方について理解します。
教育目標との関連	各職種において栄養療法の専門的担当者として活躍できる知識を身につけ、実践できることを目的とします。
到達目標	各種疾病の病態と栄養状況の関連を理解し、適切な栄養療法を身につけます。
評価方法	レポート提出20%、筆記試験(小テスト含む)60%、授業態度20%をもとに総合的に評価します。
備考	この授業は後期の臨床栄養学実習につながるようすすめていきます。
テキスト・教材・経費等	臨床栄養学実習 ー栄養食事アセスメントとケアプランー 第4版 学建書院 2500円

授業計画	第1回 臨床栄養学の基礎 第2回 臨床での栄養評価・栄養補給法 第3回 一般治療食 第4回 特別治療食(肥満症・糖尿病) 第5回 特別治療食(脂質異常症) 第6回 特別治療食(消化器疾患:胃腸疾患) 第7回 特別治療食(消化器疾患:胆・肝・膵疾患) 第8回 特別治療食(高血圧症) 第9回 特別治療食(動脈硬化症・心疾患) 第10回 特別治療食(腎疾患) 第11回 特別治療食(貧血) 第12回 特別治療食(免疫・アレルギー疾患) 第13回 特別治療食(呼吸器疾患) 第14回 特別治療食(検査食ほか) 第15回 臨床栄養学総論まとめ
アクティブラーニングの授業形態	コメントペーパー、課題解決実習
準備学習(予習・復習)	いろいろな疾病の症例を検査値・栄養評価・栄養計画・実施(治療食作成含む)という栄養ケアプロセスを学修します。健康診断時の生化学検査値にも興味を持って見てください。毎回の授業前に、前回の授業内容についての理解度を確認します。復習をしっかりとっておいてください。

免許・資格	栄養士
免許・資格の科目区分	栄養と健康

時間割番号	1F3042	科目名	栄養指導各論実習Ⅱ			単位数	1
担当者	丹羽 真理、山崎 初枝						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F6-3351						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、発想力、企画・計画力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概要	栄養指導総論・各論で学んだ理論を基本とし、各ライフステージ・ライフスタイル・病態に応じた栄養指導の方法、媒体づくり、献立作成等について実習し、栄養指導と献立作成等の技術をアクティブラーニングと問題解決学習によって習得します。
教育目標との関連	各施設における栄養指導と給食管理について専門的知識と技術を発揮し、栄養士として社会で活躍できる人を目指します。
到達目標	1 各ライフステージ・ライフスタイル・病態に応じた栄養指導の技術を身につける。 2 栄養士校外実習施設における課題に対処できる。
評価方法	参加状況及び授業態度(20%)、栄養指導案の作成・媒体作成・発表(20%)、小テスト(30%)、栄養士校外実習に関わる献立作成・課題レポート等の提出(30%)により総合的に評価します。
備考	栄養士免許取得希望者に限ります。
テキスト・教材・経費等	六訂 給食管理実習・校外編 建帛社 1900円 食品成分表

授業計画	<p>第1回 受講ガイダンス</p> <p>第2回 栄養士校外実習施設状況・対象者の把握</p> <p>第3回 栄養士校外実習での献立作成等の課題への取組みⅠ</p> <p>第4回 栄養士校外実習での献立作成等の課題への取組みⅡ</p> <p>第5回 栄養士校外実習での栄養指導等の課題への取組みⅠ</p> <p>第6回 栄養士校外実習での栄養指導等の課題への取組みⅡ</p> <p>第7回 栄養士校外実習での栄養指導等の課題 中間発表①</p> <p>第8回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組みⅠ</p> <p>第9回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組みⅡ</p> <p>第10回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組みⅢ</p> <p>第11回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組み 中間発表②</p> <p>第12回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組みⅣ</p> <p>第13回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組みⅤ</p> <p>第14回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組みⅥ</p> <p>第15回 栄養士校外実習での栄養指導・献立作成等の課題への取組み 最終発表・報告</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習、調査・実習、グループワーク
準備学習(予習・復習)	<p>栄養士校外実習の実習先について、次のことを調べましょう。</p> <p>1 ホームページ等で実習先に関する情報(場所、対象者、人数、給食従事者の役割・人数・特徴等)</p> <p>2 実習先からの課題(栄養指導と媒体作成、献立作成・栄養価計算、試作・試食・写真撮影等)</p> <p>3 実習先からの課題が事前にわからない場合は、自ら課題を選んで準備しましょう。</p> <p>昨年先輩からの実習報告資料も参考に早めに準備しましょう</p>

免許・資格	栄養士 栄養教二種免
免許・資格の科目区分	栄養の指導

時間割番号	1F3043	科目名	栄養指導各論実習Ⅲ			単位数	1
担当者	山崎 初枝						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F6-3361						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 発想力, 企画・計画力, プレゼンテーション力						
概要	栄養指導総論・各論で学んだ理論を基本とし、特定給食施設(病院, 事業所, 学校, 幼稚園, 社会福祉施設, 児童福祉施設等)と市町村等における栄養士・管理栄養士の栄養指導業務の実際をアクティブラーニングによって学びます。また、ライフステージ・病態別に栄養指導マネジメントについて実習し、栄養指導の技術をアイパッドを使ってアンケート集計し課題解決学習等によって学修します。						
教育目標との関連	いろいろな場面で栄養指導が行えるための実践的技術を身につけるため、模擬実習や実際に幼稚園児を対象とした栄養指導実習などを行って、栄養士として社会で活躍できることを目指します。						
到達目標	1 特定給食施設及び市町村における栄養指導の実際を理解できる。 2 対象者の状況に応じた栄養指導のマネジメント能力を身につける。 3 幼稚園児や校外実習施設等の現場で通用する栄養指導技術を習得する。						
評価方法	授業への参加状況・授業態度(30%), レポート(20%), テスト(50%)により総合的に評価します。						
備考	履修対象は、栄養士養成課程2年次生で1年次に栄養指導総論・各論の履修済みの学生です。						
テキスト・教材・経費等	片井可奈子「栄養教育論実習」第2版2600円+税、関口紀子ら編「栄養教育論-栄養の指導-」学建書院(1年次使用)、プリント配布、食品成分表						
授業計画	第1回 受講ガイダンス、集団対象の栄養指導マネジメント、討議法の学習 第2回 幼児、学童、成人の栄養指導・栄養指導案の作成(1) 第3回 幼児、学童、成人の栄養指導・栄養指導案の作成(2) 第4回 幼児、学童、成人の栄養指導・学習指導案の発表(1) 第5回 幼児、学童、成人の栄養指導・学習指導案の発表(2) 第6回 個人の栄養状況の把握と評価(1) 第7回 個人の栄養状況の把握と評価(2) 第8回 個別栄養指導の実際と評価(1) 第9回 個別栄養指導の実際と評価(2) 第10回 栄養アセスメントの実際と評価・アイパッドを使ったアンケート集計(1) 第11回 栄養アセスメントの実際と評価・アイパッドを使ったアンケート集計(2) 第12回 集団栄養指導の実際と評価(1) 第13回 集団栄養指導の実際と評価(2) 第14回 レポート・報告会 第15回 まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習, 体験学習, グループワーク, プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	実際に幼稚園児を対象に栄養指導を行ったり、模擬的に学童と成人、高齢者を対象に栄養指導を行います。栄養指導のテーマを設定するためには、幼児、学童、成人、高齢者等の特性と食生活上の問題を日ごろから考えておくことが大切です。予習:1時間, 復習:1時間						
免許・資格	栄養士 栄養教二種免						
免許・資格の科目区分	栄養の指導						

時間割番号	1F3044	科目名	調理学実習Ⅲ			単位数	1
担当者	岡本 美恵						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F7-3340						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	調理学実習Ⅰ・Ⅱで学んだ調理操作を再復習し、調理技術のレベルアップを目指します。さらに、郷土に伝承されている料理を調べ、栄養士として地産地消を普及する食育指導の一環として、地元の食品素材を活かした料理をアクティブラーニングをとおして実践する。
教育目標との関連	少人数調理から大量調理にスムーズに対応出来るよう、調理技術のスキルアップを目指し、併せて対象に応じた献立作成・調理操作・実習や試食を伴う調理指導の方法等、専門的な知識や技術を修得する事を目標とします。
到達目標	1.大量調理に対応出来る調理技術の修得。 2.地産地消の理解を深め、地場産物を使用したメニュー開発と提案。 3.調理指導を含めた、栄養指導を実践できる。
評価方法	調理技術試験(20%)、課題取り組み(50%)、授業参加状況(30%)などを総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	調理実習の材料費を一部証紙にて徴収します。グループ献立に関しては、各自で持参する。

授業計画	第1回 オリエンテーション(グループ編成・ガイダンス) 第2回 調理技術練習① 第3回 調理技術練習② 第4回 調理技術練習③ 第5回 広島市近郊の野菜を使った献立作成 第6回 広島市近郊の野菜を使った献立の試作・評価 第7回 広島市近郊の野菜を使った献立作成 第8回 広島市近郊の野菜を使った献立の試作・評価 第9回 地産地消レシピ集の作成 第10回 郷土料理の調査・献立作成 第12回 郷土料理の試作・検討 第13回 郷土料理の展開・試作 第14回 課題の作成・発表 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	日頃から調理し、特に包丁を使用する訓練をしておく。料理に関心を高め、旬の野菜をどのように調理するとおいしく食べてもらえるか、絶えず情報を収集しておくようにしてください。例えば、食に関わる新聞記事を切り抜く。買い物時には、地場産物の販売状況に関心を持っておく。さらに、他県の方に紹介できる地元の郷土料理を調べる。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1F3045	科目名	給食管理実習	単位数	1
担当者	丹羽 真理				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1F7-3371				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力、企画・計画力、コミュニケーション力、チームワーク力				
概要	1年次に学習した給食管理の理論を基礎として、給食の運営を実践します。学生自らが主体となって栄養・食事計画を立て、実施、評価にいたる給食管理業務全体の流れをアクティブラーニングによって修得します。				
教育目標との関連	1年次に修得した給食管理論の理論を踏まえ、実践的技術を身につけるため、実際に幼稚園児を対象とした給食づくりや学校給食、事業所給食などを想定した給食づくりを行い、即戦力で活躍できる栄養士を目指します。				
到達目標	献立管理・食材料管理・作業管理・衛生管理などの計画・実施・評価の実践から、大量調理施設における給食管理業務が遂行できる能力を身につけます。				
評価方法	実習ノート・課題レポート30%、実習態度20%、課題テスト(小テスト含む)50%をもとに総合的に評価します。				
備考	履修対象は、栄養士養成課程2年次生(1年次に給食管理論履修済みの学生)です。				
テキスト・教材・経費等	給食運営・経営管理実習の手引き(第4版)1900円 食品成分表				
授業計画	第1回 受講ガイダンス(趣旨、内容、実習方法と進め方) 第2回 重点目標と役割分担の決定、給食実施計画Ⅰ(給与目標、食品構成、献立のたて方) 第3回 給食実施計画Ⅱ(幼稚園・学校・事業所献立作成決定・発注) 第4回 献立の試作 第5回 献立の再検討・修正・発注 第6回 給食実施計画Ⅲ(事業所献立決定・発注) 第7回 給食実施Ⅰ(事業所) 第8回 給食実施計画Ⅳ(幼稚園献立①決定・発注) 第9回 給食実施Ⅱ(幼稚園①) 第10回 給食実施計画Ⅴ(幼稚園献立②決定・発注) 第11回 給食実施Ⅲ(幼稚園②) 第12回 給食実施計画Ⅵ(学校献立決定・発注) 第13回 給食実施Ⅳ(学校) 第14回 諸帳簿の作成・評価 第15回 まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループワーク、調査・実習				
準備学習(予習・復習)	幼児・学童・成人等を対象とした給食づくりを行うので、献立が立てられるよう対象者の特性について理解し、メニュー研究を行い、日常から調理技術の向上に努めておきましょう。 また、実習に当たっては、白衣・帽子・専用の履物が必要です。実習に必要なものを忘れると実習に参加できません。 実習までに大量調理施設における衛生管理マニュアルをよく理解して、体調管理には十分注意し、つめ・化粧・服装などについても実習ができるようにしてください。				
免許・資格	栄養士				
免許・資格の科目区分	給食の運営				

時間割番号	1F3046	科目名	生活達人チャレンジプログラムⅡ			単位数	1
担当者	森田 清美、迫垣内 裕、前田 和寛、西村 この実、鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 前期～後期		開講年次	2	授業方法	演習	
ナンバリング	1F1-3061						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、創造・表現力、プレゼンテーション力						
概要	多様化する生活環境を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究が総合生活デザイン演習Ⅱ・Ⅲです。その授業の中で、社会貢献やフィールドワーク等の現地参画型活動を行って、卒業研究の内容を深める必要がある場合、この集中講義を活用します。この授業ではアクティブラーニングとして取り組み、問題解決をする手法を学びます。しかし、本体の総合生活デザイン演習Ⅱ・Ⅲとの密接な連携が必要です。						
教育目標との関連	現地参画型の活動を通して、達人に必要な社会人と問題解決力を育成します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地参画型のテーマを決定し、研究・制作の計画を作成し、実行すること。</li> <li>・計画における要所要所のポイントでの報告と、最終成果をまとめること。</li> </ul>						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢および授業への参加状況によって総合的に判断します。						
備考	卒業要件科目の「総合生活デザイン演習Ⅱ・Ⅲ」と連動した科目です。						
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに興味や関心のあるテーマを、総合生活デザイン演習Ⅱで設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。その授業の中で、社会貢献やフィールドワーク等の現地参加型の活動を行って、卒業研究の内容を深める必要がある場合、この集中授業を活用します。本体の総合生活デザイン演習Ⅱで、事前学習をしっかりと行い、計画をしっかりと立て、それに基づき、当該授業での現地参加型の活動を行います。その活動中も、事前に計画した振り返り項目に基づき、要所要所で振り返りを行い、必要に応じて、本体のゼミとの連携をとります。そして、現地参加型の活動としての取りまとめを行います。そこで得られた情報に基づき、本体の総合生活デザイン演習Ⅲで事後学習を行い、生活達人チャレンジプログラムⅡ全体としての取りまとめを行います。 ◎授業計画は教員によって異なるので初回授業時に説明します。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、問題解決学習、調査・実習、グループ学習、プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、主体的・自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F3047	科目名	保育学実習			単位数	1
担当者	俵 佐和子						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F1-3160						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	近年、少子化の進行により乳幼児の成長を目にすることが少なく、実際に子どもたちとふれあう経験の場はほとんど無いのが現状である。そんな中で、育児にとまどいを見せる親に出会うことが多い。そこで、保育学実習を通して子どもの成長発達を学び、育児に対する創造性や実践能力を養う。
教育目標との関連	未就学児に対して、やさしく思いやりの心を持って、コミュニケーションできる技術を身につける
到達目標	○乳幼児の健全な成長・発達を理解する。 ○乳幼児の保育・擁護の知識と技術を習得する。
評価方法	参加状況(遅刻を含む)、授業態度、レポートを総合して評価する。
備考	集中講義で実施。
テキスト・教材・経費等	よくわかる保育士エクササイズ2 小児保健演習ブック 松本峰雄監修 ミネルバ書房 2100円

授業計画	<p>第1回 乳幼児の成長・発達の把握—観察・身長・体重・頭囲・胸囲の計測実習 乳幼児の生理機能・精神発達—体温等の測定と評価</p> <p>第2回 乳幼児の日常生活の擁護 (1) 身体の清潔—手洗い・歯磨き・爪切り・耳掃除・沐浴・入浴方法 (2) 衣生活—衣服の着せ方・選び方・寝具の選び方 (3) 運動・遊び・鍛錬・抱き方等 (4) 排泄の援助・おむつ交換</p> <p>第3回 乳幼児の栄養母乳・人工栄養・混合栄養・離乳に対する援助</p> <p>第4回 乳幼児の病気・事故への対応・救急処置</p> <p>第5回 まとめ</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	実習、グループワーク
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に各養護技術について目的や方法、準備などを調べておく。演習後、足りなかった情報は何か、どのように工夫すればよかったかなどを考え、より良い養護技術獲得に努める。</li> <li>・授業時間いっぱい実習に取り組むこと。</li> <li>・演習しやすい服装で臨むこと。</li> </ul>

免許・資格	中二種免(家庭)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(保育学)

時間割番号	1F3048	科目名	解剖生理学			単位数	2
担当者	石田 秀子、石田 邦夫、木村 友希						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F3-3330						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	生命機能を維持するために、生体は食物と酸素を取り入れます。食物が生体の機能を維持するためにどんな役割をはたすのかを理解することが、皆さんには求められます。例えば、おもちを食べ過ぎると、炭水化物が体に蓄積するのではなく、脂肪がたまって太るのはなぜ？(炭水化物はどのように脂肪に変換されるの?)と基本的な問いを発生し、それに答えることのできる能力の獲得をめざします。
教育目標との関連	現場や地域において栄養指導の専門的担当者として活躍できる知識を身につけます。しかし、その知識もすぐに古くなります。新たな問題を解決するための、情報獲得の方法を学びます。
到達目標	生体の基本構造を理解し、それぞれの臓器・器官が生命現象にどのように関与しているかを説明できることを目標とします。とくに、食物の消化・吸収、呼吸循環、内分泌など総合的にどのように生命維持に働いているのか、解剖的性質と生理的機能を関連させて理解することを目的とします。
評価方法	授業への参加状況・授業態度、テストにより総合して採点します。
備考	栄養と呼吸が生命活動の根幹であることを理解し、生きた知識として活用してください。
テキスト・教材・経費等	系統看護学講座 専門基礎分野1 人体の構造と機能[1]解剖生理学第8版(医学書院)著:坂井, 岡田 定価3,990円 (最新版)

授業計画	第1回: 解剖生理学を学ぶための基礎知識 第2回: 内臓機能の調節 第3回: 内分泌 第4回: 栄養の消化と吸収(1) 第5回: 栄養の消化と吸収(2) 第6回: 身体の支持と運動 第7回: 体液の調節と尿の生成 第8回: 呼吸と血液の働き(1) 第9回: 呼吸と血液の働き(2) 第10回: 情報の受理と処理(1) 第11回: 情報の受理と処理(2) 第12回: 血液の循環とその調節(1) 第13回: 血液の循環とその調節(2) 第14回: 外部環境からの防衛 第15回: 生殖発生と老化のしくみ
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習, 自己省察
準備学習(予習・復習)	教科書に即して、講義を進めます。予備知識は必要がありません。興味のある人は、教科書を先に読んでおいてください。

免許・資格	栄養士 栄養教二種免
免許・資格の科目区分	人体の構造と機能

時間割番号	1F3049	科目名	調理学実習Ⅳ			単位数	1
担当者	岡本 美恵						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1F7-3350						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	インターンシップによる企業体験を行います。予定として夏休み期間におよそ4日間を計画しています。事前に企業研究を行い、課題研究として料理講習会を企画し実習期間内に開催します。インターンシップでは、企業理念や人事教育・リスク管理等社会人としてのマナーを学び、店舗見学を含めた現場研修も実施します。社会現場の中で、アクティブラーニングを実践していく。また、地産地消の理解を深め栄養士としてスキルをアップさせる。体験後には礼状並びに報告書の作成を行い報告します。
教育目標との関連	現場や地域で栄養指導の専門的担当者として活躍できる専門的知識・技術を身につける。
到達目標	企業での栄養士業務の模擬体験を行い、企業の経営方針、社員との連携、日常の行動について、どのようにしたらよいかをインターンシップ制による授業体験を通じて、食のプロフェッショナルになる意識・行動・モチベーションを身につける。
評価方法	企業への事前レポートおよび報告書作成(50%)、実務体験の評価(30%)、参加状況(20%)などを総合的に評価します。
備考	調理学実習Ⅲを必ず履修しておくこと。
テキスト・教材・経費等	企業体験に関わる交通費・調理実習費は自己負担になります。

授業計画	<p>実習先の企業と打ち合わせを行い、インターンシップ計画に基づいて、実習の準備および体験実習を行います。実習後には報告書を作成します。おおよその内容として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.農業従事者団体にて、企業理念・人事教育・リスク管理等講義</li> <li>2.生産者及び店舗見学を含めた体験実習</li> <li>3.地元野菜を使用した献立を提案し、地域の方との料理講習会を実施する。</li> <li>4.体験実習の報告書を作成し提出します。</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」「調理学実習Ⅲ」の履修により学んだ技術をしっかり活用・応用しましょう。企業体験においては、積極的に考えて、行動し、注意事項は必ず厳守する、学ぶ態度でインターンシップに取り組みましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F3050	科目名	給食管理臨地実習			単位数	1
担当者	丹羽 真理、山崎 初枝、岡本 美恵、能城 光秀						
開講学期	2017年度 前期～後期		開講年次	2	授業方法	実習	
ナンバリング	1F7-3380						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	病院、事業所、社会福祉施設、学校、保育所等における給食管理の実際を体験することにより、栄養管理、衛生管理、作業管理、事務管理等のあり方やポイント、更には給食施設の特徴をアクティブ・ラーニングによって学習します。						
教育目標との関連	給食施設現場での実習を通して、栄養士業務に精通して、自分らしく生きがいのある仕事が可能となり、社会で活躍できる「生きる力」を備えた栄養士になることを目指します。						
到達目標	給食施設の経営理念や目的に沿った給食運営のあり方について理解を深め、栄養士として具備すべき知識・技能を修得します。						
評価方法	課題の取り組み態度・成果30%、校外実習ノート40%、実習態度等30%をもとに総合的に評価します。						
備考	○検便等の検査が求められます。 ○履修対象は、栄養士免許取得希望者です。						
テキスト・教材・経費等	「給食管理実習・校外編」(建帛社) 女子栄養大学出版部 食品成分表						
授業計画	実習先の給食施設と打合せを行い、各給食施設の実習計画に基づいて実習の準備(献立作成、指導案・栄養教育媒体の資料作成等)及び実地体験学習を行います。実習後は実習ノート(レポート)を提出し、報告会で発表します。 具体的な内容は次のとおりです。 ①校外実習に当たっての心構えと準備 ②課題の取組み ③校外実習(実地体験学習) ④実習ノートの作成 ⑤報告会での発表						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、調査・実習						
準備学習(予習・復習)	実習時間は、実習施設における校外実習40時間及び事前準備・事後学修等のための学内実習5時間以上で1単位となります。実習施設に行く前に、常識的な態度・マナーを身につけておくとともに、これまでに学んだ知識・技術(特に衛生管理)を復習しておく等の事前準備が必要です。 「校外実習」は実習施設が将来栄養士になる学生への指導を受け入れていただいております。 このことを十分に理解して、卒業後に栄養士として就職することを見据え、十分に事前準備をして臨んでください。ひとりひとりの心構えがとても大切です。						
免許・資格	栄養士 栄養教二種免						
免許・資格の科目区分	給食の運営						

時間割番号	1F4001	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	森田 清美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。全コース共通専門科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループワーク
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F4002	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力、創造・表現力、プレゼンテーション力						
概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							



時間割番号	1F4003	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題設定力、企画・計画力、チームワーク力、創造・表現力、プレゼンテーション力					
概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F4004	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力、創造・表現力、プレゼンテーション力						
概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考	卒業要件科目です。全コース共通専門科目です。						
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F4005	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけます。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F4006	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	山崎 初枝						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		論理的思考力, 企画・計画力, チームワーク力, プレゼンテーション力					
概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること</li> <li>○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。</li> <li>○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと</li> </ul>						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習, グループワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F4007	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	丹羽 真理						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		r論理的思考力、企画・計画力、チームワーク力、プレゼンテーション力					
概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F4008	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	岡本 美恵						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		論理的思考力, 企画・計画力, チームワーク力, プレゼンテーション力					
概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組みます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。						
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけよう。						
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと						
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。						
授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個人々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習, グループ・ワーク						
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F4009	科目名	総合生活デザイン演習Ⅲ			単位数	2
担当者	能城 光秀						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-2041						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、企画・計画力、チームワーク力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概要	多様化する生活課題を総合的にとらえ、「その課題を卒業研究のテーマとし、その解決方法を具体的にデザイン(Plan-Do-See-Action)する特別研究としてアクティブ・ラーニングとして取り組んでいきます。また、この授業では学生一人一人の学修や進路選択に対しても、担当教員による個人指導が行われるため、学生がライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動などを通して将来を切り開く実践の場ともなります。
教育目標との関連	前期に続き、職業人として社会で活躍できる「生きる力」の育成として、挨拶や返事、報告など社会に必要な基本的なコミュニケーション力、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度、人に対してやさしく、思いやりの気持ちを持ち、社会人に必要なマナーを身につけます。
到達目標	○卒業研究のテーマを決定し、研究・制作の年間計画を作成し、実行すること ○年間計画における中間時期として、成果をまとめること。 ○ライフプラン＝「成りたい自分になる」プログラムを実行し、就職活動に生かすこと
評価方法	研究内容、研究に取り組む姿勢及び授業への参加状況によって総合的に評価します。
備考	卒業要件科目です。
テキスト・教材・経費等	各ゼミ担当の指導教員が指示します。

授業計画	生活の中での問題をもとに、興味や関心のあるテーマを設定します。そのテーマの設定や研究計画(1年間)については指導教員と相談しながら、自主的に進めます。卒業研究をまとめるためには、テーマに関する文献などの調査方法、具体的な研究方法(現地調査、アンケート調査、データ分析、実験や実習による方法など)、また、最後には研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学修することになります。そのために、指導教員による個人又はグループごとの個別指導が行われます。また、進路指導も学生個々人に対して進められるので、進路決定のための実践の場としてください。
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習、調査・実習、グループ学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	各担当教員と相談のうえ、自主的に行動しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F4010	科目名	生活経済学			単位数	2
担当者	中嶋 則夫						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3120						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	われわれは、ゆたかでゆとりある生活を実現したいと願い、日々生活しています。単にGDPの生産に携わり、物質的な消費を行うだけの経済主体ではなく、生涯にわたるゆたかさを求める存在なのです。生活経済学では、相互に競合する無数の需要・供給間の交換を行う市場経済を通して、形成される社会関係の中で営まれるわれわれの生活を、よりゆたかでゆとりあるものにするために、物質的、時間的、空間的、精神的に何が必要であり、それらをどのように獲得すれば良いかについて議論していきます。						
教育目標との関連	「生きる力」に必要な経済学的知見を身に付け、何事にも積極的に取り組む意欲につなげる						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分業と交換の役割を理解する</li> <li>○GDP、物価とくらしの関係を理解する</li> <li>○市場の失敗から生じる問題と政府の役割を理解する</li> <li>○政府の経費とくらしについて理解する</li> <li>○租税・公債とくらしについて理解する</li> </ul>						
評価方法	小テスト(20%)、課題・期末課題(30%)、筆記試験(50%)を総合して評価します						
備考							
テキスト・教材・経費等	必要に応じて、プリントを配布します						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: はじめに(分業と交換について)</li> <li>2: GDPとくらしについて</li> <li>3: 物価とくらしについて</li> <li>4: 生産と経済成長について</li> <li>5: 生活のゆたかさを測る様々な尺度について</li> <li>6: 政府とわれわれのくらしの関係について</li> <li>7: 医療とくらしについて</li> <li>8: 年金とくらしについて</li> <li>9: 介護とくらしについて</li> <li>10: 生活保護とくらしについて</li> <li>11: 失業とくらしについて</li> <li>12: 文教及び科学技術振興とくらしについて</li> <li>13: 社会資本とくらしについて</li> <li>14: 租税・公債とくらしについて</li> <li>15: まとめ</li> </ol>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、課題発見学習						
準備学習(予習・復習)	授業中に何度か小テストをして、授業内容が理解できているかどうかを確かめます。次回の授業に向けて、予習・復習をしっかりとっておいてください。						
免許・資格	中二種免(家庭)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(家庭経営学)						



時間割番号	1F4011	科目名	人間関係論(含家族関係)			単位数	2
担当者	前田 和寛						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3130						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	人が社会的生活を営む上で非常に重要となるのが、人間関係や家族関係です。この授業では、心理学の知見・研究をもとに、人間関係や家族観家について、様々な観点から議論します。そして現在の自分自身の状況を見つけ、今後どのように暮らしていけるか、そのヒントとなることを考えていきます。						
教育目標との関連	この科目はよりよい生活をしていくための「生きるスキル」に関連する教育目標と結びつきます。						
到達目標	自分自身が置かれている社会的環境、および他者が置かれている社会的環境に対して、心理学的に考えようと意識できること、そして妥当な考察ができるようになることを到達目標とします。						
評価方法	毎回の提出課題(30%) 期末試験(70%)						
備考	以下のような、授業に対して積極的でない姿勢の者は受講を認めません： ・理由のない遅刻、欠席 ・私語、内職、いねむり						
テキスト・教材・経費等	講義で提示予定のスライド資料を配布します。						
授業計画	第1部 人間関係について 1. イントロダクション、人と人との出会いについて 2. 人を好きになるとは？ 3. 円滑なコミュニケーションのためには？ 4. 他者からどのように影響をうけるのか？ 5. 集団間の利害の対立について 6. 対人関係の諸問題について 7. ストレスと人間関係について 8. 人間関係のまとめ 第2部 家族関係について 9. 家族の心理構造について 10. 夫婦関係について 11. 親になることについて 12. 親子関係と子供の発達について 13. 兄弟関係について 14. 高齢者について 15. 家族関係のまとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	授業で聞いた内容について、「自分の」日常生活にあてはめて考えてください。ただの「机上の空論」、机の上で学ぶだけではなく、自分の実際の経験と結びつけることで、より理解が増すでしょうし、学問としての関心も高くなるはずです。						
免許・資格	中学校教諭二種(家庭) 観光ビジネス実務士						
免許・資格の科目区分	家庭経営学に関する科目						

時間割番号	1F4012	科目名	生活経営学			単位数	2
担当者	七枝 敏洋						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F1-3240						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	<p>大学・短大を卒業し、社会人になると、毎日が新しい出会いで満ち溢れています。一方、社会では、さまざまなリスク(変動)が待ち受けているのも事実です。社会人になると、基本的に自らの力で自分自身を守っていく必要があります。心がけとしての意志が大切ですが、お金の側面から備えるのもひとつの優れた対策です。この講座では、生活経営のためのファイナンシャル・プランニングの考え方を身につけます。また、フード・マネジメントを例に事業経営についても学修します。なお 教職の必修科目であり、中学校技術・家庭の「消費生活」領域の学習指導にも考慮します。</p>						
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のディプロマシー・ポリシーに基づき、「豊かな人間性と多面的なものの見方、幅広い見識を養うため」と関連しています。必修科目です。						
到達目標	<p>【知識・理解】現代社会の中で求められている生きる力について理解する  【技能・表現】知識を実場面で技術として活用できる  【思考・判断】生活を経営するために必要な知識・技術・ノウハウ等を理解できる  【関心・意欲・態度】生活の質の向上に積極的に取り組む</p>						
評価方法	受講態度(30%)、授業用ノート提出(40%)、小テスト(40%)を総合的に評価します。						
備考	人生の収入、支出を想定し自分のライフプランを立ててみましょう。						
テキスト・教材・経費等	<p>ゼロから学ぶ！ファイナンシャル・プランニング講座-新入社員のためのお金の教科書  監修 山田和利、株式会社さきんざい(1400円税別)</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション。「生活経営-生活経営のためのファイナンシャル・プランニングを学ぼう。」  第2回 日々の生活の中でかかる費用①  第3回 日々の生活の中でかかる費用②-就職(20歳代)  第4回 日々の生活の中でかかる費用③-社会保険ってなに？  第5回 日々の生活の中でかかる費用④-公的年金ってなに？  第6回 私的(民間)保険の加入(20歳代)  第7回 結婚～子どもの誕生を考える(30歳・40歳代)  第8回 住宅取得後～子どもの成長を(40・50歳代)  第9回 住宅取得を考える  第10回 事業経営①-フード・マネジメントを例に  第11回 事業経営②-経営基礎知識  第12回 事業経営③-開店と販売促進  第13回 子どもの成長(40・50歳代)  第14回 老後の準備(60歳代)-投資の基礎、退職(60歳代)、相続  第15回 まとめとふりかえり</p>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	ディベート、グループ学習、課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	毎回テキストを見直して、生活経営にまつわる用語を理解しましょう。第10回から第12回まで、授業時には資料を配布しますので、解説をノートに書き込みながら理解してください。全般をとおして、日々の新聞に目を通すことも忘れないでください。						
免許・資格	中二種免(家庭)、秘書士、ビジネス実務士、フードコーディネーター3級						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(家庭経営学)、秘書士資格認定科目、ビジネス実務士資格認定科目、フードコーディネーター3級資格認定科目						

時間割番号	1F4013	科目名	ビジネス実務演習			単位数	2
担当者	西村 この実						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F1-3250						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	<p>ビジネスワーカーを目指す人のために、表現実務、情報実務、サービス実務を学びます。          特に「表現実務」に焦点を絞り、第三者と適切に、かつ効果的にコミュニケーションをとる方法を学びます。          パワーポイントを活用したプレゼンテーション技術を活用しつつ、論理的に考え、発言する方法を学ぶアクティブラーニング型授業です。</p>						
教育目標との関連	社会における基本的なコミュニケーション力はもちろんのこと、自発的な行動により、何事にも積極的に取り組む意欲や態度も総合的に身につけます。						
到達目標	<p>【知識・理解】ビジネス実務の応用知識を習得する          【技能・表現】論理的に物事を組立て、IT機器を活用し、それらを発言することができる          【思考・判断】適切に的確に第三者の意見を「聴く」ことができる          【関心・意欲・態度】ビジネス活動に興味を持つことができる</p>						
評価方法	授業への参画度(20%)、授業内課題(80%)を総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション          第2回 プレゼンテーションの意義と目的          第3回 プレゼンテーション演習(態度、話し方)          第4回 プレゼンテーション演習(話す目的の設定)          第5回 プレゼンテーション演習(事前調査、聴衆分析)          第6回 プレゼンテーション演習(ストーリー作り)          第7回 プレゼンテーション演習(リハーサルのおすすめ方)          第8回 プレゼンテーション演習(実践とフィードバック①)          第9回 プレゼンテーション演習(テーマの明確化)          第10回 プレゼンテーション演習(ストーリー構成)          第11回 プレゼンテーション演習(実践とフィードバック②)          第12回 プレゼンテーション演習(分析のしかた)          第13回 プレゼンテーション演習(図解化の検討)          第14回 プレゼンテーション演習(実践とフィードバック③)          第15回 まとめ</p>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習・課題解決学習						
準備学習(予習・復習)	<p>ビジネス社会は生き物ですから、常に最新の情報を獲得することに努めてください。          1年前に学んだことは、もう古い、ということを認識し、毎朝新聞を読みこんでください。          また、授業でパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行います。一朝一夕で準備できるものではありません。テーマの設定、ストーリーの構成、伝え方、IT機器の駆使など、事前準備が必要です。          卒業を控えた皆さんには、上記に留意のうえ、自発的な学習を期待します。</p>						
免許・資格	ビジネス実務士						
免許・資格の科目区分	ビジネス実務士資格認定科目						

時間割番号	1F4014	科目名	フランス料理実習	単位数	2
担当者	黒越 勇				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1F2-3100				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	フランス料理の基本的な学習とフランス料理の楽しさを学びます。また、料理には人を喜ばし幸せにするパワーがいっぱい詰まっている事なども学習のひとつです。
教育目標との関連	社会人として専門的知識・衛生管理・スキルを身につけ、実践できる人になることを目指します。
到達目標	コース料理の完成。盛りつけのバランスとセンス。 食品衛生を一番大切にします。 フランス料理における基本を身に付けます。(焼く、蒸す、煮込むなど) 色合いなど盛りつけの学習。
評価方法	参加状況40%、実習の完成度30%、レポート提出30%
備 考	
テキスト・教材・経費等	実習費として7,000円ぐらい徴収する予定です。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、フランス料理の説明</li> <li>2. 調理の基本と食品衛生</li> <li>3. 前菜</li> <li>4. 前菜</li> <li>5. スープ</li> <li>6. スープ</li> <li>7. 魚</li> <li>8. 魚</li> <li>9. 肉</li> <li>10. 肉</li> <li>11. デザート</li> <li>12. デザート</li> <li>13. コース料理</li> <li>14. コース料理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	実習、グループ学習
準備学習(予習・復習)	事前にレシピを学習しておく。 家庭学習(自ら作ってみる。)

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F4015	科目名	ファッションクラフト			単位数	2
担当者	鈴木 直恵						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F3-3050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	刺繍や編みの基礎知識や技術を習得します。刺繍では基礎的なステッチを学び、アクセサリーや小物などに自由にデザイン展開して作品を製作します。編みは、かぎ編みの基礎テクニックを学び、マフラーなどに応用して作品を製作します。
教育目標との関連	クラフトの基礎を学び、生活に応用できる力を身につけます。
到達目標	刺繍やかぎ編みの基礎的な技術を習得し、オリジナリティあふれる作品へとデザイン展開できる能力を養います。
評価方法	作品70%、受講態度30%で総合評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配付します。作品作りに必要な材料(布、刺繍糸、毛糸、針など)は、各自で用意してください。

授業計画	第1回 オリエンテーション 刺繍の基礎知識(用語、用具など) 第2回 刺繍の基礎刺し1 アウトラインステッチ バックステッチなど 第3回 刺繍の基礎刺し2 サテンステッチなど 第4回 刺繍の基礎刺し3 ビーズ刺しゅう スパンコール刺しゅう 第5回 刺繍を使った作品のデザイン(図案・配色・技法など) 第6回 作品製作1 第7回 作品製作2 第8回 編みの基礎知識(用語、用具など) 第9回 かぎ編みの基礎編み1 針の持ち方・編み目記号 鎖編み 第10回 かぎ編みの基礎編み2 細編み 長編みなど 第11回 かぎ編みを使った作品のデザイン 第12回 作品製作1 第13回 作品製作2 第14回 作品発表 第15回 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	作品製作実習, プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	日常の生活の中で、刺繍や編み物の作品および商品の図案や配色・質感などを良く観察しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F4016	科目名	住・インテリア設計製図Ⅱ			単位数	1
担当者	迫垣内 裕						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F4-3061						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力、発想力、企画・計画力、傾聴・受信力、創造・表現力、プレゼンテーション力					
概要	製図用具やパソコンを使用して設計製図の具体的な課題をこなすことにより、住宅やインテリア設計における図面の読図力や表現技術の能力を養います。また、設計製図の行為を通して人間-物-空間の繋がりを考え、住宅を総合的に捉えます。空間表現技法、CAD演習、住・インテリア設計製図Ⅰの製図関連科目やその他の住・インテリア系列関係の講義・演習で修得した知識・技術の集大成として位置づけられる科目で、設定された敷地条件をもとに一戸建住宅及びそのインテリアを設計します。						
教育目標との関連	総合生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー4に該当する、ハウス・インテリア系列専門科目です。専門的学修と関連資格の取得、「生きる力」の育成を目指します。						
到達目標	2D/CAD、3D/CADの操作や知識を修得する。 与えられた諸条件から様々な解決法を提案できる。 プレゼンテーションの技法を修得し、自らの案を分かりやすく他人に説明できる。 住宅を人間-物-空間の繋がりとして総合的に把握できる。						
評価方法	課題の完成度(70%)及び授業への参加状況(30%)によって評価します。 発表時には学生による相互評価を実施する予定です。相互評価では、自分が考えた解答案を分かりやすく説明し、それをお互いが評価し合い、自案の優れた点、不十分な点を確認するとともに、他家の参考になる点などを確認し自案に活かします。						
備考	1年次後期の「CAD演習」及び2年次前期の「住・インテリア設計製図Ⅰ」を履修していることが望ましい科目です。						
テキスト・教材・経費等	『やさしく学ぶJw-cadデラックス』(エクснаレッジ)(1年次後期「CAD演習」、2年次前期「住・インテリア設計製図Ⅰ」でも使用)を使用します。また、プリントを適宜配付します。						
授業計画	第1回 : 授業の概要、課題の説明、資料の収集(次回までに収集) 第2回 : 戸建て住宅の設計1 エスキース(その1) 第3回 : (その2) 第4回 : (その3) 第5回 : 戸建て住宅の設計2 2D/CADによる製図(敷地図・平面図など) 第6回 : (その2) 第7回 : (その3) 第8回 : 発表(中間発表:7学生による相互評価を実施) 第9回 : 戸建て住宅の設計3 3D/CADによる製図(パース)(その1) 第10回 : (その2) 第11回 : (その3) 第12回 : (その4) 第13回 : 戸建て住宅の設計4 プレゼンテーションボード(その1) 第14回 : (その2) 第15回 : 発表(最終発表:学生による相互評価を実施)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	その他(実習)						
準備学習(予習・復習)	ハウス・インテリア設計の集大成として一戸建て住宅を設計します。一定の設計条件を課しその条件下で住みよい住まいの解答を各自で考え、図面化します。これまでに学習してきた知識・技術を確認しながら課題を進めてください。エスキース、製図作業には時間外学習が必要となりますので、空き時間を利用するなどして仕上げてください。中間及び最終回の成果発表では、学生相互による評価を行います。また、普段から住宅やインテリアの専門雑誌、住宅展示場・インテリアショップ、インターネットなどから常に最新の情報を入手して、この分野の傾向を把握しておきましょう。						
免許・資格	インテリアプランナー						
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1F4017	科目名	ガーデンデザイン			単位数	2
担当者	梶岡 幹生						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F4-2070						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	花から「やさしさ」を緑から「元気」をガーデン(庭)から「癒し」を学びます。庭を理解する心、花の育てる楽しさ、緑の不思議を観察し、ガーデンデザインを学びます。
教育目標との関連	自然に感動し、花と樹との共生事野大切さを学びます。
到達目標	1. 日本の庭・ヨーロッパの庭・中国の庭など庭の鑑賞の仕方を学べる。 2. 生物多様性のある自然・ビオトープ・園芸療法の意義がわかる。 3. ガーデンデザインが出来る、人の心をつかむプレゼンの仕方がわかる。
評価方法	授業への参加状況や取り組みとテストで評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	オリジナルテキスト・PPで講義・花壇実習など

授業計画	<p>第1回 伝統的な日本庭園・日本庭園の鑑賞の仕方など。</p> <p>第2回 日本の現代庭園・人気ガーデナー24人の事例など。</p> <p>第3回 花苗を植え込み育てる実習など。</p> <p>第4回 ヨーロッパの庭園・アメリカの庭園・欧米の花壇とみどり。</p> <p>第5回 広島の名勝庭園・縮景園の視察現地研修など。</p> <p>第6回 2講座分で現地研修をする。</p> <p>第7回 ガーデンデザインの為の材料:樹木・草花・庭石・レンガ・舗装・垣など</p> <p>第8回 ガーデンデザインの製図の基礎。</p> <p>第9回 ガーデンデザイン:プライベートガーデンから学ぶ。</p> <p>第10回 ガーデンデザインの基本手法:デザインのポイント・コンセプト・プレゼンなど。</p> <p>第11回 ガーデンデザイン:自分でつくる楽しいデザイン。</p> <p>第12回 ガーデンデザインの実習・プレゼンの実習など。</p> <p>第13回 校内のデザインを考える・デザインを作成するなど。</p> <p>第14回 校内のデザインを作成・発表など。</p> <p>第15回 1年間のまとめ</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー
準備学習(予習・復習)	<p>1. 授業の時間にしっかり聞き1つだけは心に残す事。毎回の授業の終わりに「今日、学んだこと事・今日感じた事」をメモし、提出します。</p> <p>2. 現役社長として最近、感じたこと。最近、考える事を話します。</p>

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F4018	科目名	CG入門			単位数	2
担当者	的場 智美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1F5-2030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	代表的CGソフトのPhotoshopで、作画、画像処理、写真の加工や合成などのCGの基礎技能と知識を学びます。ソフトの使い方を覚える演習と、各自の創造性を発揮する自由制作とを組み合わせた授業です。表現力が無限に広がるCGの面白さを体験して下さい。合わせてデザインセンスの向上も目指します。
教育目標との関連	この科目は「コミュニケーションリテラシー」のなかの「情報」に位置づけられる科目です。
到達目標	CGについての知識と理解を深める。 デジタル画像制作の基礎的な技能を身につける。 発想力と美的センスを磨き、自己表現の幅を広げる。
評価方法	提出課題50%、参加状況と授業態度50%を原則として総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	メモの用意をして下さい。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション「フォトショップでできること」</li> <li>2. 基本操作、ペイントツール、選択範囲</li> <li>3. シェイプツール</li> <li>4. 文字ツール</li> <li>5. 復習課題① イラスト自由制作</li> <li>6. 写真補正</li> <li>7. 選択ツールとマスク</li> <li>8. 写真の合成</li> <li>9. 復習課題② 合成写真自由制作</li> <li>10. 描画モードによる画像合成、色調補正</li> <li>11. フィルター加工</li> <li>12. シェイプツールとパス</li> <li>13. 復習課題③ 自由制作</li> <li>14.     "</li> <li>15.     "</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習
準備学習(予習・復習)	技能習得には復習が効果的です。操作方法をメモし、後でメモを見ながら自力でもう一度やってみると、確実に身につけていきます。

免許・資格	情報処理士資格
免許・資格の科目区分	情報処理士専門教育科目



時間割番号	1F4019	科目名	公衆衛生学	単位数	2
担当者	水羽 和成				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1F2-3320				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	公衆衛生学は、組織的な活動により、人々の生活の質を向上し、疾病を予防し、健康を維持・増進することなどを旨とする分野です。この授業では、公衆衛生の向上のために実施されている疾病予防、感染症対策、健康増進、医療及び環境衛生等の公衆衛生活動について学びます。併せて、公衆衛生に関わる我が国の保健・医療・福祉の制度についても学びます。				
教育目標との関連	現場や地域において、栄養の指導者として活躍できる専門的知識を身につける。				
到達目標	我が国の公衆衛生の現状と社会的システムを理解し、栄養士としてまた社会人として必要な知識を身に付けます。				
評価方法	出席状況・授業態度・小テスト・期末テスト・提出物等を総合して評価します。				
備 考	適宜、小テストを実施します。				
テキスト・教材・経費等	サクセス管理栄養士講座 社会・環境と健康 公衆衛生学・健康管理概論（監修 一般社団法人 全国栄養士養成施設協会、公益社団法人 日本栄養士会 著者 武山英磨、中谷弥栄子） 発行所 第一出版株式会社 2,100円＋税				
授業計画	第1回 オリエンテーション 社会と健康 第2回 健康と環境 第3回 健康と環境 第4回 健康、疾病、行動に関する統計資料 第5回 健康、疾病、行動に関する統計資料 第6回 健康状態・疾病の測定と評価 第7回 健康状態・疾病の測定と評価 第8回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策 第9回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策 第10回 主要疾患の疫学と予防対策 第11回 主要疾患の疫学と予防対策 第12回 保健・医療・福祉の制度 第13回 保健・医療・福祉の制度 第14回 保健・医療・福祉の制度 第15回 補足とまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	テキストに準じて授業を進めます。 授業をより理解するために、事前にテキストの内容を確認しておいてください。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1F4020	科目名	運動生理学		単位数	2
担当者	上岡 はつみ					
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義	
ナンバリング	1F3-2350					
コア・アクティブ・ラーニング科目群						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード						
概要	私たちが運動をするときからだの中でどのようなことが起こっているのでしょうか？運動やスポーツに対する骨格筋系、呼吸循環系、神経系、内分泌系の応答とその仕組みを学修します。					
教育目標との関連	スポーツや運動、あるいは種々のトレーニングが身体機能に及ぼす影響についての知識を得るとともに、それらと栄養学との関連についての理解を深めることが教育目標と関連しています。					
到達目標	1)運動時のエネルギー供給について説明できる。 2)運動時のからだの応答について生理学的に説明できる。 3)運動が健康増進に及ぼす影響について説明できる。 4)特殊環境下でのからだの生理学的応答について説明できる。					
評価方法	授業への参加状況と試験によって総合的に評価します。					
備考	毎時間学修内容を振り返り、小レポートを提出してもらいます。					
テキスト・教材・経費等	テキスト：イラスト運動生理学、朝山正己ら、東京教学社、2000円（税別）					
授業計画	1回目：運動と筋肉 2回目：運動と神経 3回目：運動と呼吸 4回目：運動とエネルギー代謝1 5回目：運動とエネルギー代謝2 6回目：運動と循環1 7回目：運動と循環2 8回目：運動と栄養 9回目：特殊環境下での運動1 10回目：特殊環境下での運動2 11回目：運動処方とは？ 12回目：運動処方の実際 13回目：運動と健康増進 14回目：運動と健康障害 15回目：まとめ					
アクティブ・ラーニングの授業形態	自己省察					
準備学習(予習・復習)	授業時に資料を配布しますので、復習時の参考にしてください。					
免許・資格	栄養士 栄養教諭二種免許					
免許・資格の科目区分	人体の構造と機能					

時間割番号	1F4021	科目名	食品衛生学実験	単位数	1
担当者	平田 健				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実験
ナンバリング	1F4-3340				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	食品の加工技術は目覚ましく発展しており、食品流通は広範囲になっています。それに伴い食品の安全性確保が益々重要になっています。食品衛生学実験では鮮度試験、変敗試験などの理化学実験および微生物学実験を通じて食品衛生学に関する具体的な実験技法を習得します。さらに、食品衛生学実験を通じて食品の保存性についての理解を深めます。				
教育目標との関連	食品衛生学実験を通じて、栄養指導に役立つ、基礎となる食品についての知識を身につけます。				
到達目標	1. 食品衛生学実験を通じて、実験技法および食品の安全性について理解を深めます。 2. 食品衛生学実験で得たデータの解析法、結果の考察およびレポートの作成方法を習得します。				
評価方法	実験レポート(70%)、受講の参加状況(30%)により総合的に評価します。				
備考	受講生の関心の程度や世間情勢によって、実験の順番や中身を変えることがあります。実験レポートを提出しないと、実験にいくら参加しても、単位は認められませんので注意して下さい。				
テキスト・教材・経費等	プリントを配布します。				
授業計画	第1回 実験についての心構え、実験の基礎 第2回 食品の鮮度試験 第3回 食品の鮮度試験 第4回 油脂の変敗試験 第5回 空中落下菌、器具類の衛生試験 第6回 手指の衛生試験、結果の集計 第7回 食品中の生菌数、真菌数、大腸菌群 第8回 食器の洗浄度、カタラーゼ検査				
アクティブ・ラーニングの授業形態	実験				
準備学習(予習・復習)	実験後、すぐに結果をまとめ、不思議に思った点は自分で調べ、実験レポートを提出期日までに書き上げていく習慣をすることが非常に大切です。				
免許・資格	栄養士 栄養教二種免				
免許・資格の科目区分	食品と衛生				

時間割番号	1F4022	科目名	栄養・生化学実験			単位数	1
担当者	能城 光秀						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実験		
ナンバリング	1F5-3321						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力 課題設定力 企画・計画力					
概要	実験を通して、生化学・栄養学の講義内容についての理解を深めることを目的とします。講義内容に準拠した実験を数人のグループで行います。主に三大栄養素である糖質、脂質、タンパク質の構成成分や代謝に関する実験を行い、生体内で起こっている生化学反応を目で見て理解します。						
教育目標との関連	基礎から深く理解した専門的栄養指導ができる栄養士としての知識を身につけます。						
到達目標	基礎生化学、生化学、栄養学総論で学んだ知識を実験を通して体験的に身につけることを到達目標としています。 ・毎回の実験内容についてレポートにまとめること。 ・毎回の実験に参加し実験方法と技術を習得。						
評価方法	レポート(50%)、参加状況及び実習態度(50%)						
備考	状況に応じて実験項目や順番、内容を変更することがあります。出席とレポートは必須です。						
テキスト・教材・経費等	プリントを配布します。						
授業計画	第1回: ガイダンス: 実験の基本、仕様器具の扱い方、評価方法の説明など 第2回: ジャガイモでんぷんの調製についての講義と準備 第3回: ジャガイモでんぷんの調製 第4回: 牡蠣グリコゲンの調製についての講義と準備 第5回: 牡蠣グリコゲンの調製 第6回: デンプン、グリコゲンのアミラーゼによる消化についての講義と準備 第7回: デンプン、グリコゲンのアミラーゼによる消化 第8回: 卵白を用いた実験 pH、熱変性、酸変性、有機溶剤変性 についての講義と準備 第9回: 卵白を用いた実験 pH、熱変性、酸変性、有機溶剤変性 第10回: タンパク質分解酵素によるタンパク性食品の消化 ペプシンとトリプシンについての講義と準備 第11回: タンパク質分解酵素によるタンパク性食品の消化 ペプシンとトリプシン 第12回: タンパク質定量 ブラッドフォード法によるアルブミン標準溶液と未知検体の定量についての講義と準備 第13回: タンパク質定量 ブラッドフォード法によるアルブミン標準溶液と未知検体の定量 第14回: 石けんの作製、脂質の溶解性、乳化実験についての講義と準備 第15回: 石けんの作製、脂質の溶解性、乳化実験						
アクティブ・ラーニングの授業形態	実験結果について、質疑討論を行う。						
準備学習(予習・復習)	資料などの該当部分を読んでおくこと。 実験後結果はすぐにまとめて疑問点は自分で調べて次回までにレポートを書くようにする。						
免許・資格	栄養士 栄養教二種免						
免許・資格の科目区分	栄養と健康						

時間割番号	1F4023	科目名	栄養学各論			単位数	2
担当者	丹羽 真理						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F5-3330						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	人のライフスタイルに沿った栄養と健康のかかわりについて、科学的側面より講義します。人のライフステージ(母性、成長期、老化、労作、生活環境など)における栄養の知識、食事摂取基準について、食事バランスガイドについて解説し、栄養管理のあり方をアクティブラーニングによって考えます。
教育目標との関連	栄養士として栄養指導・栄養教育が行えるように、専門的知識・スキルを身につけ、実践できるようになることに関連します。
到達目標	ライフステージ別対象者への食生活・栄養のあり方を理解して、健康的な生活をする対象者に栄養の指導・栄養教育ができることを目標にします。さらに、栄養に係る資料について、専門的知識を十分理解し、健康づくりに繋がるように、栄養の知識を栄養媒体を通じて栄養指導の実践ができることを目標にしていきます。
評価方法	課題レポート40%、課題テスト40%、授業態度20%を総合的に評価します。
備考	栄養士免許取得見込みの方
テキスト・教材・経費等	栄養・健康データハンドブック最新版 同文書院 2800円 四訂 応用栄養学(Nブックス) (建帛社) 2900円

授業計画	第1回 栄養ケアマネジメント 第2回 栄養アセスメント 第3回 日本人の食事摂取基準 第4回 母性栄養 第5回 新生児・乳児期の栄養 第6回 成長期の栄養 第7回 第1～6回までのまとめ 第8回 成人期の栄養 第9回 高齢期の栄養Ⅰ 第10回 高齢期の栄養Ⅱ 第11回 第8～10回のまとめ 第12回 スポーツと栄養 第13回 環境と栄養 第14回 食事バランスガイドについて 第15回 栄養士法、第12～14回のまとめ
アクティブラーニングの授業形態	コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	栄養士養成課程のまとめとなりますので、今までの授業内容や校外実習などでの集団給食の栄養指導・栄養教育の様子と合わせて、授業前にライフステージ別の特性を理解して授業に臨みましょう。復習として授業後にはテーマについてまとめ、レポートを提出します。また、栄養士実力認定試験に備えて、栄養学に係る専門知識を復習してください。

免許・資格	栄養士
免許・資格の科目区分	栄養と健康

時間割番号	1F4024	科目名	臨床栄養学実習	単位数	1
担当者	丹羽 真理				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実習
ナンバリング	1F5-3361				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 課題設定力, 発想力, 創造・表現力				
概要	栄養療法は治療の基本であり, 食事療法の重要性が認識されてきています。そこで, 食事療法を必要とする代表的な疾患を取り上げ, 病態に応じた食事計画・献立作成・調理実習を通して, それぞれの治療食の知識と理解を深めます。必要とされる治療食を作ることができるよう, 食品の選択・調理の工夫などを体験学習などのアクティブラーニングによって修得します。				
教育目標との関連	給食現場や地域において, 栄養の指導の専門的担当者として活躍できる知識・技術を身につける。				
到達目標	疾患別に必要とされる献立を作成する演習や調理実習を通して, 食事療法の基本方針を理解し, 栄養士として必要な実践的な技術を習得することを目標にします。				
評価方法	レポート課題(30%), 演習・実習態度(20%), 小テスト(50%)により総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	臨床栄養学実習 『栄養食事アセスメントと栄養ケアプラン』 第4版 学建書院 2500円 糖尿病食事療法のための「食品交換表 第7版」 日本糖尿病学会編 900円				
授業計画	第1回 講義 栄養ケアの概要, 一般治療食(流動食から常食まで) 第2回 講義 嚥下困難食の栄養・食事計画について 第3回 実習 嚥下困難食について調理 第4回 演習 嚥下困難食の体験学習・グループディスカッションによる課題の整理 第5回 講義 エネルギーコントロール食の栄養・食事計画について 第6回 演習 エネルギーコントロール食の献立作成(食品交換表) 第7回 実習 エネルギーコントロール食の献立作成・課題の整理 第8回 演習 エネルギーコントロール食の調理 第9回 講義 エネルギーコントロール食の体験学習・グループディスカッションによる課題の整理 第10回 演習 たんぱく質コントロール食の栄養・食事計画について 第11回 演習 減塩食について 第12回 実習 たんぱく質コントロール食(特殊食品)の調理 第13回 演習 たんぱく質コントロール食の課題の整理 第14回 講義・演習 食物アレルギー食の栄養・食事計画について 第15回 演習 グループディスカッションによる課題の整理・総まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習, グループワーク, 課題発見学習				
準備学習(予習・復習)	それぞれの病態ごとに食事計画と献立作成の演習・調理実習を行います。前期の臨床栄養学が十分に理解されてこそ, 臨床栄養学実習が充実した授業になります。臨床栄養学実習の予習として, 前期の臨床栄養学でまとめた各病態について再度勉強をして理解しておきましょう。授業中に配布した学習資料や自分で作成した献立表等を整理するファイルを準備しましょう。病態別の献立を検討し, 課題としてレポート提出します。				
免許・資格	栄養士				
免許・資格の科目区分	栄養と健康				

時間割番号	1F4025	科目名	栄養生化学			単位数	2
担当者	能城 光秀						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F5-3370						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	分子生物学的立場から見た栄養学について学びます。ここで言う「分子」とは、栄養素を分子レベルで考えるのではなく、受け入れ側のからだを分子レベルで考えるということです。分子栄養学では特に遺伝子とその産物に着目し、遺伝子をフルに活動させるためには何の栄養物質がどれだけ必要かということを考えます。						
教育目標との関連	基礎から深く理解した専門的栄養指導ができる栄養士としての知識を身につけます。						
到達目標	1. 遺伝子の発現機構の基本を学びます。 2. 栄養素の代謝と遺伝子産物との関連についての理解を深めます。						
評価方法	期末テスト(60%)、中間テスト・レポート(20%)、参加状況及び授業態度(20%)						
備考	授業では視聴覚教材やプリントなどを利用しながら解説していきます。適宜、導入やまとめのための動画なども見ます。確認のための小テストなどを行います。						
テキスト・教材・経費等	栄養科学イラストレイテッド 分子栄養学 遺伝子の基礎からわかる 加藤久典等 羊土社 ¥2,700+税						
授業計画	第1回: 遺伝と分子生物学 第2回: 分子栄養学の基礎 第3回: 細胞と生体分子 第4回: DNAの複製と細胞分裂 第5回: 遺伝子の発現(タンパク質合成) 第6回: 遺伝子発現制御と細胞機能 第7回: 転写調節と転写因子 第8回: 内分泌因子と栄養素による情報伝達機構 第9回: さまざまな生命現象と遺伝子 第10回: ヒトの遺伝子 第11回: 疾患と遺伝子 第12回: 食品成分と遺伝子 第13回: 分子栄養学研究の基礎技術 第14回: 遺伝子操作の応用技術 第15回: 新しい分子栄養学の発展						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習, グループ学習, プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	[予習]教科書などの該当部分を読んでおくこと。						
免許・資格	栄養士 栄養教二種免						
免許・資格の科目区分	栄養と健康						

時間割番号	1F4026	科目名	公衆栄養学			単位数	2
担当者	山崎 初枝						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1F6-3330						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	我が国や諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、健康・栄養施策について学びます。また、地域の健康・栄養問題とその要因に関する情報の収集・分析、課題解決のためのプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法について、アイパッドを使ったアンケート集計やグループワークを適宜取り入れるなど、アクティブ・ラーニングによる学修を行います。
教育目標との関連	地域社会の公衆栄養の現状やあるべき姿について考究し、現代における栄養学上の問題点を踏まえた栄養士活動するための知識や考え方を養って、学科の教育目標「社会人力」を培い、栄養士として社会で活躍できる人を目指します。
到達目標	我が国の健康・栄養問題の現状と課題を踏まえた国や地方公共団体の取組を理解するとともに、栄養士活動に必要な公衆栄養マネジメントを習得します。
評価方法	次に示す基準により総合的に評価します。 定期試験 70% 出席状況・授業態度 10% 課題レポート 20%
備考	履修対象は、栄養士養成課程2年次生です。
テキスト・教材・経費等	テキスト：ウエルネス公衆栄養学 最新版（医歯薬出版） 参考書：日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版） その他：必要に応じ、プリント配付

授業計画	第1回 公衆栄養の概念 第2回 我が国の健康・栄養問題の現状と課題 第3回 栄養行政組織と栄養関係法規 第4回 栄養士制度と国民健康・栄養調査 第5回 栄養に関する指針・ツール、食事バランスガイドの活用 第6回 健康増進基本指針、食育推進基本計画 第7回 栄養疫学 第8回 公衆栄養マネジメント 第9回 公衆栄養アセスメント・計画 第10回 公衆栄養プログラム実施・評価、 第11回 食事摂取基準の活用 第12回 公衆栄養プログラムの実際(1)（ライフステージ別プログラム、アイパッドを利用したアンケート集計） 第13回 公衆栄養プログラムの実際(2)（生活習慣病ハイリスク集団プログラム等） 第14回 食品表示制度の活用 第15回 諸外国の健康・栄養問題と施策
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習、ペア・グループ討議、プレゼンテーション、コメントペーパー
準備学習(予習・復習)	授業までに教科書で予習し、内容をよく理解してください。授業後は、その内容をまとめてください。予習：1時間、復習：1時間

免許・資格	栄養士 栄養教二種免
免許・資格の科目区分	栄養の指導



時間割番号	1L1010	科目名	絵画・マンガ			単位数	2
担当者	高木 茂登、木本 雅典						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2011						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、傾聴・受信力、自己省察力、創造・表現力						
概要	絵画の実習では、人物クロッキー、静物デッサンと水彩画による自画像を制作することで、描くという行為の原点を体験してみましょう。クロッキー(速描)では短時間に見えるものを的確に描くことを、静物デッサンでは構図・遠近法・量感・質感などに留意しながら鉛筆で描写します。自画像では対象をよく観察し自己をしっかり見つめることを目指してください。 マンガの分野では、事前の準備、資料の収集が必要になります。その過程をこの課題で体験します。 メッセージが相手に伝わるか、抑揚やリズムは適切かなど、プレゼンテーションについても学んでください。						
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」に関わり、その基本的な技能や態度を実習を通して養います。 時代に左右されない根源的な造形力を養いましょう。						
到達目標	熱心に取り組み、見たもの、考えたことを的確に表現し、しっかりと描き上げること 資料を準備して、効果的に演出できること						
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	クロッキー帳(6号大)四つ切画用紙、木炭紙大の水彩紙、描画材料(鉛筆・水彩道具等) 筆記用具、ミリペン、色鉛筆(カラーマーカーでも可)						
授業計画	第1回:クロッキー① 導入 第2回:クロッキー② 裸婦モデルによるクロッキー(20分ポーズ) 第3回:クロッキー③ 裸婦モデルによるクロッキー(10分ポーズ) 第4回:静物デッサン①構図 第5回:静物デッサン②形をとる(遠近法) 第6回:静物デッサン③調子をつける(明暗法) 第7回:静物デッサン④描き込み 第8回:自画像制作① 構想 第9回:自画像制作② 鉛筆での下描き 第10回:自画像制作③ 着彩(荒描き) 第11回:自画像制作④ 着彩(仕上げ) 第12回:キャラクターデザイン(設定・デザイン) 第13回:表情の描き分け、効果(オノマトペ) 第14回:リレーマンガ、4コママンガ(シナリオ・ネーム・下描き) 第15回:4コママンガ(ペン入れ、着彩)、講評会						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習、グループワーク						
準備学習(予習・復習)	表現するための技術は必要ですが、その向上には時間と努力が必要です。あせらないで地道に取り組んでください。そして素直にものを見て感じたり感動することを大切にしましょう。上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックでよいから常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。 参考資料は身の回りにいっぱいあります。マンガ・アニメーションを楽しむ時もその芸術的な要素を意識してみましょう。						
免許・資格	中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目						

時間割番号	1L1011	科目名	絵画・マンガ			単位数	2
担当者	木本 雅典						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、傾聴・受信力、自己省察力、創造・表現力

概要	絵画の実習では、人物クロッキー、静物デッサンと水彩画による自画像を制作することで、描くという行為の原点を体験してみましょう。クロッキー(速描)では短時間に見えるものを的確に描くことを、静物デッサンでは構図・遠近法・量感・質感などに留意しながら鉛筆で描写します。自画像では対象をよく観察し自己をしっかり見つめることを目指してください。 マンガの分野では、事前の準備、資料の収集が必要になります。その過程をこの課題で体験します。 メッセージが相手に伝わるか、抑揚やリズムは適切かなど、プレゼンテーションについても学んでください。
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」に関わり、その基本的な技能や態度を実習を通して養います。 時代に左右されない根源的な造形力を養いましょう。
到達目標	熱心に取り組み、見たもの、考えたことを的確に表現し、しっかりと描き上げること 資料を準備して、効果的に演出できること
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	クロッキー帳(6号大)四つ切画用紙、木炭紙大の水彩紙、描画材料(鉛筆・水彩道具等) 筆記用具、ミリペン、色鉛筆(カラーマーカーでも可)

授業計画	第1回:クロッキー① 導入 第2回:クロッキー② 裸婦モデルによるクロッキー(20分ポーズ) 第3回:クロッキー③ 裸婦モデルによるクロッキー(10分ポーズ) 第4回:静物デッサン①構図 第5回:静物デッサン②形をとる(遠近法) 第6回:静物デッサン③調子をつける(明暗法) 第7回:静物デッサン④描き込み 第8回:自画像制作① 構想 第9回:自画像制作② 鉛筆での下描き 第10回:自画像制作③ 着彩(荒描き) 第11回:自画像制作④ 着彩(仕上げ) 第12回:キャラクターデザイン(設定・デザイン) 第13回:表情の描き分け、効果(オノマトペ) 第14回:リレーマンガ、4コママンガ(シナリオ・ネーム・下描き) 第15回:4コママンガ(ペン入れ、着彩)、講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習、グループワーク
準備学習(予習・復習)	表現するための技術は必要ですが、その向上には時間と努力が必要です。あせらないで地道に取り組んでください。そして素直にものを見て感じたり感動することを大切にしましょう。上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックでいいから常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。 参考資料は身の回りにいっぱいあります。マンガ・アニメーションを楽しむ時もその芸術的な要素を意識してみましょう。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L1012	科目名	絵画・マンガ	単位数	2
担当者	久保 直子、木本 雅典				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L1-2011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、傾聴・受信力、自己省察力、創造・表現力				
概要	<p>絵画の実習では、人物クロッキー、静物デッサンと水彩画による自画像を制作することで、描くという行為の原点を体験してみましょう。クロッキー(速描)では短時間に見えるものを的確に描くことを、静物デッサンでは構図・遠近法・量感・質感などに留意しながら鉛筆で描写します。自画像では対象をよく観察し自己をしっかり見つめることを目指してください。</p> <p>マンガの分野では、事前の準備、資料の収集が必要になります。その過程をこの課題で体験します。メッセージが相手に伝わるか、抑揚やリズムは適切かなど、プレゼンテーションについても学んでください。</p>				
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」に関わり、その基本的な技能や態度を実習を通して養います。時代に左右されない根源的な造形力を養いましょう。				
到達目標	熱心に取り組み、見たもの、考えたことを的確に表現し、しっかりと描き上げること 資料を準備して、効果的に演出できること				
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	クロッキー帳(6号大)四つ切画用紙、木炭紙大の水彩紙、描画材料(鉛筆・水彩道具等) 筆記用具、ミリペン、色鉛筆(カラーマーカーでも可)				
授業計画	<p>第1回:クロッキー① 導入 第2回:クロッキー② 裸婦モデルによるクロッキー(20分ポーズ) 第3回:クロッキー③ 裸婦モデルによるクロッキー(10分ポーズ) 第4回:静物デッサン①構図 第5回:静物デッサン②形をとる(遠近法) 第6回:静物デッサン③調子をつける(明暗法) 第7回:静物デッサン④描き込み 第8回:自画像制作① 構想 第9回:自画像制作② 鉛筆での下描き 第10回:自画像制作③ 着彩(荒描き) 第11回:自画像制作④ 着彩(仕上げ) 第12回:キャラクターデザイン(設定・デザイン) 第13回:表情の描き分け、効果(オノマトペ) 第14回:リレーマンガ、4コママンガ(シナリオ・ネーム・下描き) 第15回:4コママンガ(ペン入れ、着彩)、講評会</p>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習、グループワーク				
準備学習(予習・復習)	表現するための技術は必要ですが、その向上には時間と努力が必要です。あせらないで地道に取り組んでください。そして素直にものを見て感じたり感動することを大切にしましょう。上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックでよいから常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。参考資料は身の回りにいっぱいあります。マンガ・アニメーションを楽しむ時もその芸術的な要素を意識してみましょう。				
免許・資格	中二種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目				

時間割番号	1L1013	科目名	デザイン・映像	単位数	2
担当者	斉藤 克幸				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L1-2021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、プレゼンテーション力				
概要	グラフィックデザインにとって基本的な力である「構図」と「配色」の訓練となる色彩平面構成の制作と、アニメーションの基本的な力である「動きの観察」と「コマを重ねて動きを作る」訓練となるGIFアニメーションを制作します。				
教育目標との関連	色彩平面構成では造形の面白さに加え完成度の高さを求めます。このことはデザインにとって大切な態度であり、よく学んでほしいと願っています。またアニメーション制作ではグループで協力して動きを取材し、一人一作品を制作します。アニメーションならではの非現実的な動きを作り出そう。				
到達目標	構図や配色を工夫し意図的に考えられているか。モチーフをよく観察し、その造形美を抽出し造形化しているか。彩色の仕事が丁寧で、完成度高く美しく仕上げられており、余白まで神経の行き届いた制作をしているか。アニメーションでは動きをよく観察し、動きの再構成を創造しているか。				
評価方法	制作物、課題への取り組みをもとに総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	各自必要に応じて。				
授業計画	第1回：課題説明、用具説明、水張り、モチーフのスケッチ 第2回：モチーフのスケッチと構成アイデアスケッチ 第3回：制作（下描き） 第4回：制作（着彩） 第5回：制作（着彩、詳細部分） 第6回：制作（着彩仕上げ） 第7回：講評会 第8回：動画の試み 写真術の基本 第9回：動きの資料収集 第10回：マックの基本操作 第11回：動きのドローイング 第12回：GIFアニメーションの作成 第13回：資料の追加と編集 第14回：仕上げ作業/講評と相互評価 第15回：まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	アニメーションの制作ではグループワークを行います。発見学習 体験学習 グループ・ワーク				
準備学習（予習・復習）	日頃から周りのもの、生き物を観察し、スケッチすること、あらゆる芸術作品を鑑賞する 【2回】モチーフの観察とは、言い換えればあらゆる造形（形と色）の面白さに気付くことです。日常のあらゆる景色を、造形的面白さという観点から見つめ、写真に撮ったりスケッチしてください。【3～6】色彩の美しさを感じることは、味覚に似ていて経験が必要です。美しい色・上品な色とは何かを考えてください。 【10】新しく学んだphotoshopの技術の復習をしましょう。グループで話し合った内容プレゼンテーションで説明できる形にして、まとめておきましょう。 【11】アニメーションでは、ものに新たな生命を吹き込むことができます。現実ではありえない動きを観察したモチーフに与えてみましょう【14】他の学生の作品から色々なアイデアに触れましょう。				
免許・資格	中二免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目				

時間割番号	1L1014	科目名	デザイン・映像			単位数	2
担当者	宮崎 しずか、斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2021						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、プレゼンテーション力

概要	グラフィックデザインにとって基本的な力である「構図」と「配色」の訓練となる色彩平面構成の制作と、アニメーションの基本的な力である「動きの観察」と「コマを重ねて動きを作る」訓練となるGIFアニメーションを制作します。
教育目標との関連	色彩平面構成では造形の面白さに加え完成度の高さを求めます。このことはデザインにとって大切な態度であり、よく学んでほしいと願っています。またアニメーション制作ではグループで協力して動きを取材し、一人一作品を制作します。アニメーションならではの非現実的な動きを作り出そう。
到達目標	構図や配色を工夫し意図的に考えられているか。モチーフをよく観察し、その造形美を抽出し造形化しているか。彩色の仕事が丁寧で、完成度高く美しく仕上げられており、余白まで神経の行き届いた制作をしているか。アニメーションでは動きをよく観察し、動きの再構成を創造しているか。
評価方法	制作物、課題への取り組みをもとに総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	各自必要に応じて。

授業計画	第1回：課題説明、用具説明、水張り、モチーフのスケッチ 第2回：モチーフのスケッチと構成アイデアスケッチ 第3回：制作（下描き） 第4回：制作（着彩） 第5回：制作（着彩、詳細部分） 第6回：制作（着彩仕上げ） 第7回：講評会 第8回：動画の試み 写真術の基本 第9回：動きの資料収集 第10回：マックの基本操作 第11回：動きのドローイング 第12回：GIFアニメーションの作成 第13回：資料の追加と編集 第14回：仕上げ作業/講評と相互評価 第15回：まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	アニメーションの制作ではグループワークを行います。発見学習 体験学習 グループ・ワーク
準備学習（予習・復習）	日頃から周りのもの、生き物を観察し、スケッチすること、あらゆる芸術作品を鑑賞する 【2回】モチーフの観察とは、言い換えればあらゆる造形（形と色）の面白さに気付くことです。日常のあらゆる景色を、造形的面白さという観点から見つめ、写真に撮ったりスケッチしてください。【3～6】色彩の美しさを感じることは、味覚に似ていて経験が必要です。美しい色・下品な色とは何かを考えてください。 【10】新しく学んだphotoshopの技術の復習をしましょう。グループで話し合った内容プレゼンテーションで説明できる形にして、まとめておきましょう。 【11】アニメーションでは、ものに新たな生命を吹き込むことができます。現実ではありえない動きを観察したモチーフに与えてみましょう【14】他の学生の作品から色々なアイデアに触れましょう。

免許・資格	中二免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L1015	科目名	デザイン・映像			単位数	2
担当者	的場 智美、斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2021						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		論理的思考力、発想力、プレゼンテーション力					
概要	グラフィックデザインにとって基本的な力である「構図」と「配色」の訓練となる色彩平面構成の制作と、アニメーションの基本的な力である「動きの観察」と「コマを重ねて動きを作る」訓練となるGIFアニメーションを制作します。						
教育目標との関連	色彩平面構成では造形の面白さに加え完成度の高さを求めます。このことはデザインにとって大切な態度であり、よく学んでほしいと願っています。またアニメーション制作ではグループで協力して動きを取材し、一人一作品を制作します。アニメーションならではの非現実的な動きを作り出そう。						
到達目標	構図や配色を工夫し意図的に考えられているか。モチーフをよく観察し、その造形美を抽出し造形化しているか。彩色の仕事が丁寧で、完成度高く美しく仕上げられており、余白まで神経の行き届いた制作をしているか。アニメーションでは動きをよく観察し、動きの再構成を創造しているか。						
評価方法	制作物、課題への取り組みをもとに総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	各自必要に応じて。						
授業計画	第1回：課題説明、用具説明、水張り、モチーフのスケッチ 第2回：モチーフのスケッチと構成アイデアスケッチ 第3回：制作（下描き） 第4回：制作（着彩） 第5回：制作（着彩、詳細部分） 第6回：制作（着彩仕上げ） 第7回：講評会 第8回：動画の試み 写真術の基本 第9回：動きの資料収集 第10回：マックの基本操作 第11回：動きのドローイング 第12回：GIFアニメーションの作成 第13回：資料の追加と編集 第14回：仕上げ作業/講評と相互評価 第15回：まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態	アニメーションの制作ではグループワークを行います。発見学習 体験学習 グループ・ワーク						
準備学習（予習・復習）	日頃から周りのもの、生き物を観察し、スケッチすること、あらゆる芸術作品を鑑賞する 【2回】モチーフの観察とは、言い換えればあらゆる造形（形と色）の面白さに気付くことです。日常のあらゆる景色を、造形的面白さという観点から見つめ、写真に撮ったりスケッチしてください。【3～6】色彩の美しさを感じることは、味覚に似ていて経験が必要です。美しい色・下品な色とは何かを考えてください。 【10】新しく学んだphotoshopの技術の復習をしましょう。グループで話し合った内容プレゼンテーションで説明できる形にして、まとめておきましょう。 【11】アニメーションでは、ものに新たな生命を吹き込むことができます。現実ではありえない動きを観察したモチーフに与えてみましょう【14】他の学生の作品から色々なアイデアに触れましょう。						
免許・資格	中二免(美術)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目						

時間割番号	1L1016	科目名	工芸	単位数	2
担当者	今田 拓志				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L1-2031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 創造・表現力				
概要	さまざまな素材体験はやわらかな感性をはぐむと共に、イメージのひろがりや新しいアイデアを生み出してくれます。この授業では、粘土や糸等を素材にして造形します。粘土の造形では仮面を造ります。糸の造形では、機織り機を使ってテーブルセンターを織ります。造る楽しみや使う楽しみを想像しながら制作してください。				
教育目標との関連	描くこと、造ることの基本を学びます。工芸領域での学習は素材体験を重視しています。自分の手から伝わる感覚を造形に結びつけます。表現よりも体験です。				
到達目標	素材の理解が出来ているか テーマに対する取り組みは熱心だったか				
評価方法	提出作品(60%)と参加状況(40%)等により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布する。材料費(粘土・糸)1,000円程度				
授業計画	第1回 授業内容の説明 石膏像を用いた立体感の捉え方、仮面のアイデアスケッチ 第2回 仮面のアイデアスケッチを基に成形① 新聞紙を用いた原型制作 第3回 仮面のアイデアスケッチを基に成形② 第4回 仮面の裏面削り 乾燥 素焼き 第5回 織り機に触れ織物の構造を知る 同じ糸で経糸をかける 第6回 緯糸を準備しテストピース1を織る 第7回 経糸に変化を持たせテストピース2を織る 第8回 さまざまな織り方を試してみる 第9回 テーブルセンターを織る① 第10回 テーブルセンターを織る② 第11回 テーブルセンターを織る③ 第12回 サンドペーパーによる素焼き仮面の削り 第13回 複数の釉薬を用いた仮面施釉① 第14回 複数の釉薬を用いた仮面施釉② 第15回 完成作品を見てまとめをする				
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション、発見学習、体験学習				
準備学習(予習・復習)	[粘土と糸] まったく異なった素材を使って物造りに取り組みます。体験を通して学びとったことは、自分の大きな力になります。制作の結果がどのような物になってもまず経験してみる、体験してみる、そうした中に素材の可能性や面白さが見つかるものです。時間外でもどんどん造りましょう。				
免許・資格	中二種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目				

時間割番号	1L1017	科目名	工芸	単位数	2
担当者	寺田 勝彦、今田 拓志				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L1-2031				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 創造・表現力

概要	さまざまな素材体験はやわらかな感性をはぐむと共に、イメージのひろがりや新しいアイデアを生み出してくれます。この授業では、粘土や糸等を素材にして造形します。粘土の造形では仮面を造ります。糸の造形では、織り機を使ってテーブルセンターを織ります。造る楽しみや使う楽しみを想像しながら制作してください。
教育目標との関連	描くこと、造ることの基本を学びます。工芸領域での学習は素材体験を重視しています。自分の手から伝わる感覚を造形に結びつけます。表現よりもまず体験です。
到達目標	素材の理解が出来ているか テーマに対する取り組みは熱心だったか
評価方法	提出作品(60%)と参加状況(40%)等により評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布する。材料費(粘土と糸)1000円程度

授業計画	<p>第1回 授業内容の説明</p> <p>第2回 仮面のアイデアスケッチを基に成形①新聞紙を用いた原型製作</p> <p>第3回 仮面のアイデアスケッチを基に成形②</p> <p>第4回 仮面の裏面削り 乾燥 素焼き</p> <p>第5回 織機に触れ織物の構造を知る。同じ糸で経糸をかける</p> <p>第6回 緯糸を準備しテストピース1を織る</p> <p>第7回 経糸に変化を持たせテストピース2を織る</p> <p>第8回 さまざまな織り方を試してみる</p> <p>第9回 テーブルセンターを織る①</p> <p>第10回 テーブルセンターを織る②</p> <p>第11回 テーブルセンターを織る③</p> <p>第12回 サンドペーパーによる素焼き仮面の削り</p> <p>第13回 複数の釉薬を用いた施釉①</p> <p>第14回 複数の釉薬を用いた施釉②</p> <p>第15回 完成作品を見てまとめをする</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション、発見学習、体験学習
準備学習(予習・復習)	[粘土と糸] まったく異なった素材を使って物造りに取り組みます。体験を通して学びとったことは、自分の大きな力になります。制作の結果がどのような物になってもまず経験してみる、体験してみる、そうした中に素材の可能性や面白さが見つかるものです。時間外でもどんどん造りましょう。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目



時間割番号	1L1018	科目名	工芸	単位数	2
担当者	原紺 絢子、今田 拓志、南 容子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L1-2031				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、創造・表現力				
概要	さまざまな素材体験はやわらかな感性をはぐむと共に、イメージのひろがりや新しいアイデアを生み出してくれます。この授業では、粘土や糸等を素材にして造形します。粘土の造形では仮面を造ります。糸の造形では、織り機を使ってテーブルセンターを織ります。造る楽しみや使う楽しみを想像しながら制作してください。				
教育目標との関連	描くこと、造ることの基本を学びます。工芸領域での学習は素材体験を重視しています。自分の手から伝わる感覚を造形に結びつけます。表現よりもまず体験です。				
到達目標	素材の理解が出来ているか テーマに対する取り組みは熱心だったか				
評価方法	提出作品(60%)と参加状況(40%)等により評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布する。材料費(粘土・わた)600円程度				
授業計画	第1回 授業内容の説明 第2回 仮面のアイデアスケッチを基に成形①新聞紙を用いた原型製作 第3回 仮面のアイデアスケッチを基に成形② 第4回 仮面の裏面削り 乾燥 素焼き 第5回 織機に触れ織物の構造を知る。同じ糸で経糸をかける 第6回 緯糸を準備しテストピース1を織る 第7回 経糸に変化を持たせテストピース2を織る 第8回 さまざまな織り方を試してみる 第9回 テーブルセンターを織る① 第10回 テーブルセンターを織る② 第11回 テーブルセンターを織る③ 第12回 サンドペーパーによる素焼き仮面の削り 第13回 複数の釉薬を用いた施釉① 第14回 複数の釉薬を用いた施釉② 第15回 完成作品を見てまとめをする				
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習、体験学習				
準備学習(予習・復習)	粘土と糸] まったく異なった素材を使って物造りに取り組みます。体験を通して学びとったことは、自分の大きな力になります。制作の結果がどのような物になってもまず経験してみる、体験してみる、そうした中に素材の可能性や面白さが見つかるものです。時間外でもどんどん造りましょう。				
免許・資格	中二種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目				

時間割番号	1L1019	科目名	基礎造形演習Ⅰ			単位数	1
担当者	堀尾 充、原紺 絢子、前田 由芽						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2111						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	想像・表現力

概 要	描くこと、色彩を使うこと、手で作ること。ここから美術がスタートします。 準備体操のようにベーシックな実習を積み重ねて、美術の基礎体力を身につけます。
教育目標との関連	創造性
到達目標	表現と伝達の基礎力を身に付けて、アイデアやイメージを眼に見えるようにできる。
評価方法	取り組みとその成果によって評価する。
備 考	
テキスト・教材・経費等	スケッチブックや鉛筆など

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.鉛筆で描くー直線、曲線</li> <li>2.明暗で描くー立方体と空想世界</li> <li>3.空間を描くー室内と視点</li> <li>4.空間を描くー建物、街</li> <li>5.観察して描くー文具、本、カバン、靴</li> <li>6.人体を描くー骨格</li> <li>7.顔を描くーいろんな角度から</li> <li>8.個性を描くー人物表現</li> <li>9.色を作るー混色と配置</li> <li>10.にじみ、ボカンで色を表す</li> <li>11.段ボールで卵スタンド</li> <li>12.方眼紙で幾何立体</li> <li>13.多様な肌触りの粘土板</li> <li>14.粘土を使って言葉を形で表現する</li> <li>15.バスタで作るタワー</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	実習
準備学習(予習・復習)	毎日1枚、楽しみながら描き、作り続けてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L1020	科目名	立体			単位数	1
担当者	今田 拓志、高木 茂登						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2060						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	粘土を用いた彫塑表現、立体表現の授業です。様々なものの立体的な観方、捉え方を総合的に学習します。
教育目標との関連	美術科の教育目標である、専門実習を通して感性を磨き、創造性を育み、集中力と持続性を養い、確かな表現力で地域社会に貢献できる表現者・職業人となることに関連します。ここでは、美術教育に携わる者としての力を養います。
到達目標	○観察に基づいた写実的な彫塑表現、立体表現を身につけること。 ○中学校美術の授業で彫塑表現、立体表現を構成し実践するために必要とされる基礎的知識、技術を習得すること。
評価方法	授業参加状況、作品評価等を総合的に判断します。
備 考	粘土を用いた実習が中心です。汚れても良い服装を用意してください。
テキスト・教材・経費等	粘土代1000円程度

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 テッサンを中心とした観察(1)一方向から細部まで 第3回 テッサンを中心とした観察(2)様々な角度から 第4回 マケット制作 第5回 彫塑、立体造形(1)空間を構成する(具象表現) 第6回 彫塑、立体造形(2)空間を構成する(抽象表現) 第7回 彫塑、立体造形(3)粘土付けの考え方(粘土と画材) 第8回 彫塑、立体造形(4)粘土付けの考え方(陰影と立体表現) 第9回 彫塑、立体造形(5)粘土付けの考え方(色と立体表現) 第10回 彫塑、立体造形(6)質感表現(粘土ペラの使い方) 第11回 彫塑、立体造形(7)質感表現(身近な道具を粘土ペラに應用する) 第12回 彫塑、立体造形(8)細部の表現(再現と説明的表現) 第13回 彫塑、立体造形(9)細部の表現(再現と連想的表現) 第14回 彫塑、立体造形(10)仕上げ 第15回 作品講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、課題発見学習、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	様々な角度から人、物、動物、植物などを観察する習慣を身に付けてください。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L1021	科目名	美術史 I	単位数	2
担当者	高木 茂登				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1L2-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	古代ギリシア及び中世キリスト教美術を源流として成立発展したルネッサンスを中心とする西洋近世美術を概観し、西洋でどのようにして美術が形成されたかを学びます。そのことによって、近・現代美術に大きな影響を与え今日の美術に対する考え方にもつながる西洋における美術に対する基本的な考え方を理解するとともに、人間生活と美術の関わりを考えます。				
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。				
到達目標	(1)西洋の古代から近世までの美術の流れを理解すること (2)ルネッサンス美術の意味と成立過程について理解すること (3)美術とそれが誕生する背景(自然・政治・経済・宗教・人的環境など)との関係を認識すること				
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト/カラー版『西洋美術史』美術出版社(1900円)、 その他プリントを配付します。				
授業計画	第1回: はじめに 第2回: 古代ギリシア I (先ギリシア～アルカイック) 第3回: 古代ギリシア II (クラシック～ヘレニズム) 第4回: 古代ローマ 第5回: 中世 I (ビザンティン) 第6回: 中世 II (ロマネスク) 第7回: 中世 III (ゴシック) 第8回: ルネッサンス前期 I (15世紀前期) 第9回: ルネッサンス前期 II (15世紀後期) 第10回: ルネッサンス盛期 I (レオナルド) 第11回: ルネッサンス盛期 II (ミケランジェロ・ラファエロ) 第12回: ルネッサンス盛期 III (ヴェネツィア派) 第13回: ルネッサンス後期 (マニエリスム) 第14回: 北方ルネッサンス I (フランドル) 第15回: 北方ルネッサンス II (ドイツ・フランス)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー				
準備学習(予習・復習)	授業の予習・復習にはテキストをよく読んでください。さらに興味がわいた時代や作家について図書館の画集や解説書で調べてください。また美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。				
免許・資格	中2種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(美術)				

時間割番号	1L1022	科目名	美術史 I	単位数	2
担当者	高木 茂登				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1L2-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	古代ギリシア及び中世キリスト教美術を源流として成立発展したルネッサンスを中心とする西洋近世美術を概観し、西洋でどのようにして美術が形成されたかを学びます。そのことによって、近・現代美術に大きな影響を与え今日の美術に対する考え方にもつながる西洋における美術に対する基本的な考え方を理解するとともに、人間生活と美術の関わりを考えます。				
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。				
到達目標	(1)西洋の古代から近世までの美術の流れを理解すること (2)ルネッサンス美術の意味と成立過程について理解すること (3)美術とそれが誕生する背景(自然・政治・経済・宗教・人的環境など)との関係を認識すること				
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト/カラー版『西洋美術史』美術出版社(1900円)、 その他プリントを配付します。				
授業計画	第1回: はじめに 第2回: 古代ギリシア I (先ギリシア～アルカイック) 第3回: 古代ギリシア II (クラシック～ヘレニズム) 第4回: 古代ローマ 第5回: 中世 I (ビザンティン) 第6回: 中世 II (ロマネスク) 第7回: 中世 III (ゴシック) 第8回: ルネッサンス前期 I (15世紀前期) 第9回: ルネッサンス前期 II (15世紀後期) 第10回: ルネッサンス盛期 I (レオナルド) 第11回: ルネッサンス盛期 II (ミケランジェロ・ラファエロ) 第12回: ルネッサンス盛期 III (ヴェネツィア派) 第13回: ルネッサンス後期 (マニエリスム) 第14回: 北方ルネッサンス I (フランドル) 第15回: 北方ルネッサンス II (ドイツ・フランス)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー				
準備学習(予習・復習)	授業の予習・復習にはテキストをよく読んでください。さらに興味がわいた時代や作家について図書館の画集や解説書で調べてください。また美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。				
免許・資格	中2種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(美術)				

時間割番号	1L1023	科目名	美術基礎論			単位数	2
担当者	高木 茂登、堀尾 充、寺田 勝彦、荒木 然一、木本 雅典、斉藤 克幸、今田 拓志、久保 直子、宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-2010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	美術科で美術を学ぶための導入としての基礎論を美術科教員8人がオムニバスで担当します。ここでは、美術の全体像を俯瞰するとともに、美術の各分野の内容や特性についての理解を深めます。そのことで、美術の多様で豊かな魅力をあらためて認識すると同時に、自分の興味や関心、適性などについて考えます。美術の各分野については美術科教員が分かりやすく解説します。
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての基礎的な知識を養うことで、美術に対する興味や関心を深め、表現することへの導入とします。
到達目標	(1)美術とは何かという基本的な概念を理解すること (2)美術の様々な分野の内容や特性について理解すること (3)美術科での学びの概要を理解し、自分の適性や方向性を認識すること
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、レポート(60%)を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	特にテキストは使用しませんが、適宜プリント資料などを配付します。

授業計画	第1回： はじめに(美術とは)(高木) 第2回： 日本画①(荒木) 第3回： 日本画②(荒木) 第4回： 陶芸①(今田) 第5回： 陶芸②(今田) 第6回： 映像・アニメーション(宮崎) 第7回： 彫刻①(高木) 第8回： 彫刻②(高木) 第9回： デザイン(斉藤) 第10回： マンガ・キャラクター(久保) 第11回： 染織①(寺田) 第12回： 染織②(寺田) 第13回： 洋画①(木本) 第14回： 洋画②(木本) 第15回： 版画(堀尾)
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー
準備学習(予習・復習)	興味がわいた作家や作品について図書館の画集や解説書で調べてください。また作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L1024	科目名	色彩学	単位数	2
担当者	久保田 寛子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1L2-3210				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	色彩を理解するためのメカニズムや色彩にまつわる文化の背景の解説と自分の目で確認し、頭で考え、手を動かして積極的に色彩感覚を身につける演習の理論と実践、両方での指導をいたします。				
教育目標との関連	美術科では作品制作を中心に感性を磨いていきますが、色彩のさまざまな知識を理解することにより、より確かな表現力を育むことにつながっていきます。				
到達目標	色彩の基本的な理論と理論に基づいた配色技法の修得、また個々の色彩感覚を養うことで色彩での表現の幅をひろげるなどバランス感覚を身につけた人材の育成を目標とします。				
評価方法	提出物の提出状況(30%)と完成度(40%)、参加状況(30%)により評価します。				
備 考	はさみやのり、A4ファイル(提出に必須)、3色以上の色ペン(赤青などボールペン、マーカー等)色鉛筆(12色以上)が必要ですので、各自ご準備ください。				
テキスト・教材・経費等	色彩検定公式テキスト3級編(¥2,700+消費税)新配色カード199b(¥2,000+消費税)演習プリント(こちらで準備します。)A4ファイルはさみのり(各自準備してください。)				
授業計画	第1回 色彩学の授業を受けるにあたって(説明) 第2回 色のなりたち(光と色) 第3回 色のなりたち(目の構造) 第4回 色の表示方法(三属性と代表的な表色系) 第5回 色の表示方法(PCCSの三属性) 第6回 色の表示方法(PCCSトーン) 第7回 混色 第8回 色の知覚的効果(対比と同化) 第9回 色彩調和(色相配色とトーン配色) 第10回 色彩調和(応用) 第11回 色彩心理 第12回 色名の分類 第13回 色名と文化(東洋と西洋) 第14回 色彩効果・照明 第15回 色彩と生活・まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	配色カード等を使用し色彩の現象を、自分の目で確認する				
準備学習(予習・復習)	色彩を理解する上で演習課題等では頭と目の両方で確認し学習する必要があります。前回授業で指示しますが、目と手を使って事前に次回該当する授業内容のプリントに配色カードを貼るなどの予習が重要です。そうすることで授業当日は解説や自分で考えることに集中し、効率良く学習できます。また自分で考えるところに配色カードを貼って目で確認することも大事な復習です。【全回】わからないところ、疑問点は、次回授業までに質問できるようにまとめてください。【3～13回】前回演習課題を完成させ、授業までに次回課題の配色カードを貼ってください。【13回】すべての課題を完成させてファイルし、所定の場所に提出してください。				
免許・資格	中2種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(美術)				

時間割番号	1L1025	科目名	CG演習 I	単位数	1
担当者	宮崎 しずか				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L3-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概 要	精密な写真編集と多様な画像の作成と加工ができる「Photoshop」と、イラストやロゴの作成、レイアウトなど、印刷業界や多くのデザイン分野で必須の「Illustrator」という、2大定番グラフィックソフトの基礎を学びます。				
教育目標との関連	美術の知識と理解をベースにして、創造性と確かな技術をしっかり身に付けましょう。				
到達目標	フォトショップの基礎技術を習得して、WEBや印刷で画像を使えるようになること。 イラストレーターの基礎技術を習得して、パスを使ったイラストの作成と、レイアウトができるようになること。 フォトショップとイラストレーターを連携して使えるようになること。				
評価方法	提出課題(50%)、出席(30%)、学習への取り組み(20%)を原則として、総合的に評価します。 毎回の課題提出が出席の必要条件です。				
備 考					
テキスト・教材・経費等	作品保存用にUSBメモリーなどが必要です。				
授業計画	第1回 オリエンテーション、デジタルライフに関するアンケート 第2回 フォトショップの基本操作(1) 画像を切り抜く、選択範囲を作る 第3回 フォトショップの基本操作(2) 色を置き換える、クイックマスクの使い方 第4回 フォトショップの基本操作(3) 不要なものを消す、修復ツール 第5回 フォトショップ実践課題 セルフポートレート写真合成(1) 色調補正 第6回 フォトショップ実践課題 セルフポートレート写真合成(2) フィルター 第7回 フォトショップ実践課題 セルフポートレート写真合成(3) レイヤーモード 第8回 イラストレーターの基本操作(1) パスの練習、シェイプツールとペンツール 第9回 イラストレーターの基本操作(2) チラシをまねてみよう、文字とレイアウト 第10回 実践課題 ポストカード(1) 第11回 実践課題 ポストカード(2) 第12回 実践課題 ポストカード(3) 第13回 イラストレーター実践課題 キャラクターデザイン(1) 第14回 イラストレーター実践課題 キャラクターデザイン(2) 第15回 イラストレーター実践課題 キャラクターデザイン(3)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	演習、制作				
準備学習(予習・復習)	新聞やテレビなど、驚くほど高いクオリティの画像が身の回りにはいっぱいあります。意識的に見るようにしましょう。 新しく習った技術を復習し、次回までに使えるように予習しておきましょう 自らの好きなキャラクター、本のレイアウト、チラシのデザインなどをソフトウェアを使って模写してみましょう。				
免許・資格	種免(美術)				
免許・資格の科目区分	科目				



時間割番号	1L1026	科目名	CG演習 I	単位数	1
担当者	宮崎 しずか				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L3-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	精密な写真編集と多様な画像の作成と加工ができる「Photoshop」と、イラストやロゴの作成、レイアウトなど、印刷業界や多くのデザイン分野で必須の「Illustrator」という、2大定番グラフィックソフトの基礎を学びます。				
教育目標との関連	美術の知識と理解をベースにして、創造性と確かな技術をしっかり身に付けましょう。				
到達目標	フォトショップの基礎技術を習得して、WEBや印刷で画像を使えるようになること。 イラストレーターの基礎技術を習得して、パスを使ったイラストの作成と、レイアウトができるようになること。 フォトショップとイラストレーターを連携して使えるようになること。				
評価方法	提出課題(50%)、出席(30%)、学習への取り組み(20%)を原則として、総合的に評価します。 毎回の課題提出が出席の必要条件です。				
備考					
テキスト・教材・経費等	作品保存用にUSBメモリーなどが必要です。				
授業計画	第1回 オリエンテーション、デジタルライフに関するアンケート 第2回 フォトショップの基本操作(1) 画像を切り抜く、選択範囲を作る 第3回 フォトショップの基本操作(2) 色を置き換える、クイックマスクの使い方 第4回 フォトショップの基本操作(3) 不要なものを消す、修復ツール 第5回 フォトショップ実践課題 セルフポートレート写真合成(1) 色調補正 第6回 フォトショップ実践課題 セルフポートレート写真合成(2) フィルター 第7回 フォトショップ実践課題 セルフポートレート写真合成(3) レイヤーモード 第8回 イラストレーターの基本操作(1) パスの練習、シェイプツールとペンツール 第9回 イラストレーターの基本操作(2) チラシをまねてみよう、文字とレイアウト 第10回 実践課題 ポストカード(1) 第11回 実践課題 ポストカード(2) 第12回 実践課題 ポストカード(3) 第13回 イラストレーター実践課題 キャラクターデザイン(1) 第14回 イラストレーター実践課題 キャラクターデザイン(2) 第15回 イラストレーター実践課題 キャラクターデザイン(3)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	演習、制作				
準備学習(予習・復習)	新聞やテレビなど、驚くほど高いクオリティの画像が身の回りにはいっぱいあります。意識的に見るようにしましょう。 新しく習った技術を復習し、次回までに使えるように予習しておきましょう 自らの好きなキャラクター、本のレイアウト、チラシのデザインなどをソフトウェアを使って模写してみましょう。				
免許・資格	種免(美術)				
免許・資格の科目区分	科目				

時間割番号	1L2006	科目名	基礎造形演習Ⅱ			単位数	1
担当者	今田 拓志、藤目 治行、久保田 寛子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L1-2121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、発想力、コミュニケーション力、創造・表現力

概 要	専門的に美術を学ぶ上での基礎を身につけます。多様な表現体験から、これからの美術制作の幅を広げます。
教育目標との関連	基礎造形演習Ⅰに引き続き、美術の初歩を身につけます。
到達目標	描く、色彩、かたち、つくるをキーワードに1回90分の課題を通し、全15回でF6サイズのスケッチブックを描き潰します。
評価方法	出席状況を中心に、授業態度、提出作品を総合的に評価します。
備 考	日々、人、物、動物、植物など、観察する習慣を身に付けてください。
テキスト・教材・経費等	F6サイズスケッチブックなど。

授業計画	第1回 描く(球体 ボールや卵などを描く) 第2回 描く(手足の表情 骨格) 第3回 描く(手足の表情 バランス) 第4回 描く(手足の表情 骨格バランス 総合) 第5回 描く(グループで描く 視点の変化 あおり) 第6回 描く(グループで描く 視点の変化 俯瞰) 第7回 描く(刷毛のみで静物を描く) 第8回 描く(多様なタッチによる表現 印象派 日本美術 現代マンガなど) 第9回 描く(イメージ、発想力を広げる 過去 現在 未来 の自画像) 第10回 色彩ドットで凹凸表現(ドットの大きさ 粗密で平面を曲面表現) 第11回 色でイメージを変えてみる 第12回 ドット(3原色で点描) 第13回 カタチ(糸で繋ぐ) 第14回 つくる(稲葉の筆で描く) 第15回 ジャンクアート(グループワーク)
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、課題・実習、課題発見学習、プレゼンテーション、自己省察
準備学習(予習・復習)	失敗することのない授業です。先入観なく取り組んでください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2007	科目名	美術史Ⅱ			単位数	2
担当者	高木 茂登						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-3020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	日本の美術は近世にいたるまで、おおむね東洋美術の一環として、大陸の影響を受けつつ、その風土や歴史の中で独特の成長をしてきました。今日の日本人の美意識のルーツがここにありま。新しい文化を創造するためにも、それらの真価を認識する必要があります。ここでは原始から近世までの日本美術を大陸との関わりの中で概観し、その特質を探ります。
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。
到達目標	(1)日本の古代から近世までの美術の流れを理解すること (2)時代背景や大陸との関わりや日本美術の独自性について認識すること (3)日本美術の美術的価値を認識し、その価値を認識すること
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。
備 考	
テキスト・教材・経費等	テキスト/カラー版『日本美術史』美術出版社(1900円)、その他プリントを配付します。

授業計画	第1回: 縄文(呪術と祭儀①) 第2回: 弥生: 古墳(呪術と祭儀②) 第3回: 仏教と仏像の誕生と伝播 第4回: 飛鳥(仏教文化の伝来) 第5回: 白鳳(仏教文化の発展) 第6回: 天平①(写実の進展) 第7回: 天平②(大仏開眼) 第8回: 天平③(花開く天平文化) 第9回: 天平④(至宝の工芸美) 第10回: 天平⑤(爛熟期) 第11回: 平安前期(密教の美術) 第12回: 平安後期(貴族文化と和様化) 第13回: 鎌倉①(力強い彫刻美) 第14回: 鎌倉②(似絵と絵巻) 第15回: 総括
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー
準備学習(予習・復習)	授業の予習・復習にはテキストをよく読んでください。さらに興味があった時代や作家について図書館の画集や解説書で調べてください。また美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、直接その魅力を学び取っていきましょう。

免許・資格	中2種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(美術)

時間割番号	1L2008	科目名	美術史Ⅱ			単位数	2
担当者	高木 茂登						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-3020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	日本の美術は近世にいたるまで、おおむね東洋美術の一環として、大陸の影響を受けつつ、その風土や歴史の中で独特の成長をしてきました。今日の日本人の美意識のルーツがここに 있습니다。新しい文化を創造するためにも、それらの真価を認識する必要があります。ここでは原始から近世までの日本美術を大陸との関わりの中で概観し、その特質を探ります。
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。
到達目標	(1)日本の古代から近世までの美術の流れを理解すること (2)時代背景や大陸との関わりや日本美術の独自性について認識すること (3)日本美術の美術的価値を認識し、その価値を認識すること
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。
備考	
テキスト・教材・経費等	テキスト/カラー版『日本美術史』美術出版社(1900円)、その他プリントを配付します。

授業計画	第1回: 縄文(呪術と祭儀①) 第2回: 弥生: 古墳(呪術と祭儀②) 第3回: 仏教と仏像の誕生と伝播 第4回: 飛鳥(仏教文化の伝来) 第5回: 白鳳(仏教文化の発展) 第6回: 天平①(写実の進展) 第7回: 天平②(大仏開眼) 第8回: 天平③(花開く天平文化) 第9回: 天平④(至宝の工芸美) 第10回: 天平⑤(爛熟期) 第11回: 平安前期(密教の美術) 第12回: 平安後期(貴族文化と和様化) 第13回: 鎌倉①(力強い彫刻美) 第14回: 鎌倉②(似絵と絵巻) 第15回: 総括
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー
準備学習(予習・復習)	授業の予習・復習にはテキストをよく読んでください。さらに興味があった時代や作家について図書館の画集や解説書で調べてください。また美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。

免許・資格	中2種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(美術)

時間割番号	1L2009	科目名	デザイン・造形論 I			単位数	2
担当者	堀尾 充、今田 拓志						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-3110						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	デザインと現代アート、二つの分野についての入門的な講義です。 ・現代の美術表現はとても多様です。その中から、中心ではなく周縁にあり、正統ではなくて異端。メジャーでなくてマイナーなものに注目してみよう。(堀尾担当) ・我々の周りには様々な「もの」があふれています。それらのデザインのかたち、成り立ちには、それぞれの意味、コンセプトがあって、そのデザインを決定している事を考察します。(今田担当)
教育目標との関連	まずは、美術の広さを実感してください。
到達目標	多様な美術・デザイン領域に興味を持ち、自分なりの視点を見つけ出すこと。
評価方法	参加状況と課題・レポートなどで評価する。文章のレポートだけでなく、授業内容をイラスト表現してもらうこともあります。
備 考	
テキスト・教材・経費等	必要なものは適宜配布する。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 フォーク・アート＝民衆(素人)によるアート 第3回 グラフィティ＝落書きからスターへ 第4回 フォトグラフ＝写真の基本と作品鑑賞 第5回 アートに見る男と女 第6回 ランド・アート＝環境とエコロジー 第7回 イリュージョン＝錯視とトリック 第8回 なんでもありの現代表現  第9回 縄文土器(祈りのかたち アニミズムの思想) 第10回 岡本太郎と縄文土器 第11回 茶道の歴史 第12回 千利休と古田織部 第13回 古田織部と20世紀抽象美術 第14回 仮面の思想 第15回 美術の境界線(フィギュア おまけからアートへ 大衆芸術と純粋芸術)
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション、自己省察
準備学習(予習・復習)	現在の日常生活をベースにした授業内容です。 あなたの興味を育て、明確なものにしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2010	科目名	作品研究	単位数	2
担当者	木本 雅典				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L2-3310				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	この授業では各自の作品制作の参考となるように過去、現在の美術に関する多ジャンルにわたる作家を取り上げ、制作に対する作家自身の生な声や制作現場、美術評論をビデオ、書籍、画集をもとに紹介します。また、近代絵画の父といわれるセザンヌを軸にマチス、ピカソの作品模写をすることで、19世紀から20世紀にかけて劇的に展開された西洋絵画の歴史を知るとともに作品の造形的要素を分析し研究します。				
教育目標との関連	独創性にあふれた確かな表現力を身につけるために、いろいろな作家の考え方や表現を学ぶことで自己の作品制作の参考にする。				
到達目標	いろいろな作家の考え方や表現を学ぶことで美術に関する基本的な知識を身につける。歴史に残った画家の名作を知り造形的な考え方を身につける。自己の制作に対する考え方もつ。				
評価方法	レポート提出、小テスト及び出席状況より総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等					
授業計画	第1回：制作の現場(デザイン) 第2回：制作の現場(マンガ) 第3回：制作の現場(絵本) 第4回：制作の現場(日本画) 第5回：制作の現場(染織) 第6回：制作の現場(洋画) 第7回：近代美術の父セザンヌ① 第8回：近代美術の父セザンヌ② 第9回：模写を通して近代美術と造形性について考える(ニコラ・プッサン) 第10回：模写を通して近代美術と造形性について考える(セザンヌ①) 第11回：模写を通して近代美術と造形性について考える(セザンヌ②) 第12回：マチス 第13回：模写を通して近代美術と造形性について考える(マチス) 第14回：作品制作に対する作家の精神性 第15回：まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー				
準備学習(予習・復習)	実際に作品制作を行うといういろいろな問題が生じ悩むことも多いものです。 この授業は少しでもその問題解決のヒントとなるよう、いろいろな側面から歴史に残った画家、多ジャンルの現在活躍している作家の制作に対する考え方をビデオ等で紹介します。各回感想を書いたレポートを提出してもらいますがそれとは別に各自でノートを作り、気になった言葉等をメモしておく自分の作品制作の役に立つと思います。 又、紹介した作家の事を図書館やネットで調べるとより理解が深まるでしょう。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1L2011	科目名	CG演習Ⅱ			単位数	1
担当者	宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-3020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	「Illustrator」と「Photoshop」を使いこなして、多様なデザイン制作を行います。各ソフトの基本操作の習熟度を高めると同時に、実践的なDTPの知識を学びます。また、表現の幅を広げ、創造性を高めることを目指します。
教育目標との関連	グラフィックデザインや印刷業界への進路を希望するなら「Illustrator」の技術は欠かせません。必ず「イラレ」の使える人という条件がついてきます。また、「Photoshop」は静止画、3D、動画と、あらゆるCG制作の現場で必須のツールです。創造性と実践的な確かな技術をしっかり身に付けましょう。
到達目標	「Illustrator」の操作がじゆうぶんにできること、DTPの仕組みの基本を理解して、印刷会社に出すことができるレベルの印刷原稿を作ること。パスを使いこなシイラストレーションを描けること。「Photoshop」の操作に習熟し、高レベルの画像の作成、写真の補正、修復、編集ができること。
評価方法	提出課題50%、出席30%、学習への取り組み20%を原則として、総合的に判断する
備 考	
テキスト・教材・経費等	作品保存用のフラッシュメモリまたはポータブル型ハードディスクが必要です。特に教科書は指定しませんが、市販の解説本を持っていれば役立ちます。

授業計画	第1回 イラストレーターとフォトショップの基本操作(前期CG演習Ⅰの復習1) 第2回 イラストレーターとフォトショップの基本操作(前期CG演習Ⅰの復習2) 第3回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(1) 課題説明、アートボードとトンボの作成 第4回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(2) 写真撮影、スキャナーを使う 第5回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(3) 写真をパスでトレースし、デザイン化する 第6回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(4) パスファインダー、アピアランス、効果 第7回 フックカバーデザイン(1) パターンの作成 第8回 フックカバーデザイン(2) 画像作成と配置 第9回 フックカバーデザイン(3) 文字の入力と配置 第10回 [イラストレーター] タイポグラフィ(1) 第11回 [イラストレーター] タイポグラフィ(2) 第12回 [イラストレーター] タイポグラフィ(3) 第13回 ポートフォリオの作成(1) 作品写真撮影、補正、トリミング、画像解像度 第14回 ポートフォリオの作成(2) フォルダの管理 第15回 ポートフォリオの作成(3)
アクティブ・ラーニングの授業形態	演習、制作
準備学習(予習・復習)	前期のCG演習Ⅰでの技術を復習しておきましょう。 チラシからパッケージまで、日項目にする印刷物のデザインやレイアウトに着目して、気に入ったものを集めておくこと。またイラストレーションを切り抜いてスクラップしておくこと。 パスの練習をしましょう。 ポートフォリオのための作品写真を準備しておきましょう。

免許・資格	種免(美術)
免許・資格の科目区分	科目

時間割番号	1L2012	科目名	CG演習Ⅱ			単位数	1
担当者	宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-3020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	「Illustrator」と「Photoshop」を使いこなして、多様なデザイン制作を行います。各ソフトの基本操作の習熟度を高めると同時に、実践的なDTPの知識を学びます。また、表現の幅を広げ、創造性を高めることを目指します。
教育目標との関連	グラフィックデザインや印刷業界への進路を希望するなら「Illustrator」の技術は欠かせません。必ず「イラレ」の使える人という条件がついてきます。また、「Photoshop」は静止画、3D、動画と、あらゆるCG制作の現場で必須のツールです。創造性と実践的な確かな技術をしっかり身に付けましょう。
到達目標	「Illustrator」の操作がじゆうぶんにできること、DTPの仕組みの基本を理解して、印刷会社に出すことができるレベルの印刷原稿を作ること。パスを使いこなシイラストレーションを描けること。「Photoshop」の操作に習熟し、高レベルの画像の作成、写真の補正、修復、編集ができること。
評価方法	提出課題50%、出席30%、学習への取り組み20%を原則として、総合的に判断する
備 考	
テキスト・教材・経費等	作品保存用のフラッシュメモリまたはポータブル型ハードディスクが必要です。特に教科書は指定しませんが、市販の解説本を持っていれば役立ちます。

授業計画	第1回 イラストレーターとフォトショップの基本操作(前期CG演習Ⅰの復習1) 第2回 イラストレーターとフォトショップの基本操作(前期CG演習Ⅰの復習2) 第3回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(1) 課題説明、アートボードとトンボの作成 第4回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(2) 写真撮影、スキャナーを使う 第5回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(3) 写真をパスでトレースし、デザイン化する 第6回 [イラストレーター] おいしいを伝えるポスター(4) パスファインダー、アピアランス、効果 第7回 フックカバーデザイン(1) パターンの作成 第8回 フックカバーデザイン(2) 画像作成と配置 第9回 フックカバーデザイン(3) 文字の入力と配置 第10回 [イラストレーター] タイポグラフィ(1) 第11回 [イラストレーター] タイポグラフィ(2) 第12回 [イラストレーター] タイポグラフィ(3) 第13回 ポートフォリオの作成(1) 作品写真撮影、補正、トリミング、画像解像度 第14回 ポートフォリオの作成(2) フォルダの管理 第15回 ポートフォリオの作成(3)
アクティブ・ラーニングの授業形態	演習、制作
準備学習(予習・復習)	前期のCG演習Ⅰでの技術を復習しておきましょう。チラシからパッケージまで、日項目にする印刷物のデザインやレイアウトに着目して、気に入ったものを集めておくこと。またイラストレーションを切り抜いてスクラップしておくこと。パスの練習をしましょう。ポートフォリオのための作品写真を準備しておきましょう。

免許・資格	種免(美術)
免許・資格の科目区分	科目



時間割番号	1L2013	科目名	映像CG演習			単位数	1
担当者	的場 智美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-3030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	PremiereとAfter Effectsという2つのアプリケーションを使って、短いビデオ作品とアニメーション作品を制作し、動画制作のいろはを学びます。まず練習課題でアプリケーションの操作方法を学び、その後各自の作品を制作します。
教育目標との関連	今や美術表現にも欠かせないコンピューターの技術ですが、中でも映像やアニメーション編集に特化した授業を行いますので、映像・アニメーションコースの学生は必ず履修してください。また、そのほかのコースの学生であっても、興味のある学生は積極的に履修してください。
到達目標	構想から撮影、編集、書き出しまでのビデオ制作の流れを理解する。 アニメーションの制作過程を理解する。動画制作の基礎知識を身につける。 Premiere とAfter Effectsの基本的な使い方を習得する。 個性的な作品を心をこめて作り上げる。
評価方法	提出課題50パーセント、授業への取り組みと出席状況50パーセントを原則として、総合的に評価します。
備 考	アニメーション制作では、フォトショップやイラストレーターも使用します。動画は作業手順が複雑です。毎回新しい工程を学び、それを積み重ねて進みますので、欠席しないで下さい。
テキスト・教材・経費等	持参物:USBメモリー(空容量5GB以上、USB2.0以上の高速タイプを推奨)、デジカメやスマホ等のビデオ撮影機材(初回の授業に持参すること。持っていない人にはデジカメを貸し出します)、イヤホン、ノート

授業計画	<p>第1回-第7回 Premiereによるビデオ制作</p> <p>第1回 オリエンテーション、カメラの使い方</p> <p>第2回 練習① 撮影の基本、ビデオ撮影</p> <p>第3回 練習② カット編集、エフェクト、タイトル作成</p> <p>第4回 練習③ サウンド編集</p> <p>第5回-第6回 短編ビデオ作品制作</p> <p>第7回 提出作品鑑賞</p> <p>第8回-第15回 After Effectsによるアニメーション制作</p> <p>第8回 練習① 「シーケンスレイヤー」でバラバラアニメを作る</p> <p>第9回 練習② 「トランスフォーム」でパーツを動かす</p> <p>第10回 練習③ 「パベットツール」と「モーションパス」、音入れ</p> <p>第11回 練習④ 「親子レイヤー」と「プリコンポーズ」で複雑なアニメーションをつくる</p> <p>第12回-第14回 アニメーション作品制作</p> <p>第15回 提出作品鑑賞</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	演習、制作、発表
準備学習(予習・復習)	アプリケーションの操作方法を学ぶ練習課題では、操作手順をメモし、それを見ながら自力で同じ課題をもう一度やって復習して下さい。また、下記のようなチュートリアル・サイトもありますので、必要に応じて参考にして下さい。 アドビTV Premiere Pro CS6チュートリアル { <a href="http://tv.adobe.com/jp/show/learn-premiere-pro-cs6-jp/">http://tv.adobe.com/jp/show/learn-premiere-pro-cs6-jp/</a> } アドビTV After Effects CS6チュートリアル { <a href="http://tv.adobe.com/jp/show/learn-after-effects-cs6-jp/">http://tv.adobe.com/jp/show/learn-after-effects-cs6-jp/</a> }

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2014	科目名	造形表現			単位数	4
担当者	木本 雅典、前田 由芽						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、想像・表現力

概 要	静物、人体をモチーフにデッサン、絵画制作を行います。静物画では、モチーフ設定の工夫や意図的な構成などに積極的にチャレンジし、対象をよく観察することを試みます。人体では、クロッキーやデッサンを繰り返すことで、人体の形、動き、構造の把握や、画面への配置、余白との関係等造形的なことを意識しながら制作します。
教育目標との関連	描くことの基本を大切に、画材の特性を理解しながら、確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	各自の制作過程において対象を深く観察し、造形的要素を意識しながら、自己の表現として制作する。
評価方法	提出作品及び学習状況により評価。
備 考	後期の途中から、日本画、洋画を選択します。
テキスト・教材・経費等	クロッキー帖、木炭紙、水彩道具等

授業計画	<p>第1回：水彩による静物制作への概要説明及び、静物モチーフの設定</p> <p>第2回：水彩による静物制作① 構図の検討など</p> <p>第3回：水彩による静物制作② 構図の検討など</p> <p>第4回：水彩による静物制作③</p> <p>第5回：水彩による静物制作④</p> <p>第6回：水彩による静物制作⑤</p> <p>第7回：水彩による静物制作⑥</p> <p>第8回：講評会</p> <p>第9回：裸婦クロッキー①</p> <p>第10回：裸婦クロッキー②</p> <p>第11回：裸婦クロッキー③</p> <p>第12回：裸婦クロッキー及びデッサン①</p> <p>第13回：裸婦クロッキー及びデッサン②</p> <p>第14回：裸婦クロッキー及びデッサン③</p> <p>第15回：裸婦クロッキー及びデッサン④</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	<p>スケッチブックと鉛筆は画学生の必須アイテムです。</p> <p>「手を動かしている事が考えていること。」まずは落書きからでも良いのです。</p> <p>モデルを使った実習では制作時間が限定されています。</p> <p>上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックでよいから常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。ポーズ時間を大切に、集中して制作してください。</p>

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2015	科目名	造形表現	単位数	4
担当者	久保 直子、村上 たかし				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L4-3011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集、計画力、協同力				
概要	<p>実践的なアクティブラーニングを通して、マンガとキャラクターデザインの基礎を修得します。</p> <p>短編での実用マンガとキャラクターの制作を通じて、基本的な知識と技術を学びます。</p> <p>また、その制作を経て、後期の集大成として、オリジナル作品(マンガ、キャラクター)を制作します。</p>				
教育目標との関連	制作工程を経て、基本的な知識・技術の修得に重点を置いています。				
到達目標	知識や技術を修得することはもちろん、ターゲットである読者層を意識し、魅力的な作品を完成させることを目的としています。				
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、計画性(40%)、完成作品(20%)による総合評価。				
備考	実用マンガとキャラクターの制作は、現代文化学部言語文化学科日本語文化コースとの共同授業で制作します。				
テキスト・教材・経費等	作品内容と分量によって、各自で適宜教材を追加購入します。				
授業計画	第1回 顔合わせ、概要説明、制作担当決め、事前調査 第2回 取材、調査 第3回 取材、調査 第4回 取材、調査 第5回 基本的作法、マンガ・キャラクター:下描き 第6回 マンガ・キャラクター:下描き 第7回 マンガ・キャラクター:下描き 第8回 マンガ・キャラクター:ペン入れ 第9回 マンガ・キャラクター:ペン入れ 第10回 マンガ:スクリーントーン貼り、キャラクター:着彩 第11回 マンガ:スクリーントーン貼り、キャラクター:着彩 第12回 マンガ・キャラクター:仕上げ 第13回 マンガ:スキャン、写植 第14回 簡易コピー、製本 第15回 講評会、データ提出				
アクティブラーニングの授業形態	体験学習、プロジェクト学習、グループ・ワーク				
準備学習(予習・復習)	マンガは教科書です。 これからマンガを読む時は、「ストーリーが理解できるのはなぜなのか?」「分かりやすい、伝わりやすい描きかたとは?」など、作者目線でも読むように心がけましょう。 【2回~4回】インターネットで調べるだけでなく、現地調査やスタッフさんへの取材など、自分で見聞きしましょう。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1L2016	科目名	造形表現			単位数	4
担当者	堀尾 充						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	想像・表現力

概 要	映像とアニメーションの基礎技法を学びます。 まず、「描く力」。これはあらゆる造形作業に必須のものです。写実力ではなく描画力を身につけ、多彩な表現を試みましょう。ゾエトロープや驚き盤などクラシックなアニメーションにも挑戦します。これらの作業をベースに連続写真による資料を使って手描きのアニメーション作品を制作します。
教育目標との関連	変化と進歩のデジタル表現だけでなく、根源的な造形力を養っておくことが、時代に左右されない一生の財産になります。
到達目標	映像とアニメーションの基礎表現力を養うこと
評価方法	学習への取り組み(40%)と制作物(60%)で評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	基本的には各自で素材をそろえますが、1000円ほどの材料費が必要です。 映像ファイルは大きいのでポータブルのハードディスクを各自で購入して置いて下さい。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明 毎回、1時間程度のクロッキーで描画力を鍛える。</li> <li>2. 透視図法 ・建物や車、小物</li> <li>3. 透視図法 ・風景スケッチ</li> <li>4. ゾエトロープ</li> <li>5. 驚き盤</li> <li>6. 連続写真による写真資料を元にした手描きアニメーション</li> <li>7. 撮影と素材収集</li> <li>8. 描画とスキャナー取り込み</li> <li>9. 背景との合成</li> <li>10. 編集、書き出し</li> <li>11. 音響編集</li> <li>12. 映像編集</li> <li>13. 後期作品のまとめハードカバー製本</li> <li>14. 映像作品のDVD作成</li> <li>15. 講評</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	日頃から人間の動きに注目しておきましょう。コマーシャルから映画まで、「自分が作るなら？」という視点で見てください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2017	科目名	造形表現	単位数	4
担当者	斉藤 克幸、中村 和人				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L4-3011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概要	グラフィックデザインの全体的な様相や考え方を、多数の課題を体験することで理解していきます。まず、様々な造形の面白さを認識するところから入っていき、文字の大切さを学び練習します。グラフィックデザインの歴史とは文字の歴史と言っても過言ではありません。特に明朝体とローマン体を中心に、文字の成り立ちを体験していきます。さらに画面構成、アートディレクションするという考え方の実体験、写真、イラストレーション、問題点を見つけて改善すること(機能性)を意識した課題など、グラフィックデザインの根幹部分に触れていきます。
教育目標との関連	グラフィックデザインとは何か?ということ、様々な課題を体験することで、全体的に理解しよう。
到達目標	課題について熟慮し多くのアイデアスケッチを制作し最善の答えを見いだす努力をしたか。その結果優れた作品を制作することができたか。また、作品を愛し、細部にまで神経の行き届いた美しい仕事をしたか。(要点:造形面の訓練や発見、構成・レイアウト・デザイン力の強化、イラストレーションの訓練、写真の基礎知識と技術、レタリング・タイポグラフィ・ロゴタイプに関する知識と訓練、アートディレクションする意識、意味やメッセージ性の意識、コンセプトを構築する力)
評価方法	作品・講義会におけるプレゼンテーション及び参加状況によって評価します。
備考	日頃から、あらゆるデザインをはじめとした造形や芸術に関心を持ち鑑賞すること。継続的に読書し映画鑑賞すること。自分自身の内部を豊かに磨いてください。
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。

授業計画	<p>第1回:紙のサイズに関すること  第2回:造形の面白さの採集と応用  第3回:画面構成～色彩平面構成と文字  第4回:文字・レタリングについて  第5回:アートディレクション～比治山大学図書館PR用ポスターのデザイン1図書館に行き調査する  第6回:比治山大学図書館PR用ポスターのデザイン2どのような図像で図書館を表現するか検討する  第7回:比治山大学図書館PR用ポスターのデザイン3見る人に訴えるコピーを考える  第8回:比治山大学図書館PR用ポスターのデザイン4イラストや写真を制作する  第9回:比治山大学図書館PR用ポスターのデザイン5素材をレイアウトし構成し大型プリンターで出力する  第10回:比治山大学図書館PR用ポスターのデザイン講評会  第11回:写真について  第12回:レタリング演習～冊子の表紙デザインの試み  第13回:『あます graphic』のロゴタイプのデザイン  第14回:イラストレーション模写  第15回:問題の解決～紙の立体によるデザイン</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習、問題解決学習、体験学習
準備学習(予習・復習)	【1～15】自分の気に入ったデザインやイラストレーションをスクラップブックに蒐集したり、それは誰がデザインしたのか・描いたのかを調べてください。また、あらゆるアイデアを記録しておくためのアイデア帳を日頃から持ち歩き、さらに造形的に面白いと思った写真を撮りためておきましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2018	科目名	造形表現	単位数	4
担当者	今田 拓志、原紺 絢子、南 容子、原紺 絢子、南 容子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L4-3011				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、傾聴・受容力				
概 要	この授業では、様々な制作体験を通して物づくりの姿勢を学ぶとともに素材や技法に対する理解をより深めます。織物制作と陶芸制作に取り組みます。				
教育目標との関連	有史以来人間の生活が育んだものの中に陶芸や織物があります。これからも継続される対象となり文化の充実に寄与することと思います。				
到達目標	ものづくりの基本姿勢を身につける。				
評価方法	提出作品と参加状況により評価する。制作態度と制作物。				
備 考					
テキスト・教材・経費等	材料費 糸・粘土代 1000円程度				
授業計画	1 平織りを中心に色糸による色彩の混色を考え卓布を制作する 第1回 綿・麻・羊毛など多様な素材に触れる 第2回 経糸の長さとお数を決め準備する 第3回 織機に経糸を通す 第4回 緯糸を準備する 第5回 経糸を上下させ緯糸を間に通して織る(習作) 第6回 経糸を上下させ緯糸を間に通して織る(本番1) 第7回 経糸を上下させ緯糸を間に通して織る(本番2) 2 陶芸(手捻り) 第8回 絵付けのためのスケッチ(鉛筆を中心に) 第9回 粘土に触れる。土練り 第10回 手捻りによる器物の成形(花器、食器など) 第11回 手捻りによる立体造形物成形 第12回 化粧土を用いた掻き落とし装飾(化粧土塗り) 第13回 化粧土を用いた掻き落とし装飾(掻き落とし) 第14回 電気窯による酸化焼成 第15回 窯出し 作品講評				
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習				
準備学習(予習・復習)	手が削り出すものをよく吟味するよう心がけること。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1L2019	科目名	造形演習 I			単位数	2
担当者	荒木 然一						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3111						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、自己省察力、創造・表現力

概要	2年次で専攻する日本画・洋画コースに分かれて、それぞれの基礎制作を行います。 日本画では、花や果物、野菜など自然のものをモチーフとし、スケッチから草稿、本紙制作となる日本画制作の流れを体験し、和紙・墨・水干絵具・岩絵具など日本画独自の素材を用いて日本画表現の基礎を学び日本画制作についての理解を深めていきます。8号から10号程度を2点制作 洋画では、油絵の道具の扱い方、描き方を学び油絵制作をおこないます。15号2点制作。
教育目標との関連	「描くこと創ること」の基本を大切にしながら、日本画の持つ独自の表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	日本画・洋画それぞれに、独自の素材を用いて制作を行うことで、絵画制作への表現の基礎を養います。
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	日本画・洋画それぞれの制作基礎用具を紹介します。各自が必要に応じて購入・準備をしてください。

授業計画	第1回：日本画コース 作品制作への概要説明、洋画コース 作品制作への概要説明 第2回：日本画コース 花をモチーフにスケッチ、洋画コース 静物モチーフにデッサン① 第3回：日本画コース 紙本制作のための麻紙などの準備、洋画コース 静物モチーフにデッサン② 第4回：日本画コース 紙本制作① 胡粉などによる下塗り、洋画コース 静物モチーフにデッサン③ 第5回：日本画コース 紙本制作② 水干絵具による制作、洋画コース 静物モチーフに油彩画1①(油絵の具の扱い方を中心に) 第6回：日本画コース 紙本制作③ 岩絵具による制作、洋画コース 静物モチーフに油彩画1② 第7回：日本画コース 講評会、洋画コース 静物モチーフに油彩画1③ 第8回：日本画コース 複数の野菜や果物をモチーフにスケッチ①、洋画コース 静物モチーフに油彩画1④ 第9回：日本画コース 複数の野菜や果物をモチーフにスケッチ②、洋画コース 静物モチーフに油彩画1⑤ 第10回：日本画コース 紙本制作のための麻紙などの準備、洋画コース 静物モチーフに油彩画2①(基本的な表現方法を中心に) 第11回：日本画コース 紙本制作① 水干絵具による制作、洋画コース 静物モチーフに油彩画2② 第12回：日本画コース 紙本制作② 岩絵具による制作、洋画コース 静物モチーフに油彩画2③ 第13回：日本画コース 紙本制作③ 岩絵具による制作、洋画コース 静物モチーフに油彩画2④ 第14回：日本画コース 紙本制作④ 岩絵具による制作、洋画コース 静物モチーフに油彩画2⑤ 第15回：日本画コース・洋画コース 講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	日本画・洋画それぞれの表現と素材について、理解と技法などを修得していく必要があります。しっかりと制作ノートを作り、表現と素材の研究を日々重ねるように努めてください。また、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2020	科目名	造形演習 I			単位数	2
担当者	久保 直子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3111						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題意識、傾聴理解、表現力					
概要	マンガやイラストの模写を通して、人物の描き分けや感情表現、植物や動物、背景の描きかたから、カラーイラスト制作まで、様々なアクティブラーニングを通して、マンガやイラストを描くための基礎技術を学びます。 また、これから学ぶにあたり、知っておくべき作品を読み、造詣を深め、視野を広げます。						
教育目標との関連	とくに基礎の修得に重点を置いています。						
到達目標	十分に基礎の修練ができ、漫画の基本的な技術を身に付けることを目的とします。						
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、計画性(40%)、完成作品(20%)による総合評価。						
備考	造形表現と連動して進めるため、授業計画が前後する場合があります。						
テキスト・教材・経費等	ペン先、ペン軸、インク、修正液、マンガ専用原稿用紙、カラー画材など、マンガやイラスト制作における基礎画材を購入します。 初期費用：15,000円程度						
授業計画	第1回 マンガおよびイラストの模写作品の選定、模写工程の説明 第2回 原稿用紙の使いかた 第3回 下描き 第4回 下描き(背景の描きかた) 第5回 下描き(効果線の描きかた) 第6回 下描き(動物の描きかた) 第7回 付けペンの使いかた 第8回 ペン入れ 第9回 ペン入れ 第10回 ペン入れ 第11回 スクリーントーンの使いかた 第12回 スクリーントーン貼り、着彩 第13回 スクリーントーン貼り、着彩 第14回 仕上げ 第15回 講評会、作品提出						
アクティブラーニングの授業形態	体験学習、発見学習						
準備学習(予習・復習)	【4回～6回】常に周りの物を観察したり、手を動かし絵を描きましょう。 また、観察力を高めてストーリー作りに活かしましょう。 絵は描かなければ上手くなりません。でも、描けば描くほど上手くなります。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							



時間割番号	1L2021	科目名	造形演習 I			単位数	2
担当者	宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3111						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力 課題設定力 想像力・表現力

概 要	「コマ撮りアニメーション」を制作します。この中で、工作力、撮影のノウハウ、テキストを生かしたCG、編集、映像エフェクトを学びます。後期のまとめとしてDVDパッケージに収めます。また、この期間で名作を幾つか紹介します。
教育目標との関連	勤勉であること。機器の操作など大変学習内容が多いコースです。
到達目標	「絵」になる映像表現を目指すこと。 創意工夫で「舞台」を造形すること。
評価方法	学習への取り組み(60%)と制作物(40%)で評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	基本的には各自で素材をそろえます。最低1000円ほどの材料費が必要でしょう。 映像ファイルはサイズが大きいため、ポータブルのハードディスクを各自で用意して下さい。

授業計画	第1回ストップモーションの概要 第2回舞台セット作成 第3回キャラクター作成 第4回撮影 第5回動作確認 第6回音響制作 第7回映像ソフト(アフターエフェクト)による編集 第8回線画台の概要 第9回装置の組み立て 第10回素材作成 第11回撮影 第12回動作確認 第13回音響制作 第14回映像ソフト(アフターエフェクト)による編集 第15回講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決学習 体験学習
準備学習(予習・復習)	映像ではより良いものに触れる機会は身近にあります。 鑑賞体験を重ねて、より高いレベルを求めてください。 【1-15】自分で立てた企画が他人へと伝わり、楽しんでもらえるように演出についての考察が必要です。 習った技術を復習し、動く絵で伝えられるように技術をあげましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2022	科目名	造形演習 I			単位数	2
担当者	斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3111						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概要	グラフィックデザインには様々な側面がありますが、誰にも共通した分かりやすいイメージで制作し、きちんと正確に伝達する使命があり、これは共通の要素です。ここではデザインマップの制作と、ピクトグラムまたは欧文タイプフェースを制作し、グラフィックデザインの様相を端的に知り・体験していきます。
教育目標との関連	グラフィックデザインの使命は、よりわかりやすく・美しく・楽しく伝えることです。自己満足ではなく、第三者に理解されるデザインを目指しましょう。
到達目標	余白やバランスまた文字の大きさや間隔などについて十分注意してレイアウトすることができたか。マップ、ピクトグラム、欧文タイプフェースの機能しかり意識しデリケートに注意深くデザインすることができたか。
評価方法	作品・講評会におけるプレゼンテーション及び参加状況によって評価します。
備考	本・雑誌・フリーペーパーなどを、余白に注目して見るように心がけよう。
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。

授業計画	第1回: 課題説明 第2回: 調査、アイデアスケッチ 第3回: 出力サイズ、制作媒体の仮定、デザイン方針の決定 第4回: 下絵制作(1) 第5回: 下絵制作(2) 第6回: 下絵制作(3) 第7回: 中間チェック 第8回: 本番制作(1) 第9回: 本番制作(2) 第10回: 本番制作(3) 第11回: 本番制作(4) 第12回: 仮出力、デザインチェック 第13回: 修正 第14回: 本番出力 第15回: 講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決型学習
準備学習(予習・復習)	【1～15】街中はユニークなフォント(文字)の宝庫です。きれいにデザインされたものから、職人が手作りで制作したもの、工事現場にガムテープで作られたものまで様々なフォントに溢れています。面白いと思ったフォントの写真を撮りためておきましょう。また、小さめのクロッキー帳などをいつも持ち歩き、授業外の空きコマや通学中の車内・家庭などにおいて、常にアイデアスケッチをするよう心がけましょう。ヒントはどこにあるか分かりません。どんなアイデアでも記録する習慣をつけましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L2023	科目名	造形演習 I			単位数	2
担当者	寺田 勝彦						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3111						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 発想力, 創造・表現力

概 要	1年次後期はより具体的な課題での制作を進めてゆく時期です。この授業では土や布などの素材をより深く理解し生かすため新しい技法にも取り組みます。1.連続と展開をテーマにステンシル技法で制作(染織デザイン) 2.石膏型成型による立体造形物の制作(陶芸デザイン) の2課題に取り組みます。
教育目標との関連	描く、造るの基本を工芸領域の中で発展させてゆきます。布や土を扱うことで素材による造形表現を探ります。
到達目標	素材をどのように生かしたか、技法を理解した造形になっているか
評価方法	提出作品(60%)と参加状況(40%)により評価する。
備 考	
テキスト・教材・経費等	材料費 布代・粘土代等は各自が負担します

授業計画	(ステンシルによる連続と展開) 第1回 画用紙でモチーフを作り決められた大きさの中にスケッチする 第2回 スケッチを複数枚つなげ連続して生まれる形を見つける 第3回 15cmの正方形の中に納まるよう拡大し原寸大原稿を作る 第4回 型紙をカットする 第5回 染料を布に刷り込む① 第6回 染料を布に刷り込む② 第7回 蒸し・水洗し完成する (石膏型成型による立体造形) 第8回 粘土を用いた原形制作 第9回 原形を石膏により型どり(2分割) 第10回 1種類の粘土を用いた型どり成型 第11回 2種類の粘土を用いた型どり成型 第12回 素焼き 第13回 3種類の釉薬をかける 第14回 本焼きと仕上げ 第15回 まとめと批評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 体験学習
準備学習(予習・復習)	染織デザイン, 陶芸デザインの基本になる取り組みです。それぞれの素材を十分に体験してください。時間外での制作も大切な時間です。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3002	科目名	美術史Ⅲ	単位数	2
担当者	高木 茂登				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1L2-3030				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	現代にいたる美術の中心的な役割を果たし、今日の美術につながる多くの変革を成し遂げた西洋の近代美術の成立と発展の歴史を概観し、その特質と意義を検証するとともに、現代における人間と美術の関わりを探ります。				
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。				
到達目標	(1)西洋近代美術の流れを理解すること (2)印象派の意義について理解すること (3)近代芸術の価値観を認識すること				
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。				
備考					
テキスト・教材・経費等	テキスト/カラー版『西洋美術史』美術出版社(1900円)、 その他プリントを配付します。				
授業計画	第1回:バロックⅠ(イタリア) 第2回:バロックⅡ(スペイン・フランドル) 第3回:バロックⅢ(オランダ・フランス) 第4回:新古典派 第5回:ロマン派 第6回:イギリス風景画とバルビゾン派 第7回:写実派 第8回:印象派Ⅰ(マネ派) 第9回:印象派Ⅱ(モネとルノワール) 第10回:印象派Ⅲ(ドガほか) 第11回:新印象派 第12回:後期印象派Ⅰ(セザンヌ) 第13回:後期印象派Ⅱ(ゴーギャン) 第14回:後期印象派Ⅲ(ゴッホ) 第15回:野獣派と立体派・総括				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー				
準備学習(予習・復習)	授業の予習・復習にはテキストをよく読んでください。さらに興味がわいた時代や作家について図書館の画集や解説書で調べてください。また美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。				
免許・資格	中2種免(美術)				
免許・資格の科目区分	教科に関する科目(美術)				

時間割番号	1L3003	科目名	デザイン・造形論Ⅱ			単位数	2
担当者	斉藤 克幸、荒木 然一						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-3120						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	「造形」と「デザイン」に関する講義をそれぞれ7回ずつ実施し、最終回にまとめをします。「造形」の講義では、多様な表現で溢れる日本の現代アートとそのルーツとなる日本美術を並べながら学んでいきます。「デザイン」の講義では、デザインという言葉の意味や、デザインが社会に及ぼしている影響、さらに様々なデザインと、相互の関係、広島デザイン事情などについて解説します。
教育目標との関連	造形やデザインは、ただ物や形や色を作るだけではなく、作家・作者・デザイナーの考え方が大切です。本学美術科として、そのもっとも重要な「考え方、また考えること」をみなさんに伝達すべき授業です。
到達目標	講義内容をよく理解し、造形やデザインについて、自分の考え方や哲学を構築することができる端緒をつかむことができたか。
評価方法	参加状況および小テストによって評価します。
備考	造形とは何か、デザインとは何か、常にこのことを考えてください。そして自分なりの結論を導くことができれば、各自の作品表現にとっても、大きなプラスとなるのではないのでしょうか。
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配付します。

授業計画	第1回：デザインという言葉、意味、デザインとは何か？ 第2回：デザインと社会の関係 第3回：デザインが社会環境に及ぼす影響 第4回：様々なデザインと相互の関係 第5回：宣伝のためのデザインの流れ 第6回：デザインと装飾、インターネット時代のデザイン 第7回：広島のグラフィックデザイン事情 第8回：日本の現代アートとそのルーツについて 第9回：日本の現代アートとルーツ1 第10回：日本の現代アートとルーツ2 第11回：日本の現代アート1 第12回：日本の現代アート2 第13回：日本の現代アート3 第14回：日本の現代アートのルーツ3 第15回：まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	発問、看图
準備学習(予習・復習)	【1～15】造形とは何か、デザインとは何か、表現とは何か。これらに対する答えとして、図書館にもそれらに関する本がたくさんありますから、積極的に読んでください。そこには、作家やデザイナーそれぞれの考え方を見つけることができるでしょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3004	科目名	マンガ・アニメーション論			単位数	2
担当者	久保 直子、宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-3130						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	2000年前後から日本のマンガやアニメーションは、新たなポピュラーカルチャーの象徴として、国内外から注目されはじめました。その後、海外、特に欧米からの高い評価を受けるようになると、その評価を逆輸入する形で国内でも文化として語られる機会が多くなっています。そんな日本と世界のマンガとアニメーションを、歴史や産業、文化などから体験学習を通して学んでいきます。
教育目標との関連	開講時だけで終わらず、これさらに繋げ活かせる「知識」の修得を重視しています。
到達目標	多角的に広く学び、知識だけでなく視野も広げることを目的としています。
評価方法	出席率(40%)と、マンガ(テキスト(30%)、アニメーションはレポート(30%)による総合評価。
備考	
テキスト・教材・経費等	課外授業時の交通費や施設入場料。

授業計画	第1回:「マンガ」とは何か?(アクティブラーニングを通して学ぶ) 第2回:マンガの歴史 第3回:マンガ表現論 第4回:産業からみるマンガ 第5回:マンガのメディアミックス展開 第6回:マンガと著作権 第7回:海外マンガ 第8回:広島市まんが図書館(バックヤード)見学 第9回:映像は何からできている? 第10回:映像・アニメーションの要素[脚本] 第11回:映像・アニメーションの要素[ビジュアルデザイン] 第12回:アニメーションの要素[動き] 第13回:映像・アニメーションの要素[撮影編集・特殊撮影] 第14回:映像・アニメーションの要素[音響効果] 第15回:映像・アニメーションの要素[上映環境]
アクティブラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	自分の好きなものだけに留まらず、色々な作品を見て、自分の世界を広げてください。 【8回】広島市まんが図書館について調べておきましょう。 【9~14回】映画化された小説やアニメ化されたマンガなどを原作ものと見比べてその媒体が持つ力・特性を観察し、言語化しておきましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3005	科目名	DTP演習			単位数	1
担当者	斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-4010						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	現代の印刷はDTP(Desk Top Publishing=パソコンを使って印刷版下制作を行うこと)抜きに考えられません。印刷所のオフセット印刷機に取り付けるアルミ製刷版の一手手前までがデザイナーによってパソコンで制作されます。かつてはデザイナーが印刷会社に「指定」していた仕事までがDTPで行われ、その責任はますます重くなってきました。DTPの基本から応用まで、その仕組みをしっかりと学びましょう。
教育目標との関連	自由な創造性もさることながら、基本的な約束事や正確性、誤字脱字のチェックまで、決してミスをしてはいけない印刷の責任を意識しながら学んでいきます。
到達目標	DTPの仕組みを理解し、印刷物の版下を作成できるようになること。
評価方法	課題制作と学習への取り組みによって評価します。
備考	CG演習Ⅰ、及びⅡでの学習実績が要求されます。特にイラストレーターが中心の作業になります。
テキスト・教材・経費等	作品保存用のUSBフラッシュメモリーなどが必要です。

授業計画	<p>第1回：DTPとは、紙の仕上げ寸法と規格</p> <p>第2回：印刷原稿としてのイラレの設定、データの作り方1</p> <p>第3回：印刷原稿としてのイラレの設定、データの作り方2</p> <p>第4回：「じぶん才発見」チラシデザイン制作1</p> <p>第5回：「じぶん才発見」チラシデザイン制作2</p> <p>第6回：「じぶん才発見」チラシデザイン制作3</p> <p>第7回：「じぶん才発見」チラシデザイン制作4</p> <p>第8回：ポートフォリオの制作練習1</p> <p>第9回：ポートフォリオの制作練習2</p> <p>第10回：印刷物の種類、本の構造</p> <p>第11回：葉書の基本、サイズ、郵便番号枠、案内地図</p> <p>第12回：卒業DM葉書の制作1</p> <p>第13回：卒業DM葉書の制作2</p> <p>第14回：卒業DM葉書の制作3</p> <p>第15回：卒業DM葉書の制作4</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	学生相互で教えあうこと、事前に課題を提示し学生各自がビジュアル素材を準備すること
準備学習(予習・復習)	【1～15】この授業では、アドビ・イラストレーターとフォトショップを使用します。これらのソフトは、経験を重ねて習熟する以外に上達の方法はありません。パソコン教室の空き時間を最大限利用して、復習をしてください。また、課題毎に必要なとってくる写真やイラストレーションのような画像が必要です。事前に撮影するなど準備しておいてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3006	科目名	デジタルメディア演習			単位数	1
担当者	堀尾 充						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-4030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	1年次で学んだCG演習を更に深めたいという学生を対象にして、3次元CGを制作しながら、透視図法、写真、構成、色彩なども総合的に学習します。簡単ではありませんが、フリーソフトの「BLENDER」を使用するので自宅でも予習復習が可能です。授業の1回から5回は、主要なキーワードを自ら検索して学ぶ調査学習で、自分で教科書を作ります。6回目からは制作を通して理解を深めていきます。ここで学ぶ内容はCGクリエイター検定3級に対応しています。
教育目標との関連	美術科では、根源的な造形力と並んで、新時代のデジタル表現力を教育の柱としています。
到達目標	3次元CGを応用したグラフィックやアニメーションの基礎的表現と、CGクリエイター検定3級程度の知識を習得すること。
評価方法	総合評価
備考	
テキスト・教材・経費等	作品保存用にUSBメモリーなどが必要です。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.プレゼンテーション制作の知識と文字や情報の視覚化</li> <li>2.映像作品の流れと表現技術についての知識</li> <li>3.3次元CGを制作するための基礎的な知識</li> <li>4.情報技術についての基礎的な知識、技術と社会との関わりについて</li> <li>5.情報化社会、知的財産権、ファイルフォーマットなど</li> <li>6.空間と位置の表現</li> <li>7.立体の作成</li> <li>8.描画</li> <li>9.材質表現</li> <li>10.マッピング</li> <li>11.ライティング</li> <li>12.空間表現の試み</li> <li>13.動画の技法</li> <li>14.3次元CGアニメーションの制作</li> <li>15.相互評価</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習
準備学習(予習・復習)	まず「キーワード」を覚えましょう。内容の理解は後からついてきます。「キーワード」のほとんどはWEBで詳細な説明が得られます。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1L3007	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	荒木 然一						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概 要	日本画制作の基本は、スケッチです。そして、そのスケッチを行うことで、モノを見る目と表現する力を養っていきます。ここでは、身近にある自然なモチーフを観察しスケッチすることから作品作りを考えていきます。カタチを捉えることに終始するのではなく、スケッチというモノとの対話を大切にしながら、目で見えるモノを自分というフィルターをとおしていくことで絵画として表現していく世界を模索していきます。
教育目標との関連	「描くこと創ること」の基本を大切にしながら、日本画の持つ独自の表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	スケッチから構想を考え、作品制作していく過程を理解し、表現する力を身につけます。
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	日本画制作基礎用具一式(水干絵具/岩絵具/絵筆/墨、その他日本画制作に必要なものを一揃えとして基礎セットのかたちで購入します)パネルや和紙・絵具などは、各自が必要に応じて準備します。

授業計画	<p>第1回: 自然の中にある植物や風景などをモチーフとして観察する</p> <p>第2回: 自然の中にある植物や風景などからモチーフを絞りながら写生・スケッチをすすめる</p> <p>第3回: 対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる①</p> <p>第4回: 対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる②</p> <p>第5回: 対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる③</p> <p>第6回: スケッチを基に、作品のイメージを検討しながら複数のエスキースを作成する</p> <p>第7回: 講評会 個々の取り組みについて個別に講評と指導を行います</p> <p>第8回: 自らモチーフとなる対象を検討し模索し写生・スケッチの準備を行う</p> <p>第9回: 対象となるモチーフを絞りながら写生・スケッチをすすめる</p> <p>第10回: 対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる①</p> <p>第11回: 対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる②</p> <p>第12回: 対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる③</p> <p>第13回: スケッチを基に、作品のイメージを検討しながら複数のエスキースを作成する</p> <p>第14回: 作品をイメージして草稿をすすめる</p> <p>第15回: 講評会 個々の取り組みについては、順次個別に指導を行います</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	日本画の制作では、和紙・墨・ニカワ・胡粉・岩絵具など日本画独自の素材について理解と技法などを修得していく必要があります。しっかりと制作ノートを作り、素材の研究を日々重ねるように努めてください。また、自分らしい表現を考え、素材研究を重ねられるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3008	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	木本 雅典						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、想像・表現力

概要	<p>静物をモチーフとしてドローイングと油彩画を制作します。          静物のドローイングではいろいろな画材を使って描く事で表現の幅を広げて行きます。画面への立体的な捉え方から平面化を進め抽象表現の手がかりが掴めるところまで展開します。ドローイングで使用した画材の感覚を油彩画へとつなげて行きます。課題の最後にアクティブラーニングの手法で講評会を行います。</p>
教育目標との関連	描くことの基本を大切に、画材の特性を理解しながら確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	各自の制作過程において油絵の具の技法を理解しながらモチーフを深く観察し、造形的要素を意識しながら自己の表現として制作する。
評価方法	授業への取り組み、課題制作、作品提出を中心に総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	油彩道具、ぼうる紙、ジェッソ、鉛筆、水彩道具、クレヨン、インク、水彩紙

授業計画	第1回 静物 鉛筆デッサン 第2回 インクと水彩でのドローイング① 基本 第3回 インクと水彩でのドローイング② 発展 第4回 クレヨン、水彩でのドローイング 第5回 油彩でのドローイング 基底材の準備 第6回 油彩でのドローイング① 基本 第7回 油彩でのドローイング② 発展 第8回 油彩でのドローイング③ 展開 第9回 油彩でのドローイング④ まとめ 第10回 油彩画の制作① エスキース 第11回 油彩画の制作② 下地制作 第12回 油彩画の制作③ 下描き 第13回 油彩画の制作④ 中描き 第14回 油彩画の制作⑤ 仕上げ 第15回 講評会
アクティブラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	<p>1年生後期に行った実習を踏まえていろいろな画材でドローイングをします。画材による表情の違いを体感し油絵の具の使い方の工夫へとつなげていきましょう。上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックでよいから常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。</p>

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3009	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	村上 たかし、久保 直子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	考察力、創造力、プレゼンテーション

概 要	1年次後期に学んだスキルをもとに、本科目では、トリビュート作品の制作に取り組みます。 トリビュート…既存の歌(歌詞有)や小説から、作品を制作します。 使用ソフト:Photoshop、Illustrator、CLIP STUDIO PAINT PRO
教育目標との関連	マンガやイラストに関するスキルを身につけるだけでなく、自分の作品を社会へ発信する方法を重視します。
到達目標	トリビュートからの作品の制作方法やプレゼンテーション能力を身につけることを目的とします。
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、計画性(40%)、完成作品(20%)による総合評価。
備 考	
テキスト・教材・経費等	完成作品の印刷費。 印刷費は、Macルームの扉に掲示されているので参考にしてください。

授業計画	第1回 トリビュート作品のネームとラフ案の提出 第2回 マンガ:ネーム、イラスト:ラフ案 第3回 マンガ:イラスト:下描き 第4回 マンガ:イラスト:下描き 第5回 マンガ:下描き、イラスト:ペン入れ 第6回 マンガ:ペン入れ、イラスト:着彩 第7回 マンガ:ペン入れ、イラスト:着彩 第8回 マンガ:ペン入れ、イラスト:着彩 第9回 マンガ:ペン入れ、イラスト:着彩 第10回 マンガ:スクリーントーン張り、送付準備 第11回 マンガ:スクリーントーン張り、送付準備 第12回 マンガ:表紙制作、送付準備 第13回 マンガ:表紙制作、送付準備 第14回 印刷、製本、送付準備 第15回 講評会、作品送付
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	日常にはデザインが溢れています。 マンガの装丁デザイン、展覧会のチラシやポスター、電車の吊革広告、ファッション雑誌、グッズ…などなど。 普段から身の回りにある「デザイン」で好みのモノがあれば、写真を撮ったり、切り抜いたりして、ファイルにまとめておくとイイですよ。 内容だけでなく、それをどう見せるのかも重要です。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3010	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	田村 蒼美、堀尾 充						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	企画・計画力

概要	1年後期の制作をベースに、作品を発展・向上させます。 楽しく創るだけでなく、より良い表現を目指して質を高め、説得力のある作品に仕上げます。 コンクールなどに応募して、幅広くアピールしてみましょう。
教育目標との関連	創造力を高める大切な期間となります。
到達目標	表現技術を高めるとともに、独自性を発見すること。
評価方法	学習への取り組み(50%)と制作物(50%)で評価します。
備考	大容量のポータブル・ハードディスクを常に用意すること
テキスト・教材・経費等	素材は各自で準備すること。公募展への出品では3000円ほど必要になります。

授業計画	第1回:これまでの制作物を鑑賞し、感想を交換しながら改善点を考える 第2回:アイディアスケッチ 第3回:イメージを広げる 第4回:アイデアを映像化しながら展開を検討する。 第5回:音響構想 第6回:音響制作 第7回:制作1 第8回:制作2 第10回:制作3 第11回:制作4 第12回:簡易編集を参考に、撮影を継続する。 第13回:相互に批評しながら編集で動きと展開を改善する。 第14回:編集作業 第15回:編集を完成させて公開へ
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習 プロジェクト学習
準備学習(予習・復習)	図書館には多くの参考資料があります。鑑賞することは自分の方向を知る良い方法です。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3011	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概要	DTPを実践するため、30ページ程度A4サイズの冊子を制作します。各自見開き2ページ程度を担当しデザインします。全体を統一するフォーマットに則りながら各自の個性を発揮して、魅力ある冊子を作りましょう。各担当ページの内容は、イラストレーションや写真など自由です。記事も自分で書くことで、ライターの仕事も体験します。
教育目標との関連	自分が担当するページを責任を持って完成させることが大切です。しっかりとディレクションし、自己満足ではなく、誰にでも気持ちよく読ませることができるようにすること。
到達目標	ページ全体が、どういったコンセプトで作られているのかが明快か、構成・レイアウト・配色がバランス良く美しく作られているか、印刷データとして最低限の約束事が守られているか。(要点:構成・レイアウト・デザイン力の強化、配色感覚を磨くこと、アートディレクションする意識、意味やメッセージ性の意識、コンセプトを構築する力、完成度の高さの追求、DTPの技術)
評価方法	作品・講評会におけるプレゼンテーション及び参加状況によって評価します。
備考	自己満足ではなく、人に読ませることを意識しましょう。
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。

授業計画	第1回:課題説明 第2回:冊子のデザインの方向性・イメージを全員でディスカッションし検討する 第3回:各担当ページの区分け、統一フォーマット配布 第4回:各自、担当紙面の内容を決定 第5回:取材・調査・イラストレーションの制作・写真撮影・記事を書く 第6回:レイアウト等紙面をデザインする 第7回:紙面デザインの完成 第8回:印刷会社を訪問し、印刷現場を視察する(印刷現場の実際を理解する体験学習) 第9回:表紙・裏表紙(目次・奥付け含む)は全員が制作し競合する 第10回:表紙・裏表紙(目次・奥付け含む)制作 第11回:表紙・裏表紙(目次・奥付け含む)の決定 第12回:仮出力し、誤字脱字等のチェック 第13回:仮出力したものに講評会 第14回:色校正 第15回:印刷会社に発注
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決型学習、グループディスカッション、印刷会社訪問見学
準備学習(予習・復習)	【1～5】デザインが気に入った雑誌等を集めておく。また、小さめのクロッキー帳などをいつも持ち歩き、授業外の空きコマや通学中の車内・家庭などにおいて、常にアイデアスケッチをする。【8】オフセット印刷について調べる。【9～12】空きコマにも、マックルームにて制作を進めておく。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3012	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	寺田 勝彦						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力, 企画・計画力, 創造・表現力

概要	世界には豊かな染織文化が広がっています。特に織物の世界では世界各地で現在でも独特の織物製品が造られています。この授業では糸作りから製織まで織物の基本を学習します。特にホームスパンを中心とした作品造りに取り組みます。
教育目標との関連	1年次で修得した織の基本を大切に、新しい素材や技法を理解しながら確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	原毛での糸作り等を通して素材のあつかいを理解すると共に、織機を自分なりに使いこなせる事を目標とします。
評価方法	提出作品(60%)制作態度・参加状況(40%)などにより総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	技術的なことについては適宜プリントなど配布します。原毛代・糸代として1500円程度材料費がかかります。

授業計画	第1回 原毛を染色する1 第2回 原毛を染色する2 第3回 染まった原毛を混色しカードをかける 第4回 紡毛機で糸をつむぐ1 第5回 紡毛機で糸をつむぐ2 第6回 紡毛機で糸をつむぐ3 第7回 つむいだ糸で経糸を整経する 第8回 経糸を織り機にかける1 第9回 経糸を織り機にかける2 第10回 つむいだ糸を緯糸にして織る1 第11回 つむいだ糸を緯糸にして織る2 第12回 つむいだ糸を緯糸にして織る3 第13回 織り機からはずし裏糸などを整理する 第14回 織りあがった作品を縮絨加工し仕上げる 第15回 まとめと批評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 体験学習
準備学習(予習・復習)	織物の基本は1年生で学んだものと変わりません。糸つむぎははじめての体験です。最初はなかなかうまくいきません。時間外でも練習しましょう。自分でつむいだ糸素材の特徴を生かして制作を進めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3013	科目名	造形演習Ⅱ			単位数	2
担当者	今田 拓志						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L4-3121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	企画・計画力、創造・表現力

概 要	陶芸の制作工程は、土づくりからはじまり、窯焚きまで様々な工程があります。また、その工程も、表現の種類において複雑に分かれています。まずは、用途をもつ器づくりを通じ、大まかな制作工程を体験します。そして、各自の制作した器を実際に使用し、工芸としてのものづくりを考察します。
教育目標との関連	土に触れ機能を持つ器づくりに取り組む中で、器への理解と愛着を深めます。形への想念とその有用性を豊かに育みます。
到達目標	日々無意識のうちに、食器、花器などを使用しています。それらがどのような工程を経て制作されているのかを、体験を通じ意識します。その上で、機能のためのかたちを認識します。
評価方法	常に問題意識をもって、制作に取り組んでいるかということを念頭に、制作態度、授業参加状況とします。
備 考	
テキスト・教材・経費等	

授業計画	第1回 土づくり(土練機使用について) 第2回 土づくり(荒練り) 第3回 土づくり(菊練り) 第4回 成形(石膏型を中心に 磁器1) 第5回 成形(石膏型を中心に 磁器2) 第6回 成形(石膏型を中心に 磁器3) 第7回 成形(石膏型を中心に 陶器1) 第8回 成形(石膏型を中心に 陶器2) 第9回 成形(石膏型を中心に 陶器3) 第10回 釉薬について(浸し掛け) 第11回 釉薬について(流し掛け) 第12回 釉薬について(コンプレッサー使用について) 第13回 上絵(赤絵)について 第14回 上絵(ラスタール彩)について 第15回 上絵(金銀彩)について
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、自己省察
準備学習(予習・復習)	ギャラリー、百貨店などで開催されている作家の個展、グループ展を鑑賞すると良いでしょう。また、工業製品の器にも美しいものがあります。それらも気をつけて観てください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3014	科目名	日本画Ⅰ			単位数	4
担当者	荒木 然一、前田 由芽、荒木 然一						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4111						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題設定力、発想力、創造・表現力					
概要	日本画の基礎的な取り組みを発展させていきます。複数の静物をモチーフに構成を重視しながら「静物」のテーマで制作をおこないます。様々なモチーフ(植物・果物・花瓶・布・食器など)を観察し、制作のテーマを検討していき、スケッチを重ねながら、表現のテーマを探っていきます。そして、それらをもとに、エスキース、草稿から本紙制作へ流れていく日本画制作の流れの体験を発展させていきます。20号から30号作品1点の本紙制作。						
教育目標との関連	「描くこと創ること」の基本を大切にしながら、日本画の持つ独自の表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。						
到達目標	日本画制作の流れを理解し、日本画独自の素材と技法の修得を目指します。						
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。						
備考							
テキスト・教材・経費等	日本画制作基礎用具一式(水干絵具/岩絵具/絵筆/墨、その他日本画制作に必要なものを一揃えとして基礎セットのかたちで購入します) パネルや和紙・絵具などは、各自が必要に応じて準備します。						
授業計画	第1回:複数の静物をモチーフに「静物」のテーマで制作 概要説明 第2回:様々なモチーフを観察し、写生・スケッチ① 第3回:複数のモチーフを観察し、写生・スケッチ② 作品のイメージを想定する 第4回:複数のモチーフを観察し、写生・スケッチ③ 構想を考えながらスケッチする 第5回:複数のモチーフを観察し、写生・スケッチ④ 作品の構想を意識してスケッチする 第6回:作品をイメージして草稿する① 全体像を検討 第7回:作品をイメージして草稿する② 細部を検討 第8回:作品をイメージして草稿する③ まとめ 第9回:紙本制作① 草稿を写す 第10回:紙本制作② 草稿を写し骨画き 第11回:紙本制作③ 胡粉・水干絵具による下塗り 第12回:紙本制作④ 岩絵具による下地作り 第13回:紙本制作⑤ 岩絵具 中塗り 第14回:紙本制作⑥ 岩絵具 仕上げ 第15回:講評会						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習						
準備学習(予習・復習)	日本画の制作では、和紙・墨・ニカワ・胡粉・岩絵具など日本画独自の素材について理解と技法などを修得していく必要があります。しっかりと制作ノートを作り、素材の研究を日々重ねるように努めてください。また、自分らしい表現を考え、素材研究を重ねられるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。						
免許・資格	中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目						



時間割番号	1L3015	科目名	洋画 I			単位数	4
担当者	木本 雅典、田中 直子、木本 雅典						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4211						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、想像・表現力

概 要	人体をモチーフに油彩画の制作を行います。絵画 I で学習したことを踏まえ、大きな画面に対して油彩でどのように表現するか模索しながら制作してください。
教育目標との関連	描くことの基本を大切に、画材の特性や人間の骨格を理解しながら、確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	各自の制作過程において人体を深く観察し、造形的要素を意識しながら、自己の表現として制作する。
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	クロッキー帖、油彩道具、30から50号キャンバス等

授業計画	第1回: 作品制作の概要説明 第2回: クロッキー(1)(人体の構造を捕まえて) 第3回: クロッキー(2)(固定ポーズを意識して) 第4回: クロッキー(3)(固定ポーズの決定) 第5回: エスキース制作 第6回: キャンバス張り 第7回: 木炭での下書き 第8回: 修正 第9回: 油彩での下地制作 第10回: 油彩での荒描き 第11回: 油彩での中間描き 第12回: 油彩での修正 第13回: 油彩での描きこみ 第14回: 油彩での仕上げ 第15回: 講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	絵画 I の実習よりも大きな画面に描きます。手を大きく動かして油絵の具の使い方をいろいろ工夫してみましょう。上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックでよいから常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。モデルを使った実習では制作時間が限定されています。ポーズ時間を大切に、集中して制作してください。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L3016	科目名	絵画表現 I			単位数	2
担当者	荒木 然一						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4021						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概要	日本画の基礎的な取り組みを進めています。屋外での自然の植物をモチーフに「春の草花」のテーマで制作をおこないます。自生する様々な植物を観察し、写生・スケッチをおこなうことで、表現のテーマを探っていきます。そして、それら写生・スケッチをもとに、草稿から本紙制作へ流れていく日本画制作の流れを体験していきます。15号から20号作品1点の本紙制作。日本画独自の水干絵具、岩絵具、膠、墨、和紙、様々な筆などの素材や、それらを用いた表現技法などの修得をすすめながら日本画制作の流れと表現の理解を深めていきます。
教育目標との関連	「描くこと創ること」の基本を大切にしながら、日本画の持つ独自の表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	日本画制作の流れ、日本画の素材と技法の修得を目指します。
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	日本画制作基礎用具一式(水干絵具/岩絵具/絵筆/墨、その他日本画制作に必要なものを一揃えとして基礎セットのかたちで購入します) パネルや和紙・絵具などは、各自が必要に応じて準備します。

授業計画	<p>第1回: 自然の植物をモチーフに「春の草花」のテーマで制作 概要説明</p> <p>第2回: 自生する様々な植物を観察し、写生・スケッチ①</p> <p>第3回: 自生する様々な植物を観察し、写生・スケッチ② 作品のイメージを想定する</p> <p>第4回: 自生する様々な植物を観察し、写生・スケッチ③ 構想を考えながらスケッチする</p> <p>第5回: 自生する様々な植物を観察し、写生・スケッチ④ 作品の構想を意識してスケッチする</p> <p>第6回: 作品をイメージして草稿する① 全体像を検討</p> <p>第7回: 作品をイメージして草稿する② 細部を検討</p> <p>第8回: 作品をイメージして草稿する③ まとめ</p> <p>第9回: 紙本制作① 草稿を写す</p> <p>第10回: 紙本制作② 草稿を写し骨画き</p> <p>第11回: 紙本制作③ 胡粉・水干絵具による下塗り</p> <p>第12回: 紙本制作④ 岩絵具による下地作り</p> <p>第13回: 紙本制作⑤ 岩絵具 中塗り</p> <p>第14回: 紙本制作⑥ 岩絵具 仕上げ</p> <p>第15回: 講評会</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	日本画の制作では、和紙・墨・ニカワ・胡粉・岩絵具など日本画独自の素材について理解と技法などを修得していく必要があります。しっかりと制作ノートを作り、素材の研究を日々重ねるように努めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3017	科目名	絵画表現 I	単位数	2
担当者	田中 直子、木本 雅典				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4021				
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、想像・表現力				
概要	風景をモチーフとしてスケッチと油彩画を制作します。 学内の風景を対象として、最初にスケッチを繰り返し制作します。何枚か制作していくうちに自分の気に入った場所を決め水彩絵の具を使用して構図の検討や制作の意図を確認します。そのエスキースを元に油彩で制作を進めます。 課題の最後にアクティブラーニングの手法で講評会を行います。				
教育目標との関連	描くことの基本を大切に、画材の特性を理解しながら確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。				
到達目標	各自の制作過程において油絵の具の技法を理解しながらモチーフを深く観察し、造形的要素を意識しながら自己の表現として制作する。				
評価方法	授業への取り組み、課題制作、作品提出を中心に総合的に評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	スケッチブック、油彩道具、20号キャンバス等				
授業計画	第1回： 風景スケッチ①(場所探し) 第2回： スケッチ②複数枚描画 第3回： スケッチ③着彩 第4回： エスキース①とキャンバス張り 第5回： エスキース② 第6回： 油彩画の制作①下描き(木炭) 第7回： 油彩画の制作②下描き(油彩) 第8回： 油彩画の制作③下塗り 第9回： 油彩画の制作④形等の検討 第10回： 油彩画の制作⑤修正 第11回： 油彩画の制作⑥中描き 第12回： 油彩画の制作⑦描き込み 第13回： 油彩画の制作⑧修正 第14回： 油彩画の制作⑨仕上げ 第15回： 講評会				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習				
準備学習(予習・復習)	最初とはとにかく描く事からはじめましょう。眺めるのと見て描くのでは同じ場所でも見え方は違います。なんでもない場所も手を動かして描いているといろいろな発見があり徐々に気持ちが入り込んでいくものです。一箇所ではなく何箇所かを描いてみる事で場所の選択肢を増やし、その中から一番気に入った場所を選ぶようにしましょう。決めた場所に描きたいものが漠然とでもあれば絵は半分以上出来たも同然です。上達の秘訣はとにかくたくさん描くことです。日常の中で描く癖をつけることが予習復習につながります。ポケットサイズのスケッチブックを常に身近に携帯して面白いと思ったものを描くことも良いでしょう。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1L3018	科目名	マンガ・キャラクター I			単位数	4
担当者	久保 直子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4311						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		計画力、創造力、表現力					
概要	1年後期で身に付けたスキルを活かし、それぞれの個性を尊重しながら、プロを目指してマンガまたはイラストを制作(アクティブラーニング)し、希望する賞や雑誌(媒体)に投稿します。 まずは投稿先を決め、傾向を研究し、投稿規定を確認、作品を制作します。 原則、マンガは1作品以上、イラストは4作品以上を投稿します。 また、卒業後の自主制作を有意義なものとするため、自分の作品を見極めると共に、クオリティ向上はもちろんセルフマネジメント能力の向上を目指します。						
教育目標との関連	「描くこと」「造ること」を基本に、実習を通して、感性を磨き、創造性を育み、集中力と持続力を養い、確かな表現力で地域社会に貢献できる個性豊かな人材の育成を目標としています。						
到達目標	入賞。						
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、計画性(20%)、完成作品(40%)による総合評価。						
備考	投稿先の媒体及び、アナログ・デジタル制作の選択は自由です。						
テキスト・教材・経費等	各自、必要な画材を適宜購入。						
授業計画	第1回 投稿先と規定の確認、相談、計画書の提出 第2回 マンガ:ネーム、イラスト①:下描き 第3回 マンガ:ネーム、イラスト①:ペン入れ 第4回 マンガ:ネーム、イラスト①:着彩・完成 第5回 マンガ:下描き、イラスト②:下描き 第6回 マンガ:下描き、イラスト②:ペン入れ 第7回 マンガ:下描き、イラスト②:着彩 第8回 マンガ:下描き、イラスト②:完成 第9回 マンガ:ペン入れ、イラスト③:下描き 第10回 マンガ:ペン入れ、イラスト③:ペン入れ 第11回 マンガ:ペン入れ、イラスト③:着彩・完成 第12回 マンガ:スクリーントーン貼り、イラスト④:下描き 第13回 マンガ:スクリーントーン貼り、イラスト④:ペン入れ 第14回 マンガ:スクリーントーン貼り、イラスト④:着彩 第15回 マンガ・イラスト完成 ※イラストは、締切に合わせて適宜投稿する。						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、調査学習、発見学習						
準備学習(予習・復習)	【1回~】投稿するからには「入賞」を目指すわけですが、そこだけに気を取られて作品を作ってしまうと、あまり良いものは出来ません。まずは自分が楽しめる作品作りと気持ちでいられるよう心がけましょう。						
免許・資格	中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目						

時間割番号	1L3019	科目名	映像・アニメーション I			単位数	4
担当者	堀尾 充、宮崎 しずか、堀尾 充						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4411						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力 企画・計画力 想像・表現力

概 要	AfterEffectsを中心としたソフトの技術を深めながら、各自のテーマによる自由制作を行う。卒業制作展に向けて、自分のテーマを発見する。積極的に作品を発表してみよう。
教育目標との関連	独自性のある高度な表現を目指す
到達目標	まとまった作品に仕上げ外部に発表できる
評価方法	制作物、課題への取り組みをもとに総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	各自必要に応じて。

授業計画	第1回: 自主計画立案 第2回: 企画のチェックと改善 第3回: 試作で問題点を抽出 第4回: 素材準備 第5回: 参考作品を紹介する。 第6回: 制作環境の整備 第7回: 進捗状況の中間確認 第8回: 音響企画立案 第9回: 映像制作と個別指導 第10回: アニメーション制作と個別指導 第11回: 音響制作と個別指導 第12回: 編集と個別指導 第13回: 進捗状況の最終確認 第14回: 修正 第15回: 完成と講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習 体験学習 グループ・ワーク
準備学習(予習・復習)	日頃から周りのもの、生き物を観察し、スケッチすること あらゆる芸術作品を鑑賞する 【2】新しく学んだCGの技術の復習をしましょう 【5・9】グループで話し合った内容プレゼンテーションで説明できる形にして、まとめておきましょう。 【6】立体物の展開図をあらかじめ作っておきましょう 【14】自主的にツイッターなどSNSを使って広報活動しましょう

免許・資格	中二免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L3020	科目名	グラフィックデザイン I			単位数	4
担当者	斉藤 克幸、藤目 治行、斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4511						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力						
概要	(公益社団法人)日本グラフィックデザイナー協会JAGDA広島地区主催の「広島平和ポスター学生コンペティション」に出品するためのポスターを制作します。ポスターは、情報を伝えるメディアとしては決して新しくなく、ごく小規模の訴求力しかなくともかかわらず昔も今もグラフィックデザイナーから重要視されています。何故ならポスターにはグラフィックデザインの基本が全部詰まっており、優れたバランス感覚が要求され、まさにデザイナーの実力が問われるからでしょう。色や形や造形(アイコン)と心に訴えるコピーによって、人に何をどう訴えたいのかを考えましょう。						
教育目標との関連	与えられた仕事をこなすだけのオペレーターではなく、自ら問題意識を持ち全体を構築していくことができるアートディレクターを目指します。						
到達目標	課題について熟慮し多くのアイデアスケッチを制作し最善の答えを見いだす努力をしたか。その結果優れた作品を制作することができたか。また、作品を愛し、細部にまで神経の行き届いた美しい仕事をしたか。(要点:アートディレクションする意識、意味やメッセージ性の意識、コンセプトを構築する力、発想力の訓練・プレゼンテーション・グラフィックデザインや様々な芸術に関する知識、社会正義の意識、DTPの技術)						
評価方法	作品・講評会におけるプレゼンテーション及び参加状況によって評価します。						
備考	自分で平和について考え調査などを行い、自分なりの結論を出すという意味で、この授業はアクティブラーニングであると言えます						
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。						
授業計画	第1回:平和とは何かということについて調べる、ブレインストーミング 第2回:平和に関する資料収集・聞き取り調査を行う 第3回:アイデアスケッチ1 第4回:アイデアスケッチ2 第5回:デザインのアイデア決定、制作方法(手描きかCGか)を検討1 第6回:デザインのアイデア決定、制作方法(手描きかCGか)を検討2 第7回:デザインのアイデア決定、制作方法(手描きかCGか)を決定 第8回:制作1 第9回:制作2 第10回:制作3 第11回:制作4 第12回:制作5 第13回:制作6 第14回:制作7(出力) 第15回:講評会、出品準備						
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査学習、問題解決型学習、ブレインストーミング						
準備学習(予習・復習)	【1~7】自分がデザインするポスターのテーマについて、十分に考え、多くのアイデアスケッチを制作すること。考えて考えて考え抜いてから方向性を定めよう。決して妥協しないこと。また、家族親戚などから平和について聞き取り調査をするなどしてみよう。小さめのクロッキー帳などをいつも持ち歩き、授業外の空きコマや通学中の車内・家庭などにおいて、常にアイデアスケッチをするよう心がけよう。ヒントはどこにあるか分かりません。どんなアイデアでも記録する習慣をつけよう。【8~14】作品に写真を用いるなら、休日などを利用して事前に撮影しておくこと。また、パソコンでのデザイン・レイアウト・編集作業に入ると、思いの外時間がかかります。空きコマ等を利用して各自制作を進めてください。						
免許・資格	中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教科に関する科目						

時間割番号	1L3021	科目名	ビジュアル表現 I			単位数	2
担当者	久保 直子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4041						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	主体性、考察力、計画力

概要	「造形演習 II」と連動させながら、マンガまたはイラストを、希望する賞や雑誌(媒体)に投稿します。 まずは投稿先を決め、その投稿規定を確認、傾向を研究し、それを元に作品を制作(アクティブラーニング)します。 原則、マンガは7月～8月 〆切のものとし、1作品以上を投稿します。 イラストは、6月～8月 〆切のものとし、4作品以上を投稿します。
教育目標との関連	自分の作品の立ち位置を見極めるとともに、卒業後の進路を見据えた実践的な授業を行います。
到達目標	入賞。
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、計画性(40%)、完成作品(20%)による総合評価。
備考	投稿先の媒体及び、アナログ・デジタル制作の選択は自由です。
テキスト・教材・経費等	各自、必要な画材を適宜購入。

授業計画	第1回 投稿先と規定の確認、相談、計画書の提出 第2回 マンガ:ネーム、イラスト①:下描き 第3回 マンガ:ネーム、イラスト①:ペン入れ 第4回 マンガ:ネーム、イラスト①:着彩・完成 第5回 マンガ:下描き、イラスト②:下描き 第6回 マンガ:下描き、イラスト②:ペン入れ 第7回 マンガ:下描き、イラスト②:着彩 第8回 マンガ:下描き、イラスト②:完成 第9回 マンガ:ペン入れ、イラスト③:下描き 第10回 マンガ:ペン入れ、イラスト③:ペン入れ 第11回 マンガ:ペン入れ、イラスト③:着彩・完成 第12回 マンガ:スクリーントーン貼り、イラスト④:下描き 第13回 マンガ:スクリーントーン貼り、イラスト④:ペン入れ 第14回 マンガ:スクリーントーン貼り、イラスト④:着彩 第15回 マンガ・イラスト完成 ※イラストは、締切に合わせて適宜投稿する。
アクティブラーニングの授業形態	体験学習、調査学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	【1回～】投稿するからには「入賞」を目指すわけですが、そこだけに気を取られて作品を作ってしまうと、あまり良いものは出来ません。 まずは自分が楽しめる作品作りと気持ちでいられるよう心がけましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3022	科目名	ビジュアル表現 I			単位数	2
担当者	堀尾 充						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4041						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	デジタルカメラでの静止画と動画の撮影で、映像の基本を学習します。 描いて表すこと以上に、映像による視覚伝達が多くなっているため、使える写真を撮る能力を身に付けましょう。様々な状況でトレーニングします。
教育目標との関連	学科の専門教育科目です。
到達目標	印象的な画像によって、自分の「気持ち」をイメージによって他人に伝えること。
評価方法	学習への取り組み(50%)と制作物(50%)で評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	金属製の菓子缶などが利用できるので準備しておこう。印画紙や写真材料、印刷代などで1000円程度必要です。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 写真の原理と作品鑑賞</li> <li>2. 静物と構図</li> <li>3. 静物と照明</li> <li>4. コンピュータによる暗室作業</li> <li>5. 人物(屋外)</li> <li>6. 人物(室内)</li> <li>7. 補正と編集</li> <li>8. テクスチャ</li> <li>9. 近接撮影</li> <li>10. 映像資料の応用</li> <li>11. 動画撮影</li> <li>12. 実習取材</li> <li>13. 動画編集</li> <li>14. 作品制作</li> <li>15. 鑑賞と講評</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	実制作、教えあい
準備学習(予習・復習)	普段からカメラを持ち歩いて「探す」と、何かがやってくるものです。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1L3023	科目名	ビジュアル表現 I		単位数	2
担当者	中村 和人、斉藤 克幸					
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技	
ナンバリング	1L4-4041					
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○				
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力、企画・計画力、コミュニケーション力				
概要	グラフィックデザインの実践的な課題として、見せるマップデザインと、ビクトグラムまたは欧文タイプフェースを制作します。制作にあたっては、デザインする内容をまず検討し、次にアイデア(デザイン)を考え、下絵原案(サムネール)を制作し、実制作していきます。最後にプレゼンテーションも行います。					
教育目標との関連	ただ形にするだけではなく、何か面白いアイデアや工夫があると、グラフィックデザインは輝きを増していきます。自分がお金を出して買いたいと思うものを作ろう。					
到達目標	課題について熟慮し多くのアイディアスケッチを制作し最善の答えを見いだす努力をしたか。その結果優れた作品を制作することができたか。また、作品を愛し、細部にまで神経の行き届いた美しい仕事をしたか。(要点:楽しさ・面白さ・ユーモア・驚きを与えようとする感覚、斬新さの追求、機能性を追求し改善する力、DTPの技術)					
評価方法	作品・講義会におけるプレゼンテーション及び参加状況によって評価します。					
備考	身近にあるパッケージやカレンダーに問題点や不満はありませんか?もっとうだつたらいいのに、何故こうなっているんだろう?と、批評的な視線で見よう。					
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。					
授業計画	第1回: 課題説明、デザイン事例紹介 第2回: 制作する媒体(販促ツール)・ターゲット層や時代性を検討 第3回: サムネールを制作 第4回: デザインマップの表現を検討、下絵の制作 第5回: デザインマップの本制作に入る 第6回: タイプフェースまたはビクトグラムの検討 第7回: フォントサイズとレイアウトについて 第8回: 和文フォントについて、大きさと組み方について 第9回: 見せるデザインマップとタイプフェースまたはビクトグラムの制作進行 第10回: 制作進行の確認、デザインの進め方やMacの使い方 第11回: 制作進行、全体の統一感、チェック 第12回: 制作進行、出力テスト 第13回: 制作進行、修正 第14回: 最終仕上げ 第15回: プレゼンテーション					
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決型学習、プレゼンテーション					
準備学習(予習・復習)	デザインが気に入ったマップやロゴなどを集めておいてください。それらが、どんな工夫をしているのかを見極めてみましょう。【!~15】小さめのクロッキー帳などをいつも持ち歩き、授業外の空きコマや通学中の車内・家庭などにおいて、常にアイディアスケッチをするよう心がけましょう。ヒントはどこにあるか分かりません。どんなアイディアでも記録する習慣をつけましょう。					
免許・資格						
免許・資格の科目区分						

時間割番号	1L3024	科目名	染織 I	単位数	4
担当者	寺田 勝彦、南 容子、寺田 勝彦				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4611				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力, 発想力, 創造・表現力

概 要	この授業では、江戸時代以降日本の代表的な染色法となった[型染と筒描き染]を作品制作を通して体験します。技法や道具による染色表現の面白さを見つけてください。
教育目標との関連	1年次で学習した染織の基本を大切に、新しい素材や技法を理解しながら確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	さまざまな染色表現の理解を深める
評価方法	提出作品(60%)制作態度・参加状況(40%)などにより総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布します。布代、型紙代 2,500円程度

授業計画	(静物をモチーフにした型染) 第1回 スケッチ、デッサン 第2回 墨描原画を描く(モノクロによる構成) 第3回 型紙を彫る 第4回 糊置き、地入れをする 第5回 薄色の彩色 第6回 濃い色の彩色 第7回 蒸し、水洗をする (染色イラストで旗・のぼりを作る) 第8回 線画を描く 第9回 布地に下書きをする 第10回 筒で糊を置く 第11回 地入れをする 第12回 薄色の彩色 第13回 濃い色の彩色 第14回 蒸し・水洗 第15回 作品の仕上げとまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 体験学習
準備学習(予習・復習)	作品制作では、どのような分野・領域でも基本をしっかりと理解しておくことは大切です。特に染織デザイン等の工芸系分野では、技術的なことの理解も作品制作にとって重要なポイントになります。配布されたプリントにメモ書きしたり、自分の制作ノートを作ったりしてそれぞれの理解を確かなものにしてください。うまくいかなかった事でもそれを書き留めておくと同じ失敗はくり返しません。また、失敗の中から新たな可能性を見つけることもよくあります。自分の制作ノートを作りましょう。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L3025	科目名	陶芸 I			単位数	4
担当者	今田 拓志、原紺 絢子、今田 拓志						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4711						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	コミュニケーション力、創造・表現力

概要	電動ろくろを使用し、粘土を立ち上げ器を制作する作業は、陶芸ならではの醍醐味の一つです。食器（湯のみ、茶碗、皿など）制作を中心とした授業です。また、絵付け、釉薬の基礎的な説明もします。言葉による説明を通し、理屈で修得することはもちろんですが、同じことを繰り返し経験学習することで、体で技法などを修得していきます。
教育目標との関連	ロクロ成形は量産に適している技法の一つです。同形のを数多くつくります。鳥獣戯画、北斎マンガを手本とし、鉄絵の模写をします。
到達目標	ろくろ技術 筆さばきの習得。 鉄釉、薬灰釉など釉薬の原料と装飾の把握。 ロクロ成形による同形のもの量産。
評価方法	提出作品、制作態度、参加状況等を対象とします。
備考	
テキスト・教材・経費等	▽参考書：参考文献等は適宜紹介します。

授業計画	第1回 電動轆轤を用いた芯だし、土殺し 第2回 棒引きを中心とした水挽き（湯呑、ご飯茶わん等） 第3回 湿台を用いた高台削り 第4回 玉造りを中心とした水挽き（中皿、中鉢等） 第5回 湿台を用いない高台削り 第6回 鳥獣戯画を和紙に模写 第7回 北斎マンガを和紙に模写 第8回 器に化粧土で装飾 第9回 素焼きの窯詰め、窯焚き 第10回 素焼き済作品のサンドペーパー掛け、拭き取り 第11回 鳥獣戯画を器に模写（鉄絵） 第12回 北斎マンガを器に模写（鉄絵） 第13回 釉薬掛け 第14回 本焼きの窯詰め、点火 第15回 まとめ（作品講評）
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習
準備学習（予習・復習）	手の感覚を頼りに同形のものをつくります。しっかり身体で覚えてください。計量器などに頼らないでください。

免許・資格	中2種免（美術）
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L3026	科目名	工芸表現 I			単位数	2
担当者	寺田 勝彦						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4061						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		情報収集力, 発想力, 創造・表現力					
概 要	2年次前期は新しい素材や技法に出会う時期です。この授業では連続と展開をテーマに写真製版によるシルクスクリーンプリントを取り上げます。大きく広がりがつながらる形を2メートルの布に染色します。この実習で布や染料の扱いなど染色実習の基本をマスターしてください。						
教育目標との関連	1年次で学習した染織の基本を大切にして、新しい素材や技法を理解しながら確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。						
到達目標	染める前の準備(精練)や、糸・布の基本的な扱いを理解すること 染料の使用法とそれに伴う注意点などを理解すること						
評価方法	提出作品(60%)制作態度・参加状況(40%)などにより総合的に評価します。						
備 考							
テキスト・教材・経費等	課題説明や技術的なことについては、適宜プリントを配布します。 布代600円程度と染料代3,000円程度(以後の染織実習でも使います)がかかります。						
授業計画	第1回 様々な形をフロッタージュやデカルコマニーで写し取る 第2回 同上 第3回 同上 第4回 30cm×30cmの画面の中に構成する 第5回 4枚から9枚コピーし連続を吟味する 第6回 シルクスクリーンに感光剤を引く 第7回 原稿を載せて感光する 第8回 色糊を作る 第9回 布を板に張る 第10回 1版目を染色する 第11回 1版目の色が乾燥したら2版目の色を染める 第12回 全体を見ながら筆や指で色を足す 第13回 乾燥後板からはがし蒸しをする 第14回 水洗し乾燥する 第15回 批評会をして作品写真を写す						
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 体験学習						
準備学習(予習・復習)	作品制作では、どのような分野・領域でも基本をしっかりと理解しておくことは大切です。特に染織デザイン等の工芸系分野では、技術的なことの理解も作品制作にとって重要なポイントになります。配布されたプリントにメモ書きしたり、自分の制作ノートを作ったりしてそれぞれの理解を確かなものにしてください。うまくいかなかった事でもそれを書き留めておくと同じ失敗はくり返しません。また、失敗の中から新たな可能性を見つけることもよくあります。自分の制作ノートを作りましょう。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1L3027	科目名	工芸表現 I			単位数	2
担当者	今田 拓志						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4061						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題設定力、発想力					
概 要	陶芸制作における下準備のための授業です。土練りなどの粘土作りを通して、素材に触れることから始めます。実際の作品制作にあたっては、コンセプトが重要になります。デッサン、スケッチを中心に、形、絵付けなどを考えます。すべての工程は、各自からたを動かす経験学習の方法をとります。						
教育目標との関連	一年次の実習に続いて、改めて土に触れます。より専門的な土の扱いを習得します。						
到達目標	100kgの粘土作り。 植物を中心としたデッサン。 制作のための道具づくり。 土練り、絵付けのためのスケッチの習得。						
評価方法	制作態度、提出作品、授業参加状況などを対象とします。						
備 考							
テキスト・教材・経費等	スケッチブック、鉛筆、筆、絵の具 等						
授業計画	第1回 粘土づくり(土練機をつかって) 第2回 粘土づくり(真空土練機をつかって) 第3回 粘土づくり(荒練り、菊練り) 第4回 スケッチ(植物を中心として) 第5回 スケッチ(動物を中心として) 第6回 スケッチから絵付けへ(モノトーン) 第7回 スケッチから絵付けへ(カラフル) 第8回 スケッチから模様へ(モノトーン) 第9回 スケッチから模様へ(カラフル) 第10回 スケッチから形へ(手捻り成形A) 第11回 スケッチから形へ(手捻り成形B) 第12回 スケッチから形へ(石膏型成型A) 第13回 スケッチから形へ(石膏型成型B) 第14回 スケッチから形へ(電動ろくろ成形A) 第15回 スケッチから形へ(電動ろくろ成形B)						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ学習、調査・実習						
準備学習(予習・復習)	土練りの作業は、何度も繰り返し身体で覚えていくものです。根気強く行ってください。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1L3028	科目名	美術史演習			単位数	2
担当者	高木 茂登						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L2-4110						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	写真や映像メディアの普及発達が著しい今日とはいえ、美術作品の実体を十全に理解しようとするれば、実際に実物に接するのが最良の方法です。この授業では事前にガイドブックを作成するなど学習した上で、実際に歴史的に重要な場所や都市を訪れ、寺院などを巡り、歴史的な環境(建造物、景観、風土)のなかで美術作品(文化財)を自分の目で確かめ体験的に学習(アクティブラーニング)することによって、美術史での学習内容の理解を深めます。
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。
到達目標	(1)実物から学ぶことの重要性に気づくこと (2)時代様式、材質、技法などの理解を深める (3)文化遺産の美術的価値を認識すること
評価方法	ガイドブック作成(20%)、研修態度(40%)とレポート(40%)を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	実地研修(3泊4日)費用に約5万円が必要です。

授業計画	第1回 :オリエンテーション 研修計画 第2回 :事前学習①研修先研究 第3回 :事前学習②ガイドブック作成 第4回 :奈良・京都での実地研修(3泊4日)第1日目奈良①法隆寺他 第5回 :実地研修第2日目奈良②室生寺 第6回 :実地研修第2日目奈良③薬師寺 第7回 :実地研修第2日目奈良④唐招提寺 第8回 :実地研修第2日目奈良⑤興福寺 第9回 :実地研修第3日目奈良⑥東大寺 第10回 :実地研修第3日目京都①浄瑠璃寺 第11回 :実地研修第3日目京都②平等院 第12回 :実地研修第3日目京都③東寺 第13回 :実地研修第3日目京都④三十三間堂 第14回 :実地研修第3日目京都⑤自主研修 第15回 :まとめ (レポート/ レポートをまとめてレポート文集を作成します)
アクティブラーニングの授業形態	体験学習、グループ学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	事前学習をしっかりとし、見学のポイントや意義を理解したうえで見学しましょう。現地での気付きはメモを取り、レポートに備えてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3029	科目名	マンガ持込み演習			単位数	2
担当者	久保 直子						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L2-4120						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	「マンガ・キャラクターI」で制作したマンガやイラストを印刷・製本します。 完成した作品は各自の希望する編集部へ持ちこみを行います。 また、自主制作漫画誌展示即売会「COMITIA」にも出展し、制作から販売までをアクティブラーニングをふまえて経験学習します。
教育目標との関連	美術科で培った技術と表現性をより発展させ、プロを意識した作品制作を重視します。
到達目標	今後への課題と展望を見出すことを目的とする。
評価方法	授業態度(30%)・完成作品(30%)・レポート(40%)による総合評価。
備考	履修登録条件:出版社(編集部)への作品持ち込み ※マンガ・キャラクターコース以外の学生も履修可能です。
テキスト・教材・経費等	宿泊(3泊4日)・交通費:40,000～50,000円 コミティア出展費:無料 マンガ関連見学費:1,500円程度

授業計画	<p>第1回 説明会と制作、出展準備  第2回 説明会と制作、出展準備  第3回 説明会と制作、出展準備  第4回 8/19(土)上京、マンガ・イラスト関連施設の見学  第5回 8/19(土)COMITIA前日準備  第6回 8/20(日)この先生と共同で「COMITIA」に出展、および出張マンガ編集部へ持込み  第7回 8/20(日)この先生と共同で「COMITIA」に出展、および出張マンガ編集部へ持込み  第8回 8/20(日)この先生と共同で「COMITIA」に出展、および出張マンガ編集部へ持込み  第9回 8/21(月)マンガ・イラスト関連施設の見学  第10回 8/21(月)希望する編集部へ各自持ちこみ。  第11回 8/21(月)希望する編集部へ各自持ちこみ。  第12回 8/22(火)アニメーション制作会社見学※予定  第13回 8/22(火)希望する編集部へ各自持ちこみ。  第14回 8/22(火)希望する編集部へ各自持ちこみ。  第15回 レポート作成、まとめ</p> <p>※スケジュールは状況によって変更の可能性があります。</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	<p>コミティアに出展できる同人誌(等)は、オリジナル作品に限っており、二次創作・パロディ作品は不可です。オリジナル作品であれば、傾向の制限は特にありません。</p> <p>【1～3回】自作マンガを「商品」として「販売」することを目的として出展しますので、そのことを念頭に置いた上で、作品を制作しましょう。</p>

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L3030	科目名	テキスタイルコンピュータ			単位数	1
担当者	寺田 勝彦						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-3040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	この授業では、織り・染め・アパレル・ファッションなどテキスタイル領域でのコンピューターの活用を、ウェビングデザイン(織物設計)、パターンデザインの制作、ファッションデザインのシミュレーションなど具体的な課題を通して学習します。また、近頃では、デジタルプリントと言って直接出力(印刷)できる布の種類もたくさんあります。そうした素材を使つてのコンピューターによる染色を体験して下さい。最後にそれぞれの作品を大きな布(1m×1m)に出力してデジタルプリント展を開きます。
教育目標との関連	描くこと、造ることの基本をデジタルな領域、テキスタイルの領域で生かす方法の1つがこの授業です。素材や技法などの制約から少し離れて染織デザインを考えます。
到達目標	織物組織とコンピューターとの関係・布とCG画像との関係などの理解
評価方法	提出作品(60%)制作態度・参加状況(40%)などにより総合的に評価します。
備考	様々な布素材への出力から、CGで制作した物の実物への広がりを考えてください。
テキスト・教材・経費等	適宜プリントを配布します。印刷費、布代など1000円程度

授業計画	第1回 織物シミュレーション・三元組織を理解する 第2回 織物シミュレーション・4枚綜統の織物をシミュレーションで制作する 第3回 パターンデザイン①子供服の柄を考える 第4回 パターンデザイン②子供服の柄を考える 第5回 子供服の柄を布に出力する 第6回 パターンデザイン③大人の服の柄を考える 第7回 パターンデザイン④大人の服の柄を考える 第8回 大人の服の柄を布に出力する 第9回 現代の着物文様を考える① 第10回 現代の着物文様を考える② 第11回 ファッション雑誌の1ページを制作する① 第12回 ファッション雑誌の1ページを制作する② 第13回 ファッション雑誌の1ページを制作する③ 第14回 大きな布に出力した作品をデジタルプリント展で展示する 第15回 まとめと批評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、課題解決学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	シャツやジャケット、ワンピースなど具体的な服装のイメージを持って制作します。日頃見慣れているファッション雑誌等も参考にしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1L3031	科目名	WEBデザイン演習			単位数	1
担当者	泉尾 祥子						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1L3-4020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	Adobe DreamweaverとPhotoshop、Illustratorを使ってwebサイトを制作します。 実習と課題制作(ポートフォリオとして使える作品ギャラリーのあるwebサイトデザイン)を通して、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につけます。
教育目標との関連	美術科が重視するデジタル表現で、もっとも応用が期待される分野です。
到達目標	1) Adobe Dreamweaver基本操作の習得 ・ローカルサイト作成 ・テキスト入力と画像配置 ・html/css基本操作 2) セマンティックなweb制作 3) コンセプトとユーザビリティに配慮したwebサイトデザイン
評価方法	授業参加度(30%)、授業毎の課題提出(20%)、最終課題の完成度(50%)の総合点で評価する。
備 考	人数制限:24名
テキスト・教材・経費等	テキストと作例のデータはWEBサイトから配布します。 { <a href="http://cuocue.com/practice/">http://cuocue.com/practice/</a> }

授業計画	第1回 オリエンテーション、Adobe Dreamweaver基本操作、ファイルの管理 第2回 HTML基本(ローカルサイト・HTMLファイル作成、テキスト・画像入力、リンクの設定) 第3回 CSS基本(CSS記述と外部ファイルへの書き出し) 第4回 コンセプトとユーザビリティ 第5回 ボックスの活用(divタグを 活用したレイアウト作成) 第6回 セレクタの活用(テーブルを用いたクラスセレクタ活用例) 第7回 webデザイン応用技術1 (HTML5・<form>要素) 第8回 webデザイン応用技術1 (HTML5・JavaScript) 第9回 webデザイン応用技術2(ギャラリーページ) 第10回 webページ制作の流れ(展開と技術) 第11回 最終課題制作 コンセプトデザイン 第12回 最終課題制作 (webサイト制作) 第13回 最終課題制作 (webサイト制作) 第14回 最終課題制作 (動作確認・アドバイス等) 第15回 最終課題制作 (最終調整・提出)
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習
準備学習(予習・復習)	【予復習】様々なサイトについて、情報の魅力的な見せ方に注意してみる。 【課題】授業毎の課題制作や最終課題が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4001	科目名	美術史Ⅳ			単位数	2
担当者	高木 茂登						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1L2-3040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	明治以降、西洋美術が本格的に導入されると日本の美術は著しい変化を見せます。それまでとはまったく異質の世界との出会いによる刺激と、それに伴う近代化による変化と発展が遂げられてきました。今日の日本の美術はより広い世界との関係の中で成立しています。近代日本の美術を概観し、あらためて世界における日本の美術のあり方を考察します。
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。
到達目標	(1)近代日本美術の流れを理解すること (2)近代日本美術における西洋の影響と独自性を理解すること (3)現代における表現にどのように活用できるかを課題とすること
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。
備考	
テキスト・教材・経費等	テキスト/カラー版『日本美術史』美術出版社(1900円)、その他プリントを配付します。

授業計画	第1回:概要と近代の前景Ⅰ 第2回:近代の前景Ⅱ 第3回:明治初期の洋画 第4回:フェノロサと芳崖 第5回:脂派と紫派 第6回:天心と新日本美術 第7回:京都画壇の脱皮 第8回:初期文展 第9回:明治の彫刻 第10回:大正期の新潮 第11回:日本美術院の再興と国画創作協会 第12回:創作版画 第13回:日本の前衛とフォーブ 第14回:戦争の時代 第15回:戦後の美術・総括
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー
準備学習(予習・復習)	授業の予習・復習にはテキストをよく読んでください。さらに興味がわいた時代や作家について図書館の画集や解説書で調べてください。また美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4002	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	荒木 然一				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概要	卒業制作にあたり、制作テーマの設定やそれに伴うモチーフ、表現素材の選択など、制作にかかわる課題を検討しながらモチベーションを高め、制作に向かいます。各自が制作の計画表を作成し、教員はそれぞれの内容に基づいて個別に対応していきます。特に制作テーマに基づいたモチーフの選定等について、しっかりと話し合っていきます。積極的に考え行動し、自分の思いを大きく展開できるようにしてください。
教育目標との関連	「創造すること」の基本を大切にしながら、それぞれの専門分野での独自表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける。
評価方法	制作へ向けての課題への取り組みを中心に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	各自が、それぞれの表現に必要な応じて素材などを準備します。

授業計画	<p>第1回：各自が制作の計画表を作成し、それに基づきモチーフを検討する</p> <p>第2回：モチーフを絞りながら写生・スケッチをすすめる</p> <p>第3回：対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる①</p> <p>第4回：対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる②</p> <p>第5回：対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる③</p> <p>第6回：対象となるモチーフから作品のイメージを想定しながら写生・スケッチをすすめる④</p> <p>第7回：写生・スケッチをすすめるながら作品のイメージのエスキースを検討する</p> <p>第8回：スケッチを基に、作品のイメージを検討しながら複数のエスキースを作成する①</p> <p>第9回：スケッチを基に、作品のイメージを検討しながら複数のエスキースを作成する②</p> <p>第10回：スケッチ、エスキースを基に草稿を制作する①</p> <p>第11回：スケッチ、エスキースを基に草稿を制作する②</p> <p>第12回：スケッチ、エスキースを基に草稿を制作する③</p> <p>第13回：スケッチ、エスキースを基に草稿を制作する④</p> <p>第14回：スケッチ、エスキースを基に草稿を制作する⑤</p> <p>第15回：講評会 個々の取り組みについては、順次個別に指導を行います</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	自分らしい作品作りには、多くの作家の作品や作品展などを積極的に鑑賞し、表現世界の多様性を肌で感じることも大切です。多くの作家と作品に出会い、それぞれの専門分野での素材・表現の研究を考えながら制作に取り組めるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備をしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4003	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	木本 雅典				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、想像・表現力

概 要	卒業制作にあたり、制作テーマの設定やそれに伴うモチーフ、表現素材の選択など、制作にかかわる課題を検討しながらモチベーションを高め、実制作に向かいます。
教育目標との関連	「創造すること」の基本を大切にしながら、それぞれの専門分野での独自表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける。
評価方法	制作へ向けての課題への取り組みを中心に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	各自が、それぞれの表現に必要なに応じて素材などを準備します。

授業計画	第1回: 作品制作の概要説明 第2回: エスキース制作(構想を練る) 第3回: エスキース制作(鉛筆での制作) 第4回: エスキース制作(着彩) 第5回: エスキースの決定 第6回: キャンバス張り 第7回: 木炭での下書き 第8回: 修正 第9回: 油彩での下地制作 第10回: 油彩での荒描き 第11回: 油彩での中間描き 第12回: 油彩での修正 第13回: 油彩での描きこみ 第14回: 油彩での仕上げ 第15回: 講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	自分らしい作品作りには、多くの作家の作品や作品展などを積極的に鑑賞し、表現世界の多様性を肌で感じることも大切です。多くの作家と作品に出会い、それぞれの専門分野での素材・表現の研究を考えながら制作に取り組めるようにしてください。そのためには図書館で画集を見たり、美術館で展覧会を見たりするのが良いでしょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4004	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	堀尾 充				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	企画・計画力 想像・表現力

概 要	卒業制作にあたり、制作テーマの設定やそれに伴うモチーフ、表現素材の選択など、制作にかかわる課題を検討しながらモチベーションを高め、実制作に向かいます。
教育目標との関連	「創造すること」の基本を大切にしながら、それぞれの専門分野での独自表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける。
評価方法	制作へ向けての課題への取り組みを中心に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	各自が、それぞれの表現に必要なに応じて素材などを準備します。

授業計画	各自が制作の計画表を作成し、教員はそれぞれの内容に基づいて個別に対応していきます。特に制作テーマに基づいたモチーフの選定等について、しっかりと話し合っていきます。積極的に考え行動し、自分の思いを大きく展開できるようにしてください。 1. 自主制作1 制作テーマの選定 2. 企画と資料収集 3. 構想と展開 4. 制作①レイアウト 5. 制作②作りこみ 6. 制作③編集 7. 制作④仕上げ 8. 自主制作2 制作テーマの選定 9. 企画と資料収集 10. 構想と展開 11. 制作①レイアウト 12. 制作②作りこみ 13. 制作③編集 14. 制作④仕上げ 15. プレゼンテーションと講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	プロジェクト学習
準備学習(予習・復習)	自分らしい作品作りには、多くの作家の作品や作品展などを積極的に鑑賞し、表現世界の多様性を肌で感じることも大切です。多くの作家と作品に出会い、それぞれの専門分野での素材・表現の研究を考えながら制作に取り組めるようにしてください

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4005	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	斉藤 克幸				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概要	卒業制作として発表するための作品を制作します。これまで学んできたことの集大成ですから、精一杯の実力を発揮してください。自分で考え、自分で行動し、自分で結論を出していきます。また卒業制作の場合、美術館で人に見せるという要素が入ってきます。デザインは、絵画と違って作品が比較的小さなサイズになる場合も少なくありませんからプレゼンテーションをいかにするかがポイントです。プレゼンは、デザインにとって切っても切りはなせない重要な要素ですから、うまく見せる工夫をしましょう。
教育目標との関連	与えられた仕事をこなすだけのオペレーターではなく、自ら問題意識を持ち全体を構築していくことができるアートディレクターを目指します。
到達目標	課題について熟慮し多くのアイデアスケッチを制作し最善の答えを見いだす努力をしたか。その結果優れた作品を制作することができたか。また、作品を愛し、細部にまで神経の行き届いた美しい仕事をしたか。
評価方法	しっかりとアートディレクションできているか。完成度の高い仕事ができているか。
備考	日頃から、あらゆるデザインをはじめとした造形や芸術に関心を持ち鑑賞すること。継続的に読書し映画鑑賞すること。自分自身の内部を豊かに磨いてください。
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。

授業計画	<p>第1回:各自、制作目標を検討、アイデアスケッチ・資料収集など</p> <p>第2回:アイデア・イメージスケッチ、調査・写真撮影など</p> <p>第3回:作品の内容・展示方法等を担当教員と相談し計画を立てる</p> <p>第4回:作品の内容・展示方法等を決定</p> <p>第5回:制作1(材料調達など)</p> <p>第6回:制作2</p> <p>第7回:制作3</p> <p>第8回:制作4</p> <p>第9回:制作5</p> <p>第10回:制作6</p> <p>第11回:制作7</p> <p>第12回:制作8(配色・構図・作品のバランス・完成度の検討と修正)</p> <p>第13回:制作9(作品制作仕上げ・完成・出力・パネル貼りなど)</p> <p>第14回:制作10(作品養生・梱包など)</p> <p>第15回:広島県立美術館地下1階県民ギャラリーに搬入・展示・写真撮影・搬出</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決型学習
準備学習(予習・復習)	【1～15】デザインの場合、アイデアやデザインの方向性を決定(アートディレクション)するまでに、時間を要する場合があります。メ切が気になり焦る気持が、つい、安易なデザインに逃げる口実となってしまう場合がありますが、少し我慢して、最善の案を待つことも一つの方法です。また短大生にとっての最終学期は、比較的時間に余裕のある時間割となっているはずですが、授業外の時間もフル活用して制作にあたってください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4006	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	寺田 勝彦				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力, 企画・計画力, 創造・表現力

概要	この授業では、前期の染織実習で取り組んだ課題の中から特に興味を持ったものを1つ取り上げ、自由にテーマ設定して自主的に取り組みます。「自由に考えても良いですよ」と言われるとなかなか手は動かないものです。自分が経験してきたことや制作してきた物から発展させるのが近道です。全版パネルの大きさを基本とします。
教育目標との関連	これまで修得してきた様々な染織技法を大切にしながら自らのテーマに沿って確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	独自のテーマ設定で取り組むこと
評価方法	提出作品(60%)制作態度・参加状況(40%)等により総合的に評価します
備考	
テキスト・教材・経費等	参考資料などは適宜紹介します。

授業計画	(自由制作1) 第1回 テーマ・モチーフを決める 第2回 スケッチ・デッサンをする。写真を撮る。模型を作る ① 第3回 スケッチ・デッサンをする。写真を撮る。模型を作る ② 第4回 スケッチ・デッサンをする。写真を撮る。模型を作る ③ 第5回 原寸大原稿を描く 第6回 素材を準備する 第7回 制作する① 第8回 制作する② 第9回 制作する③ 第10回 制作する④ 第11回 制作する⑤ 第12回 テーマ・モチーフを再度確認する 第13回 制作を続ける① 第14回 制作を続ける② 第15回 作品を仕上げる
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 体験学習
準備学習(予習・復習)	まずは手を動かしてみるところから始めてください

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4007	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	今田 拓志				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	情報収集力、創造・表現力

概 要	卒業制作にあたり、制作テーマの設定やそれに伴うモチーフ、表現素材の選択など、制作にかかわる課題を検討しながらモチベーションを高め、実制作に向かいます。
教育目標との関連	描くこと・造ることの基本を大切に、これまで学んできた成果をそれぞれの領域で形にします。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける。
評価方法	各自の設定した課題への取り組み態度、完成した作品を中心に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	プリント等は適宜配布します

授業計画	第1回 制作作品の検討(造形について) 第2回 制作作品の検討(技法について) 第3回 作品成形(粘土の立ち上げ その1) 第4回 作品成形(粘土の立ち上げ その2) 第5回 作品成形(粘土の立ち上げ その3) 第6回 作品成形(粘土の立ち上げ その4) 第7回 作品成形(粘土の立ち上げ その5) 第8回 作品成形(加飾 その1) 第9回 作品成形(加飾 その2) 第10回 作品成形(加飾 その3) 第11回 素焼き窯詰め、焼き 第12回 絵付け、施釉 第13回 本焼き窯詰め 第14回 本焼き窯焼き 第15回 作品展示 講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・学習、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	【1回】自主的な行動が大切です。積極的な活動から制作の方向を見つけてください。 【2回】様々な技法、材料が存在します。各自の表現に合った技法・材料を探し出す姿勢が大切です。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1L4008	科目名	特別制作	単位数	2
担当者	久保 直子				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技
ナンバリング	1L4-4011				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	自立、計画力、プレゼンテーション

概 要	「ビジュアル表現 II」とリンクさせながら、これまで学んできたことの集大成として、卒業制作に取り組みます。また、県立美術館での展示にあたり、客観性とクオリティを最重要視しながら、制作を進めていきます。
教育目標との関連	短大本科でのアクティブラーニングで培った技術と表現性を、より発展させ、自主的に自分の考えで計画し完成させていくことを重視します。
到達目標	描きたいテーマ、それを表現できる画材と技術、そしてアイデアを活かし、集大成に相応しい作品を完成させ、それを魅力的にインスタレーション(空間展示)することを目的とします。
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、完成作品(40%)、展示方法(20%)による総合評価。
備 考	
テキスト・教材・経費等	各自の卒業制作の内容により、適宜購入。

授業計画	第1回 卒業制作企画書提出、調整 第2回 プレゼンテーション 第3回 各自制作 第4回 各自制作 第5回 各自制作 第6回 各自制作 第7回 各自制作 第8回 インスタレーション展示準備 第9回 インスタレーション展示準備 第10回 インスタレーション展示準備 第11回 梱包 第12回 梱包 第13回 搬入・設営 第14回 講評会 第15回 講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、プロジェクト学習
準備学習(予習・復習)	【2回】プレゼンテーションの時間は1人5分ですので、一度は練習しておきましょう。 【8回】事前に色々な展覧会を観て、インスタレーション展示について学び、考えておきましょう。 「卒業制作展」という場で展示されることの意識を持つこと。 変更不可能で確実な〆切(展覧会期間)を先見性をもって計画的に制作すること。 この2つが、とても重要です。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4009	科目名	日本画Ⅱ			単位数	4
担当者	荒木 然一、前田 由芽						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概要	2年間の学習の成果として「自由テーマ」による制作をすすめます。日本画表現の中にある自分自身にそれぞれテーマを設け、素材とモチーフを自分自身の関わりの中で十分に生かし、卒業制作に向けて表現することの意味を見出していきます。
教育目標との関連	「描くこと創ること」の基本を大切にしながら、日本画の持つ独自の表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	二年間の学習の成果として、これまでの課題を十分に意識した作品制作を目指します。
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	パネルや和紙・絵具などは、各自が必要に応じて準備します。

授業計画	<p>第1回:自由テーマによる作品制作への概要説明  第2回:各自の制作テーマの確認と制作準備  第3回:それぞれのテーマに応じて作品イメージを考えて下絵づくり  第4回:それぞれのテーマに応じて エスキースを基にスケッチ・草稿①  第5回:それぞれのテーマに応じて スケッチ・草稿を検討する  第6回:それぞれのテーマに応じて 草稿 全体像を検討  第7回:それぞれのテーマに応じて 草稿 細部を検討し草稿をまとめる  第8回:紙本制作① 草稿を本紙へ写す  第9回:紙本制作② 胡粉などによる下塗り  第10回:紙本制作③ 水干絵具による下塗り  第11回:紙本制作④ 岩絵具によるマチエール作りなど  第12回:紙本制作⑤ 岩絵具による下地作り  第13回:紙本制作⑥ 岩絵具による中塗り 箔などを用いる  第14回:紙本制作⑦ 岩絵具による仕上げ  第15回:講評会</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	現代の日本画表現では、従来の伝統的な表現や素材に加え、現代絵画としての多様な表現と素材に溢れています。日常から多くの作品に接しながら、自分らしい表現を考え、素材研究を重ねられるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L4010	科目名	洋画Ⅱ			単位数	4
担当者	木本 雅典、田中 直子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4221						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、想像・表現力

概 要	各自のテーマのもとに油彩画の制作を行います。絵画Ⅱで制作したエスキースをもとに各自が主体的に計画を立て、担当教員と対話しながら卒業制作の作品へと結びつけていきます。2年間の集大成として、自分自身のオリジナルな作品になるよう制作してください。課題の最後にアクティブラーニングの手法で講評会を行います。
教育目標との関連	描くことの基本を大切にし確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける。
評価方法	提出作品及び学習状況により評価。
備 考	
テキスト・教材・経費等	油彩道具、50号キャンバス等

授業計画	第1回：作品制作の概要説明 第2回：エスキース制作(構想を練る) 第3回：エスキース制作(鉛筆での制作) 第4回：エスキース制作(着彩) 第5回：エスキースの決定 第6回：キャンバス張り 第7回：木炭での下書き 第8回：修正 第9回：油彩での下地制作 第10回：油彩での荒描き 第11回：油彩での中間描き 第12回：油彩での修正 第13回：油彩での描きこみ 第14回：油彩での仕上げ 第15回：講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	これまで学んできたことの集大成です。これまでの経験を生かし、自己の感覚を信じ、思いっきり画面に向かってください。制作の過程で困ったことや迷いが生じた場合は、担当の教員にアドバイスを求めましょう。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L4011	科目名	絵画表現Ⅱ			単位数	2
担当者	荒木 然一						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4031						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概 要	「自由制作」をテーマに、自分らしい表現を模索しながら制作を行います。写生・スケッチをもとに構想を練り、十分なエスキース・下図の制作を繰り返し、表現の展開をめざします。
教育目標との関連	「描くこと創ること」の基本を大切にしながら、日本画の持つ独自の表現を学び、自分らしい作品制作を目指します。
到達目標	日本画独自の素材での表現や描写力を養い、さらに技法や素材の知識への修得につとめる。
評価方法	授業への取り組み、課題制作・作品提出を中心に総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	パネルや和紙・絵具などは、各自が必要に応じて準備します。

授業計画	<p>第1回:自由テーマによる作品制作への概要説明  第2回:各自の制作テーマの確認と制作準備  第3回:それぞれのテーマに応じて作品イメージを考えて下絵づくり  第4回:それぞれのテーマに応じて エスキースを基にスケッチ・草稿①  第5回:それぞれのテーマに応じて スケッチ・草稿を検討する  第6回:それぞれのテーマに応じて 草稿 全体像を検討  第7回:それぞれのテーマに応じて 草稿 細部を検討し草稿をまとめる  第8回:紙本制作① 草稿を本紙へ写す  第9回:紙本制作② 胡粉などによる下塗り  第10回:紙本制作③ 水干絵具による下塗り  第11回:紙本制作④ 岩絵具によるマチエール作りなど  第12回:紙本制作⑤ 岩絵具による下地作り  第13回:紙本制作⑥ 岩絵具による中塗り 箔などを用いる  第14回:紙本制作⑦ 岩絵具による仕上げ  第15回:講評会</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	現代の日本画表現では、従来の伝統的な表現や素材に加え、現代絵画としての多様な表現と素材に溢れています。日常から多くの作品に接しながら、自分らしい表現を考え、素材研究を重ねられるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4012	科目名	絵画表現Ⅱ			単位数	2
担当者	木本 雅典						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4031						
コア・アクティブ・ラーニング科目群		○					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード		課題設定力、発想力、想像・表現力					
概 要	これまで行ってきた課題制作をもとに、自由なテーマで制作を行います。油彩で制作することを前提として、各自の表現したいテーマを気軽に使える画材(水彩、鉛筆、木炭など)で、デッサン、エスキースを重ねながら自分のテーマを明らかにしていきます。						
教育目標との関連	絵画の造形性を追求し、深めていく。						
到達目標	各自の制作過程において、エスキースを重ねることで自己の表現したいテーマを明らかにしていく。						
評価方法	提出作品及び学習状況により評価。						
備 考							
テキスト・教材・経費等	木炭紙、水彩道具等						
授業計画	<p>これまでの課題制作と違って自分のテーマを見つけ出すには柔軟な感性と積極的なエネルギーが必要です。漠然としたものを形にするには、簡単なラフスケッチから思いつくままに手を動かして形にすることを心がけてください。各自のテーマによって計画を立て、教員と対話しながら最終的には木炭紙大2枚のエスキースを制作し油彩画につなげます。</p> <p>第1回：作品制作の概要説明  第2回：エスキース制作(構想を練る)  第3回：エスキース制作(鉛筆での制作)  第4回：エスキース制作(着彩)  第5回：エスキースの決定  第6回：キャンバス張り  第7回：木炭での下書き  第8回：修正  第9回：油彩での下地制作  第10回：油彩での荒描き  第11回：油彩での中間描き  第12回：油彩での修正  第13回：油彩での描きこみ  第14回：油彩での仕上げ  第15回：講評</p>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習						
準備学習(予習・復習)	作品制作にあたってはテーマ決定に苦勞する。日常から自分が関心や興味があるものなどは、メモ程度のスケッチ、言葉でも記録し、それを繰り返し見て、その中からテーマを決めてゆくようにしてください。テーマとって何か特別なものと考えず、普段見慣れたものの中から選び出し、それを深めていくようにすることが大切です。						
免許・資格							
免許・資格の科目区分							

時間割番号	1L4013	科目名	マンガ・キャラクターⅡ			単位数	4
担当者	久保 直子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4321						
コア・アクティブ・ラーニング科目群	○						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	考察力、課題意識、傾聴理解						
概 要	「マンガを描く」ためではなく「マンガ家になる」ための、より実践的な方法について、アクティブラーニングを通して教えます。						
教育目標との関連	講義を通して、たとえ絵や物語が稚拙であっても「マンガとして成立する」という作品があることを理解してもらいます。それによって、絵やお話が下手でもマンガ家になる手段があることを学ぶことができます。これは「マンガとは何か」「マンガ家とは何か」という本質的な問題を含んでいます。						
到達目標	講義を受けることによってマンガ家になってもらいます。ただし、そのために高度な技術力を要求するわけではありません。						
評価方法	参加状況や課題提出などを評価の対象にしますが、独自の評価方法を用います。ただし、単位取得が困難な厳しい評価を行うわけではありません。						
備 考							
テキスト・教材・経費等							
授業計画	<p>以下のようなテーマについて順に触れながら講義を行う。</p> <p>第1回 近年のマンガを巡る状況の変化について</p> <p>第2回 近年のマンガを巡る状況の変化について</p> <p>第3回 近年のマンガ自体の変化について</p> <p>第4回 近年のマンガ自体の変化について</p> <p>第5回 マンガであるために必要な絵の要素について</p> <p>第6回 マンガであるために必要な絵の要素について</p> <p>第7回 マンガであるために必要な絵の要素について</p> <p>第8回 「作品を完成させる」ことの重要性</p> <p>第9回 「作品を完成させる」ことの重要性</p> <p>第10回 「読みを連続させるメディア」としてのマンガについて</p> <p>第11回 「読みを連続させるメディア」としてのマンガについて</p> <p>第12回 マンガを描くこととマンガ家になることの違いについて</p> <p>第13回 マンガを描くこととマンガ家になることの違いについて</p> <p>第14回 誰のためにマンガを描くかということについて</p> <p>第15回 誰のためにマンガを描くかということについて</p>						
アクティブラーニングの授業形態	体験学習、発見学習、問題解決学習、ディベート						
準備学習(予習・復習)	【1回～】『西島大介のひらめき☆マンガ学校』(講談社BOX)既刊2冊を読んでいることが望ましい。 「ひらめき☆マンガ学校」は過去に谷川ニコ、ふみふみこ、米代恭、しまどりの、木村承子など実際に活躍する生徒を輩出しています。本講はそれらの生徒が学んだのと同じ理論を使ったものになります。						
免許・資格	中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目						

時間割番号	1L4014	科目名	映像・アニメーションⅡ			単位数	4
担当者	宮崎 しずか、泉尾 祥子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4421						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	企画・計画力、チームワーク力、想像・表現力

概要	グループでプロジェクトマップを制作する。 3次元表現を活かした企画を構想し、分担・協力しながら作業を進めます。
教育目標との関連	「豊かな創造性を育み確かな技術を習得すること」が達成できたかどうかを確認する集大成です。
到達目標	共同作業での役割を果たし、観客を意識した新たな映像体験を生み出すこと。
評価方法	制作物、授業態度、制作状況を総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	

授業計画	第1回 インスタレーション・展覧会視察(現地調査) 第2回 特殊技術CG技術のレクチャー/グループ分け・コンセプト・役割決め 第3回 コンセプトに基づく演出アイデア出し(グループ・ディスカッション) 第4回 イメージ・デザイン1 第5回 イメージ・デザイン2(ビデオコンテをグループで発表) 第6回 立体物の作成 第7回 テスト投影 第8回 企画の修正作業1 第9回 企画の修正作業2(修正ビデオコンテをグループで発表) 第10回 アニメーション制作1 第11回 アニメーション制作2 第12回 アニメーション制作3 第13回 本番前テスト投影 第14回 修正作業/最終テスト投影/広報物の作成/周知活動 第15回 作品発表会/講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	プロジェクト学習
準備学習(予習・復習)	「完成した。」と思ったところが実は出発点なのです。ですから展示の1月前を締め切りとします。質を高めることに執着してください。

免許・資格	中二免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L4015	科目名	グラフィックデザインⅡ			単位数	4
担当者	斉藤 克幸、藤目 治行						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4521						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力、創造・表現力、プレゼンテーション力

概要	卒業制作として発表するための作品を制作します。これまで学んできたことの集大成ですから、精一杯の実力を発揮してください。自分で考え、自分で行動し、自分で結論を出していきます。また卒業制作の場合、美術館で人に見せるという要素が入ってきます。デザインは、絵画と違って作品が比較的小さなサイズになる場合も少なくありませんからプレゼンテーションをいかにするかポイントです。プレゼンは、デザインにとって切っても切りはなせない重要な要素ですから、うまく見せる工夫をしましょう。
教育目標との関連	与えられた仕事をこなすだけのオペレーターではなく、自ら問題意識を持ち全体を構築していくことができるアートディレクターを目指します。
到達目標	課題について熟慮し多くのアイデアスケッチを制作し最善の答えを見いだす努力をしたか。その結果優れた作品を制作することができたか。また、作品を愛し、細部にまで神経の行き届いた美しい仕事をしたか。
評価方法	しっかりとアートディレクションできているか。完成度の高い仕事ができているか。
備考	日頃から、あらゆるデザインをはじめとした造形や芸術に関心を持ち鑑賞すること。継続的に読書し映画鑑賞すること。自分自身の内部を豊かに磨いてください。
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。

授業計画	<p>第1回:各自、制作目標を検討、アイデアスケッチ・資料収集など</p> <p>第2回:アイデア・イメージスケッチ、調査・写真撮影など</p> <p>第3回:作品の内容・展示方法等を担当教員と相談し計画を立てる</p> <p>第4回:作品の内容・展示方法等を決定</p> <p>第5回:制作1(材料調達など)</p> <p>第6回:制作2</p> <p>第7回:制作3</p> <p>第8回:制作4</p> <p>第9回:制作5</p> <p>第10回:制作6</p> <p>第11回:制作7</p> <p>第12回:制作8(配色・構図・作品のバランス・完成度の検討と修正)</p> <p>第13回:制作9(作品制作仕上げ・完成・出力・パネル貼りなど)</p> <p>第14回:制作10(作品養生・梱包など)</p> <p>第15回:広島県立美術館地下1階県民ギャラリーに搬入・展示・写真撮影・搬出</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決型学習
準備学習(予習・復習)	【1～15】デザインの場合、アイデアやデザインの方向性を決定(アートディレクション)するまでに、時間を要する場合があります。メ切が気になり焦る気持が、つい、安易なデザインに逃げる口実となってしまう場合がありますが、少し我慢して、最善の案を待つことも一つの方法です。また短大生にとっての最終学期は、比較的時間に余裕のある時間割となっているはずですが、授業外の時間もフル活用して制作にあたってください。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目



時間割番号	1L4016	科目名	ビジュアル表現Ⅱ			単位数	2
担当者	西島 大介、さやわか						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4051						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	自立、主体性、プレゼンテーション

概要	「特別制作」とリンクさせながら、これまで学んできたことの集大成として、卒業制作に取り組みます。また、県立美術館での展示にあたり、客観性とクオリティを最重要視しながら、展示物の制作も行います。
教育目標との関連	これまで美術科でのアクティブラーニングで培った技術と表現性を、より発展させ、自主的に自分の考えで計画し完成させていくことを重視します。
到達目標	描きたいテーマ、それを表現できる画材と技術、そしてアイデアを活かし、集大成に相応しい作品を完成させ、それを魅力的にインスタレーション(空間展示)することを目的とします。
評価方法	出席率(20%)、授業態度(20%)、計画性(40%)、完成作品(20%)による総合評価。
備考	
テキスト・教材・経費等	各自の卒業制作の内容により、適宜購入。

授業計画	第1回 卒業制作企画書提出、調整 第2回 プレゼンテーション 第3回 各自制作 第4回 各自制作 第5回 各自制作 第6回 各自制作 第7回 各自制作 第8回 インスタレーション展示準備 第9回 インスタレーション展示準備 第10回 インスタレーション展示準備 第11回 梱包 第12回 梱包 第13回 搬入・設営 第14回 講評会 第15回 講評会
アクティブラーニングの授業形態	体験学習、プロジェクト学習
準備学習(予習・復習)	【2回】プレゼンテーションの時間は1人5分ですので、一度は練習しておきましょう。 【8回】事前に色々な展覧会を観て、インスタレーション展示について学び、考えておきましょう。 「卒業制作展」という場で展示されることの意識を持つこと。 変更不可能で確実な〆切(展覧会期間)を先見性をもって計画的に制作すること。 この2つが、とても重要です。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4017	科目名	ビジュアル表現Ⅱ			単位数	2
担当者	堀尾 充						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4051						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	企画・計画力 プレゼンテーション力 想像・表現力

概要	映像によるプレゼンテーションについて学び、グループ制作で実験的な映像展示を試みます。 携帯電話から巨大ビルへの壁面投影まで、多様な形で我々は映像を見ています。 四角い平面だけでなく球面もスクリーンになっています。これらを効果的に使って印象的な展示を構想し、未来の可能性を探りましょう。
教育目標との関連	手仕事だけでなく、デジタル表現の世界でも根源的な造形力は不可欠です。
到達目標	映像展示の柔軟な対応力を養うこと
評価方法	学習への取り組み(60%)と制作物(40%)で評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	

授業計画	第1回映像によるプレゼンテーションについて 第2回実例の鑑賞 第3回アイデアの構想 第4回展示スペースの設定 第5回課題A 大きな展示 説明 第6回映像制作A1 第7回映像制作A2 第8回編集 第9回映像展示実験A 第10回課題B 小さな展示 説明 第11回映像制作B1 第12回映像制作B2 第13回編集 第14回映像展示実験B 第15回可能性を考える討議
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習 グループ・ワーク
準備学習(予習・復習)	日頃から映像提示の方法に注目しておきましょう。何事でもお洒落に決めるという習慣をつけたいものです。 【1-15】自分で立てた企画が他人へと伝わり、楽しんでもらえるように演出についての考察が必要です。 習った技術を復習し、動く絵で伝えられるように技術をあげましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4018	科目名	ビジュアル表現Ⅱ			単位数	2
担当者	斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4051						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力、発想力、創造・表現力

概 要	絵本の制作をします。製本機で製本しハードカバー製本として完成させます。絵本の場合はストーリー作りがまず重要です。絵柄の魅力が大切ですから、この点にも力を入れたいところです。アイデアがあり、完成度の高く楽しい作品を目指しましょう。
教育目標との関連	読者の対象年齢を何歳くらいに設定するのか？どう読ませたいのか？をしっかりと意識して制作しましょう。
到達目標	絵と文字のバランス、レイアウトなど最低限の仕事をきちんとこなした上で、楽しい絵本になっているか、全体に完成度高く作られているか。DTPの技術が身に付いているか。(要点: 楽しさ・面白さ・ユーモア・驚きを与えようとする感覚、新しさの追求、完成度の高さの追求、DTPの技術)
評価方法	作品・講評会におけるプレゼンテーション及び参加状況によって評価します。
備 考	日頃から、あらゆるデザインをはじめとした造形や芸術に関心を持ち鑑賞すること。継続的に読書し映画鑑賞すること。自分自身の内部を豊かに磨いてください。
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布し説明します。材料費はそのつど徴収します。

授業計画	第1回: 課題説明 第2回: ストーリーを作る1 第3回: ストーリーを作る2 第4回: ストーリーを作る3 第5回: 絵本の原画を描く1 第6回: 絵本の原画を描く2 第7回: 絵本の原画を描く3 第8回: 絵本の原画を描く4 第9回: 絵本の原画を描く5 第10回: 絵本の原画をスキャナーでスキャンする 第11回: パソコンで編集 デザインワーク1 第12回: パソコンで編集 デザインワーク2 第13回: パソコンで編集し出力 第14回: ハードカバー製本 第15回: 講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	問題解決型学習
準備学習(予習・復習)	【1～9】図書館で多くの絵本を見ておくこと。その上で、自分がデザインし制作するもののスタイルを作りあげていきます。【1～15】また、小さめのクロッキー帳などをいつも持ち歩き、授業外の空きコマや通学中の車内・家庭などにおいて、常にアイデアスケッチをするよう心がけましょう。ヒントはどこにあるか分かりません。どんなアイデアでも記録する習慣をつけましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4019	科目名	染織Ⅱ			単位数	4
担当者	寺田 勝彦、南 容子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4621						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	発想力、企画・計画力、創造・表現力

概要	卒業制作展に向けてこれまで学習してきたことを基礎に制作を進めます。定期的な話し合いの中からそれぞれのテーマや方向性が見つかるよう指導します。何よりも君たち自身の主体的な取り組みが大切です。素材の選択や作品点数などどんなことでも相談に乗ります。やわらかな発想の中から借り物でないものが見つかることを期待しています。
教育目標との関連	これまでに修得した染織の基本を大切にして、新しい素材や技法を理解しながら確かな表現力で個性あふれる作品制作を目指します。
到達目標	どれだけ主体的に取り組めたか、独自の視点が盛り込まれているか
評価方法	提出作品(60%)制作態度・参加状況(40%)などにより総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	▽参考書:参考文献や実物資料については適宜紹介します。

授業計画	(自由制作2) 第1回 これまで制作した作品を見て自由制作の方向を決める 第2回 テーマ設定を試みる ①自分が気に入っているものを探す 第3回 テーマ設定を試みる ②いろいろな要素の中から制作のテーマを決める 第4回 モチーフを探す ①いろいろなものをスケッチする。写真に撮る 第5回 モチーフを探す ②スケッチしたものや写真の中から気になるものを見つけ出す 第6回 モチーフを決める ③追加のスケッチをする。写真を撮る 第7回 技法を決める。素材を探す 第8回 原寸大の原稿を造る 第9回 それぞれの技法で染色する準備をする又は糸染めなどをする 第10回 布地に下書きする・糊板に布を張る又は経糸の整経をする 第11回 シルクスクリーンや型染めは判や型を造る又は機上げする 第12回 布地に判や型を置いて制作する又は織り始める 第13回 全体的な色の調子を整える又は織り糸を交換しながら織進める 第14回 蒸し・水洗をする又は織終わり機から降ろす 第15回 展示出来るよう棒などを準備し仕上げる
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習、問題解決学習、体験学習
準備学習(予習・復習)	具体的な作品を造る中で制作の意識を高めてゆきましょう。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L4020	科目名	陶芸Ⅱ			単位数	4
担当者	今田 拓志、原紺 絢子						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4721						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	論理的思考力、企画・計画力

概 要	陶芸の粘土は、陶土、磁土の2つに大きく分類されています。この授業では、磁土の持つ特性を生かした成形技法を中心に学びます。
教育目標との関連	磁土の粒子は陶土に比べ、かなりきめ細かいです。また、陶石とよばれる石を粉碎し、焼成後白色となります。削り作業も乾燥後時間の制約なくできます。削り成形でかたちを探ります。
到達目標	磁土の削り成形と、平カンナ5種類の使い方の習得。
評価方法	提出作品、制作態度、参加状況等を対象とします。
備 考	
テキスト・教材・経費等	参考文献等は適宜紹介します。

授業計画	第1回 手捻り成形による自由造形作品①。和紙入り磁土。 第2回 手捻り成形による自由造形作品②。シャモット入り磁土。 第3回 電動轆轤成形による器形作品①。シャモット入り磁土。 第4回 電動轆轤成形による器形作品②。和紙入り磁土。 第5回 自由造形作品削り成形①。平カンナ使い方説明。 第6回 自由造形作品削り成形②。ペーパー掛け。 第7回 器形作品削り成形①。平カンナ使い方説明。 第8回 器形作品削り成形②。ペーパー掛け。 第9回 素焼き窯詰め焼成。 第10回 素焼き作品ペーパー掛け。 第11回 素焼き作品釉薬掛け①(コンプレッサー使用)。透明釉使用。 第12回 素焼き作品釉薬掛け②(コンプレッサー使用)。青白磁使用。 第13回 本焼き窯詰め、焼成①(酸化)。 第14回 本焼き窯詰め、焼成②(還元)。 第15回 まとめ(作品講評)。
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、調査・実習
準備学習(予習・復習)	【1～4回】主体的に考え作る姿勢を確立してください。 【5～8回】磁器土と陶器土の違いを比較しつつ制作を進めてください。

免許・資格	中2種免(美術)
免許・資格の科目区分	教科に関する科目

時間割番号	1L4021	科目名	工芸表現Ⅱ			単位数	2
担当者	寺田 勝彦						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4071						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	課題設定力, 企画・計画力, 創造・表現力

概要	卒業制作にあたり、制作テーマの設定やそれに伴うモチーフ、表現素材の選択など、制作にかかわる課題を検討しながらモチベーションを高め実制作に向かいます。教員は個別に対応します。特に制作テーマに沿ったモチーフの選定などしっかりと話し合います。積極的に行動し自分の思いを大きく膨らませてください。
教育目標との関連	描くこと・造ることの基本を大切にしながらこれまで学んできた成果をそれぞれの領域で形にします。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける
評価方法	制作課題への取り組み(80%)を中心に総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	参考文献や実物資料など適宜紹介します。

授業計画	第1回 制作計画を立てる① 第2回 制作計画を立てる② 第3回 制作計画に沿って実験制作を試みる① 第4回 制作計画に沿って実験制作を試みる② 第5回 制作計画に沿って実験制作を試みる③ 第6回 実験制作の結果から制作計画を再検討する 第7回 制作計画を再構築する 第8回 再構築した計画に沿って本制作にかかる 第9回 本制作① 第10回 本制作② 第11回 本制作③ 第12回 本制作④ 第13回 本制作⑤ 第14回 本制作⑥ 第15回 作品を仕上げ展示計画を作る
アクティブ・ラーニングの授業形態	発見学習, 問題解決学習, 体験学習
準備学習(予習・復習)	自主的・主体的な行動が大切です。積極的な活動の中から制作の方向を見つけてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1L4022	科目名	工芸表現Ⅱ			単位数	2
担当者	今田 拓志						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	実技		
ナンバリング	1L4-4071						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	○
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	企画・計画力、プレゼンテーション力

概 要	手捻り、紐作りによる円筒形の造形制作をします。また、象嵌、彩泥技法による装飾も行います。
教育目標との関連	手捻り成形はロクロ成形に対して、作品一点の成形に時間をより要しますが、形をじっくり考えることができます。その差を経験を通し、体得します。
到達目標	手捻り、紐作りによる成形技術の習得。 粘土の成分組成の違いで起こる焼成後の発色の差の習得。
評価方法	提出作品、制作態度、参加状況等を対象とします。
備 考	
テキスト・教材・経費等	参考文献等は適宜紹介します。

授業計画	第1回 手捻り、紐作りについての概要 第2回 成形(その1) 第3回 成形(その2) 第4回 成形(その3) 第5回 色粘土作り 第6回 色化粧作り 第7回 加飾(象嵌1) 第8回 加飾(象嵌2) 第9回 加飾(彩泥1) 第10回 加飾(彩泥2) 第11回 素焼き窯詰め、焼き 第12回 施釉 第13回 本焼き(酸化) 第14回 本焼き(還元) 第15回 作品講評
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	【1～4】形が出来上がっていくプロセスを時間をかけ、吟味してください。 【5～15】焼成前、後の粘土の発色の差を比較し、覚えてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1001	科目名	現代美術演習			単位数	1
担当者	堀尾 充						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L5-5110						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	「わからない」と言われる現代美術ですが、実際に手を動かして制作過程を追体験することで理解するとともに、柔軟な発想力を養いましょう。興味を持ったらやってみる。これが美術の出発点です。単独、或いはグループで制作します。
教育目標との関連	専攻科で再び創作の原点に戻ってみよう。
到達目標	柔軟な感性を育てること
評価方法	学習への取り組みと成果によって総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	消耗品は個人負担になります。

授業計画	第1回 シュールな遊びからマンガへ 単独制作 第2回 シュールな遊びからマンガへ グループ制作 第3回 鯉のぼり 単独制作 第4回 鯉のぼり グループ制作 第5回 木の葉でアート 単独制作 第6回 木の葉でアート グループ制作 第7回 楢包エイリアン 単独制作 第8回 楢包エイリアン グループ制作 第9回 コーネルの箱 単独制作 第10回 コーネルの箱 グループ制作 第11回 スパゲティ造形 単独制作 第12回 スパゲティ造形 グループ制作 第13回 コスプレ映像 単独制作 第14回 コスプレ映像 グループ制作 第15回 講評とディスカッションによるまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	興味を持ったら、まず、やってみることです。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1W1002	科目名	展示研究 I	単位数	2
担当者	松田 弘				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1L5-5410				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	美術館や博物館などの展示公開施設での展示について、展示のコンセプト、その方法と技術などを実務に即して学びます。合わせて、展示行為の持つ社会的な意味と意義についても学んでいきます。				
教育目標との関連	展示の実務についての基本的な知識・技能を養います。				
到達目標	展示の実務について、基礎的かつ具体的な知識と技術を習得します。最終的に学内の展示施設での展示を行ないます。				
評価方法	主として授業への参加状況(出席率)、受講態度などにより評価します。(60%) レポートの提出と展覧会の企画書などの作成により評価します。(40%) これらをもとに総合的に評価します。				
備考	展示行為をとおして美術と地域や社会との関係性を学ぶ機会にしたいと思います。				
テキスト・教材・経費等	経費・教材等:テキストは特に指定しません。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 美術館・博物館の歴史 第3回 美術館・博物館の展示施設見学 第4回 美術館・博物館の学芸員の仕事 第5回 美術館・博物館の展覧会の実際 第6回 地域の文化資源の研究 I 第7回 地域の文化資源の研究 II 第8回 地域の文化資源の研究 III(発表) 第9回 展覧会を開こう I (企画書の作成) 第10回 展覧会を開こう II (展示レイアウトの作成) 第11回 展覧会を開こう III (広報の仕方) 第12回 展覧会を開こう IV (解説資料の作成) 第13回 展覧会を開こう V (最終案の検討と決定) 第14回 学内での展示施設での展示 第15回 前期のまとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	【2回】関心のある美術館・博物館の歴史についてレポートを作成してください(復習)。 【3～5回】広島市内の美術館・博物館・資料館などで実際に開かれた展覧会を見学し、その概要と評価をレポートにしてください(復習)。 【8回】地域の文化資源について事前に調べ、具体的に授業で発表してもらいます(予習)。 【9～12回】第12回終了後に展覧会の全体プランをレポートで提出し、第13回の最終案の決定の準備をする(復習・予習)。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1W1003	科目名	展示研究Ⅱ	単位数	1
担当者	木本 雅典				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	1L5-5420				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	展示研究Ⅰで学んでいることを基に公共の施設で実際に展覧会を実施することを想定し、その準備をします。受講者の話し合いを中心に企画・立案をし、役割分担によって各自展覧会に必要なことを受け持ち、より良い作品発表のあり方を研究します。				
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化していきます				
到達目標	自発的に各自作品制作を行い、責任を持って発表の準備をする。				
評価方法	参加状況、授業への取り組みで総合的に評価します。				
備考	展示研究Ⅲを受講することを前提に受講することが望ましい。				
テキスト・教材・経費等	雑費(通信費等)				
授業計画	第1回: オリエンテーション 第2回: 展覧会の意味 第3回: 組織づくり 第4回: 役割分担 第5回: 画廊巡り(会場探し) 第6回: 展覧会計画 ①会場の検討 第7回: 展覧会計画 ②会場の確保 第8回: 画廊巡り(展示の研究) 第9回: 美術館見学(展示の研究) 第10回: 展覧会計画 ③展示の内容 第11回: 展覧会準備 ①DMについて 第12回: 展覧会準備 ②DM案の検討 第13回: 展覧会準備 ③DM案の制作 第14回: 展覧会準備 ④DMの制作 第15回: まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習				
準備学習(予習・復習)	展覧会で作品を発表するにはいろいろな準備が必要になります。まず何よりも作品が充実していること。これは日常の専攻制作等で各自しっかり制作してください。次にDMの制作や発送。作品目録、ポスター、キャプションの制作。実際の展示方法の計画、使用施設との打ち合わせ、作品搬入・搬出の手配。会期中の受付当番の分担等々。これらをスムーズに行うには参加者が積極的に参加し、より良いものを目指してコミュニケーションをとる事が不可欠です。ここではDMの制作までを体験します。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1W1004	科目名	専攻制作A I			単位数	2
担当者	荒木 然一、木本 雅典						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5011						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	各自これまで制作してきたテーマを中心に、取材(デッサン・スケッチなど)を繰り返し、より表現を模索します。また、画材の幅を広げることで、各自の表現がより直接的に具現化することを目指します。エスキースと本制作の関係を担当教員との対話で深め、自己の表現へと結び付けます。
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化していきます。
到達目標	各自の構想力技術と表現力を充実させる。
評価方法	提出作品と日頃の取り組み及び、出席状況により評価する。
備 考	
テキスト・教材・経費等	各自が必要に応じて準備します。

授業計画	第1回:分野別制作テーマの設定と課題の発見1 第2回:分野別制作テーマの設定と課題の発見2 第3回:分野別制作テーマの設定と課題の発見3 第4回:分野別制作テーマの実習計画と試作1 第5回:分野別制作テーマの実習計画と試作2 第6回:分野別制作テーマによる本制作1 第7回:分野別制作テーマによる本制作2 第8回:分野別制作テーマによる本制作3 第9回:分野別制作テーマによる本制作4 第10回:分野別制作テーマによる本制作5 第11回:分野別制作テーマによる本制作6 第12回:分野別制作テーマによる本制作7 第13回:分野別制作テーマによる本制作の仕上げ 第14回:分野別制作テーマによる本制作の完成 第15回:講評会及び発表
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	テーマを考慮し課題完成度のレベルアップをめざして制作を究めます。 自主的な制作のウエイトが大きくなりますが、各指導教員とコンタクトをしっかりととりながら、制作をすすめるように心がけてください。 また、自分らしい表現を考え、素材研究を重ねられるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1005	科目名	専攻制作B I			単位数	2
担当者	堀尾 充、斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5111						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	各自これまでの制作を再検討してみます。自分の作品の優れた点や十分ではなかった点を自覚し、場合によってはリファインすることによって今後の制作の方向を明らかにします。これまで、ただ完成させるだけで精一杯だったものを、より高いレベル・完成度の制作に向けていく段階に入っていきます。
教育目標との関連	美術科の教育目標に沿って、より実践的な実習を通して感性を磨き、創造性を育くむとともに、社会性を踏まえた人材の育成につなげていきます。
到達目標	これまでの経験を生かし、より高いレベル・完成度の作品が制作できること。
評価方法	学習への取り組み(50%)と、その成果(50%)によって評価します。
備 考	自分自身の制作を、一歩離れた場所から客観的に見つめてください。無我夢中に制作していた段階から、さらにレベルアップを目指しましょう。
テキスト・教材・経費等	適宜、プリント等を配布します。

授業計画	第1回: 担当教員と相談し、制作のテーマを設定し、実習計画を立てる 第2回: 過去の自己の作品の見直しと改良 第3回: 注目すべき参考例の紹介と鑑賞 第4回: 新たな可能性の発見 第5回: 決定した制作テーマにより、各自、作品制作(アイデアスケッチ) 第6回: 作品制作(アイデアスケッチ完成) 第7回: 作品制作(下描き・準備) 第8回: 作品制作(本制作1) 第9回: 作品制作(本制作2) 第10回: 作品制作(本制作3) 第11回: 作品制作(本制作4) 第12回: 作品制作(本制作5) 第13回: 作品制作(仕上げ) 第14回: 作品制作(完成) 第15回: 講評会
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	【1～15】これまでの作品を整理しておくことに加えて、これからの制作アイデアを描きとめておくこと、それらをいつも目にとまる場所に置くことを心がけましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1006	科目名	専攻制作C I			単位数	2
担当者	寺田 勝彦、今田 拓志						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5311						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	作品制作において、表現するための素材はとても重要な要素です。陶芸や染織と言った領域をも含んで、より広い意味での素材について考えます。異なった視点からもう一度それぞれの素材を見つめなおすことで、新しい造形の可能性を引き出します。さまざまな素材を扱いながら作品制作へと進みます。
教育目標との関連	より高度な専門的知識や技能の習得に向けてさまざまな素材の扱いについて技量を深めます。
到達目標	素材への理解を確かなものにする事 発展的な素材の扱いにチャレンジすること
評価方法	学習の成果(60%)参加状況(40%)で総合的に評価する
備 考	
テキスト・教材・経費等	プリント等は適宜配布する。材料費500円程度

授業計画	第1回 素材の選択① 第2回 素材の選択② 第3回 素材の理解① 第4回 素材の理解② 第5回 素材の理解③ 第6回 素材の組み合わせ① 第7回 素材の組み合わせ② 第8回 素材の組み合わせ③ 第9回 新たな可能性に向けての素材実験① 第10回 新たな可能性に向けての素材実験② 第11回 作品制作への利用① 第12回 作品制作への利用② 第13回 作品制作への利用③ 第14回 作品制作への利用④ 第15回 作品の仕上げとまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	日ごろ見慣れている、あるいは扱いたれている素材をもう一度見直します。これまでなら失敗だったものの中に新たな表現が見つかるかもしれません。自分の行為の結果をじっくり見つめます。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1007	科目名	表現研究 I			単位数	2
担当者	的場 智美						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5411						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	前半は卒業制作展図録を共同で制作し、実践的なDTP(Desktop publishing=コンピュータを使って印刷出版作業を行うこと)の知識と技能を習得します。後半は個人制作とし、立体的な印刷物(ポップアップカードやパッケージなど)を作ります。
教育目標との関連	コンピュータを使ったデザインとビジュアル表現の幅を広げます。立体表現の面白さを体験します。
到達目標	(1)印刷所に入稿する版下データの作成ができるようになる。共同作業の分担責任をはたし、納期に間に合うように仕事を進める。 (2)立体表現への関心と理解を深める。
評価方法	卒展図録共同制作50点(提出物50%、授業態度と参加状況50%を原則として、総合的に評価します) 立体カード個人制作50点(提出作品60%、授業態度と参加状況40%を原則として、総合的に評価します)
備考	
テキスト・教材・経費等	データ保存用メモリを毎回持参すること。立体カードの制作では、工作道具(定規、カッター、接着剤など)と紙などの材料を適宜用意して下さい。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 卒展図録共同制作(1) 図録制作のワークフローと役割分担、共同作業のルール</li> <li>2 卒展図録共同制作(2) 表紙デザイン、本文デザイン、カラープロファイルとカラーモード</li> <li>3 卒展図録共同制作(3) 作品画像の用意、写真補正、画像解像度、ファイル形式</li> <li>4 卒展図録共同制作(4) レイアウト作業、フォルダ管理とリンク</li> <li>5 卒展図録共同制作(5) 文字入力、書体について</li> <li>6 卒展図録共同制作(6) 入稿準備、印刷版下データの基礎知識</li> <li>7 卒展図録共同制作(7) 仮出力、文字校正</li> <li>8 卒展図録共同制作(8) 色校正、入稿</li> <li>9 立体カード制作(1) 紙工作と紙立体の基本、ポップアップのしくみ</li> <li>10 立体カード制作(2) デザインの構想</li> <li>11 立体カード制作(3) 試作</li> <li>12 立体カード制作(4) 試作</li> <li>13 立体カード制作(5) 展開図データ作成</li> <li>14 立体カード制作(6) 展開図の印刷</li> <li>15 立体カード制作(7) 組み立て</li> </ol>
アクティブ・ラーニングの授業形態	共同制作
準備学習(予習・復習)	<p>&lt;卒展図録&gt;          ノートを用意をし、作業の手順や注意事項を書きとめること。デザイン会社の職場実習だと思って取り組んで下さい。表紙やページのデザインは大きな実績になりますので、グラフィック関係の就職を目指す人は積極的に挑戦しましょう。図録は6月に出版し、広く学外に配布します。</p> <p>&lt;立体カード&gt;          ポップアップカード、紙立体のデコレーション、紙パッケージなど、身の回りにあるサンプルを普段から集めておきましょう。分解してしくみを学ぶことができます。</p>

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1008	科目名	造形研究 I			単位数	2
担当者	前田 由芽						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5511						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業では、まず対象となるモチーフをさまざまな描画材を用いて写生(デッサン、ドローイングなど)することから始め、モチーフに対するアプローチのしかたを学ぶことを行います。描く対象への理解を深め、「イメージを具現化する」までの造形表現のプロセスを学びます。
教育目標との関連	描くこと、造ることを大切にしながら、自己表現の幅を広げます。
到達目標	多様な表現領域を知り、自分の表現の幅を広げること。
評価方法	提出作品(60%)、制作態度、参加状況(40%)などにより総合的に評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	課題説明や技術的なことについては適宜プリントを配付します。スケッチブック、クロッキー帖、鉛筆など描画材の他、必要に応じて紙、筆、絵の具代として材料費が3000円程度かかります。

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「点」ドローイング I 第3回 「点」ドローイング II 第4回 「線」ドローイング I 第5回 「線」ドローイング II 第6回 「面」ドローイング I 第7回 「面」ドローイング II 第8回 水墨画(運筆)の実習 第9回 絵巻物制作① 第10回 絵巻物制作② 第11回 絵巻物制作③ 第12回 作品制作 第13回 作品制作 第14回 作品制作 第15回 鑑賞と講評、作品提出
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	【1～7回】さまざまな描画材をもとに、「点」「線」「面」をキーワードに与えられたモチーフを描いたり、アプローチの仕方をドローイング実習でおこないます。様々な描画材に触れ表現方法の幅を広げてください。 【8～11回】水墨画実習をもとに絵巻物制作をします。 各専門領域の名画や名品の模写を通じ、技法や構図、意匠性、精神などを学びます。 各回の授業でさまざまな作家・作品を調べ、たくさん資料を集めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1009	科目名	造形研究Ⅱ			単位数	2
担当者	藤目 治行						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5521						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	立体的な造形感覚とデザインの手順を養うために、実在する地域や施設を使って制作します。 すごろくによる、イラストマップの制作、業内人としてのキャラクターのデザイン。 ゲームの進行に必要なガイドブック、サイコロ、駒(キャラクター)の制作 収納や販売用のパッケージ、フライヤーのデザイン。
教育目標との関連	課題制作(一部立体表現を含む)を通して、発想・サムネール・ラフデザイン・カンパの手順を理解し、制作意図を第三者に伝えるコミュニケーション能力を高める。
到達目標	デザインの制作手順の把握 立体(空間)間隔を養い、立体を平面で表現できること
評価方法	提出作品、制作態度、出席により評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	

授業計画	第1回: (造形研究Ⅱ)について、課題説明と制作の手順などについて 第2回: 「すごろく」の企画と下調べ 「すごろく」本体とその他の制作物やキャラクターも決める 第3回: 「すごろく」本体のサムネールの制作 第4回: その他の制作物とキャラクターなどのサムネールの制作 第5回: ラフデザイン(1/4~1/2)の制作 (ケント紙に手描きで制作)「鉛筆・色鉛筆を使用」 第6回: 文字原稿の整理 第7回: 上記のスケールモデルを検討し、手直しの上、本制作に取り掛かる 第8回: 「すごろく」本体のガイドブックやフライヤーのデザイン 本体の説明、登場キャラクターの紹介、登場場所の説明など 第9回: 本制作(手描きまたはイラストレーター使用) 第10回: 本制作 第11回: 本制作 第12回: 本制作 第13回: 本制作、大型出力機によるプリントアウト 第14回: 本制作、大型出力機によるプリントアウト 第15回: プrintアウト まとめ(写真撮影・鑑賞と講評)
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、ペア・ワーク、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	・美術館ギャラリーでの作品鑑賞 ・観光地や公共施設、学校に足を運び参考になる資料の収集を忘れず、よく観察し写真を撮りながら見てまわります。 看板も忘れずに！

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1W1010	科目名	特別演習ゼミ I			単位数	1
担当者	荒木 然一、堀尾 充、寺田 勝彦、木本 雅典、斉藤 克幸、今田 拓志、久保 直子、宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5611						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業は造形・デザインそれぞれの専門領域において各自が自らの制作テーマを決め担当教員の指導や助言を受けながらアクティブラーニングを繰り返す行う科目です。専攻科で受講するさまざまな科目での幅広い知識やより専門的な技能を総合化して修了制作として発表します。
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化してゆきます。
到達目標	多様な表現領域を知り、自分の表現の幅を広げること。
評価方法	学習への取り組み(70%)と、その活用(30%)
備 考	自分自身の制作を、一歩離れた場所から客観的に見つめてください。無我夢中に制作していた段階から、さらにレベルアップを目指しましょう。
テキスト・教材・経費等	それぞれの領域で適宜配布します。

授業計画	第1回:課題の発見 第2回:制作テーマの検討1 第3回:制作テーマの検討2 第4回:試作1 第5回:試作2 第6回:本制作1 第7回:本制作2 第8回:本制作3 第9回:本制作4 第10回:本制作5 第11回:本制作6 第12回:本制作7 第13回:仕上げ 第14回:完成 第15回:講評会
アクティブラーニングの授業形態	課題発見学習、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	自主制作は課題制作に比べて大幅にスピードがダウンします。 堂々巡りの果てに袋小路ということも少なくありません。 定期的なミーティングで途中経過を見せたり、それについて語ることは、例え前進していなかった時でも、とても大切なことです。常に自分の立ち位置を確かめるようにしましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1013	科目名	実地研修A			単位数	2
担当者	荒木 然一						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L5-5310						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	美術は専門の技術や知識の修得が大切であることは言うまでもありませんが、それと共にさまざまな分野の作品に接して、視野を広げ、感性を磨くことを忘れてはなりません。この授業では美術館や博物館で開催される展覧会、また古美術を所蔵する寺院等を訪ねて作品鑑賞をおこない、印象に残る作品や作家についてレポートにまとめます。
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化してゆきます。
到達目標	さまざまなジャンルのすぐれた作品に接し、知識を深め、視野を広げる。
評価方法	レポート(40%)、研修態度(60%)を総合して評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	実地研修(3泊4日)旅費等で約5万円必要です。

授業計画	第1回: 研修計画(概要の説明)及び事前学習① 第2回: 研修計画(概要の説明)及び事前学習② 第3回: 実地研修 法隆寺・法輪 第4回: 実地研修 法華寺・飛鳥寺等 第5回: 実地研修 長谷寺・室生寺① 第6回: 実地研修 長谷寺・室生寺② 第7回: 実地研修 薬師寺・唐招提寺① 第8回: 実地研修 薬師寺・唐招提寺② 第9回: 実地研修 春日大社・興福寺(宝物館) 第10回: 実地研修 奈良国立博物館 第11回: 実地研修 東大寺・浄瑠璃寺① 第12回: 実地研修 東大寺・浄瑠璃寺② 第13回: 実地研修 平等院 第14回: 実地研修 三十三間堂・智積院② 第15回: 実地研修 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、発見学習、グループ学習
準備学習(予習・復習)	見学先で巡る寺院などの施設や鑑賞する作品群について事前学習をすること。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W1014	科目名	実地研修B			単位数	2
担当者	齊藤 克幸						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L5-5320						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	美術は専門の技術や知識の修得が大切であることは言うまでもありませんが、それと共にさまざまな分野の作品に接したり発表したり、また客観的な批評を受けることも重要です。この授業では各自が制作したマンガやイラストを印刷・製本し、各自の希望する編集部へ持ちこみを行います。持ち込みをするにあたっては、各自がアポイントメントを取り、積極的に行動してください。また、自主制作漫画誌展示即売会「COMITIA」にも出展し、制作から販売までをアクティブラーニングをふまえて経験学習します。
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化してゆきますが、この授業では特に、プロを意識した作品制作を重視します。
到達目標	出版社の編集者の批評を真摯に受け止め、今後への課題と展望を見出すことを目的とする。
評価方法	授業態度・完成作品・レポートによる総合評価。
備考	履修登録条件：出版社（編集部）への作品持ち込み ※マンガ・キャラクターコース以外の学生も履修可能です。
テキスト・教材・経費等	テキスト・教材・経費等 宿泊（3泊4日）・交通費：40,000～50,000円 コミティア出展費：無料 マンガ関連見学費：1,500円程度

授業計画	第1回 説明会と制作、出展準備(1) 第2回 説明会と制作、出展準備(2) 第3回 説明会と制作、出展準備(3) 第4回 東京1日目、現代マンガ図書館見学 第5回 東京1日目、COMITIA前日準備 第6回 東京2日目、「COMITIA」に出展 第7回 東京2日目、出張マンガ編集部へ持ち込み(1) 第8回 東京2日目、出張マンガ編集部へ持ち込み(2) 第9回 東京3日目、美術館等見学 第10回 東京3日目、希望する編集部へ各自持ちこみ(1) 第11回 東京3日目、希望する編集部へ各自持ちこみ(2) 第12回 東京4日目、アニメーション制作会社見学※予定 第13回 東京4日目、希望する編集部へ各自持ちこみ(1) 第14回 東京4日目、希望する編集部へ各自持ちこみ(2) 第15回 レポート作成、まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、発見学習、グループ学習
準備学習(予習・復習)	コミティアに出展できる同人誌(等)は、オリジナル作品に限っており、二次創作・パロディ作品は不可です。オリジナル作品であれば、傾向の制限は特にありません。 【1～3回】自作マンガを「商品」として「販売」することを目的として出展しますので、そのことを念頭に置いた上で、作品を制作しましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W2001	科目名	美術特論	単位数	2
担当者	高木 茂登				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1L5-5010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	表現者にとって自分の足元を固めることは大切なことです。身近な地域の美術風土を知ることはそのひとつです。ここではまず広島ゆかりの美術家について学びます。また独自の自己表現を形成するためには未知との出会いも大きな刺激となります。現代における様々な新しい美術表現も紹介します。				
教育目標との関連	美術科の教育目標で基本とする「描くこと」「造ること」に関連し、美術の専門についての知識的な学習を通して、知性や感性を刺激し、より豊かな作品制作を促します。				
到達目標	(1) 広島ゆかりの美術家について理解すること (2) 現代の美術表現について認識を深めること				
評価方法	授業態度(20%)、参加状況(20%)、筆記試験(60%)を総合して評価します。筆記試験は論述形式で出題します。なお、ノートの持ち込みはできません。				
備考					
テキスト・教材・経費等	特にテキストは使用しません。				
授業計画	第1回： 広島ゆかりの洋画家(1) 第2回： 広島ゆかりの洋画家(2) 第3回： 広島ゆかりの日本画家(1) 第4回： 広島ゆかりの日本画家(2) 第5回： 広島ゆかりの彫刻家 第6回： 広島ゆかりの工芸家 第7回： 現代美術の動向(1)20世紀前半 第8回： 現代美術の動向(2)抽象表現主義 第9回： 現代美術の動向(3)ポップアート 第10回： 現代美術の動向(4)コンセプチュアルアート① 第11回： 現代美術の動向(5)コンセプチュアルアート② 第12回： 現代美術の動向(6)メディアアート 第13回： 現代美術の動向(7)現代の日本画 第14回： 現代美術の動向(8)デザイン 第15回： 総括				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー				
準備学習(予習・復習)	美術館などでの作品鑑賞の機会をできるだけ多く作り、作品そのものと向き合い、その魅力を直接学び取りましょう。様々なスタイルの作品や作家と出会い、美術表現の幅広さを実感してください。				
免許・資格					
免許・資格の科目区分					

時間割番号	1W2002	科目名	美術英語研究			単位数	2
担当者	的場 智美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1L5-5210						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	アートの分野でも国際化が進む今日、英語を身につけることで多くの可能性が開けます。この授業では、アートやデザイン関係の英文を読むこと、作品ファイルの制作を通してポキャブラリーと表現力を高め、自分の興味のある分野について初歩的な対話ができるようになることを目指します。また、間違いを恐れず英語を話すことに慣れていきます。
教育目標との関連	美術に関する英語コミュニケーション力を高める。
到達目標	(1)自分の作品や興味について説明できるようになる。(2)他の人の作品についての感想や質問を話せるようになる。(3)アートに関するポキャブラリーを増やす。(4)間違いを恐れずに英語を話す意欲と度胸をつける。
評価方法	試験(50%)、提出物と授業への取り組み(50%)で総合的に評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	英和、和英辞書を持参して下さい。

授業計画	1 オリエンテーション 2 ①アートに関する英文を読む(1) ②自分の作品について話す(1) 題名 3 ①アートに関する英文を読む(2) ②自分の作品について話す(2) 制作年月日、サイズ 4 ①アートに関する英文を読む(3) ②自分の作品について話す(3) ジャンル、素材、技法 5 ①アートに関する英文を読む(4) ②自分の作品について話す(4) 制作過程 6 ①アートに関する英文を読む(5) ②自分の作品について話す(5) 制作動機 7 ①アートに関する英文を読む(6) ②自分の作品について話す(6) 制作意図 8 ①アートに関する英文を読む(7) ②自分の作品について話す(7) 鑑賞者や読者の評価、反響 9 ①アートに関する英文を読む(8) ②自分の作品について話す(8) 反省 10 ①アートに関する英文を読む(9) ②自分の作品について話す(9) 次の展開、抱負 11 作品ファイルの作成 12 作品についての対話(1) 感想を言う 13 作品についての対話(2) 質問する 14 好きなアーティストについて語る 15 まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	欧米の美術学校では、自分の作品ややりたいことについて話すことがとても重視されます。また、他人の作品についての感想や質問も率直に口にします。対話を通して洞察を深めて行く伝統があるからです。でもそれは、決して構えたものでも難しいものでもありません。今の自分が感じていることを、等身大のことばで話すのが一番良いのです。そこからこそ、今の自分にしかできないユニークな作品が生まれて来るのですから。間違いだらけの英語で十分です。英語でのコミュニケーションを楽しみましょう。配布するプリントを予め英訳するなど指示に従って予習をして下さい。、

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W2003	科目名	展示研究Ⅲ			単位数	1
担当者	木本 雅典						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L5-5430						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	展示研究Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に公共の施設で実際に展覧会を実施します。受講者の話し合いを中心に企画・立案をし、役割分担によって各自展覧会に必要なことを受け持ち、より良い作品発表のあり方を研究します。受講者自身の作品制作はもとより、グループ展に積極的に参加することで各自の制作意欲の高揚を促し、公共の場で作品発表を行った事が今後の継続的な制作活動につながることを期待します。
教育目標との関連	より専門的な知識や技術を養うという専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化していきます。
到達目標	自発的に各自作品制作を行い、責任を持って役割分担を行い発表する。
評価方法	発表作品、参加状況、展覧会への取り組みで総合的に評価します。
備考	広島市内の画廊で10月に展覧会開催の予定。
テキスト・教材・経費等	

授業計画	第1回: オリエンテーション 第2回: 展覧会計画 出品作品について 第3回: 展覧会準備 ①会場との打ち合わせ 第4回: 展覧会準備 ②DMの発送 第5回: 展覧会準備 ③キャプションの制作 第6回: 展覧会準備 ④目録の制作 第7回: 展覧会準備 ⑤展示計画 第8回: 展覧会開催 ①搬入・展示 第9回: 展覧会開催 ②受付対応 第10回: 展覧会開催 ③受付対応 第11回: 展覧会開催 ④受付対応 第12回: 展覧会開催 ⑤受付対応 第13回: 展覧会開催 ⑥受付対応 第14回: 展覧会開催 搬出 第15回: まとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習
準備学習(予習・復習)	展覧会で作品を発表するにはいろいろな準備が必要になります。まずDMの制作や発送。作品目録、ポスター、キャプションの制作。実際の展示方法の計画、使用施設との打ち合わせ、作品搬入・搬出の手配。会期中の受付当番の分担等々。これらをスムーズに行うには参加者が積極的に参加し、より良いものを目指してコミュニケーションをとる事が不可欠です。また、展覧会会期中にはいろいろな人が来場します。来場者とコミュニケーションをとることで、新しい作品へのヒントが浮かぶこともよくあります。来場者の方に失礼のないよう積極的に対応しましょう。充実した展覧会が達成できたときの喜びは、今後の制作に大きく影響すると思います。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W2004	科目名	専攻制作A II			単位数	2
担当者	荒木 然一、木本 雅典						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5021						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	前期に行った各自の制作をさらに発展させ、修了制作に向けて各自のテーマで作品制作を行います。各自これまで行ってきた制作活動が内容面、技術面、精神面でより深まるよう努めて下さい。
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化していきます。
到達目標	各自のテーマに基づいて、より質の高い自己表現へと結びつける。
評価方法	提出作品と日頃の取り組み及び、出席状況により評価する。
備 考	
テキスト・教材・経費等	各自が必要に応じて準備します。

授業計画	この授業では、教員との対話の中から各自の独自性のあるテーマを見つけ、修了制作へ向けて取り組みを進めます。制作点数やサイズ、技法なども主体的に決めて制作します。 第1回:分野別制作テーマの設定と課題の発見1 第2回:分野別制作テーマの設定と課題の発見2 第3回:分野別制作テーマの設定と課題の発見3 第4回:分野別制作テーマの実習計画と試作1 第5回:分野別制作テーマの実習計画と試作2 第6回:分野別制作テーマによる本制作1 第7回:分野別制作テーマによる本制作2 第8回:分野別制作テーマによる本制作3 第9回:分野別制作テーマによる本制作4 第10回:分野別制作テーマによる本制作5 第11回:分野別制作テーマによる本制作6 第12回:分野別制作テーマによる本制作7 第13回:分野別制作テーマによる本制作の仕上げ 第14回:分野別制作テーマによる本制作の完成 第15回:講評会及び修了制作展へ出品
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	自主的な制作のウエイトが大きくなりますが、各指導教員とコンタクトをしっかりととりながら、制作をすすめるように心がけてください。また、日常から多くの作品に接しながら、自分らしい表現を考え、素材研究を重ねられるように、展覧会などの作品鑑賞や制作のための素材集めのためのスケッチなどの準備に努めてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W2005	科目名	専攻制作BⅡ			単位数	2
担当者	堀尾 充、斉藤 克幸						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5121						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	それぞれの個性を尊重しながら、より質の高い表現を目指します。また作品のコンセプト(制作意図)を明確にし、それが鑑賞者に伝わるよう表現力の研磨と技術の向上に努めます。教員との対話の中から各自の独自性のあるテーマを見つけ、修了制作へ向けて取り組みを進めます。制作点数やサイズ、技法なども主体的に決めて制作します。
教育目標との関連	短大本科で培った技術と表現性を、より発展させ、自主的に自分の考えで計画し完成させていくことを重視します。
到達目標	自分らしい個性の発現を、より高い完成度をもって制作すること。明確なコンセプト(制作意図)が作品に備わっていること。
評価方法	制作物と日頃の取り組みによって評価する。
備 考	自分自身の制作を、一歩離れた場所から客観的に見つめてください。無我夢中に制作していた段階から、さらにレベルアップを目指しましょう。
テキスト・教材・経費等	適宜、プリント等を配布します。

授業計画	第1回: 担当教員と相談し、制作のテーマを設定し、実習計画を立てる 第2回: 過去の自己の作品の見直しと改良、制作コンセプトの明確化 第3回: 表現技法、見せ方、サイズ、時間、ページ数等の決定 第4回: 決定した制作テーマにより、各自、作品制作(アイデアスケッチ1) 第5回: 決定した制作テーマにより、各自、作品制作(アイデアスケッチ2) 第6回: 作品制作(アイデアスケッチ完成) 第7回: 作品制作(下描き・準備) 第8回: 作品制作(本制作1) 第9回: 作品制作(本制作2) 第10回: 作品制作(本制作3) 第11回: 作品制作(本制作4) 第12回: 作品制作(本制作5) 第13回: 作品制作(仕上げ) 第14回: 作品制作(完成) 第15回: 展示発表
アクティブ・ラーニングの授業形態	
準備学習(予習・復習)	【1～15】数多くの本を読み、映画を観ること。可能な限り美術館に通い様々な表現に触れること。音楽のコンサートやダンス・スポーツなど機会があれば貪欲に出かけること。世界中のあらゆる表現者から刺激を受けましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	



時間割番号	1W2006	科目名	専攻制作C II			単位数	2
担当者	寺田 勝彦、今田 拓志						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5321						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	デザインや工芸と言った領域では、機能や用途、素材の特徴を生かした表現などが重要なポイントになります。この授業ではそれぞれのテーマにそって自分が得意とする素材を使い新たな素材表現の可能性を模索しながら制作します。
教育目標との関連	より高度な専門的知識や技能の習得と言う目標に向け、これまでの学習の成果を基に制作活動に取り組みます。
到達目標	専門的技量の確実な習得 新たな可能性へのチャレンジ
評価方法	学習の成果(60%)参加状況(40%)で総合的に評価する
備 考	
テキスト・教材・経費等	プリント等は適宜配布します

授業計画	第1回 テーマの設定 第2回 機能や用途を検討する 第3回 モチーフを吟味する 第4回 スケッチ、デッサン、写真、模型等を通してイメージを膨らませる 第5回 素材を選ぶ① 第6回 素材を選ぶ② 第7回 新たな表現の可能性を探る① 第8回 新たな表現の可能性を探る② 第9回 作品制作① 第10回 作品制作② 第11回 作品制作③ 第12回 作品制作④ 第13回 作品制作⑤ 第14回 作品制作⑥ 第15回 作品の完成
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	テーマの設定についてこれも、あれもと思い悩むことも多いと思います。これまでの制作経験を大切にしてください。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W2007	科目名	表現研究Ⅱ		単位数	2
担当者	藤目 治行					
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習	
ナンバリング	1L6-5421					
コア・アクティブ・ラーニング科目群						
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード						
概要	デザイナーとして、広告制作の取り組みや文字の基本と手書き広告についての理解を深める。レタリング、チョークアートによるイラストレーションの制作を課題に取り上げ、広告物としての作品に目的を持たせる。作品制作を通じてグラフィックデザイナーとして必要なデザインに対する考え方やデザイン制作の工程を理解する。また制作物の意図を第三者に理解してもらった表現方法(プレゼンテーションも含めて)を研究する。					
教育目標との関連	グラフィックデザイナーとして制作にあたる際の目的や考え方、作業工程についての練習をする。また、第三者へデザインや広告物を伝える事を通じて表現方法の理解を深める。					
到達目標	広告デザインの基本から、発想と制作について、作品の製作を通して身につける。各自、作品のプレゼンテーションを通し制作意図を第三者に伝える方法の研究を行い理解を深める。					
評価方法	課題の提出、参加(出席)状況、授業態度をもとに総合的に評価する。					
備考	三角定規セット、はさみ、スティックのり、ウエス(布巾)その他各種画材持参 特にカッターナイフは毎週準備しておく					
テキスト・教材・経費等	オイルパステル、ケント紙、MDFボード、セロテープ、テープカッター、三角定規、下地用黒板塗料、その他各種画材					
授業計画	<p>グラフィックデザイン・広告(メディア)・ロゴタイプ・ロゴマークについての研究 文字の仕組みとデザインについて 店頭・店内などの店舗広告についての研究及び、課題の制作</p> <p>1週: グラフィックデザインについて 手書き文字(細明朝体の練習)ひらかな 2週: マスコミと広告について(マスコミ4媒体など) 手書き文字(細明朝体の練習)カタカナ 3週: POP(ポップのデザイン)について チョークアート用黒ボードの制作(塗布) 4週: チョークアート用のオイルパステルを使ってみる タイトル文字(欧文書体)の制作 5週: 課題1. チョークアートの練習課題(リンゴ) 6週: 課題2. チョークアートの練習課題(たまご) 7週: 課題3. チョークアートの練習課題(果物3種) 8週: 課題4. チョークアートの練習課題(タイトルの制作) 9週: 課題5. チョークアートの練習課題(タイトルの制作) 10週: インフォメーションボード(チョークアート)のアイデア出し 11週: インフォメーションボード(チョークアート)の下書き制作(色鉛筆) 12週: 課題6. インフォメーションボードの本制作 13週: 課題6. インフォメーションボードの本制作 14週: 課題6. インフォメーションボードの本制作 15週: 課題6. インフォメーションボードの本制作 プレゼンテーションの実施</p>					
アクティブ・ラーニングの授業形態						
準備学習(予習・復習)	<p>日ごろから、美術鑑賞や読書に親しむ。 店舗広告や看板、ポスターなど街の中の広告物に気を配る。 第三者に、言葉でものを伝えることを、日ごろから意識する。 新聞・雑誌など、印刷物をデザインされたものとして意識して接する。</p>					
免許・資格						
免許・資格の科目区分						

時間割番号	1W2008	科目名	造形研究Ⅲ			単位数	1
担当者	高木 茂登						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5531						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	立体的な造形感覚を養うために、塑造による頭像をモデルを使って制作します。
教育目標との関連	専門分野が絵画やデザイン、工芸であっても、ものを立体的に把握する感覚は重要であり、美術科の教育目標である感性を磨き、創造性を育み、集中力と持続力を養い、確かな表現力をつけることに、つながる。
到達目標	・人間の頭部を立体的に把握すること。 ・人物の個性や特徴を立体的に表現できること。
評価方法	提出作品60%、制作態度40%により評価します。
備 考	
テキスト・教材・経費等	石膏代等材料費が約2000円程度かかります。

授業計画	第1回： オリエンテーション・頭像制作について 第2回： 頭部のデッサン 第3回： 芯棒づくり・粘土練り 第4回： 粘土による頭像制作(荒付け) 第5回： 粘土による頭像制作(構造/骨格) 第6回： 粘土による頭像制作(プロポーションと動き) 第7回： 粘土による頭像制作(目・鼻・口・耳・頭髮の表現) 第8回： 粘土による頭像制作(生命観と質感) 第9回： 粘土による頭像制作(仕上げ) 第10回： 石膏取り(1)切金入れ 第11回： 石膏取り(2)外型作製 第12回： 石膏取り(3)粘土抜き・型合わせ・スタッフ作製 第13回： 石膏取り(4)中型作製(流し込み・スタッフ張り込み) 第14回： 石膏取り(5)割り出し・修正・台制作・着色 第15回： まとめ(写真撮影・鑑賞と講評)
アクティブ・ラーニングの授業形態	体験学習、ペア・ワーク、問題解決学習、発見学習
準備学習(予習・復習)	・機会あるごとに人物の頭部を様々な角度から観察しましょう。 ・美術館や広場のモニュメントや彫刻作品を鑑賞して参考にしましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1W2009	科目名	特別演習ゼミⅡ			単位数	1
担当者	荒木 然一、堀尾 充、寺田 勝彦、木本 雅典、斉藤 克幸、今田 拓志、久保 直子、宮崎 しずか						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1L6-5621						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概 要	この授業は造形・デザインそれぞれの専門領域において各自が自らの制作テーマを決め担当教員の指導や助言を受けながらアクティブラーニングを繰り返す行う科目です。専攻科で受講するさまざまな科目での幅広い知識やより専門的な技能を総合化して修了制作として発表します。
教育目標との関連	より専門的な知識や技能を養うと言う専攻科の教育目標をそれぞれの領域で具現化してゆきます。
到達目標	多様な表現領域を知り、自分の表現の幅を広げること。
評価方法	学習への取り組み(70%)と、その活用(30%)
備 考	自分自身の制作を、一歩離れた場所から客観的に見つめてください。無我夢中に制作していた段階から、さらにレベルアップを目指しましょう。
テキスト・教材・経費等	それぞれの領域で適宜配布します。

授業計画	第1回:課題の発見 第2回:制作テーマの検討1 第3回:制作テーマの検討2 第4回:試作1 第5回:試作2 第6回:本制作1 第7回:本制作2 第8回:本制作3 第9回:本制作4 第10回:本制作5 第11回:本制作6 第12回:本制作7 第13回:仕上げ 第14回:完成 第15回:講評会
アクティブラーニングの授業形態	課題発見学習、課題解決学習
準備学習(予習・復習)	自主制作は課題制作に比べて大幅にスピードがダウンします。 堂々巡りの果てに袋小路ということも少なくありません。 定期的なミーティングで途中経過を見せたり、それについて語ることは、例え前進していなかった時でも、とても大切なことです。常に自分の立ち位置を確かめるようにしましょう。

免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F1027	科目名	教職入門	単位数	2
担当者	溝部 ちづ子				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	1	授業方法	講義
ナンバリング	1Q1-2010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等)に関する知識について学習します。また、教職という職業選択、教員という職業において求められる専門性について見直しを持ちます。				
教育目標との関連	教育職員免許法で定められる、教員免許状を取得するために身につけるべき教職に関する事項(教職の意義、教員の役割、教員の職務内容など)を学習します。中学校教諭免許状ならびに栄養教諭免許状取得のための必修科目です。				
到達目標	<p>○教職に関する事項の学習を通して、教職についての関心を高めるとともに、教職という職業選択についての理解を深めること。</p> <p>○教職について具体的なイメージを持つとともに、今後どのような学びを進めて教員を目指すのか、見直しを持つことができること。</p>				
評価方法	授業への参加状況、レポート状況、小テストなどによって総合的に評価します。				
備考	出欠の状況、授業中の態度には高いレベルを求めます。				
テキスト・教材・経費等	<p>「学びのガイドブック」750円、「履修カルテ」620円</p> <p>▽参考図書:吉田辰雄・大森正編著「改訂新版 教職入門 教師への道」</p>				
授業計画	<p>第1回:授業計画および授業の目標について、履修カルテの配布・説明</p> <p>第2回:現代社会における教職—教職の意義について</p> <p>第3回:現代社会における教職—求められる教師像・教員の役割</p> <p>第4回:最近の子どもの生活と学校</p> <p>第5回:教員の職務内容—学習指導要領と現代的教育課題</p> <p>第6回:教員の職務内容—「学習指導」の概要</p> <p>第7回:教員の職務内容—「生徒指導」「教育相談」の概要</p> <p>第8回:教員の職務内容—「学級経営」「栄養教諭」の概要</p> <p>第9回:教員の職務内容—「進路指導」「キャリア教育」の概要</p> <p>第10回:教員の職務内容—「特別支援教育」「情報教育」等の概要</p> <p>第11回:教員養成の制度と教員免許法</p> <p>第12回:教員の研修と服務</p> <p>第13回:教員の地位と身分</p> <p>第14回:学校運営と組織</p> <p>第15回:まとめ—課題の整理と理解の確認、履修カルテ整理</p>				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、グループ学習、ペア・ワーク、プレゼンテーション				
準備学習(予習・復習)	教職を職業として選択することをじっくり考える機会にするため、授業で学習した内容を復習することともに、その学習内容を通してどのようなことを感じたのか、自分が教員になることについて何を考えたのかを毎回記述することや受講者同士コミュニケーションを図ることが大切です。また、課題として、教員関連の新聞記事からの考察や教育課題への考察などをレポートで出題しますので、自分の考えを的確にまとめるようにして下さい。				
免許・資格	中二種免、栄養二種免				
免許・資格の科目区分	<p>教職に関する科目(必修)</p> <p>教職の意義などに関する科目(教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障などを含む)、進路選択に資する各種の機会の提供等)</p> <p>担当形態:単独</p>				

時間割番号	1F2034	科目名	教育基礎論			単位数	2
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-2020						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	「なぜ、子どもの姿が見えにくいのか」「なぜ、学校が普及したのか」「なぜ、さまざまな教育の場があるのか」。本科目では、そうした教育にかかわる疑問を持ち、自らのこととして考える姿勢を身につけることを目的として、教育に関する思想、歴史、制度的・経営的事項について概説します。現代の教育がどのように成立し、変容したのか、さらに学校教育やそれにかかわる社会の現状と課題や模索されていることについて考察します。
教育目標との関連	教職専門科目の「教育の基礎理論に関する科目」に位置付きます。教育に関心を持ち、教育とは何かをいろいろな方向から考えることを目指します。中学校教諭免許状・栄養教諭免許状取得のための必修科目です。
到達目標	【知識・理解】教育に関する諸理論、歴史、制度を理解し、基本的知識を得る。 【思考・判断・表現】教育の本質と目的は何かを考えることができる。 【態度・志向性】教育に関心を持ち、積極的に授業に参加し、自らの課題として取り組む。
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題への取り組み(20%)により評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	楠本恭之、池田隆英他編『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年、2160円。 ※参考図書：小澤周三編『教育学キーワード第3版』有斐閣、2010年。

授業計画	第1回：人間について思考する様式① 分けずに考える 第2回：人間について思考する様式② 教育とは何か 前回の授業を踏まえて、自らが学んできたことについて振り返ってまとめます。それをもとにグループ・ディスカッションをおこない、結果をプレゼンテーションします。 第3回：人間形成の根源と価値 依存性と可塑性 第4回：臨牀的な理解の方法 発達概念 第5回：教育の思想と歴史① 18世紀以前 第6回：教育の思想と歴史② 19,20世紀 第7回：教育の思想と歴史③ 学校制度の成立と展開・西洋 第8回：教育の思想と歴史④ 学校制度の成立と展開・日本 第9回：現代日本の学校制度① 日本国憲法と学校教育 ※5-8回授業に関する課題 第10回：現代日本の学校制度② カリキュラム・小学校就学前後の比較 第11回：現代日本の教育制度③ 臨牀的な教育の実践 第12回：現代日本の学校制度④ 教師のキャリア形成 第13回：現代日本の学校制度⑤ 教育行政・経営・生涯学習 第14回：現代日本の教育の課題① 学校教育の問題構成 ※9-13回授業に関する課題 第15回：現代日本の教育の課題② 人間と社会と教育 これまでの授業を踏まえて、社会の中に生きる(しかできない)人間として、他者とのように関わるべきなのか考えてまとめます。
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習
準備学習(予習・復習)	毎回の授業前に、テキストとして指定した図書の該当箇所を読み、意見や疑問を書き出しておきましょう。また、毎回の授業後に、学んだこと・考えたことをノートにまとめましょう。

免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)、栄教二種免
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想) 担当形態：単独

時間割番号	1F2035	科目名	家庭科教育法			単位数	2
担当者	森田 清美						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3040						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	中学校学習指導要領の技術・家庭科「家庭分野」の目標と学習内容を理解し、家庭科教育の意義、学習指導法、学習評価法等について学びます。家庭科授業の実践事例を踏まえ、学習指導の計画、単元ごとの学習指導案等を作成し、教材研究・模擬授業を通して授業実践を行います。
教育目標との関連	この科目は、教育職員免許法施行規則に規定された「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけられる教職専門科目です。中学校教諭免許状必修科目です。
到達目標	1. 中学校学習指導要領「技術家庭「家庭分野」の目標・学習内容を理解する。 2. 家庭科授業における学習指導法、学習評価法を理解する。 3. 学習指導案を作成し、家庭科の授業を実践する基礎的能力を育てる。
評価方法	参加状況、課題(学習指導案など)、筆記試験を総合して評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	中学校家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」東京書籍 家庭科教育法(改訂版)高階社書店/佐藤文子・川上雅子著

授業計画	第1回:オリエンテーション(授業計画、目標、受講上の心構え、課題の提出について等) 第2回:家庭科教育の意義～グループワークによる考察～ 第3回:家庭科の歩み～男女で学ぶ現在の家庭科の歴史を振り返る～ 第4回:中学校学習指導要領「技術家庭「家庭分野」の目標および学習内容 第5回:小学校の家庭科授業～中学校家庭科とのつながりを考察する～ 第6回:家庭科における学習指導法(家庭科の独自性と学習指導法の理解)～ロールプレイングやディベートを体験する～ 第7回:家庭科における学習指導法(実践事例の分析と実践) 第8回:家庭科の施設・設備、および実習における注意事項～実習1回目の授業をつくる～ 第9回:家庭科における学習評価 第10回:学習指導計画1(年間指導計画)～グループワークによる年間指導計画の作成～ 第11回:学習指導計画2(学習指導案の作成) 第12回:学習指導計画3(細案の作成と板書計画、および授業準備) 第13回:模擬授業1(食生活・衣生活分野) 第14回:模擬授業2(住生活・家族・消費生活・環境分野) 第15回:模擬授業のふりかえり・学習のまとめ
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、課題解決学習、グループ学習
準備学習(予習・復習)	中学校家庭科教科書をよく読み、家庭科でどんな学習をしているか、学習内容をよく理解してください。 自身が体験した家庭科学習を思い出したり、家庭科授業の実践事例を読んだりして、家庭科授業のイメージを広げてください。 各テーマの資料やまとめ、家庭科授業の実践事例、等の資料を配布します。ファイルを準備し、資料の整理を行ってください。 さらに、私たちの生活の中には多くの家庭科教材があります。生活を取り巻く様々な事柄に関心を持ち、授業づくりに役立ててください。

免許・資格	中二種免(家庭)
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(各教科の指導法) 担当形態:単独

時間割番号	1F3051	科目名	教育心理学	単位数	2
担当者	鈴木 隆男				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1Q1-3010				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	教育の基礎となる人間の発達、学習、人格形成、評価などに関して、誕生から青年期くらいまでの期間にかかわる基礎的な事柄を説明します。発達を援助し、その教育に携わる大人として、子どもから大人への過渡期としての青年期にいる人たちの心、行動とその成長の過程にかかわる基礎的な概念を理解してください。				
教育目標との関連	所属する学科の学修成果を生かして教職を目指す学生が、教育の基礎となる、対象の発達や学習の過程を理解するための、中学校教諭免許状および栄養教諭免許状取得のための必修科目です。				
到達目標	①対象の発達、学習、適応、対人関係、人格形成、障害など、教育にかかわる基礎的な事柄を理解し身につけてください。 ②対象の発達や教育を評価するための基礎的事項を理解し身につけてください。				
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。 試験50%、レポート30%、授業への参加状況(授業内容の振り返りシート、コメントペーパーの記述)20%				
備考					
テキスト・教材・経費等	授業ごとにレジュメを兼ねたワークシートを配布します。 必要に応じて関連資料を配布します。 ▽参考書:心の発達と教育の心理学(小林芳郎編/保育出版社)				
授業計画	第1回:教育心理学で何を学ぶか 第2回:発達とはどのようなことか 第3回:発達の規則性 第4回:身体機能や運動機能の発達 第5回:認知機能の発達-感覚運動的知能 第6回:認知機能の発達-操作的思考 第7回:障害の理解 第8回:学習の原理-強化を伴う学習 第9回:学習の原理-強化を伴わない学習 第10回:学習と記憶 第11回:動機づけ 第12回:人格と適応 第13回:対人関係 第14回:測定と評価 第15回:発達や教育をとりまく環境				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、授業内容の振り返りシート、中間テスト				
準備学習(予習・復習)	授業ごとに指定する資料に目を通してください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるためにノートや配布資料を整理し確認する習慣をつけてください。				
免許・資格	中学校教諭2種免許状、栄養教諭2種免許状				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)) 担当形態:単独				



時間割番号	1F3052	科目名	教育課程総論(特別活動を含む)			単位数	2
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3030						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	教育課程について理解するために、教育課程編成の原理や制度の変遷を概説します。また、教育課程の基準となる学習指導要領について詳細に学びます。さらに、指導の原理としての子どもの理解や指導方法、評価について述べます。学校で、子どもたちは何を学ぶのか、どのように学ぶのかなど、批判的に考察することを目指します。
教育目標との関連	本科目は教職専門科目であり、「教育課程の意義や編成の方法」を学びます。中学校教諭免許状および栄養教諭免許状必修科目です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程に関する基本的知識を得る。</li> <li>・主体的に課題について調べ、まとめ、発表する。</li> <li>・現代日本の教育課程の現状と課題について理解を深める。</li> </ul>
評価方法	試験(60%)、課題(20%)、授業中に課す課題への取り組み(20%)により評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	<p>テキスト:『中学校学習指導要領』東山書房、2015年、332円。  ※参考書:楠本恭之他『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年(1年後期「教育基礎論」テキスト)。</p>

授業計画	第1回:学校教育制度と教育課程 第2回:教育課程の意義と法的根拠 第3回:教育課程に関する諸問題 第4回:小学校就学以前の教育・保育課程 第5回:義務教育諸学校の学習指導要領① 変遷とその原理 第6回:義務教育諸学校の学習指導要領② 構造と概要 第7回:義務教育諸学校の学習指導要領③ 教科教育 第8回:義務教育諸学校の学習指導要領④ 教科外教育(道徳及び総合的な学習の時間) 第9回:義務教育諸学校の学習指導要領⑤ 教科外教育(特別活動) 特別活動(学級活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事)に関する自らの経験についてまとめ、グループで発表し、その意義や問題点を議論します。 第10回:学校教育で学ばれること(隠れたカリキュラム) ※4-9回授業に関する課題 第11回:教科指導のあり方① 児童生徒の理解 第12回:教科指導のあり方② 指導の原理と方法 第13回:教科書制度 第14回:教育評価 第15回:諸外国の教育課程
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習
準備学習(予習・復習)	毎回の授業後に、授業中に示された問いについて考え、意見や疑問をノートにまとめよう。

免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)、栄教二種免
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(教育課程の意義及び編成方法、特別活動の指導法) 担当形態:単独

時間割番号	1F3053	科目名	道徳教育の理論と方法	単位数	1
担当者	山内 規嗣				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義
ナンバリング	1Q1-3060				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	中学校の学習指導要領をふまえ、現代日本における道徳教育の目的・目標・内容・方法・評価・授業構成・年間計画などについて説明し、中学校道徳の授業を実践していくための基礎的知識・能力を育成します。そのさい、道徳の教科化にあたっての今後の注意点についてもあわせて確認します。また、日本における道徳教育の歴史的・現代的事例を参考にしながら、アクティブ・ラーニングを用いた検討を通じて、多様な学習指導案を検討・立案する能力を育成します。				
教育目標との関連	この科目は、教育職員免許法施行規則に規定された「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけられる教職専門科目です。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代日本の学校教育における道徳教育の目的・目標とその意義について理解すること。</li> <li>2. 中学校道徳教育の内容・方法・計画のあり方について理解すること。</li> <li>3. 中学校道徳の学習指導案を、中学校教育全体の中に位置づけながら作成できること。</li> </ol>				
評価方法	毎回の講義中に提示した小問について出席表に書いてもらう内容(50%)、ならびに期末レポート(50%)を総合して評価します。				
備考					
テキスト・教材・経費等	中学校学習指導要領解説道徳編				
授業計画	第1回:オリエンテーション、現代日本における道徳教育の目的と課題 第2回:道徳の内容項目 第3回:道徳の評価と指導計画 第4回:道徳授業の多様性 第5回:道徳の学習指導案(1)目標・評価と学習者の実態 第6回:道徳の学習指導案(2)教材と授業展開 第7回:道徳の教科化とその意味 第8回:まとめ				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、ペア・ワーク、課題解決学習				
準備学習(予習・復習)	履修前に、指定テキストをあらかじめ一読しておいて下さい。また、これまで学校で学んできた「道徳の時間」の授業など、道徳教育の経験を振り返り、当時疑問に思ったことや、いま考えれば納得いかないことがあるかどうかを確認してみてください。				
免許・資格	中二種免(家庭・美術)				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(道徳の指導法) 担当形態:単独				

時間割番号	1F3054	科目名	教育の方法と技術			単位数	1
担当者	金井 裕美子						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3070						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	授業の計画、実施、評価、改善のための基礎的な知識を習得するための授業です。特に学習者が知識や技能を身に着けるだけでなく、それらを活用できるようになる授業の在り方を実践的に学びます。具体的には、一斉教授、個別学習、グループワークなどを学習者として体験しながら、思考力・判断力・表現力といった力を育む指導の展開を理解する内容です。						
教育目標との関連	この科目は、教育職員免許法施行規則に規定された「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけられる教職専門科目です。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習指導の理論を説明できる。</li> <li>●学習指導の理論と実際の指導を関係付けて説明できる。</li> <li>●知識・技能を活用する力を育む授業におけるICT利用の利点や課題を説明できる。</li> </ul>						
評価方法	ミニレポートによる授業内容のまとめ(60%)学習指導案(30%)理解度チェックシート(10%)						
備考	評価基準は、初回授業で説明します。						
テキスト・教材・経費等	教科書として、次の書籍を購入してください。 佐々木司, 三山緑編著「これからの学校教育と教師」ミネルヴァ書房, 2014.						
授業計画	第1回:オリエンテーション・教育方法の多様性と背景 第2回:教育方法の歴史 第3回:学習指導と評価 第4回:教育実践における情報機器と教材の活用 第5回:学習指導案の構造 第6回:学習指導とその評価 第7回:授業研究の方法 第8回:まとめ						
アクティブ・ラーニングの授業形態							
準備学習(予習・復習)	ミニレポートでは、うまく書くことよりも、自身および他者の考えを、丁寧に説明することを心がけてください。						
免許・資格	中二種免(家庭), 中二種免(美術), 栄教二種免						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)) 担当形態:単独						

時間割番号	1F3055	科目名	教育相談(カウンセリングを含む。)			単位数	2
担当者	鈴木 隆男						
開講学期	2017年度 前期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3100						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	教育相談の持っている教育的意義や目的、具体的な方法について概説します。また思春期から青年期に生じやすい不適応行動についても具体的な事例を取り上げて説明し、さらに学校における教育相談と家庭や関係諸機関(児童相談所や警察等)との連携のあり方についても概説します。こころの悩みを理解し、それを予防したり解決を援助するための基礎的な考え方と具体的な方法の基礎を身につけてください。						
教育目標との関連	所属する学科の学修成果を生かして教職を目指す学生が、教育の基礎となる人間関係を作るための教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論や方法を理解するための中学校・高等学校教諭免許状必修科目です。						
到達目標	①青年期の前半までの発達の様子と、そこに生じる各種の不適応行動について理解してください。 ②学校教育相談の意義、目標について基礎的な事項を理解してください。 ③教師に必要なカウンセリングの基本的技法やカウンセリングマインドを身につけてください。						
評価方法	おおむね次のような割合で総合的に評価します。試験50%、レポート30%、授業への参加状況(授業内容の振り返りシート、コメントペーパーの記述)20%						
備考							
テキスト・教材・経費等	テキスト: 一丸藤太郎・菅野信夫(編著)学校教育相談、ミネルヴァ書房、2002年 授業ごとにワークシートを配布します。 必要に応じて資料を配布します。						
授業計画	第1回: 学校における教育相談の意義と目的 第2回: 教師に望まれるカウンセリングマインドとは 第3回: 発達と発達課題の理解 第4回: パーソナリティの理解 第5回: カウンセリングの理論 第6回: カウンセリングの技法 第7回: 問題の理解と対応 1 不登校について 第8回: 問題の理解と対応 2 学級崩壊について 第9回: 問題の理解と対応 3 対人関係の課題について 第10回: 反社会的行動の理解と指導のあり方 第11回: ストレスとストレスマネジメント 第12回: 教育相談活動における教師間の連携 第13回: 教育相談活動における教師とスクールカウンセラーの連携 第14回: 教育相談活動における家庭・地域との連携 第15回: まとめ - 「育てる」ための開発的カウンセリング						
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー、ペア・ワーク、授業内容の振り返りシート、中間テスト						
準備学習(予習・復習)	授業ごとにテキストの該当部分にあらかじめ目を通しておいてください。学習を深め、授業内容を知識として定着させるために、ノートや配布資料を整理し、テキストや参考資料で確認する習慣をつけてください。						
免許・資格	中学校教諭2種免許状、栄養教諭2種免許状						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目(教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。))の理論及び方法 担当形態: 単独						

時間割番号	1F3056	科目名	教育実習指導			単位数	1
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3110						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	教育実習の意義・目的・内容を概説し、中学校での3週間におよぶ教育実習に臨むにあたって、実習生として適切な態度を身につけるための講義をします。また、研究授業の進め方、生徒指導のあり方、教育実習録の書き方などを講義します。実習後は実習経験を振り返り、省察・評価し、課題を明確にします。
教育目標との関連	本科目は教職専門科目であり、教育実習Ⅰ・Ⅱと関連しています。教員免許状の取得を希望しない者は履修できません。この授業を通して、実習に臨む構えを築くこと、目標を立て、実践し、実習経験を省察評価することを目指します。中学校教諭免許状必修科目です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の意義や目的、内容について理解する。</li> <li>・教育実習に臨む構えを築く。</li> <li>・実習経験を省察評価して課題を発見し、さらなる学びにつなげていくことができる。</li> </ul>
評価方法	レポート課題(60%)、発表(20%)、参加状況(20%)により総合的に評価します。本科目は全回出席を前提とします。
備考	1年次後期までの教職に関する専門教育科目の単位を全て修得していることが必要です。
テキスト・教材・経費等	テキスト:『学びのガイドブック』 525円。『教育実習録』 ※参考書:適宜指示。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導</li> <li>第1回:教育実習の意義・目的</li> <li>第2回:教育実習の内容</li> <li>第3回:授業参観・研究授業</li> <li>第4回:生徒指導</li> <li>第5回:教育実習録の基本</li> <li>第6回:直前指導:実習の心得と要点</li> <li>・事後指導</li> <li>第7回:教育実習の反省・評価</li> <li>第8回:まとめ</li> </ul>
アクティブ・ラーニングの授業形態	プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	課題1「教育実習に臨むにあたって」自分の課題をふまえて、実習で身につけたい教師の資質・能力及び実習中、特に積極的に取り組みたいことをまとめること。 課題2「実習を終えて」実習を振り返り、成果と課題をまとめること。 2つの課題を通して、実習で何に取り組むのか、目標を立て、実践し、その実践を振り返って評価し、成果と課題を明確にすることを目指します。

免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育実習 担当形態:単独

時間割番号	1F3057	科目名	教育実習Ⅰ			単位数	2
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1Q1-4010						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱは、中学校の3週間におよぶ教育実習によって、免許に関する科目を中心に習得した理論・知識・技能を実地で確認します。実習校で教科指導、生徒指導、学級経営、校務分掌などを経験するなかで教師の職務を理解し、現場での教育のあり方を学ぶとともに、生徒理解を深め、実践的指導力を高めます。そして、教師として求められる資質や能力の修得の程度を確認し、自分の課題を明確にします。						
教育目標との関連	本科目は教職専門科目であり、教育実習指導と関連しています。教員免許状の取得を希望しない者は履修できません。これまで大学で学んだ理論・知識・技能を実践し、実践的指導力を身につけることを目指します。中学校教諭免許状必修科目です。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場での教育の実際を知り、教師になる構えをつくる。</li> <li>・教師の職務を理解する。</li> <li>・生徒理解の意義や方法についての理解を深める。</li> <li>・授業や学級経営等の実践的指導力を身につける。</li> </ul>						
評価方法	教育実習録及び実習校からの評価により、大学担当者が総合的に評価します。						
備考	1年後期までの教職に関する専門教育科目の単位を全て修得していることが必要です。						
テキスト・教材・経費等	『教育実習録』 ※参考書：『中学校学習指導要領』東山書房、2015年(2年前期教育課程総論)のテキスト)						
授業計画	<p>教教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱでは、中学校で3週間の教育実習を行います。</p> <p>教育実習の流れは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習校でのオリエンテーションを受ける。</li> <li>2. クラスに配属され、配属クラス・教科担当教諭より指導を受ける。</li> <li>3. 配属クラスを中心に授業やクラス活動を参観する。</li> <li>4. 教材研究、指導案の作成に取り組む。</li> <li>5. 指導授業を担当し、反省会などを通して指導を受ける。</li> <li>6. 研究授業を担当する。</li> <li>7. 道徳や特別活動の指導に取り組む。</li> </ol>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、自己省察						
準備学習(予習・復習)	教育実習に臨むにあたって、教育実習の心得や教育実習の流れ等は、事前に教育実習指導の授業で伝えます。実習校で自分が担当する教科の教材研究には早めに着手しましょう。						
免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育実習 担当形態: 単独						

時間割番号	1F3058	科目名	教育実習Ⅱ			単位数	2
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1Q1-4020						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱは、中学校の3週間におよぶ教育実習によって、免許に関する科目を中心に習得した理論・知識・技能を実地で確認します。実習校で教科指導、生徒指導、学級経営、校務分掌などを体験するなかで教師の職務を理解し、現場での教育のあり方を学ぶとともに、生徒理解を深め、実践的指導力を高めます。そして、教師として求められる資質や能力の修得の程度を確認し、自分の課題を明確にします。						
教育目標との関連	本科目は教職専門科目であり、教育実習指導と関連しています。教員免許状の取得を希望しない者は履修できません。これまで大学で学んだ理論・知識・技能を実践し、実践的指導力を身につけることを目指します。中学校教諭免許状必修科目です。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場での教育の実際を知り、教師になる構えをつくる。</li> <li>・教師の職務を理解する。</li> <li>・生徒理解の意義や方法についての理解を深める。</li> <li>・授業や学級経営等の実践的指導力を身につける。</li> </ul>						
評価方法	教育実習録及び実習校からの評価により、大学担当者が総合的に評価します。						
備考	1年次後期までの教職に関する専門教育科目の単位を全て修得していることが必要です。						
テキスト・教材・経費等	『教育実習録』 ※参考書：『中学校学習指導要領』東山書房、2015年(2年前期教育課程総論)のテキスト						
授業計画	<p>教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱでは、中学校で3週間の教育実習を行います。教育実習の流れは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習校でのオリエンテーションを受ける。</li> <li>2. クラスに配属され、配属クラス・教科担当教諭より指導を受ける。</li> <li>3. 配属クラスを中心に授業やクラス活動を参観する。</li> <li>4. 教材研究、指導案の作成に取り組む。</li> <li>5. 指導授業を担当し、反省会などを通して指導を受ける。</li> <li>6. 研究授業を担当する。</li> <li>7. 道徳や特別活動の指導に取り組む。</li> </ol>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	調査・実習、自己省察						
準備学習(予習・復習)	教育実習に臨むにあたって、教育実習の心得や教育実習の流れ等は、事前に教育実習指導の授業で伝えます。実習校で自分が担当する教科の教材研究には早めに着手しましょう。						
免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育実習 担当形態: 単独						

時間割番号	1F3059	科目名	栄養教育実習(事前事後指導を含む。)			単位数	2
担当者	沖本 久恵						
開講学期	2017年度 前期～後期	開講年次	2	授業方法	実習		
ナンバリング	1Q1-4030						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	この実習は、事前事後指導(学内)の30時間と教育実習の40時間の計70時間です。この科目の受講は、栄養士免許取得見込み者です。栄養に係る科目の学校栄養教育論をもとに栄養教諭の役割や心構えなどをよく理解した上で、小学校及び中学校での食育の教育実習を行うことを目標として、食に関する指導の模擬授業・教材研究を行います。グループワークによる問題解決型授業を行い、プレゼンテーション力の向上を図ります。事後指導においては、食育の教育実習の報告を行い、お互いに教育実習のあり方について理解を深めます。						
教育目標との関連	栄養士並びに栄養教諭として栄養指導・栄養教育が行えるように、専門的知識・スキルを身に付け、実践できるようになることを目指します。栄養教諭免許必須科目です。						
到達目標	学校組織と栄養教諭の役割、特別活動等における食に関する指導の実習、食に関する指導の連携・調整など栄養教育実習についての理解を深めることを目指します。						
評価方法	事前指導＝指導案課題レポート提出(20%) 事後指導＝教育実習記録提出(20%)、教育実習での評価(40%)、授業並びに教育実習校での活動状況(20%) 以上を総合して評価します。						
備考	栄養教諭として教育にあたりたいと強い意志をもって学習をする方、栄養士免許取得見込の方に限ります。栄養教育事前指導は集中講義となるので、掲示板をよくご覧ください。						
テキスト・教材・経費等	「学びのガイドブック」 教育実習後の購入、教育実習に必要な費用は個人負担となります。 必要に応じて資料を配布します。 ▽参考書:適宜指示します。						
授業計画	<p>栄養教育実習の事前事後指導(1単位)は1回3時間の10回の授業とし、校外実習(1単位)と合わせて合計2単位の授業となる。</p> <p>第1回 学校栄養教育実習の目的・内容・心構え及び授業計画 第2回 学校組織と栄養教諭の役割 第3回 学級活動及び給食時間における食に関する指導のあり方 第4回 給食時間における食に関する指導の学習指導案作成及び教材研究 第5回 給食時間における食に関する指導の模擬授業及び協議 第6回 学級活動における食に関する指導の学習指導案作成及び教材研究 第7回 学級活動における食に関する指導の模擬授業及び協議①(内容を中心に) 第8回 学級活動における食に関する指導の模擬授業及び協議②(教材を中心に) 第9回 学校栄養教育実習の報告とまとめ 第10回 学校栄養教育実習報告会</p>						
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ・ワーク、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション						
準備学習(予習・復習)	学校栄養教育指導論の理論に基づき、特別活動の授業を想定し、対象年次向けの学習指導案作成・模擬授業を行い、授業の進め方を理解します。実習校が決定したら、実習校の校長先生にお会いして、事前指導を受けに向います。教育実習期間は、校長先生並びに担当教諭の先生の指導を仰ぎ、学習指導案の完成・授業の実践、児童生徒への指導を行います。毎日、教育実習録をつけ、担当教諭の先生の指導を仰ぎ押印をもらいます。教育実習録は、期日までに学習支援室に提出します。また、所定の用紙に報告書を作成し報告をします。主体的に学習する姿勢・態度で取り組んでください。						
免許・資格	栄養教諭二種免						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(栄養教育実習) 形態:単独						



時間割番号	1F4028	科目名	教育の制度と経営			単位数	2
担当者	酒井 研作						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3020						
コア・アクティブ・ラーニング科目群							
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード							
概要	今日のわが国の学校教育を、制度的、経営的、社会的な観点から整理を図るとともに、教育実践者としての高い使命感を涵養し、その職務内容や担うべき役割を理解させ、教育職員免許状取得のための基礎的な力量形成を目指します。さらに、昨今、様々な形で進行している教育制度改革についても取上げ、現代、もしくはこれからの教育あるいは教師に何が求められるのか学習します。						
教育目標との関連	教育職員免許法で定められる、中学校教諭免許状および栄養教諭免許状を取得するために身につけるべき教育に関する社会的、制度的、経営的な事項について学習する必修科目です。						
到達目標	教員になるために必要最低限の教育制度に関する知識を習得し、公教育の意義や役割を理解し、これらの基礎知識を活用し、現代の教育問題や課題を考察することができる。						
評価方法	授業内で課す小テスト・期末試験の成績を総合して評価します。(小テスト:40%・期末試験:60%)						
備考	出欠の状況(遅刻・欠席は厳禁)、授業中の態度には高いレベル(私語・居眠り厳禁、積極的な発表)を求める。						
テキスト・教材・経費等	適宜、資料を配布します。 ▽参考書:適宜紹介します。						
授業計画	第1回:ガイダンス-授業の目的・目標および授業計画 第2回:公教育とその制度的原理 第3回:教育法制の構造 第4回:教育基本法の位置付けと特色 第5回:わが国の学校制度 第6回:学校組織と教職員 第7回:学校評価と学校改善 第8回:これからの学校組織 第9回:学校と地域の連携 第10回:教育内容に関する制度 第11回:学校安全に関する制度 第12回:わが国の教育行政 第13回:わが国の教育財政 第14回:社会教育の制度 第15回:まとめと振り返り						
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習						
準備学習(予習・復習)	授業で学習した内容の定着度を小テストで評価します。毎回の授業で配布された資料等をよく整理し復習をするようにしてください。						
免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)、栄教二種免						
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育の基礎理論に関する科目(教育に関する社会的、制度的又は経営的事項) 担当形態:単独						

時間割番号	1F4029	科目名	生徒・進路指導論			単位数	2
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3080						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	学校においては、教科教育・教科外教育を通して、児童・生徒の指導が行われます。それらを「生徒指導」と呼び、義務教育期間の終了に向けて「進路指導」が加わります。本科目では、その意義や指導の実際について講義をします。その際、指導の前提となる児童生徒の理解について詳説します。また、生徒指導上の諸問題をとりあげ、各自が考察する機会を設けます。
教育目標との関連	本科目は教職専門科目であり、生徒指導、進路指導の理論及び方法を学び、学校教育上の諸問題について考察することを目指します。中学校教諭免許状取得のための必修科目です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導並びに進路指導に関する基本的知識を得る。</li> <li>・学校教育問題の現状について調べ、まとめ、わかりやすく発表する。</li> <li>・児童生徒理解の意義やその方法に関する知識を得る。</li> </ul>
評価方法	テスト(60%)、調査・発表(20%)、課題への取り組み(20%)により評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	テキスト: 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年、381円。 ※参考書: 楠本恭之他『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年(1年後期「教育基礎論」テキスト)。

授業計画	<p>第1回: 現代日本の子ども① 誕生・死亡・家庭</p> <p>第2回: 現代日本の子ども② 学校・文化・生活</p> <p>主に統計資料によって、現代日本の子どもが置かれている状況を確認します。その際、資料解釈の方法を教授し、各自がワークをして方法の習得を目指します。</p> <p>第3回: 学校教育の特性と生徒指導の意義</p> <p>第4回: 「学校における問題行動」の実際① 暴力行為・いじめ</p> <p>統計資料を参照するとともに、自らの経験を振り返り、グループワークによって、「問題行動」に対する客観的な見方を習得します。</p> <p>第5回: 「学校における問題行動」の実際② 不登校・中途退学</p> <p>第6回: 「学校における問題行動」の実際③ 校則と懲戒</p> <p>第7回: 教科指導と生徒指導との関係</p> <p>第8回: 特別活動と生徒指導との関係</p> <p>第9回: 生徒指導の基盤となる児童生徒理解① 発達段階と発達過程</p> <p>第10回: 生徒指導の基盤となる児童生徒理解② 障害・障害児の理解</p> <p>第11回: 生徒指導の基盤となる児童生徒理解③ 理解する方法</p> <p>第12回: 学校における教育相談体制</p> <p>第13回: 児童生徒のインターネット・携帯電話利用</p> <p>統計資料を参照するとともに、自らの経験を振り返り、グループワークによって、児童生徒の生活とインターネットや携帯電話との関係についての客観的な見方を習得します。</p> <p>第14回: 生徒指導におけるジェンダー</p> <p>第15回: キャリア教育と進路指導</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習
準備学習(予習・復習)	毎回の授業後に、授業中に示された問いについて考え、意見や疑問をノートにまとめましょう。 【4, 5回】文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」に基づき、定められた学校教育問題の現状について調べ、まとめましょう。

免許・資格	中二種免(家庭)、中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目(生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法) 担当形態: 単独

時間割番号	1F4030	科目名	生徒指導論			単位数	2
担当者	楠本 恭之						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3090						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	学校においては、教科教育・教科外教育を通して、児童・生徒の指導が行われます。それらを「生徒指導」と呼び、義務教育期間の終了に向けて「進路指導」が加わります。本科目では、その意義や指導の実際について講義をします。その際、指導の前提となる児童生徒の理解について詳説します。また、生徒指導上の諸問題をとりあげ、各自が考察する機会を設けます。
教育目標との関連	本科目は教職専門科目であり、生徒指導、進路指導の理論及び方法を学び、学校教育上の諸問題について考察することを目指します。中学校教諭免許状取得のための必修科目です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導並びに進路指導に関する基本的知識を得る。</li> <li>・学校教育問題の現状について調べ、まとめ、わかりやすく発表する。</li> <li>・児童生徒理解の意義やその方法に関する知識を得る。</li> </ul>
評価方法	テスト(60%)、調査・発表(20%)、課題への取り組み(20%)により評価します。
備考	
テキスト・教材・経費等	テキスト：文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年、381円。 ※参考書：楠本恭之他『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015年(1年後期「教育基礎論」テキスト)。

授業計画	<p>第1回：現代日本の子ども① 誕生・死亡・家庭</p> <p>第2回：現代日本の子ども② 学校・文化・生活</p> <p>主に統計資料によって、現代日本の子どもが置かれている状況を確認します。その際、資料解釈の方法を教授し、各自がワークをして方法の習得を目指します。</p> <p>第3回：学校教育の特性と生徒指導の意義</p> <p>第4回：「学校における問題行動」の実際① 暴力行為・いじめ</p> <p>統計資料を参照するとともに、自らの経験を振り返り、グループワークによって、「問題行動」に対する客観的な見方を習得します。</p> <p>第5回：「学校における問題行動」の実際② 不登校・中途退学</p> <p>第6回：「学校における問題行動」の実際③ 校則と懲戒</p> <p>第7回：教科指導と生徒指導との関係</p> <p>第8回：特別活動と生徒指導との関係</p> <p>第9回：生徒指導の基盤となる児童生徒理解① 発達段階と発達過程</p> <p>第10回：生徒指導の基盤となる児童生徒理解② 障害・障害児の理解</p> <p>第11回：生徒指導の基盤となる児童生徒理解③ 理解する方法</p> <p>第12回：学校における教育相談体制</p> <p>第13回：児童生徒のインターネット・携帯電話利用</p> <p>統計資料を参照するとともに、自らの経験を振り返り、グループワークによって、児童生徒の生活とインターネットや携帯電話との関係についての客観的な見方を習得します。</p> <p>第14回：生徒指導におけるジェンダー</p> <p>第15回：キャリア教育と進路指導</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、グループ学習
準備学習(予習・復習)	毎回の授業後に、授業中に示された問いについて考え、意見や疑問をノートにまとめましょう。 【4、5回】文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」に基づき、定められた学校教育問題の現状について調べ、まとめましょう。

免許・資格	栄教二種免
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 生徒指導及び教育相談に関する科目(生徒指導の理論及び方法) 担当形態：単独

時間割番号	1F4031	科目名	教職実践演習(中学校)	単位数	2
担当者	鈴木 隆男、溝部 ちづ子、若元 澄男、森田 清美				
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習
ナンバリング	1Q1-4040				
コア・アクティブ・ラーニング科目群					
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード					
概要	教職課程全体を通じて修得した知識と技能、教職に対する態度について最終確認し、弱点の克服と得意分野の発展を促すために、実践方法を重視した講義を加えながら、グループワーク、ディスカッション、教育現場見学、模擬授業による演習を実施します。				
教育目標との関連	大学生活において、教職関連科目を学習した内容をもとに、学習指導、生徒指導、学級経営などを行うことができるような実践力や即戦力を身につける、中学校教員免許状必修科目です。				
到達目標	○中学校教員(家庭・美術)として、実践的指導力の習得に努めること。 ○教員免許状取得者に求められる教職の専門性と教育実践力の最終的な形成を行うこと。				
評価方法	学生の履修カルテを基に、授業での発表、態度、行動の様子に加え、レポート課題への取り組みなどを総合的に評価します。				
備考	この科目は、教員免許取得のための最終段階の演習授業です。教員としての資質や能力を常に自己評価しながら、即戦力としての確実な知識や能力を積み重ねる必要があります。				
テキスト・教材・経費等	履修カルテと「学びのガイドブック」はテキストです。「学習指導要領」等、必要に応じて資料を配布します。 ▽参考書:適宜、指示します{				
授業計画	第1回:第1部オリエンテーション「履修カルテ」による教職課程の振り返り(鈴木、若元、溝部、森田) 第2回:教職の意義、教員役割、職務内容に関するグループワークでの課題解決方法を探る(溝部) 第3回:教職の意義、教員役割、職務内容・教育実習に関するプレゼンテーションと全体討論(溝部) 第4回:使命感、責任感、教育的愛情に基づく学級経営の進め方についての講義および討論(溝部) 第5回:生徒理解の実践(鈴木) 第6回:市立中学校などの見学指導一授業参観、中学校教諭と校長の講話(溝部) 第7回:市立中学校などの見学と事後指導ーグループワークによる課題整理(溝部) 第8回:模擬授業実践1(若元:模擬授業及び学習指導案作成に向かって(美術教育の意味の再検討)／森田:授業実践事例の分析) 第9回:模擬授業実践2(若元:模擬授業及び学習指導案作成に向かって(具体的授業事例に学ぶ)／森田:模擬授業の準備と学習指導案の作成) 第10回:模擬授業実践3(若元:模擬授業(絵画、彫刻、デザイン系)実施／森田:模擬授業(食生活・衣生活分野)) 第11回:模擬授業実践4(若元:模擬授業(工芸、鑑賞系)実施／森田(住生活・家族・消費生活・環境分野)) 第12回:学校と家庭、地域の連携(鈴木) 第13回:学校教育における危機管理、生徒指導、道徳教育について全体討論、場面指導の実際(溝部) 第14回:「これからの学校教育と中学校教諭の在り方」レポート作成(鈴木、溝部) 第15回:「これからの学校教育と中学校教諭の在り方」プレゼンテーション、「履修カルテ」によるまとめ(鈴木、溝部)				
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、ペア・ワーク、グループ学習、プレゼンテーション、自己省察、共同制作				
準備学習(予習・復習)	これまでに修得した教職・教科全般の知識と技能を、さらに深く確かなものとするために、一時間ごとの授業の準備(予習)や復習が必要です。また、教育現場見学や模擬授業による演習においても、授業前後の取り組みや振り返りを行い、各自の授業記録をもとにレポートを提出します。 円滑なコミュニケーションやグループワークのために、各自発表やプレゼンテーションの事前練習を工夫して下さい。				
免許・資格	中二種免(美術)(家庭)				
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(教職実践演習) 履修履歴の把握:○ 学校現場の意見聴取:○ 教科担当教員:若元、森田 教職担当教員:鈴木、溝部				

時間割番号	1F4032	科目名	教職実践演習(栄養教諭)			単位数	2
担当者	鈴木 隆男、溝部 ちづ子、沖本 久恵						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	2	授業方法	演習		
ナンバリング	1Q1-4050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	教職課程全体を通じて修得した知識と技能、教職に対する態度について最終確認し、弱点の克服と得意分野の発展を促すために、実践方法を重視した講義を加えながら、グループワーク、ディスカッション、教育現場見学、模擬授業による演習を実施します。
教育目標との関連	大学生活において、教職関連科目を学習した内容をもとに、栄養教諭としての学習指導、生徒指導などを行うことができるような実践力や即戦力を身に付けます。栄養教諭免許状必須科目です。
到達目標	○栄養教諭として、実践的指導力の習得に努めること。 ○教員免許状取得者に求められる教職の専門性と教育実践力の最終的な形成を行うこと。
評価方法	学生の「履修カルテ」をもとに、授業での発表、態度、行動の様子に加え、レポート課題を総合して評価します。
備考	この科目は、教員免許状取得のための最終段階の演習授業です。教員としての資質や能力を常に自己評価しながら、即戦力としての確実な知識や能力を積み重ねる必要があります。
テキスト・教材・経費等	「履修カルテ」と「学びのガイドブック」はテキストです。「学習指導要領」等、必要に応じて資料を配布します。 ▽参考書：適宜指示します。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、「履修カルテ」による教職課程の振り返り(鈴木、溝部、沖本)</p> <p>第2回 栄養教諭の基本的資質1ー栄養教諭の指導内容と職務内容。発表。集団討論。(溝部)</p> <p>第3回 栄養教諭の在り方1ー(フィールドワーク)広島市内小学校訪問。授業参観。校長講話。(溝部)</p> <p>第4回 学校訪問調査を基に、校務運営や学校組織の一員としての栄養教諭の在り方をグループ討論。全体発表討論。(溝部)</p> <p>第5回 栄養教諭の基本的資質2ー事故の学びなおしと省察。スピーチ・集団討論。(溝部)</p> <p>第6回 授業研究・食育運営1ー栄養教諭教育実習における事後学習。プレゼンテーションと討論。(溝部)</p> <p>第7回 授業研究・食育運営2ー児童理解・校務分掌での事後指導。プレゼンテーションと討論。(溝部)</p> <p>第8回 生徒理解の実践(鈴木)</p> <p>第9回 栄養教諭の在り方2ーグループワークによる課題解決。他の教職員との連携・事例研究・ロールプレイ。(溝部)</p> <p>第10回 学習指導案の書き方の検討について(沖本)</p> <p>第11回 学習指導案・教材研究による模擬授業のあり方について(沖本)</p> <p>第12回 模擬授業を通して、より望ましい授業の進め方の討議(沖本)</p> <p>第13回 栄養教諭の在り方3ーグループワークによる課題解決。現代的教育課題への対応・危機管理・事例研究。(溝部)</p> <p>第14回 学校と家庭、地域の連携(鈴木)</p> <p>第15回 学校教育の中で食育・栄養教諭のあり方について検討、「履修カルテ」によるまとめ。(沖本)</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	グループ・ワーク、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション
準備学習(予習・復習)	これまで修得した教職・教科全般の知識と技能を、さらに深く確かなものとするために、一時間ごとの授業の準備(予習)が必要です。また、フィールドワークや模擬授業による演習においても、各自の授業記録をもとにレポートを提出します。 円滑なコミュニケーションやグループワークのために、各自発表やプレゼンテーションの事前練習を工夫してください。

免許・資格	栄養教二種免
免許・資格の科目区分	<p>教職に関する科目(教職実践演習)</p> <p>履修履歴の把握:○ 学校現場の意見聴取:○</p> <p>教科担当教員:沖本</p> <p>教職担当教員:鈴木、溝部</p>

時間割番号	1L2024	科目名	美術科教育法			単位数	2
担当者	若元 澄男						
開講学期	2017年度 後期	開講年次	1	授業方法	講義		
ナンバリング	1Q1-3050						

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	本授業のねらいは、中学校学習指導要領美術に示された内容を踏まえ、美術科の目標・内容・方法・評価等について、“Education through Art(美術による教育)”と“Education for Art(美術の教育)”の視点から捉え直すことです。これを基に、事例検討や“模擬授業”等にチャレンジすることで美術科の目標、内容、方法、評価等に関する適正な理解を深め実践的指導力の習得を目指します。
教育目標との関連	生徒の豊かな成長発達を支援・指導するために必要な美術科における専門性と実践力を身につけます。教育課程及び指導法に関する、中学校教諭免許状必修科目です。
到達目標	1 中学校学習指導要領における美術科の目標・内容に関する理解 2 美術科の指導内容・指導方法・評価に関する理解 3 美術科の実践的指導力の習得
評価方法	グループワーク等への関与状況(25%)、予習・復習等への取り組み姿勢(25%)、作品・レポートおよびポートフォリオ等の提出・整理状況(25%)および模擬授業用美術科学習指導案・模擬授業(25%)等を総合して評価します。
備考	教員採用試験に挑む学生の履修を強く望みます。「とりえず免許取得」レベルでの受講は願ひ下げます。そんなスタンスで乗り切ることができるほどあまい授業ではありません。意志と覚悟を求めます。
テキスト・教材・経費等	テキスト：講義時、主テキストとして拙著“五七五 de 美術教育”を配布します。なお、「小学校学習指導要領解説図画工作編」、「中学校学習指導要領解説美術編」は、各自で準備してください。▽参考書：拙著“五七五 de 美術教育”、「図画工作・美術科重要用語300の基礎知識(明治図書)」

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション  (1)授業計画、到達目標及び受講上の心構え  (2)レポート提出方法について  (3)本講義受講生の美術教育に関する実態調査(美術に対する意識、美術教育に関する意識等)  (4)第12・13・14回の授業(模擬授業、グループ・ワーク等)を視野に長期スパンの予習設定</p> <p>第2回：美術科の意味確認Ⅰー美術とは(アートとは?)ー  第3回：美術科の意味確認Ⅱー美術科とは(美術教育とは?)ー  第4回：美術科の意味確認Ⅲー「美術の教育」と「美術による教育」ということー  第5回：美術科の現状と課題Ⅰ：「土佐信道」及び「五味太郎」の事例から考える  第6回：美術科の現状と課題Ⅱ：「嶋本昭三」の事例から考える  第7回：美術科の現状と課題Ⅲ：「前田康裕」の事例から考える  第8回：美術科の現状と課題Ⅳ：「布施英利」の事例から考える  第9回：美術科の展望Ⅰー「3H美術教育のススメ」についてー  第10回：美術科の展望Ⅱー「3H美術教育」を創る6要件についてー  第11回：美術科の展望Ⅲー「美術の教育」と「美術による教育」を包含する授業ー  第12回：美術科の具体的展開Ⅰー題材開発・教材研究(学習指導案の理解も含む)／グループ・ディスカッションをベースにー  第13回：美術科の具体的展開Ⅱー表現の指導のあり方を考える(模擬授業を通して)／グループ・ワークをベースにー  第14回：美術科の具体的展開Ⅲー鑑賞の指導のあり方を考える(模擬授業を通して)／グループ・ワークをベースにー  第15回：「美術科教育法ポートフォリオ」の整理および交流</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメント・ペーパー、ペア・ワーク、グループ学習、プレゼンテーション、自己省察、共同制作
準備学習(予習・復習)	毎回の授業時、予・復習の課題を出します。この課題から生まれる成果物を各自の「美術科教育法ポートフォリオ」に整理(復習)し、関連情報の収集(予習)を地道に展開してください。Semester終了時、最も自分にフィットした資料集(一生モノ)が完成できます。この営みがおのずと予習・復習活動にもなります。なお、個々人で取り組む模擬授業の“美術科学習指導案”や“サンプル作品”については付け焼き刃的なものは認めません。徹頭徹尾、意志と覚悟をもった受講姿勢を求めます。

免許・資格	中二種免(美術)
免許・資格の科目区分	教職に関する科目(必修) 教育課程及び指導法に関する科目(各教科の指導法) 担当形態：単独